多賀城市文化財調査報告書第75集

市川橋遺跡

― 城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅲ ―

第三分冊

平成16年3月

多賀城市教育委員会
多賀城市城南土地区画整理組合

目　　次

（第三分冊）

附章１　宮城県多賀城市市川橋遺跡出土木製品の樹種 …… 1

附章２　多賀城市市川橋遺跡における自然科学分析 …… 39

Ⅰ　市川橋遺跡の花粉分析・寄生虫卵分析 …… 39

Ⅱ　市川橋遺跡の珪藻分析 …… 44

Ⅲ　市川橋遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）分析 …… 48

附章３　市川橋遺跡出土人骨 …… 58

（右綴）

附章４　市川橋遺跡出土の文字資料について …… 1

一　木簡について …… 2

二　漆紙文書について …… 65

三　墨書・刻書土器について遺物図版 …… 105

附章１　宮城県多賀城市市川橋遺跡出土木製品の樹種

東北大学理学研究科付属植物園
大山幹成・小川とみ・鈴木三男

宮城県多賀城市の多賀城政庁址の南面の低地に展開する市川橋遺跡から出土した奈良・平安時代の木製品515点の樹種を調べた。調査した木製品は曲物、皿、椀などの容器類を中心に、斎串、形代などの祭祀具、櫛、檜扇、下駄などの生活用具、建物の柱材や橋桁材、編み具の木錘、丸木弓、刀柄、など多岐にわたる。これらの大部分は多賀城市埋蔵文化財センターの収蔵庫で遺物から直接剃刀刃を用い切片を作成したが、一部については東北大学付属植物園に運んで切片を作成し、また、小指先大の試料を切りだしたものから切片を作成した。切片はガムクロラールで封入し、MYG-5001～5515の番号を付して整理され、東北大学付属植物園に保管されている。

光学顕微鏡による観察の結果、一部詳細な同定が出来なかったものがあったものの、以下に記載する36の樹種が認められた。

同定された樹種

1　モミ属　Abies sp.　マツ科

写真図版１：1a－c（MYG－5301）

仮道管と放射柔細胞からなる針葉樹材。ときに垂直方向の傷害樹脂道が出現する。早材から晩材への移行は緩やかかやや急で、晩材部は狭いかやや狭い。放射組織は、単列でしばしば背がかなり高くなり、垂直壁は数珠状を呈する。分野壁孔は小型のスギ型で１分野２～４個。以上の形質からモミ属の材と同定した。

モミ属には幾つかの種があるが、分布や木材利用の実態などから見てここに同定されたものはモミである可能性が高いと言える。出土材は曲物、斎串、人形、刀形、馬形などが大部分を占めるものの、ささら、下駄、井戸の側板、柱材など多岐にわたる。檜扇の使用例が１例あり、これはヒノキの代用品としての利用と思われ、山王遺跡でも出土例がある。

2　トウヒ属　Picea sp.　マツ科

写真図版１：2a－c（MYG－5360）

仮道管、放射柔組織、放射仮道管および水平・垂直樹脂道の周囲をとりまくエピセリウム細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部はやや広い。放射組織は単列と樹脂道を含む紡錘形のものがあり、放射仮道管の有縁壁孔対は孔口が狭く、しばしば孔口縁に突起が見受けられる。放射柔細胞の垂直壁は数珠状を呈する。分野壁孔は小さなヒノキ型で１分野に２～４個存在する。

トウヒ属には北海道から本州中部まで、幾つかの種があるが、多賀城市付近に天然分布する樹種はない。出土材は鞘の１例のみで、他地域から製品として持ちこまれたものであろう。

3　アカマツ　Pinus densiflora Sieb. et Zucc.　マツ科

写真図版１：3a－c（MYG－5306）

仮道管、放射柔組織、放射仮道管および水平・垂直樹脂道の周囲をとりまくエピセリウム細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、晩材幅は広い。放射組織は単列と樹脂道を含む紡錘形のものがある。分野壁孔は大型の窓状で１個。放射仮道管の水平壁には鋭い鋸歯状の突起が多数ある。以上の形質からアカマツの材と同定した。同じグループのクロマツの材とは放射仮道管の鋸歯状突起が鋭いことによって区別される。

アカマツと同定されたものは８点あり、橋脚材が３点、鎌の柄が２点、その他、へら、農具の柄、木錘である。

3’　マツ属　Pinus sp.　マツ科

基本構造はアカマツに一致するが、細胞壁が劣化しているため放射仮道管の壁の肥厚状況が観察できないため、マツ属との同定レベルに留めた。アカマツの細胞壁が劣化したものである可能性が高い。同定されたものは木錘が１点である。

4　スギ　Cryptomeria japonica D. Don　スギ科

写真図版２：4a－c（MYG－5001）

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在し、水平壁は平滑である。放射組織は単列で、背はかなり高くなる。分野壁孔は大型のスギ型で、１分野に普通２個。以上の形質によりスギと同定した。

スギは42点が同定され、曲物と斎串がほとんどで、他にはへら、箸、田下駄、箱ものなどで、建築材としての利用はない。これはスギが多賀城付近に生育していて木材利用がなされたのではなく、他地域から製品として持ちこまれたものであると推察できる。

5　ヒノキ　Chamaecyparis obtusa Sieb. et Zucc.　ヒノキ科

写真図版２：5a－c（MYG－5085）

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は少ない。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、水平壁は数珠状を呈する。放射組織は単列で背は低い。分野壁孔は中型のトウヒ型～ヒノキ型で、開口部は垂直に近く開く。１分野当たり普通２個存在する。以上の形質からヒノキの材と同定した。

ヒノキはケヤキに次いで多く、73点が同定された。用途は斎串、人形などの祭祀具と曲物がほとんどで、他にはへら、箸、檜扇など、生活用小物が多い。これもスギ同様、多賀城付近に生育してそれを用いたのではなく他地域から製品として持ちこまれたものであると考えられる。

6　サワラ　Chamaecyparis pisifera Sieb. et Zucc. Endl.　ヒノキ科

写真図版２：6a－c（MYG－5061）

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は少ない。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、水平壁は数珠状を呈する。分野壁孔は中型のヒノキ型～スギ型で、ヒノキよりもやや孔口が大きく、開口部は水平に近く開く。１分野当たり普通２個存在する。以上の形質からサワラの材と同定した。

サワラは23点が同定され、その用途はヒノキと全く同じであり、ヒノキとサワラが格別区別されずに利用されていたのか、或いはサワラの方が材質が劣るので、ヒノキの代用品として利用されていたことを示しているのだろう。もちろんサワラの遺跡付近での生育は考えられない。

6'　ヒノキ属　Chamaecyparis sp.　ヒノキ科

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部は少ない。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、水平壁は数珠状を呈する。放射組織は単列で柔細胞よりなるが、分野壁孔が確認できないか、もしくはヒノキ型でヒノキかサワラか区別できないもので、これをヒノキ属の材と同定した。ヒノキ属としたものは曲物と篦状木製品４点で、ヒノキ、サワラの用途と一致する。

7　ネズコ　Thuja standishii Gord. Carriere　ヒノキ科

写真図版３：7a－c（MYG－5064）

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で晩材部は少ない。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、年輪により量に極端な違いがある。樹脂細胞の水平壁は数珠状を呈する。分野壁孔は小さく、孔口が大きく開いたスギ型で丸く、開孔部の長軸方向は斜めから水平に近くなり、１分野に２～３個存在する。時に放射仮道管が出現することがある。以上の形質からネズコ（別名クロベ）の材と同定した。

ネズコは曲物と祭祀具で、これもヒノキ、サワラと同じ用途である。

8　アスナロ　Thujopsis dolabrata Sieb. et Zucc.　ヒノキ科

写真図版３：8a－c（MYG－5190）

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管、放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行はヒノキ属より緩やか。樹脂細胞は晩材部付近に散在し、水平壁は数珠状を呈する。放射組織は単列で比較的背が低く、放射柔細胞には一般に着色物質が詰まっている。分野壁孔は小型のトウヒ～ヒノキ型で、開孔部の長軸方向は立ち上がった斜めで、１分野あたり１～４個存在する。以上の形質からアスナロの材と同定した。

アスナロは東北地方以南の山地に分布し、北海道道南地方から東北、北陸にかけては変種のヒノキアスナロ（いわゆるヒバ）が分布している。双方とも有用木材として古くから利用されており、出土材が何れか、或いは両方が混ざっているのかは分からない。当遺跡からは13点が出土し、他のヒノキ

科樹木同様、曲物と祭祀具の用途が主である。

8' ヒノキ科

本遺跡からはヒノキ科の樹種はヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロの４種が同定されているが、それらの主な区別点は分野壁孔にある。細胞壁が劣化してこれらの何れかであるか判断できなかったものをヒノキ科とした。出土材は曲物底板１点である。

9　イヌガヤ　Cephalotaxus harringtonia（Knight）K. Koch　イヌガヤ科

写真図版３：9a－c（MYG－5025）

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管と放射柔細胞および樹脂細胞からなる針葉樹材。仮道管は厚壁で丸く、晩材部はごくわずかで、早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は年輪内に均一に散在し、水平壁は数珠状を呈する。仮道管の内壁には顕著ならせん肥厚がある。放射組織は単列で背は低い。分野壁孔は小型のトウヒ型で、１分野あたり１～３個である。以上の形質からイヌガヤの材と同定した。

イヌガヤは主に暖地に生える低木～亜高木で、本州日本海側及び北海道の多雪地帯には変種のハイイヌガヤがあり、何れも丸木弓、手網枠などに使用される。本遺跡からは丸木弓３点で、縄文時代以来継続した木材利用である。

10　カヤ　Torreya nucifera Sieb. et Zucc.　イチイ科

写真図版４：10a－c（MYG－5073）

水平・垂直樹脂道を欠き、仮道管と放射柔細胞からなる針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部は狭い。仮道管の内壁には２－３本がまとまった顕著ならせん肥厚がある。放射組織は単列で背はあまり高くない。分野壁孔は小型のヒノキ型で、一分野に２－４個ある。以上の形質からカヤの材と同定した。

本遺跡からは７点の出土があり、曲物の蓋或いは底板が４点、人形が１点、へら状木器が１点、それに紡織具のおさが１点である。

11　オニグルミ　Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis（Miyabe et Kudo）Kitamura　クルミ科

写真図版４：11a－c（MYG－5055）

中型の丸い管孔がまばらに散在する散孔材。管孔は普通単独だが、ときに２－３個複合する。管孔の直径は年輪界に向けて緩やかに減少する。木部柔組織は接線状で特に晩材部で著しい。道管穿孔は単一で、チロースが多く、道管相互の壁孔は交互状で密に分布する。放射組織は同性で３－５細胞幅ぐらいである。　以上の形質よりオニグルミの材と同定した。

当遺跡出土材は用途不明品１点のみである。

12　ヤナギ属　Salix sp.　ヤナギ科

写真図版４：12a－c（MYG－5076）

単独あるいは放射方向に２～３個複合した管孔が均一に年輪内に分布する散孔材で、年輪界に向けてその直径は緩やかに減少する。道管の穿孔は単一、道管相互の壁孔は比較的大きな多角形で、交互状に密に分布する。放射組織は単列異性で、道管－放射組織間壁孔はやや大型の多角形で、蜂の巣状を呈する。以上の形質からヤナギ属と同定した。ヤナギ属は日本に２亜属34種があり、材の形質で種を識別するのは困難である。

当遺跡出土材５点のうち、木錘が２点、それに梯子、紡錘車、用途不明品である。もくすい、紡錘車は頷ける利用だが、梯子への使用は材質から考えてあまり納得できない。建物の出入り口など頻繁で恒常的な利用とは違った用途だったのかも知れない。

13　カバノキ属　Betula sp.　カバノキ科

写真図版５：13a－c（MYG－5484）

小型で丸い管孔が単独あるいは放射方向に数個複合してまばらに散在する散孔材。道管穿孔は階段状で、横棒の数は10数本－20数本。道管相互壁孔は極めて小さく、密に配列する。放射組織は同性で３細胞幅くらい。道管との壁孔は極めて小さく密である。以上の形質よりカバノキ属の材と同定した。

本遺跡出土材は横櫛が１点である。カバノキ属にはオノオレカンバのように極めて堅い材質の種類もあり、ミズメ、シラカンバなども櫛材に利用されるが、遺跡出土例は聞かない。

14　アサダ　Ostrya japonica Sarg.　カバノキ科

写真図版５：14a－c（MYG－5072）

単独あるいは数個が放射方向に複合した丸い管孔が均一に分布する散孔材。管孔は年輪界付近に向けて径を減じ、密度も低くなる。道管の穿孔は単一、内壁にはらせん肥厚がある。木部柔組織は短接線状。放射組織は１－３細胞幅の同性で、時に単列の翼部が高くなる。これらの形質からアサダの材と同定した。

出土材は５点で、鍬の柄と本体、横櫛と馬櫛、刀柄である。何れも緻密な材質をよく利用している。

15　クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科

写真図版５：15a－c（MYG－5325）

年輪のはじめに大型で丸い管孔が１～２列に並び、そこから孔圏外へ向けて徐々に径を減じた薄壁で多角形の小管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一で道管内部にはチロースが存在する。木部柔組織は短接線状。放射組織は単列同性で道管との壁孔は対列状あるいは柵状。以上の形質からクリの材と同定した。

本遺跡からは39点の出土があり、大部分は柱材、橋脚材であるが、その他、下駄、木錘、鎌の柄、丸木弓、壺鐙など、多様な目的に使用されている。

16　ブナ属　Fagus sp.　ブナ科

写真図版６：16a－c（MYG－5057）

小型で丸い管孔が単独または複合して密に分布する散孔材で、管孔の大きさは年輪界に向かって緩やかに減少する。道管の穿孔は単一、または横棒の少ない階段状。木部柔組織は短接線状で晩材部で著しい。放射組織は１～数細胞幅の狭くて背の低いものと非常に大型で広いものとが混在し、ほぼ同性である。以上の形質からブナ属の材と同定した。

出土した４点は何れも漆塗りの椀で、ブナ材の挽物の漆椀がブナ林の地域で生産され、都市部に流通し始めたのが古代であることを物語っていると言える。

17　コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科

写真図版６：17a－c（MYG－5326）

年輪のはじめに大型で丸い管孔が１～２列に並び、晩材部では中－小型で厚壁の丸い管孔が放射方向に配列する環孔材。道管の穿孔は単一、道管内部にチロースが存在する。木部柔組織は、１－３列ほどの短接線～帯状。放射組織は単列同性と極めて大型の複合組織が混在する。道管－放射組織間壁孔は対列状～柵状。以上の形質からコナラ属クヌギ節の材と同定した。

当遺跡出土材は杭、斧の柄、用途不明品の３点で特段の利用は認められない。

18　コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科

写真図版６：18a－c（MYG－5310）

年輪のはじめに大型で丸い管孔が１～２列に並び、晩材部では小型で薄壁の角張った管孔が幅の狭い火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一、道管内部にチロースが存在する。木部柔組織は、接線状。放射組織は単列同性と極めて大型の複合組織が混在する。道管－放射組織間壁孔は対列状～柵状。以上の形質からコナラ属コナラ節の材と同定した。

当遺跡出土材は木錘７点、それに橋脚材、杭、鍬、丸木弓、鎌の柄が１点で合計12点である。木錘の利用は身近にあった木を用いたものと思われる。

19　エノキ属　Celtis sp.　ニレ科

写真図版７：19a－c（MYG－5238）

年輪のはじめに大型で丸い管孔が１～２列に並び、そこから急に径を減じた薄壁多角形の小管孔が多数斜め～接線方向に集合して配列する環孔材。道管の穿孔は単一、小道管内壁にはらせん肥厚がある。木部柔組織は周囲状で晩材では連合翼状。放射組織は１～８細胞幅の異性で、翼部が２～数個の直立細胞からなり、時に結晶を含む。普通、鞘細胞を持つ。以上の形質からエノキ属の材と同定した。

当遺跡からは下駄が２点でている。木目が多少キリに似るので、キリの代用品としての利用かと思われる。

20　ニレ属　Ulmus　ニレ科

写真図版７：20a－c（MYG－5439）

年輪の始めに大管孔があり、それ以外は薄壁多角形の小管孔が多数集まって塊状をなす環孔材で、道管の穿孔は単一、小道管の内壁には顕著ならせん肥厚がある。これらの形質はケヤキ、エノキ属と良く一致するが、放射組織は３－６細胞幅くらいの紡錘形で同性であることにより区別される。

当遺跡出土材は一木下駄１点のみである。

21　ケヤキ　Zelkova serrata Thunb.　ニレ科

写真図版７：21a－c（MYG－5103）

年輪のはじめに大型で丸い管孔が１（～２）列に並び、そこから急に径を減じた薄壁多角形の小管孔が多数斜め～接線方向に集合して配列する環孔材。道管の穿孔は単一、小道管内壁にはらせん肥厚がある。木部柔組織は周囲状、晩材部で帯状。放射組織は１～８細胞幅位で、上下端のみ直立細胞からなる異性。時に上下端や多列部の縁に大型の結晶が見られる。

当遺跡で最も出土数が多く、162点あるが、その161点までは挽物の皿（126点）、椀（20点）、曲物の底板や蓋、鉢、槽、瓶などの容器類で、それ以外の用途はへらが１点のみであり、容器類に大量にケヤキが使われるものの、建築材、建具、道具類、様々な生活用具、農具などの出土がほとんど無いことは注目に値する。

22　モクレン属　Magnolia sp.　モクレン科

写真図版８：22a－c（MYG－5077）

小型で薄壁の管孔が単独あるいは放射方向に数個複合して均一に分布する散孔材。年輪界に向けて管孔径は小さくなり、管孔密度はやや減少する。道管の穿孔は単一、ときに階段状。道管相互壁孔は階段状、らせん肥厚はなく、薄壁のチローシスはしばしば見られる。放射組織は２－３列で、上下端のみときに直立細胞からなる異性である。以上の形質からモクレン属の材と同定した。

当遺跡出土材は高台付きの皿と鉢が２点づつである。モクレン属にはホオノキ、コブシなどがあり、材構造で種の特定は出来ていないが、用途から見てホオノキである可能性が高い。

23　モッコク　Ternstoremia gymnanthera（Wight et Arn.）Sprague　ツバキ科

写真図版８：23a－c（MYG－5515）

微細な管孔がほぼ単独で均一に分布する散孔材で、道管の穿孔は多数の繊細な横棒からなる階段状。木部柔組織は散在状であまり目立たない。放射組織は典型的な異性で、１～４細胞幅程度、多列部は平伏細胞からなり単列部と単列放射組織は背の高い直立細胞からなる。これらの形質によりモッコクの材と同定した。

モッコクは材質がきめ細かく、緻密で櫛材に利用されるが、当遺跡出土材５点も何れも横櫛である。

24　イスノキ　Distylium racemosum Sieb. et Zucc.　マンサク科

写真図版８：24a－c（MYG－5487）

小型で多角形の管孔が均一に分布する散孔材で、管孔径は年輪内でほとんど変化しない。道管の穿孔は階段状で、横棒は10本くらいと少ない。木部柔組織は短接線状でしばしば黒褐色物質を含み、目立ち、時に結晶を持つ。放射組織は２－３細胞幅の平伏細胞からなる多列部と直立細胞からなる単列の翼部からなる異性。これらの形質からイスノキの材と同定した。

イスノキはモッコク同様材質が堅く緻密で櫛材に利用される。当遺跡出土材12点はすべて横櫛である。

25　サクラ属　Prunus sp.　バラ科

写真図版９：25a－c（MYG－5342）

小型で楕円形の管孔が単独あるいは数個放射方向に複合して、散在する散孔材。管孔の径は年輪界に向けて緩やかに減少する。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚が認められる。木部柔組織は散在状、ときに接線状。放射組織は同性に近い異性で１－５細胞幅ぐらい。以上の形質からサクラ属の材と同定した。

サクラ属には多数の種があり、当遺跡出土材（鎌の柄１点）がどの種であるかは特定できなかった。

26　ナシ亜科　Pomoideae　バラ科

写真図版９：26a－c（MYG－5513）

微細な管孔がほぼ単独で均一に分布する散孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は散在状或いは短接線状で黒褐色物質を含み、特に年輪の外半分で目立つ。放射組織は１－３細胞幅程度で背が低く、ほぼ同性或いは異性。これらの形質からバラ科のうち、ナシ属、リンゴ属などが含まれるナシ亜科の材と同定した。

当遺跡出土材は横櫛１点と木錘１点である。ナシ亜科の材は一般に緻密で、ナシ属のヤマナシなどは櫛材としての用途がある。

27　コクサギ　Orixa japonica Thunb.　ミカン科

写真図版９：27a－c（MYG－5485）

小型でやや角張った薄壁の管孔が多数集合し、木部柔組織と共に斜め方向に不規則な帯をなす紋様孔材。管孔の帯は年輪界をこえて連続する。管孔の径は年輪界に向けて緩やかに減少する。道管の穿孔は単一で内壁にらせん肥厚が認められる。放射組織は同性に近い異性で１－２細胞幅。以上の形質からコクサギの材と同定した。

当遺跡出土材は木錘１点で、手近にあった木を利用したものであろう。

28　カエデ属　Acer sp.　カエデ科

写真図版10：28a－c（MYG－5359）

小型の丸い管孔が単独もしくは数個複合して年輪内に散在する散孔材。道管の穿孔は単一、内壁にらせん肥厚が認められる。放射組織は同性で１－５細胞幅くらいである。以上の形質からカエデ属の材と同定した。

出土材は木錘３点と刀柄１点であり、カエデ属には多くの種があり、種を特定することは出来ない。

29　トチノキ　Aesculus trubinata Blume　トチノキ科

写真図版10：29a－c（MYG－5110）

小型で丸い管孔が単独あるいは放射方向に数個複合して分布する散孔材。管孔の直径は年輪界に向けてやや減少し、密度は年輪のはじめと終わりで低い。穿孔は単一、内壁にらせん肥厚がある。放射組織は単列同性で層階状にならぶ。道管との壁孔は小型で密に分布し、ヤナギ属のように蜂の巣状にはならない。これらの形質からトチノキの材と同定した。

当遺跡出土材は挽物の皿６点と容器の蓋１点である。

30　ニシキギ属　Euonymus sp.　ニシキギ科

写真図版10：30a－b（MYG－5361）

小型で丸い管孔がほぼ単独で、均一に散在する散孔材。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚が認められる。管孔の直径は、年輪界付近でやや急に径を減じる。放射組織は単列で同性。以上の形質により、ニシキギ属の材と同定した。

当遺跡出土材は丸木の弓１点である。縄文時代のニシキギ属のいわゆる「真弓」は太い材の芯を避けた部分からの削りだしで、多くは漆塗りや桜皮などでの装飾が施されたものであり、丸木の白木弓として使われる例は希である。

31　ツゲ　Buxus microphylla Sieb. et Zucc. var. japonica（Muell. Arg. ex Miq.）Rehder et Wils.　ツゲ科

写真図版11：31a－c（MYG－5456）

極めて小型で丸い厚壁の管孔が、単独でややまばらに分布する散孔材。道管穿孔は階段状で横棒は少ない。木部柔組織は短接線状。放射組織は異性で１－２細胞幅。以上の形質によりツゲの材と同定した。

当遺跡出土材は横櫛１点で、横櫛へのツゲの利用は古代からであることの例である。

32　キブシ　Stachyurus praecox Sieb. et Zucc.　キブシ科

写真図版11：32a－c（MYG－5050）

小型で角張った管孔が単独あるいは放射方向に２個複合して均一に散在する散孔材。管孔の径は年輪界付近でやや減少する。道管穿孔は階段状で、横棒は30－40本。木部柔組織は散在状。放射組織は異性で２－３細胞幅。単列部は直立細胞からなり、通常、多列部の倍以上ある。以上の形質よりキブ

シの材と同定した。

当遺跡出土材は木錘と丸木弓１点である。手近にあった材の利用と考えられ、丸木弓が実用性を持っていたかは疑問である。

33　タラノキ　Aralia elata（Miq.）Seemann　ウコギ科

写真図版11：33a －ｃ（MYG－5027）

年輪の始めに中～大型の楕円形の管孔が並び、少しづつ径を減じて数層に並び、晩材部では薄壁多角形の小管孔が集まって斜上の紋をなす環孔材。道管の穿孔は単一、らせん肥厚はない。放射組織は２－５細胞幅程度の異性で背は比較的低く、鞘細胞をを持つ。これらの形質からタラノキと同定した。

当遺跡出土材は浮木１点で、タラノキの軽軟な材にあった利用である。

34　ハリギリ　Kalopanax pictus（Thunb.）Nakai　ウコギ科

写真図版12：34a －ｃ（MYG－5181）

大型で丸い管孔が年輪に沿って一列に並び、晩材部では小型で薄壁の管孔が斜め接線状～接線状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一で、道管内部にはチロースが見られる。放射組織は上下端の１細胞が直立細胞からなる異性で５細胞幅くらいである。以上の形質よりハリギリの材と同定した。

当遺跡出土材は槽１点で、大材となり、材が柔らかく切削が容易である性質を利用していると言える。

35　エゴノキ属　Styrax　エゴノキ科

写真図版12：35a －ｃ（MYG－5251）

薄壁でやや角張った楕円形の小管孔が放射方向に数個複合したものが年輪始めに多めに分布する散孔材で、晩材部では管孔径は小さくなり、目立たなくなる。道管の穿孔は横棒が10本程度の階段状、らせん肥厚はない。木部柔組織は散在及び１細胞幅の接線状で晩材部で目立つ。放射組織は１－５細胞幅の異性で単列の翼部が伸びる。これらの形質からエゴノキ属の材と同定した。

当遺跡出土材は下駄２点で、エゴノキの材は堅く弾性があり、下駄としての利用は類例を聞かない。

36　トネリコ属　Fraxinus sp.　モクセイ科

写真図版12：36a －ｃ（MYG－5303）

年輪のはじめに単独あるいは２個放射方向に複合した大型の管孔が１－３列並び、晩材部では厚壁で小型の管孔が単独あるいは数個に複合して散在する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は１－３細胞幅の同性。これらの形質からトネリコ属の材と同定した。

当遺跡出土材は橋脚材１点である。

市川橋遺跡出土木製品の樹種組成

以上記載したように36樹種が認められたが、表１に示すように、最も多かったのはケヤキの161点で、全体の３割を占める。ついでヒノキ（71点）、スギ（51点）、モミ属（42点）があり、そのほかサワラ(23点)、アスナロ（13点）、アカマツ（８点）、ネズコ（８点）など、針葉樹は全体の46％と多い。広葉樹ではケヤキの他、クリ（39点）がやや多いものの、イスノキ（12点）、コナラ節（11点）、トチノキ（７点）と続き、他の樹種はたいへん少なく１、２点である。広葉樹が全体に占める割合は半分を超えるものの、そのほとんどはケヤキであり、それ以外の広葉樹材の割合はたいへん少なく、針葉樹中心の木材利用といえるだろう。

現在の仙台平野の植生及び近隣遺跡における花粉分析等から推察して、当時の多賀城周辺に自生していたと考えられる針葉樹はモミ、アカマツ、カヤ、イヌガヤの４樹種である。スギ、ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、トウヒ属の６樹種の自生は考えにくい。何れもが曲物や祭祀具など比較的持ち運びが容易なサイズのものであることから他地域からの持ち込みを考えるのが妥当だろう。それらの産地を推定すると、スギは東北地方の日本海側或いは関東地方以西、ヒノキ、サワラも関東地方以西が考えられ、これに対してアスナロ、ネズコは東北地方の脊梁山脈地域及び日本海側が考えられる。広葉樹について同様に見ると、ケヤキは仙台平野で最もポピュラーな広葉樹であり、挽物容器へのケヤキの利用は豊富なケヤキ材を、材質に良くあった用途として活用したことが窺われる。これに対して櫛材に専ら使われているイスノキ、モッコク、ツゲなどは、それらが常緑広葉樹で照葉樹林の中でも南の地方に自生するものであることから、やはり遺跡周辺での自生は全く考えられず、他地域、それも照葉樹林が普通に存在する東海地方より南の地域で生産されたものが持ち込まれたは明らかである。これと対照的に挽物椀に専ら用いられているブナ属（ブナと考えている）の自生は仙台地方の丘陵地よりも標高の高い脊梁山脈側に普通に存在し、多賀城付近には分布していなかったと考えられる。これらも製品として持ちこまれたと考えるのが妥当だろう。

以上、木製品に使用された樹種とその分布について見ると、針葉樹ではモミ、アカマツ、イヌガヤ、カヤなど、広葉樹ではケヤキ、クリ、ナラ類、トチノキ、アサダなど、いわば「在地」の木材を利用すると共に、ヒノキ、スギ、イスノキなど南或いは西の地域からもたらされたもの、ブナ、アスナロ、ネズコなどむしろ北の地域からもたらされたと考えられるものなど、わが国の広い地域からもたらされた木材利用が見て取れ、活発な流通を裏付けていると言える。

用途別に見た樹種選択

表１では全515点を、その製品の用途等から、大まかに、容器、祭祀具具、生活具、建築材、農具、武具、その他、の７つのカテゴリーに分けたものである。

表２に詳しく集計したように、「容器」としたものには、皿、曲物、椀、はち、柄杓など様々なものがある。曲物には円形のもの、方形のもの（折敷）、楕円形のものなど様々で、大きさも多様である。全99点の樹種組成を見るとスギとヒノキが26点づつ、ついでモミ属が16点、サワラ、ネズコが６点、アスナロ、カヤ、などとなっている。柄杓、桶なども曲物同様ヒノキ、サワラなど針葉樹である。曲物の品質から言えばヒノキが格段に良いのは自明だが、ここに同定された樹種の何れも普通に曲物類に利用されるも

のである。これに対して挽物（一部刳物）の皿、椀、鉢、槽等に使用される木材は広葉樹が中心である。皿は一部トチノキ（6点）、モクレン属（ホオノキと考えられる）（2点）があるものの、ほとんど（127点）がケヤキである。ケヤキは椀（20点）、鉢など広く用いられ、その他の樹種では椀のブナ属（ブナと考えられる）（4点）、鉢のモクレン属（2点）、エゴノキ属（1点）、ハリギリ（1点）があるに過ぎない。ケヤキへの極端な集中はケヤキ挽物の生産が当遺跡周辺で行われていた可能性を示唆する。表3にはこれら容器のうち、漆塗りが明確に認められたものを集計したものである。漆は黒、朱の両方があり、容器内外面が同じ色のもの、内外で塗り分けられているもの、紋様のあるものなど多彩である。漆椀はケヤキが10点に対しブナ属は4点で、これはケヤキ椀の半分が漆塗りであるのに対し、ブナ属椀はすべてが漆塗りであることを示す。その他、漆塗皿などもあるが出土量は容器の数に比べて少ないと言える。

表4は農工具類などをまとめたものである。木錘が多く出土したが、それらにはナラ類（コナラ節）、カエデ属、クリ、ヤナギ属など、手近にある木をなんでも使っているように見える。鎌、鍬、斧などの農工具の柄にはアカマツ、アサダ、クリ、クヌギ節（クヌギと考えられる）、サクラ属などやはり雑多な樹種が使われている。そのほかは出土数が少なく傾向というものは読みとれない。

表5は祭祀具の組成を見たものである。斎串が比較的多く出土したので樹種により木取りに違いがあるかを見たが、板目ではヒノキが多く、スギ、サワラ、モミ属の順であり、柾目ではスギ、サワラ、ヒノキ、モミ属となって、ヒノキが柾目よりも板目で使われることが多い傾向が少し見て取れたが、データが少ないので確定的には言えない。人形、刀形など他のものも斎串とほとんど同じ樹種組成といえる。曲物ではスギとヒノキの使用量がほぼ拮抗していたが、祭祀具ではヒノキが一番使用されている傾向がはっきり出たと言える。

表6にはそのほかの目立った木製品についてまとめたものである。櫛（すべて横櫛）は21点出土し、12点がイスノキ、5点がモッコク、あとはアサダ、カバノキ属、ツゲ、ナシ亜科が1点づつである。何れの材も堅く緻密で粘りがある特性を活かした樹種選択が働いていると見なすことが出来るが、イスノキ、モッコクともツゲの代用品として古代から利用されてきたもので、おそらくは近畿地方或いはその南西地域での生産品であろう。これら遠隔地から流通してきた櫛に対し、アサダ、カバノキ属、ナシ亜科と同定されたものは在地での生産品である可能性が強いと言える。下駄は10点同定され、多くは一木造りで、クリ、エノキ属、それにヒノキ、モミ属、ニレ属が使われている。ヒノキを除いて在地の木材を利用したものである。そのほか、へら、箸などはやはり針葉樹が使われている。檜扇は5点のうち、4点がヒノキでその名の通りの利用だが、1点はモミ属で、これは代用品と思われる。

そのほか、建築材（土木用材をふくむ）としては表1に示すようにクリがほとんどで、そのほかアカマツ、モミ属、ナラ類など当時の遺跡周辺に優占していた高木を用いていたと考えることが出来る。武具をまとめたものの中身は丸木弓や刀の鞘などで、イヌガヤの丸木弓などである。用途不明品等はその他としたが、これには特段の傾向はない。

以上、市川橋遺跡から出土した木製品の樹種とその用途に概観したが、皿、曲物、斎串などが多くを占めるなど、調べられた木製品の組成自体に大きな偏りがあって、当時の木材利用の全体像を把握することは出来なかったが、多賀城という、東北地方にあってみやこと直結した古代の都市での木と人々の暮らしの関係の一端を明らかに出来たものと思う。

表 1　市川橋遺跡出土木製品の樹種組成

樹　種	容　器	祭祀具	生活具	建築材	農　具	武　具	その他	合　計
ケヤキ	161		1					162
ヒノキ	28	31	9			1	4	73
スギ	28	14	3		1		5	51
モミ属	20	8	6	2	2		4	42
クリ			5	28	3	2	1	39
サワラ	8	12	1				2	23
アスナロ	5	6					2	13
イスノキ			12					12
コナラ節				2	8	1		11
アカマツ			1	3	4			8
ネズコ	6	2						8
カヤ	4	1	1		1			7
トチノキ	7							7
アサダ			1		3	1		5
モッコク			5					5
ヤナギ属	1			1	2		1	5
ヒノキ属	3		1					4
カエデ属					3	1		4
ブナ属	4							4
モクレン属	4							4
イヌガヤ						3		3
クヌギ節				1	1		1	3
針葉樹	2							2
エノキ属			2					2
キブシ					1	1		2
ナシ亜科			1		1			2
トウヒ属						1		1
ヒノキ科	1							1
マツ属					1			1
ニレ属			1					1
エゴノキ属	1							1
オニグルミ							1	1
カバノキ属			1					1
コクサギ					1			1
サクラ属					1			1
タラノキ					1			1
ツゲ			1					1
トネリコ属				1				1
ハリギリ	1							1
ニシキギ属						1		1
合　計	284	74	52	38	34	12	21	515

表2　容器に用いられた木材の樹種

樹　種	皿	曲物	椀	鉢	柄杓	槽	箱	桶	瓶	合子	蒸器	容器	合計
ケヤキ	127	3	20	2		1			1	1		6	161
スギ		26					1				1		28
ヒノキ		26			2								28
モミ属		18						1				1	20
サワラ		6			1			1					8
トチノキ	6											1	7
ネズコ		6											6
アスナロ		4					1						5
カヤ		4											4
ブナ属			4										4
モクレン属	2			2									4
ヒノキ属		3											3
エゴノキ属			1										1
ハリギリ						1							1
ヒノキ科		1											1
針葉樹		2											2
合　計	135	99	25	4	3	2	2	2	1	1	1	8	283

表3　漆器容器の樹種

樹　種	椀	皿	桶	箱	鉢	曲物	容器	合計
ケヤキ	10	5			1		2	18
ブナ属	4							4
カヤ						1		1
スギ				1				1
モミ属			1					1
合　計	14	5	1	1	1	1	2	25

表4　農工具等の樹種

樹　種	木錘	鎌柄	鍬本体	鍬柄	斧柄	柄	田下駄	馬櫛	浮木	おさ	編物部材	紡錘車	合計
コナラ節	7		1										8
アカマツ	1	2				1							4
アサダ			1	1				1					3
カエデ属	3												3
クリ	2	1											3
ヤナギ属	2											1	3
モミ属	1										1		2
カヤ										1			1
キブシ	1												1
クヌギ節					1								1
コクサギ	1												1
サクラ属		1											1
スギ							1						1
タラノキ									1				1
ナシ亜科	1												1
マツ属	1												1
合　計	20	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	35

表5　祭祀具の樹種

樹　種	斎串 板目	斎串 柾目	斎串 その他・ 不明	斎串計	人形	刀形	馬形	絵馬	形代	おしら さま	合計
ヒノキ	13	3	7	23	4	2	1	1			31
スギ	6	7		13	1						14
サワラ	4	4	2	10	1				1		12
モミ属	3	2		5	1	1	1				8
アスナロ	1	1	1	3		1		1		1	6
ネズコ		1		1	1						2
カヤ					1						1
合　計	27	18	10	55	9	4	2	2	1	1	74

表6　各種木器の樹種

樹　種	櫛	下駄	ヘラ ヘラ状木製品	箸 箸状製品	檜扇	ささら	合計
イスノキ	12						12
ヒノキ		1	2	2	4		9
モミ属		1	1	1	1	2	6
クリ		5					5
モッコク	5						5
スギ			2	1			3
エノキ属		2					2
アカマツ			1				1
アサダ	1						1
カバノキ属	1						1
カヤ			1				1
ケヤキ			1				1
サワラ				1			1
ツゲ	1						1
ナシ亜科	1						1
ニレ属		1					1
ヒノキ属			1				1
合　計	21	10	9	5	5	2	52

付表　市川橋遺跡出土木製品の樹種

MYG 番号	樹　種	製品の種類		木取り	注記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5001	スギ	曲物	底板	柾目		A	01101100	104	容器
MYG-5002	ケヤキ	皿		柾目		A	06609300	143	容器
MYG-5003	クヌギ節	斧柄				A	01101100	100	農具
MYG-5004	スギ	曲物	底板	柾目		A	01101100	106	容器
MYG-5005	ケヤキ	皿		柾目		A	00400900	44	容器
MYG-5006	ケヤキ	椀		柾目		A	00901700	78	容器
MYG-5007	ケヤキ	皿		柾目		A	04205400	112	容器
MYG-5008	ヒノキ	祭祀具	斎串			A	04410000	121	祭祀具
MYG-5009	ケヤキ	曲物	蓋板		方形	A	00901700	90	容器
MYG-5010	ヒノキ	曲物	側板	板目		A	001xxxxx	224	容器
MYG-5011	ヒノキ	曲物	蓋板	板目		A	001xxxxx	224	容器
MYG-5012	ケヤキ	皿		柾目	漆塗　黒	A	00901700	74	容器
MYG-5013	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		A	00901700	73	祭祀具
MYG-5014	コナラ節	弓	丸木	心持ち		A	00801900	62	武具
MYG-5015	アカマツ	木錘				A	04400305	122	農具
MYG-5016	コナラ節	木錘		芯持ち		A	01101100	99	農具
MYG-5017	スギ	曲物	底板			A	06600300	169	容器
MYG-5018	クヌギ節	用途不明品	柄物	削りだし		A	00420200	41	用途不明品
MYG-5019	ヒノキ	ヘラ状木製品		柾目		A	04410000	119	生活具
MYG-5020	モミ属	祭祀具	人形	斜目		A	04410000	129	祭祀具
MYG-5021	スギ	曲物	底板	板目		A	06600300	166	容器
MYG-5022	ケヤキ	椀		柾目	漆塗　黒	A	06600003	157	容器
MYG-5023	スギ	曲物	底板	柾目		A	00900300	87	容器
MYG-5024	カエデ属	木錘		芯持ち		A	04400203	32	農具
MYG-5025	イヌガヤ	弓	丸木			A	04410000	120	武具
MYG-5026	スギ	祭祀具	斎串	板目		A	04400203	31	祭祀具
MYG-5027	タラノキ	浮木				A	00900900	67	農具
MYG-5028	スギ	祭祀具	斎串	板目		A	00900300	70	祭祀具
MYG-5029	スギ	曲物	底板	斜目	転用	A	04410000	126	容器
MYG-5030	ヒノキ	用途不明品		柾目		A	04410000	124	用途不明品
MYG-5031	モミ属	曲物	底板	柾目		A	00900200	83	容器
MYG-5032	スギ	用途不明品				A	00900200	84	用途不明品
MYG-5033	モミ属	ささら		柾目		A	06600003	24	生活具
MYG-5034	ヒノキ	祭祀具	刀形			A	065p103a	135	祭祀具
MYG-5035	モミ属	祭祀具	斎串	板目		A	00901700	72	祭祀具
MYG-5036	サワラ	祭祀具	斎串			A	01101100	97	祭祀具
MYG-5037	スギ	祭祀具	斎串	柾目		A	00800200	58	祭祀具
MYG-5038	ケヤキ	皿		柾目		A	06607900	147	容器
MYG-5039	ケヤキ	皿	高台付	柾目		A	01100100	102	容器
MYG-5040	スギ	曲物	蓋板	板目	長方形	A	00900300	92	容器
MYG-5041	ヒノキ	曲物	底板	板目		A	06600300	163	容器
MYG-5042	スギ	曲物	底板	板目		A	04400305	213	容器
MYG-5043	ヒノキ	曲物	蓋板	板目		A	009100xx	89	容器
MYG-5044	クリ	下駄		板目		A	00901700	75	生活具
MYG-5045	スギ	曲物	底板	柾目		A	00402600	48	容器
MYG-5046	ケヤキ	皿	高台付	柾目		A	065p101c	132	容器

市川橋木製品樹種

MYG 番号	樹　種	製品の種類		木取り	注　記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5047	ネズコ	曲物	側板	柾目		A	00801900	18	容器
MYG-5048	ケヤキ	曲物	底板	板目		A	00801900	18	容器
MYG-5049	ケヤキ	鉢		斜目	挽物	A	06609300	144	容器
MYG-5050	キブシ	弓	丸木	心持ち		A	06601000	142	武具
MYG-5051	モミ属	祭祀具	斎串	板目		A	04410000	118	祭祀具
MYG-5052	ケヤキ	皿	高台付	柾目		A	04205500	111	容器
MYG-5053	イスノキ	櫛	横櫛	板目		A	01100600	101	生活具
MYG-5054	クリ	下駄				A	00900200	68	生活具
MYG-5055	オニグルミ	用途不明品		板目		A	06609300	211	用途不明品
MYG-5056	ヒノキ	曲物	蓋板			A	06601000	164	容器
MYG-5057	ブナ属	椀		柾目	漆塗	A	04200400	219	容器
MYG-5058	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		A	04400203	203	祭祀具
MYG-5059	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		A	04400203	28	祭祀具
MYG-5060	スギ	祭祀具	斎串	板目		A	04400203	202	祭祀具
MYG-5061	サワラ	曲物	蓋板	板目		A		225	容器
MYG-5062	ヒノキ属	曲物	側板	柾目		A		225	容器
MYG-5063	モミ属	容器	蓋	板目		A		226	容器
MYG-5064	ネズコ	曲物		柾目		A		228	容器
MYG-5065	スギ	曲物		柾目		A		227	容器
MYG-5066	スギ	田下駄		板目		D	10204700	96	農具
MYG-5067	ケヤキ	椀		柾目		D	10605600	202	容器
MYG-5068	ケヤキ	皿		柾目		C	C110TX1	939	容器
MYG-5069	ヒノキ	曲物	蓋板	板目		D	10206900	99	容器
MYG-5070	ヒノキ属	曲物	側板	柾目		D		99	容器
MYG-5071	アサダ	鍬	本体	板目		C	C78TE52	626	農具
MYG-5072	アサダ	鍬	柄			C	C78TE52	626	農具
MYG-5073	カヤ	おさ				C	C110TX1	775	農具
MYG-5074	モミ属	曲物	底板	板目	焦げ	D	10300201	111	容器
MYG-5075	ケヤキ	槽		板目		D	10510500	478	容器
MYG-5076	ヤナギ属	梯子		芯持ち		D	09101403	261	建築材
MYG-5077	モクレン属	鉢		板目	挽物	D	10300105	112	容器
MYG-5078	モミ属	祭祀具	斎串	板目		D	10006100	340	祭祀具
MYG-5079	ヤナギ属	用途不明品		心持ち		D	10200100	108	用途不明品
MYG-5080	コナラ節	鍬		柾目		D	03005700	86	農具
MYG-5081	カヤ	曲物	蓋板	板目		D	09101200	256	容器
MYG-5082	スギ	曲物	蓋板	板目		D	09101100	237	容器
MYG-5083	スギ	用途不明品		柾目		D	10510402	474	用途不明品
MYG-5084	モミ属	部材	部材	柾目		D	10006500	472	部材
MYG-5085	ヒノキ	曲物	蓋板	板目	長方形	D	10009900	473	容器
MYG-5086	ヒノキ	曲物	蓋板	柾目	方形	D	02701300	133	容器
MYG-5087	モミ属	曲物	蓋板	斜目		D	10010700	403	容器
MYG-5088	モミ属	曲物	側板	柾目		D	10010700	403	容器
MYG-5089	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	10006000	446	容器
MYG-5090	モミ属	祭祀具	刀形	板目		D	10009900	463	祭祀具
MYG-5091	ケヤキ	皿		柾目		D	10001400	442	容器
MYG-5092	スギ	曲物	底板	柾目		D	10006600	391	容器
MYG-5093	ヒノキ	檜扇		板目		D	10010600	401	生活具
MYG-5094	ヒノキ	曲物	蓋板	板目		D	10005700	339	容器

市川橋木製品樹種

MYG 番号	樹　種	製品の種類		木取り	注　記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5095	ヒノキ	曲物		斜目		D	10605600	199	容器
MYG-5096	ケヤキ	椀		柾目		D	10605600	200	容器
MYG-5097	ケヤキ	皿		柾目		D	10200001	100	容器
MYG-5098	ネズコ	曲物	底板	板目		D	02700100	123	容器
MYG-5099	ケヤキ	皿		板目	漆塗	D	08302000	156	容器
MYG-5100	コナラ節	木錘		芯持ち		D	02700100	119	農具
MYG-5101	ケヤキ	皿		柾目		D	08304500	165	容器
MYG-5102	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	10011100	413	容器
MYG-5103	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	10001400	441	容器
MYG-5104	ヒノキ	祭祀具	斎串	柾目		D	10009900	461	祭祀具
MYG-5105	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	10005600	486	容器
MYG-5106	スギ	曲物	底板	板目		D	09101100	248	容器
MYG-5107	モミ属	曲物	底板	板目		D	09101100	247	容器
MYG-5108	ケヤキ	椀		柾目	漆塗	D	09100400	278	容器
MYG-5109	ケヤキ	瓶		柾目	挽物	D	02704500	140	容器
MYG-5110	トチノキ	皿	高台付	板目		D	09100200	279	容器
MYG-5111	ヒノキ	柄杓	側板	柾目		D	10008000	452	容器
MYG-5112	ヒノキ	柄杓	側板	柾目		D	10008000	452	容器
MYG-5113	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	09101200	254	容器
MYG-5114	ケヤキ	皿		柾目		D	10005700	337	容器
MYG-5115	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	02700100	116	容器
MYG-5116	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	10605600	205	容器
MYG-5117	ケヤキ	鉢		板目	漆塗	D	10005600	291	容器
MYG-5118	モミ属	曲物	蓋板		方形	A	00901700	91	容器
MYG-5119	カヤ	ヘラ状木製品				A	066xxxxx	149	生活具
MYG-5120	ケヤキ	皿				C	C20TD97	37	容器
MYG-5121	ケヤキ	皿	高台付			C	C41TX20	55	容器
MYG-5122	ケヤキ	皿	高台付			C	C78TX24	59	容器
MYG-5123	ケヤキ	皿				C	C78TD22	61	容器
MYG-5124	ケヤキ	椀				C	C78TD22	129	容器
MYG-5125	ケヤキ	皿	高台付			C	C78TP98	422	容器
MYG-5126	ケヤキ	皿				C	C20TD97	424	容器
MYG-5127	ケヤキ	皿	高台付			C	C20TD97	438	容器
MYG-5128	ケヤキ	皿				C	C78TD22	464	容器
MYG-5129	ケヤキ	皿				C	C115TD1	853	容器
MYG-5130	ケヤキ	皿				C	C115TD9	882	容器
MYG-5131	ケヤキ	皿	高台付			C	C115TD13	890	容器
MYG-5132	ケヤキ	皿	高台付			C	C78TD22	427	容器
MYG-5133	ケヤキ	皿	高台付			C	C78TD22	435	容器
MYG-5134	ケヤキ	皿			刻書	C	C78TX24	463	容器
MYG-5135	ケヤキ	皿	高台付			C	C110TX1	696	容器
MYG-5136	ケヤキ	皿				C	C110TX1	700	容器
MYG-5137	ケヤキ	皿				C	C110TX1	701	容器
MYG-5138	ケヤキ	皿	高台付			C	C110TX1	708	容器
MYG-5139	ケヤキ	皿				C	C110TX1	709	容器
MYG-5140	ケヤキ	皿				C	C110TX1	710	容器
MYG-5141	ケヤキ	容器	蓋		挽物	C	C110TX1	715	容器
MYG-5142	カエデ属	木錘				C	C110TX1	722	農具

市川橋木製品樹種

MYG 番号	樹　種	製品の種類		木取り	注　記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5143	針葉樹	曲物	底板			D	03000800	77	容器
MYG-5144	モミ属	曲物	底板			D	03000900	88	容器
MYG-5145	ケヤキ	皿				D	02700100	115	容器
MYG-5146	ケヤキ	曲物	底板			D	02700100	126	容器
MYG-5147	ヒノキ属	ヘラ状木製品				D	02701400	129	生活具
MYG-5148	ブナ属	椀			漆塗	D	01702600	132	容器
MYG-5149	ケヤキ	皿				D	02703300	138	容器
MYG-5150	モミ属	曲物	底板			D	08303906	149	容器
MYG-5151	ケヤキ	皿	高台付			D	08303907	150	容器
MYG-5152	カヤ	曲物	蓋板			D	08305500	151	容器
MYG-5153	トチノキ	皿	高台付			D	08303400	161	容器
MYG-5154	ヒノキ	曲物	蓋板			D	08303400	162	容器
MYG-5155	ヒノキ	曲物	底板			D	08304500	163	容器
MYG-5156	ケヤキ	皿				D	08304500	164	容器
MYG-5157	ケヤキ	皿	高台付			D	08306800	169	容器
MYG-5158	ヒノキ属	曲物	蓋板			D	083xxxxx	173	容器
MYG-5159	エノキ属	下駄				D	0880020a	180	生活具
MYG-5160	ケヤキ	皿	高台付			D	092p0230	183	容器
MYG-5161	トチノキ	皿				D	09101000	207	容器
MYG-5162	ケヤキ	皿？				D	09101000	209	容器
MYG-5163	ケヤキ	皿	高台付			D	09101000	212	容器
MYG-5164	ケヤキ	皿	高台付			D	09101000	219	容器
MYG-5165	ケヤキ	皿	高台付			D	09101000	220	容器
MYG-5166	ケヤキ	皿	高台付			D	09101100	240	容器
MYG-5167	ケヤキ	容器			漆塗	D	09101100	241	容器
MYG-5168	ケヤキ	皿	高台付			D	09101200	252	容器
MYG-5169	ネズコ	曲物	蓋板			D	09101200	255	容器
MYG-5170	ケヤキ	皿	高台付			D	09101300	259	容器
MYG-5171	ヒノキ	曲物	底板			D	09101300	260	容器
MYG-5172	ヒノキ	曲物	蓋板			D	09101000	263	容器
MYG-5173	ケヤキ	皿				D	09101100	265	容器
MYG-5174	ネズコ	曲物	底板			D		275	容器
MYG-5175	スギ	曲物	蓋板			D		276	容器
MYG-5176	ケヤキ	椀			漆塗	D	09100400	277	容器
MYG-5177	ケヤキ	椀				D	09100200	280	容器
MYG-5178	モミ属	曲物	底板			D	10005700	338	容器
MYG-5179	ケヤキ	皿				D	10001300	429	容器
MYG-5180	ケヤキ	皿	高台付			D	11300200	485	容器
MYG-5181	ハリギリ	槽				D	10012000	505	容器
MYG-5182	ケヤキ	皿	高台付			C	C78TD22	420	容器
MYG-5183	トチノキ	皿		柾目		C	C115TD1	826	容器
MYG-5184	アカマツ	鎌	柄			C	C20TD97	669	農具
MYG-5185	ヒノキ	檜扇		板目		C	C115TD3	935	生活具
MYG-5186	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C78TD22	415	容器
MYG-5187	ケヤキ	椀		柾目	漆塗　黒	C	C20TD97	430	容器
MYG-5188	スギ	ヘラ		板目		C	C20TX71	496	生活具
MYG-5189	ケヤキ	皿		柾目		C	C115TD13	889	容器
MYG-5190	アスナロ	曲物	底板	板目		C	C115TD1	825	容器

市川橋木製品樹種

MYG 番号	樹　種	製品の種類		木取り	注　記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5191	ヤナギ属	木錘		芯持ち		C	C115TD13	897	農具
MYG-5192	ヒノキ	ヘラ		板目		C	C20TD97	662	生活具
MYG-5193	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C115TD9	873	容器
MYG-5194	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C115TD9	875	容器
MYG-5195	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C115TD1	824	容器
MYG-5196	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C115TD1	837	容器
MYG-5197	ケヤキ	皿	高台付	板目		C	C115TD1	841	容器
MYG-5198	モミ属	用途不明品	有頭棒	削りだし		C	C20TD97	497	用途不明品
MYG-5199	スギ	曲物	底板	柾目		C		876	容器
MYG-5200	モミ属	曲物	底板	柾目		C		874	容器
MYG-5201	ケヤキ	皿		柾目		C	C115TD1	842	容器
MYG-5202	ケヤキ	皿		柾目		C	C41TE44	54	容器
MYG-5203	コナラ節	木錘		芯持ち		C	C20TD97	668	農具
MYG-5204	ケヤキ	皿		板目		C	C115TX8	922	容器
MYG-5205	スギ	曲物	底板	柾目		C		820	容器
MYG-5206	スギ	曲物	底板	柾目		C		869	容器
MYG-5207	モミ属	曲物	底板	柾目		C		919	容器
MYG-5208	スギ	蒸器	底板	柾目		C		912	容器
MYG-5209	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C78TX24	16	容器
MYG-5210	サワラ	曲物	底板	柾目		C		879	容器
MYG-5211	ヒノキ	祭祀具	絵馬	板目		C	C78TD22	168	祭祀具
MYG-5212	スギ	曲物	底板	柾目		C		908	容器
MYG-5213	ケヤキ	皿		柾目		C	C20TD97	414	容器
MYG-5214	ケヤキ	皿		板目		C	C20TD97	408	容器
MYG-5215	ケヤキ	皿		柾目		C	C20TD97	410	容器
MYG-5216	ケヤキ	皿		柾目		C	C20TD97	411	容器
MYG-5217	ヤナギ属	木錘		芯持ち		C	C110TX1	722	農具
MYG-5218	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C110TX1	708	容器
MYG-5219	ケヤキ	皿	高台付			C	C78TD22	435	容器
MYG-5220	ヒノキ	曲物	底板			D	09101300	260	容器
MYG-5221	スギ	曲物	底板	柾目		D		888	容器
MYG-5222	ケヤキ	椀				D	09100200	280	容器
MYG-5223	ケヤキ	皿	高台付	柾目	挽物	D	09101000	212	容器
MYG-5224	ケヤキ	皿	高台付	柾目	挽物	D	09101200	252	容器
MYG-5225	ブナ属	椀			漆塗	D	01702600	132	容器
MYG-5226	ヒノキ	曲物	蓋板	柾目		D	09101000	263	容器
MYG-5227	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	08303907	150	容器
MYG-5228	ヒノキ	曲物	底板	柾目		D	08304500	163	容器
MYG-5229	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	08306800	169	容器
MYG-5230	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C78TD22	67	容器
MYG-5231	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	09101100	240	容器
MYG-5232	ヒノキ	曲物	蓋板			D		276	容器
MYG-5233	針葉樹	曲物	底板			D	03000800	77	容器
MYG-5234	ケヤキ	皿		柾目		D	10001300	429	容器
MYG-5235	ケヤキ	容器		柾目	漆塗　黒	D	09101100	241	容器
MYG-5236	ケヤキ	皿				D	02703300	138	容器
MYG-5237	カヤ	曲物	蓋板	板目		D	09101200	255	容器
MYG-5238	エノキ属	下駄		板目		D	0880020a	180	生活具

市川橋木製品樹種

MYG 番号	樹　種	製品の種類		木取り	注　記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5239	トチノキ	皿	高台付	板目		D	08303400	161	容器
MYG-5240	サワラ	曲物	蓋板			D	083xxxxx	173	容器
MYG-5241	モミ属	曲物	底板	板目		D	10005700	338	容器
MYG-5242	ケヤキ	皿		柾目		D	08304500	164	容器
MYG-5243	アスナロ	祭祀具	斎串			D	10510500	482	祭祀具
MYG-5244	クリ	下駄	一木	柾目		D	10008400	400	生活具
MYG-5245	スギ	祭祀具	斎串	板目		D	03000800	76	祭祀具
MYG-5246	ヒノキ	祭祀具	人形	板目		D	10006600	390	祭祀具
MYG-5247	ケヤキ	皿		柾目		D	10008400	397	容器
MYG-5248	サワラ	祭祀具	斎串	板目		D	10001300	491	祭祀具
MYG-5249	ネズコ	曲物	蓋板	柾目		D	09101100	246	容器
MYG-5250	モミ属	桶	蓋板	柾目	漆塗	D	09101000	211	容器
MYG-5251	エゴノキ属	椀		方向なし		D	10006500	387	容器
MYG-5252	ヒノキ	曲物	底板	柾目		D	0880020a	177	容器
MYG-5253	スギ	曲物	底板	板目		D	10006500	376	容器
MYG-5254	ケヤキ	容器	蓋	縦木取り	挽物	D	10009900	464	容器
MYG-5255	アスナロ	祭祀具	刀形	板目		D	09101000	223	祭祀具
MYG-5256	ケヤキ	椀		柾目	漆塗　黒	D	09100400	277	容器
MYG-5257	クリ	下駄	一木	板目		D	09101000	213	生活具
MYG-5258	スギ	用途不明品	組み物			D	10005600	298	用途不明品
MYG-5259	スギ	曲物	底板	柾目		D	09300100	189	容器
MYG-5260	ケヤキ	皿		柾目		D	10005600	304	容器
MYG-5261	モミ属	箸				D	10005700	345	生活具
MYG-5262	ケヤキ	皿		柾目	挽物	D	09101000	209	容器
MYG-5263	トチノキ	皿		板目	挽物	D	09101000	207	容器
MYG-5264	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	10005600	301	容器
MYG-5265	ケヤキ	皿	高台付			D	09101300	259	容器
MYG-5266	ヒノキ	曲物	底板	板目		D	02700100	118	容器
MYG-5267	ケヤキ	椀			漆塗　黒	D	10005600	292	容器
MYG-5268	ケヤキ	皿		柾目	挽物	D	09101100	265	容器
MYG-5269	ケヤキ	皿	高台付	柾目	挽物	D	09101000	219	容器
MYG-5270	トチノキ	容器	蓋	縦木取り	挽物	D	10009900	504	容器
MYG-5271	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	11300200	485	容器
MYG-5272	ヒノキ	曲物	底板	柾目		D	08302000	154	容器
MYG-5273	ケヤキ	皿	高台付	柾目		D	09101000	220	容器
MYG-5274	スギ	曲物	底板			D	09101100	243	容器
MYG-5275	モミ属	曲物	側板	板目		D	10001900	409	容器
MYG-5276	カヤ	曲物	底板	板目	漆塗　両面黒	D	10001300	423	容器
MYG-5277	ケヤキ	椀		柾目		D	10005500	287	容器
MYG-5278	ケヤキ	皿		柾目		D	10005600	305	容器
MYG-5279	モミ属	曲物	底板	板目		D	10006400	359	容器
MYG-5280	コナラ節	木鍾		芯持ち		D	02700100	120	農具
MYG-5281	キブシ	木鍾		芯持ち		D	083xxxxx	172	農具
MYG-5282	ケヤキ	皿		柾目		D	09101100	266	容器
MYG-5283	ヒノキ	祭祀具	刀形？	板目		D	09101300	257	祭祀具
MYG-5284	アスナロ	曲物	底板	板目		D	02701400	128	容器
MYG-5285	サワラ	曲物	底板	柾目		D	03001000	80	容器
MYG-5286	アスナロ	曲物	蓋板	板目	包丁痕	D	02701300	127	容器

市川橋木製品樹種

MYG 番号	樹　種	製品の種類		木取り	注　記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5287	スギ	曲物	蓋板	柾目		D	09101100	236	容器
MYG-5288	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		D	03002206	74	祭祀具
MYG-5289	スギ	曲物	底板	板目		D	03001000	78	容器
MYG-5290	ケヤキ	椀			漆塗　黒	D	10005600	309	容器
MYG-5291	ケヤキ	皿		柾目		D	03001000	82	容器
MYG-5292	ケヤキ	容器	蓋	柾目	挽物	D	10005600	316	容器
MYG-5293	イスノキ	櫛	横櫛			D	10006500	379	生活具
MYG-5294	アサダ	櫛	横櫛			D	10006500	378	生活具
MYG-5295	サワラ	祭祀具	斎串	板目		D	10005600	293	祭祀具
MYG-5296	サワラ	柄杓	側板	柾目		D	10008000	452	容器
MYG-5297	イヌガヤ	弓	丸木			D	10006500	372	武具
MYG-5298	サワラ	曲物	蓋板	板目		D	09600001	190	容器
MYG-5299	スギ	曲物	側板	柾目		A		229	容器
MYG-5300	モミ属	曲物	側板	柾目		A		230	容器
MYG-5301	モミ属	曲物	側板	柾目		A		231	容器
MYG-5302	サワラ	桶	底板	板目		D		275	容器
MYG-5303	トネリコ属	橋脚	柱材			柱材	44 区 SX1777 橋跡	1	建築材
MYG-5304	アカマツ	橋脚	柱材		橋脚№. 1	柱材	115 区 SX1630 橋跡	2	建築材
MYG-5305	アカマツ	橋脚	柱材		橋脚№. 2	柱材	115 区 SX1630 橋跡	3	建築材
MYG-5306	アカマツ	橋脚	柱材		橋脚№. 3	柱材	115 区 SX1630 橋跡	4	建築材
MYG-5307	クリ	橋脚	柱材			柱材	100 区 X99 南-西 1	5	建築材
MYG-5308	クリ	橋脚	柱材			柱材	100 区 X99 南-西 2	6	建築材
MYG-5309	クリ	橋脚	柱材			柱材	100 区 X99 南-西 3	7	建築材
MYG-5310	コナラ節	橋脚	柱材			柱材	100 区 X99 北-西 1	8	建築材
MYG-5311	クリ	橋脚	柱材			柱材	100 区 X99 北-西 2	9	建築材
MYG-5312	クリ	橋脚	柱材			柱材	100 区 X99 北-西 3	10	建築材
MYG-5313	クリ	橋脚	柱材			柱材	100 区 X99 北-北 1	11	建築材
MYG-5314	モミ属	井戸枠	側板			柱材	102 区 E57 井戸跡	12	建築材
MYG-5315	クリ	建築材	柱材			柱材	104 区 P1	13	建築材
MYG-5316	クリ	建築材	柱材			柱材	104 区 P2	14	建築材
MYG-5317	クリ	建築材	柱材			柱材	104 区 P3	15	建築材
MYG-5318	モミ属	建築材	柱材			柱材	104 区 P6	16	建築材
MYG-5319	クリ	建築材	柱材			柱材	104 区 P7	17	建築材
MYG-5320	クリ	建築材	柱材			柱材	104 区 P12	18	建築材
MYG-5321	クリ	建築材	柱材			柱材	104 区 P17	19	建築材
MYG-5322	クリ	礎板				柱材	104 区 P7	20	建築材
MYG-5323	クリ	礎板				柱材	104 区 P12	21	建築材
MYG-5324	クリ	建築材	柱材			柱材	30 区 P16	22	建築材
MYG-5325	クリ	建築材	柱材			柱材	30 区 P17	23	建築材
MYG-5326	クヌギ節	杭				柱材	91 区 SX14	24	建築材
MYG-5327	クリ	建築材	柱材			柱材	97 区南東隅柱穴	25	建築材
MYG-5328	クリ	建築材	柱材			柱材	97 区東側柱列南から 1 間目	26	建築材
MYG-5329	クリ	建築材	柱材			柱材	97 区東側柱列南から 2 間目	27	建築材
MYG-5330	クリ	建築材	柱材			柱材	82 区 B-2 ・ P0	28	建築材
MYG-5331	クリ	建築材	柱材			柱材	82 区 B-2 ・ P1	29	建築材
MYG-5332	クリ	建築材	柱材			柱材	82 区 B-2 ・ P2	30	建築材
MYG-5333	クリ	建築材	柱材			柱材	82 区 B-2 ・ P3	31	建築材
MYG-5334	クリ	建築材	柱材			柱材	82 区 B-2 ・ P4	32	建築材

市川橋木製品樹種

MYG 番号	樹　種	製品の種類		木取り	注　記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5335	クリ	建築材	柱材			柱材	82 区 B-2 ・ P5	33	建築材
MYG-5336	クリ	建築材	柱材			柱材	82 区 B-2 ・ P6	34	建築材
MYG-5337	クリ	建築材	柱材			柱材	98 区 P-4	35	建築材
MYG-5338	クリ	建築材	柱材			柱材	98 区 P-11	36	建築材
MYG-5339	コナラ節	杭				柱材	91 区 SX14a	37	建築材
MYG-5340	ヒノキ	祭祀具	馬形	板目		A	04400201	30	祭祀具
MYG-5341	サワラ	祭祀具	斎串	板目		A	00400900	39	祭祀具
MYG-5342	サクラ属	鎌	柄	削りだし		A	00420200	42	農具
MYG-5343	クリ	鎌	柄	削りだし		A	00420200	43	農具
MYG-5344	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		A	00800200	22	祭祀具
MYG-5345	ヒノキ	曲物	底板	柾目		A	00400900	53	容器
MYG-5346	ヒノキ	曲物	底板	板目		A	00400900	56	容器
MYG-5347	ヒノキ	曲物	底板	板目		A	00400900	57	容器
MYG-5348	ケヤキ	皿	高台付	柾目		A	00802550	59	容器
MYG-5349	スギ	曲物	底板	柾目		A	00801900	63	容器
MYG-5350	ケヤキ	合子			挽物	A	00900200	66	容器
MYG-5351	イスノキ	櫛	横櫛			A	00900300	69	生活具
MYG-5352	モミ属	曲物	底板	板目		A	00900200	81	容器
MYG-5353	モミ属	祭祀具	斎串	柾目		A	01101100	94	祭祀具
MYG-5354	イスノキ	櫛	横櫛			A	01101100	96	生活具
MYG-5355	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		A	01101100	98	祭祀具
MYG-5356	モッコク	櫛	横櫛			A	04205500	110	生活具
MYG-5357	アスナロ	祭祀具	おしらさま	削りだし		A	04410100	114	祭祀具
MYG-5358	ヒノキ	祭祀具	斎串			A	04410000	117	祭祀具
MYG-5359	カエデ属	刀柄			黒漆	A	06600100	145	武具
MYG-5360	トウヒ属	鞘		削りだし		A	06600200	146	武具
MYG-5361	ニシキギ属	弓	丸木	心持ち		A	06605000	150	武具
MYG-5362	アサダ	刀柄			黒漆	A	04400201	193	武具
MYG-5363	クリ	弓	丸木	削りだし	焦げ	A	04400201	194	武具
MYG-5364	ヒノキ	祭祀具	斎串			A	04400203	197	祭祀具
MYG-5365	イスノキ	櫛	横櫛			A	04400203	198	生活具
MYG-5366	ケヤキ	容器	蓋	柾目	挽物	A	04400203	200	容器
MYG-5367	イヌガヤ	弓	丸木			A	04410000	116	武具
MYG-5368	モミ属	曲物	底板	斜目		A	04410000	125	容器
MYG-5369	ケヤキ	皿	高台付	柾目		A	06600300	137	容器
MYG-5370	ケヤキ	皿		柾目		A	06600300	138	容器
MYG-5371	スギ	用途不明品	皿状	板目		A	06600300	139	用途不明品
MYG-5372	ケヤキ	皿		柾目		A	06600300	140	容器
MYG-5373	ケヤキ	皿		柾目		A	06606300	186	容器
MYG-5374	アスナロ	曲物	底板	柾目		A	06600100	187	容器
MYG-5375	クリ	木錘		丸木半割		A	04400203	201	農具
MYG-5376	ブナ属	椀			漆塗　両面朱	A	04200100	220	容器
MYG-5377	ヒノキ	檜扇		板目		A	001xxxxx	222	生活具
MYG-5378	ケヤキ	皿		柾目		C	C78TD22	24	容器
MYG-5379	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C78TX24	48	容器
MYG-5380	ケヤキ	皿		柾目	漆塗　内黒	C	C20TD97	432	容器
MYG-5381	イスノキ	櫛	横櫛			C	C18TX34	142	生活具
MYG-5382	ケヤキ	皿		柾目		C	C20TD97	468	容器

市川橋木製品樹種

MYG 番号	樹　種	製品の種類		木取り	注　記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5383	ケヤキ	皿				C	C78TD22	465	容器
MYG-5384	スギ	祭祀具	斎串	柾目		C	C110TX1	582	祭祀具
MYG-5385	スギ	祭祀具	人形	板目		C	C110TX1	601	祭祀具
MYG-5386	モクレン属	鉢			刳物	C	C78TP25	629	容器
MYG-5387	アスナロ	箱	側板			C	C78TD48	625	容器
MYG-5388	モミ属	祭祀具	斎串	柾目		C	C20TD97	652	祭祀具
MYG-5389	モミ属	編物	部材			C	C78TD22	613	農具
MYG-5390	ヒノキ	祭祀具	斎串			C	C110TX1	586	祭祀具
MYG-5391	サワラ	祭祀具	斎串			C	C110TX1	590	祭祀具
MYG-5392	ヒノキ	箸状製品				C	C110TX1	779	生活具
MYG-5393	ケヤキ	皿		柾目		C	C110TX1	713	容器
MYG-5394	モミ属	ヘラ		板目		C	C110TX1	717	生活具
MYG-5395	モミ属	用途不明品		板目		C	C20TD97	672	用途不明品
MYG-5396	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		C	C110TX1	602	祭祀具
MYG-5397	サワラ	祭祀具	斎串	柾目		C	C110TX1	585	祭祀具
MYG-5398	サワラ	祭祀具	人形	柾目		C	C110TX1	693	祭祀具
MYG-5399	アスナロ	用途不明品	棒		漆付着	C	C110TX1	718	用途不明品
MYG-5400	モミ属	用途不明品				C	C110TX1	780	用途不明品
MYG-5401	ケヤキ	皿	高台付	柾目	墨書	C	C78TD22	17	容器
MYG-5402	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C78TD22	19	容器
MYG-5403	モミ属	祭祀具	馬形	板目		C	C78TD22	479	祭祀具
MYG-5404	コナラ節	木錘		芯持ち		C	C78TD22	566	農具
MYG-5405	サワラ	祭祀具	斎串	柾目		C	C78TE52	491	祭祀具
MYG-5406	カエデ属	木錘		芯持ち		C	C78TD22	495	農具
MYG-5407	ケヤキ	皿		柾目	漆塗　黒	C	C78TD22	132	容器
MYG-5408	ケヤキ	椀		柾目	漆塗　黒	C	C78TD22	145	容器
MYG-5409	スギ	祭祀具	斎串	板目		C	C20TD97	488	祭祀具
MYG-5410	ネズコ	祭祀具	人形	柾目	曲物底板転用	C	C78TD42	501	祭祀具
MYG-5411	スギ	祭祀具	斎串	柾目		C	C110TX1	600	祭祀具
MYG-5412	スギ	部材	部材			C	C20TD97	671	部材
MYG-5413	ヒノキ	祭祀具	人形	板目		C	C110TX1	584	祭祀具
MYG-5414	ネズコ	祭祀具	斎串	柾目		C	C110TX1	587	祭祀具
MYG-5415	アスナロ	祭祀具	斎串	柾目		C	C110TX1	589	祭祀具
MYG-5416	アスナロ	用途不明品				C	C110TX1	768	用途不明品
MYG-5417	ケヤキ	皿		柾目		C	C115TD9	878	容器
MYG-5418	ケヤキ	皿		柾目		C	C115TD3	884	容器
MYG-5419	ケヤキ	皿		柾目		C	C78TD22	30	容器
MYG-5420	イスノキ	櫛	横櫛			C	C41TX20	143	生活具
MYG-5421	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C78TD22	434	容器
MYG-5422	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C78TD22	472	容器
MYG-5423	ヒノキ	刀柄		芯持ち		C	C78TD22	618	武具
MYG-5424	ヒノキ	用途不明品				C	C20TD97	647	用途不明品
MYG-5425	ケヤキ	皿		柾目		C	C110TX1	705	容器
MYG-5426	ヒノキ	箸状製品				C	C110TX1	798	生活具
MYG-5427	アカマツ	鎌	柄	心持ち		C	C20TD97	380	農具
MYG-5428	ケヤキ	皿				C	C20TD97	467	容器
MYG-5429	ケヤキ	椀		柾目	焦げ	C	C20TD97	469	容器
MYG-5430	サワラ	祭祀具	斎串	柾目		C	C20TD97	475	祭祀具

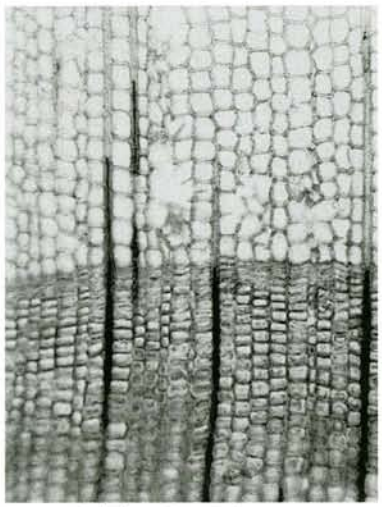
市川橋木製品樹種

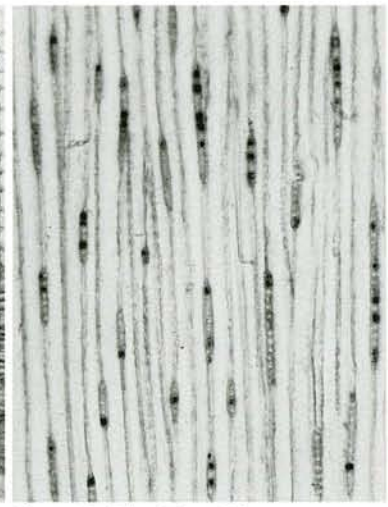
MYG 番号	樹　種	製品の種類		木取り	注　記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5431	アカマツ	ヘラ		板目		C	C20TD97	500	生活具
MYG-5432	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		C	C110TX1	583	祭祀具
MYG-5433	アスナロ	祭祀具	斎串	板目		C	C20TD97	661	祭祀具
MYG-5434	ヒノキ	祭祀具	斎串	柾目		C	C20TD97	649	祭祀具
MYG-5435	コナラ節	木錘		芯持ち		C	C20TD97	657	農具
MYG-5436	ヤナギ属	紡錘車				C	C110TX1	767	容器
MYG-5437	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		C	C110TX1	787	祭祀具
MYG-5438	ヒノキ	祭祀具	人形	板目		C	C115TD1	832	祭祀具
MYG-5439	ニレ属	下駄	一木	板目		C	C115TD13	885	生活具
MYG-5440	ヒノキ	檜扇		板目		C	C110TX1	807	生活具
MYG-5441	ケヤキ	皿	高台付	柾目	転用	C	C18TD43	165	容器
MYG-5442	サワラ	祭祀具	形代	柾目		C	C20TX71	397	祭祀具
MYG-5443	ヒノキ	祭祀具	斎串	柾目		C	C110TX1	588	祭祀具
MYG-5444	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		C	C20TD97	656	祭祀具
MYG-5445	アカマツ	柄		削りだし		C	C20TD96	660	農具
MYG-5446	ケヤキ	皿		柾目		C	C110TX1	697	容器
MYG-5447	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C110TX1	699	容器
MYG-5448	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C78TX24	13	容器
MYG-5449	ヒノキ	祭祀具	斎串	斜目		C	C110TX1	597	祭祀具
MYG-5450	ケヤキ	椀		柾目		C	C115TD1	823	容器
MYG-5451	アサダ	馬櫛				C	C115TD1	827	農具
MYG-5452	スギ	箱	側板	柾目	漆塗	C	C115TD1	835	容器
MYG-5453	モミ属	下駄		板目		C	C115TD1	836	生活具
MYG-5454	スギ	へら状木製品			まな板転用	C	C115TD3	862	生活具
MYG-5455	モクレン属	皿	高台付	柾目	まな板に転用	C	C115TX8	918	容器
MYG-5456	ツゲ	櫛	横櫛			C	C18TD43	130	生活具
MYG-5457	モッコク	櫛	横櫛			C	C18TD43	131	生活具
MYG-5458	モミ属	木錘		芯持ち		C	C78TD50	635	農具
MYG-5459	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		C	C78TE49	641	祭祀具
MYG-5460	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C110TX1	706	容器
MYG-5461	ケヤキ	皿	高台付	柾目	焦げ	C	C110TX1	707	容器
MYG-5462	ヒノキ	祭祀具	斎串	棒状		C	C110TX1	776	祭祀具
MYG-5463	スギ	箸状製品				C	C110TX1	778	生活具
MYG-5464	ヒノキ	用途不明品	棒			C	C110TX1	785	用途不明品
MYG-5465	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C20TD97	34	容器
MYG-5466	イスノキ	櫛	横櫛			C	C41TX20	144	生活具
MYG-5467	ケヤキ	皿		柾目		C	C20TD97	429	容器
MYG-5468	クリ	木錘		丸木半割		C	C18TK2	645	農具
MYG-5469	モクレン属	皿	高台付	板目	挽物	C	C20TD97	648	容器
MYG-5470	ケヤキ	皿		柾目		C	C115TD1	851	容器
MYG-5471	コナラ節	木錘				C	C78TD22	614	農具
MYG-5472	スギ	祭祀具	斎串	柾目		C	C20TD97	655	祭祀具
MYG-5473	サワラ	用途不明品	部材			C	C110TX1	773	用途不明品
MYG-5474	ケヤキ	椀			漆塗　両面黒	C	C20TD97	788	容器
MYG-5475	ケヤキ	皿	高台付	柾目		C	C78TD22	29	容器
MYG-5476	ケヤキ	椀		柾目		C	C78TD22	128	容器
MYG-5477	イスノキ	櫛	横櫛			C	C20TD97	474	生活具
MYG-5478	サワラ	祭祀具	斎串	柾目		C	C84TX4	502	祭祀具

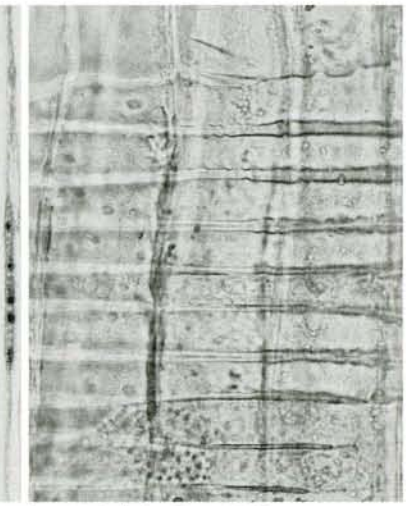
市川橋木製品樹種

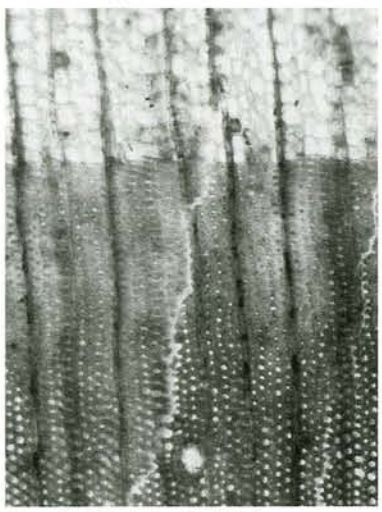
MYG 番号	樹　種	製品の種類		木取り	注　記	地区	出土地	登録番号	製品類別
MYG-5479	ヒノキ	曲物	底板	柾目		D	03002101	70	容器
MYG-5480	ヒノキ	祭祀具	人形	柾目		D	03000200	71	祭祀具
MYG-5481	ナシ亜科	木錘		芯持ち		D	030p1850	89	農具
MYG-5482	スギ	祭祀具	斎串	柾目		D	10300201	110	祭祀具
MYG-5483	サワラ	祭祀具	斎串	板目		D	02700100	122	祭祀具
MYG-5484	カバノキ属	櫛	横櫛			D	02703200	137	生活具
MYG-5485	ヒノキ科	曲物	底板	柾目		D	08303200	157	容器
MYG-5486	コクサギ	木錘		芯持ち		D	08900100	181	農具
MYG-5487	イスノキ	櫛	横櫛			D	09301100	187	生活具
MYG-5488	モミ属	檜扇		板目		D	10400401	194	生活具
MYG-5489	サワラ	曲物	底板	板目		D	03030000	196	容器
MYG-5490	ケヤキ	ヘラ		柾目	皿転用	D	10605600	203	生活具
MYG-5491	クリ	壺鐙			漆塗　黒	D	09101000	210	武具
MYG-5492	イスノキ	櫛	横櫛			D	09101000	217	生活具
MYG-5493	サワラ	用途不明品	板	柾目	穴あき	D	09101100	238	用途不明品
MYG-5494	カヤ	祭祀具	人形	柾目		D	09101100	242	祭祀具
MYG-5495	アスナロ	祭祀具	絵馬	斜目		D	09101200	249	祭祀具
MYG-5496	モッコク	櫛	横櫛	柾目		D	09101200	250	生活具
MYG-5497	ヒノキ	曲物	蓋板	板目		D	09101100	267	容器
MYG-5498	ヒノキ	下駄		柾目		D	09101100	271	生活具
MYG-5499	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		D	10005500	286	祭祀具
MYG-5500	サワラ	箸				D	10005600	294	生活具
MYG-5501	ケヤキ	椀		柾目	漆塗　両面黒	D	10005600	296	容器
MYG-5502	スギ	祭祀具	斎串	板目		D	10005600	317	祭祀具
MYG-5503	スギ	祭祀具	斎串	柾目		D	10005700	333	祭祀具
MYG-5504	ヒノキ	祭祀具	斎串	板目		D	10010700	402	祭祀具
MYG-5505	ヒノキ	祭祀具	斎串	斜目		D	10005500	490	祭祀具
MYG-5506	クリ	下駄	一木	柾目		D	10008900	412	生活具
MYG-5507	スギ	祭祀具	斎串	柾目		D	10001100	417	祭祀具
MYG-5508	ヒノキ	用途不明品	板	斜目		D	10001300	432	用途不明品
MYG-5509	モッコク	櫛	横櫛			D	10001400	434	生活具
MYG-5510	マツ属	木錘				D	10006000	444	農具
MYG-5511	クリ	用途不明品	丸木	半割		D	10009900	454	用途不明品
MYG-5512	モミ属	ささら	飾り板	板目		D	10009900	459	生活具
MYG-5513	ナシ亜科	櫛	横櫛			D	10012000	487	生活具
MYG-5514	イスノキ	櫛	横櫛			D	10010700	488	生活具
MYG-5515	モッコク	櫛	横櫛			D	10001400	489	生活具

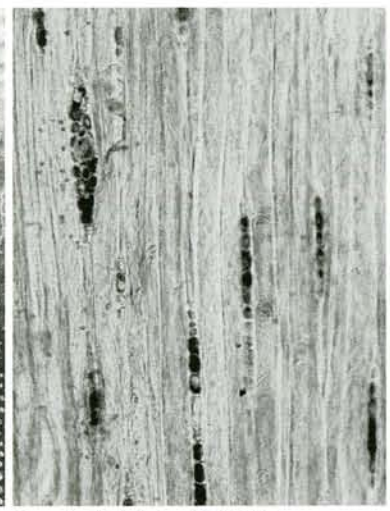
市川橋木製品樹種

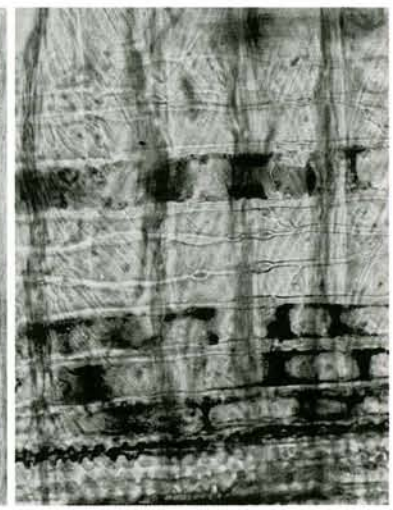

1a. モミ属　C ×54

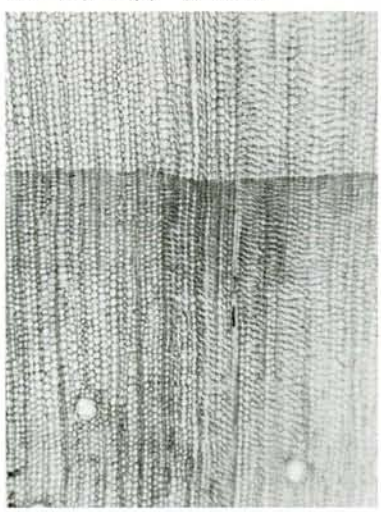

1b. モミ属　T ×54

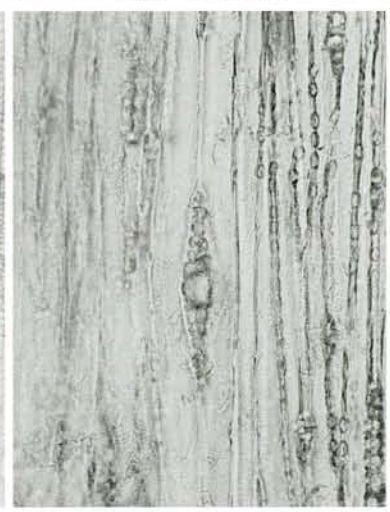

1c. モミ属　R ×270

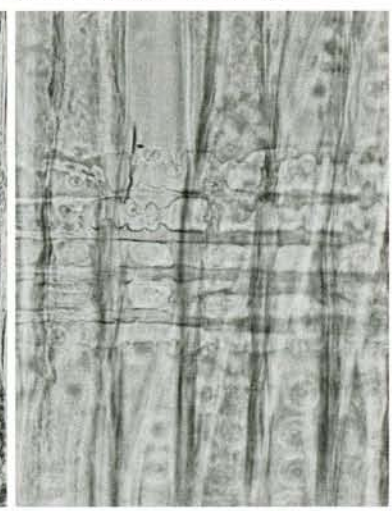

2a. トウヒ属　C ×54


2b. トウヒ属　T ×108


2c. トウヒ属　R ×108


3a. アカマツ　C ×27

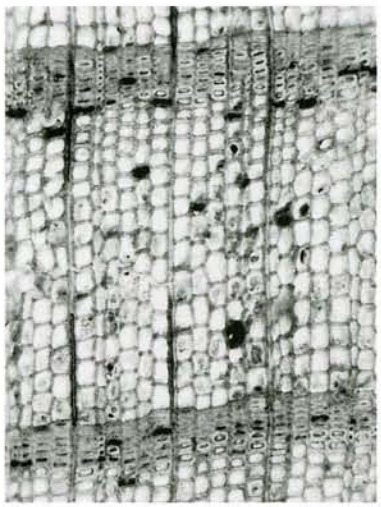

3a. アカマツ　T ×108

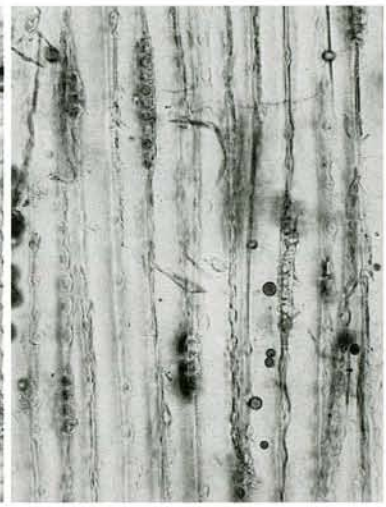

3b. アカマツ　R ×270

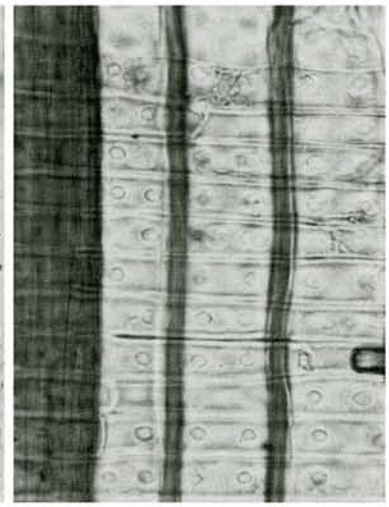
C ：横断図（木口）、T ：接線断面（板目）、R ：放射断面（柾目）

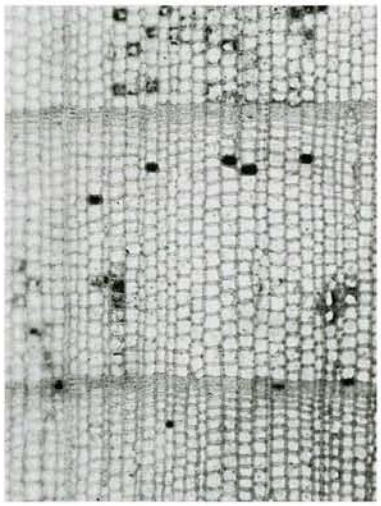
×のあとの数字は画面での拡大倍率

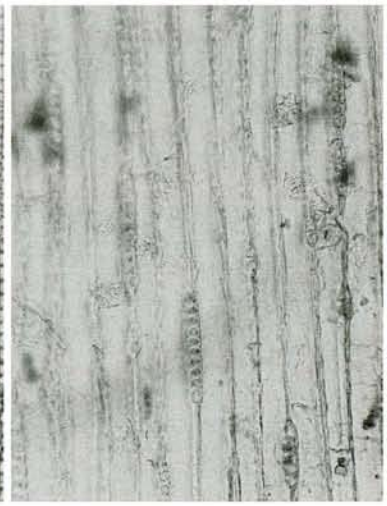
市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　1

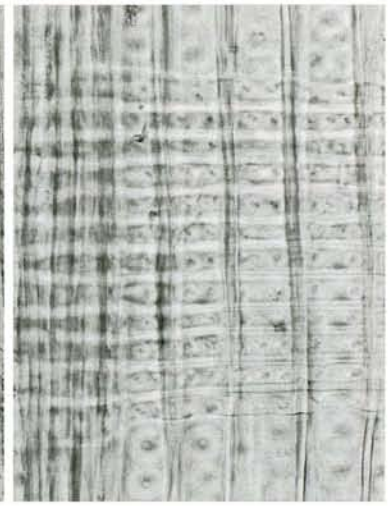

4a. スギ　C ×54

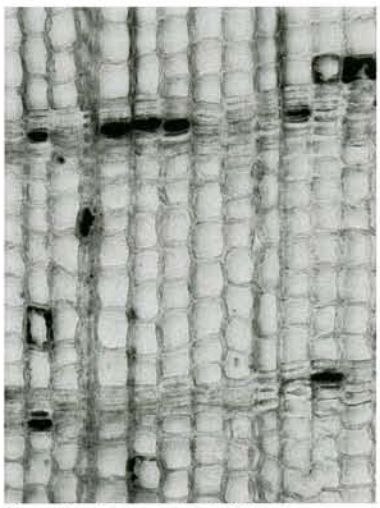

4b. スギ　T ×108

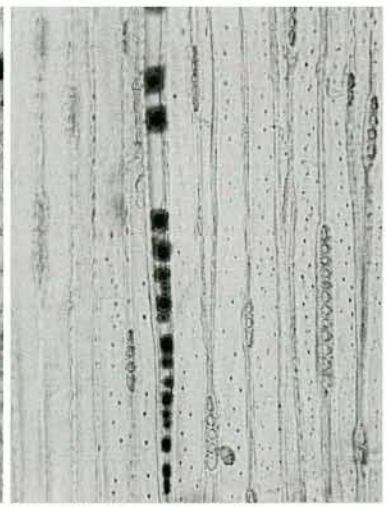

4c. スギ　R ×270

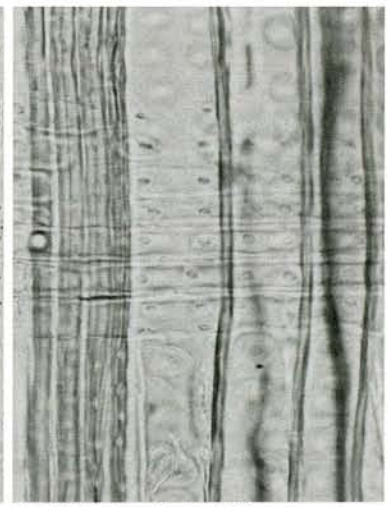

5a. ヒノキ　C ×54


5b. ヒノキ　T ×108


5c. ヒノキ　R ×108


6a. サワラ　C ×108

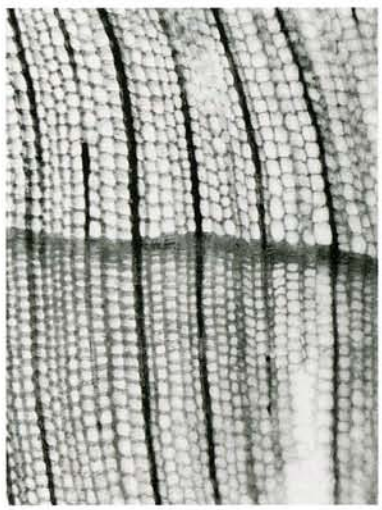

6b. サワラ　T ×108

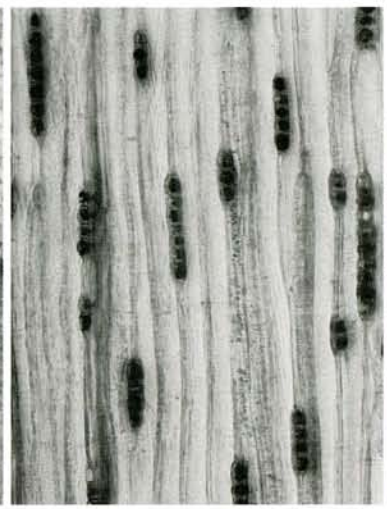

6c. サワラ　R ×270

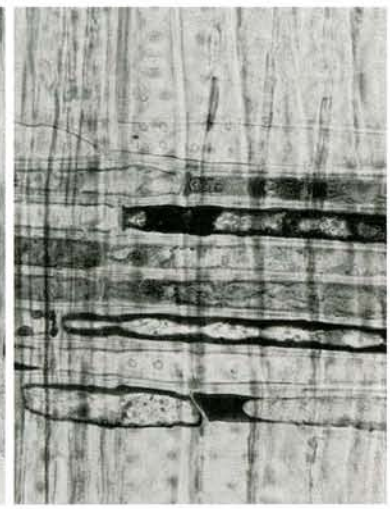
C ：横断図（木口）、T ：接線断面（板目）、R ：放射断面（柾目）

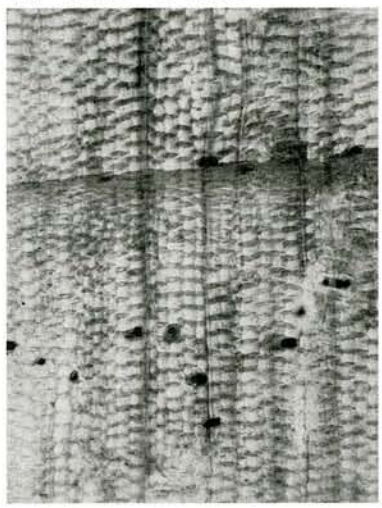
×のあとの数字は画面での拡大倍率

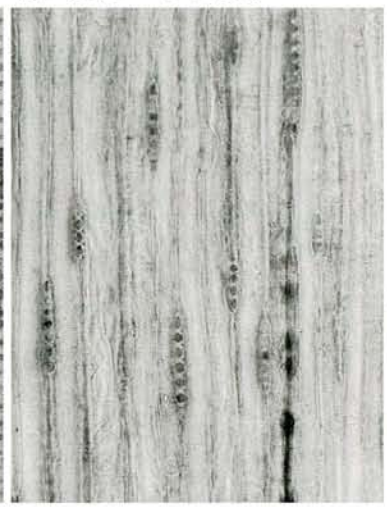
市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　2

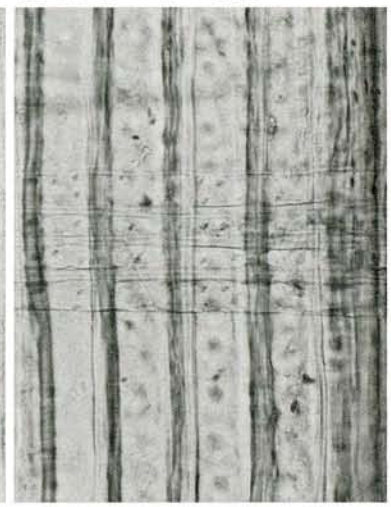

7a. ネズコ　C ×54


7b. ネズコ　T ×108


7c. ネズコ　R ×270


8a. アスナロ　C ×54


8b. アスナロ　T ×108


8c. アスナロ　R ×270

9a. イヌガヤ　C ×54

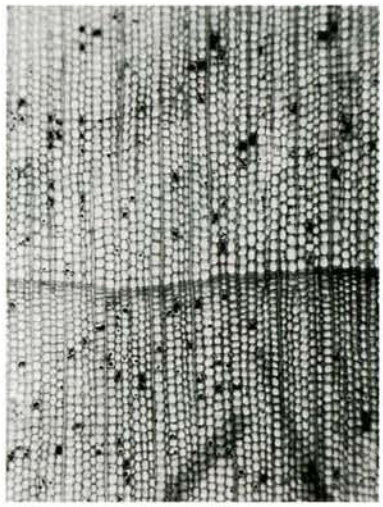
9b. イヌガヤ　T ×270

9c. イヌガヤ　R ×270

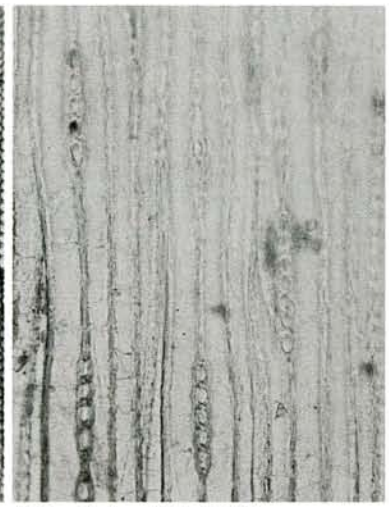
C ：横断図（木口）、T ：接線断面（板目）、R ：放射断面（柾目）

×のあとの数字は画面での拡大倍率

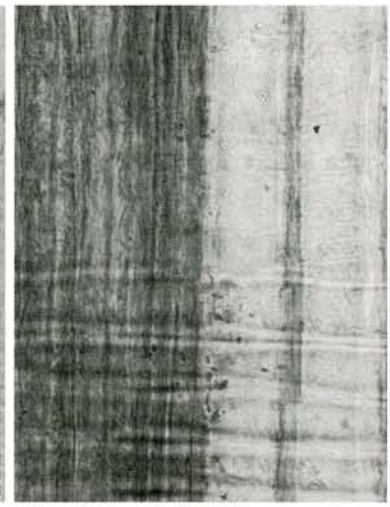
市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　3



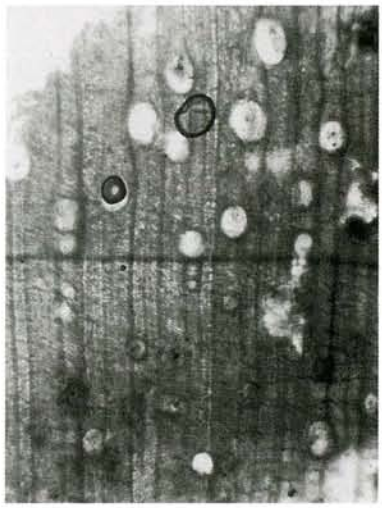
10a. カヤ　C ×27



10b. カヤ　T ×108

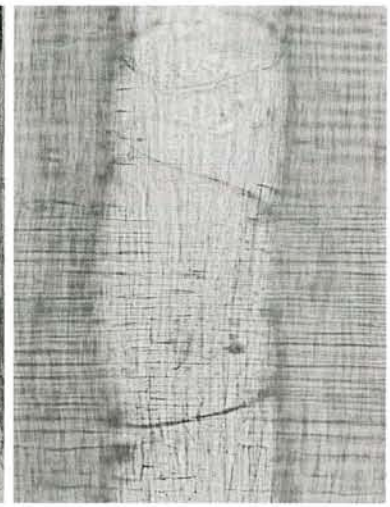


10c. カヤ　R ×270

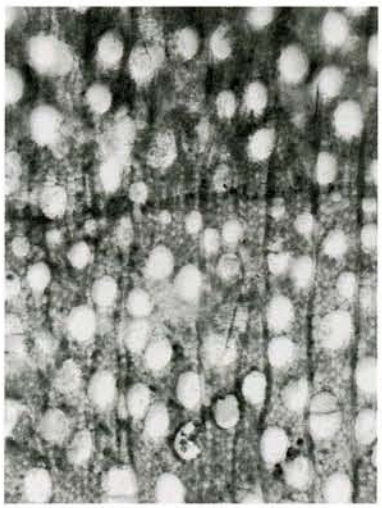


11a. オニグルミ　C ×27

11b. オニグルミ　T ×54

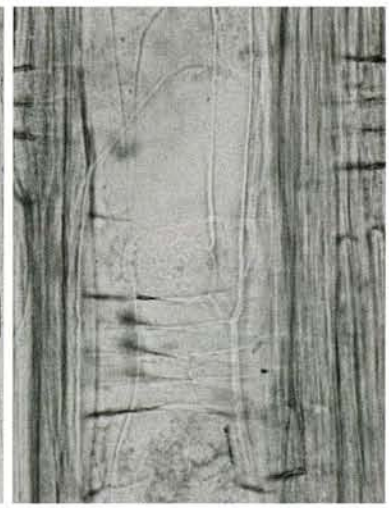


11c. オニグルミ　R ×108



12b. ヤナギ属　C ×54

12b. ヤナギ属　T ×108

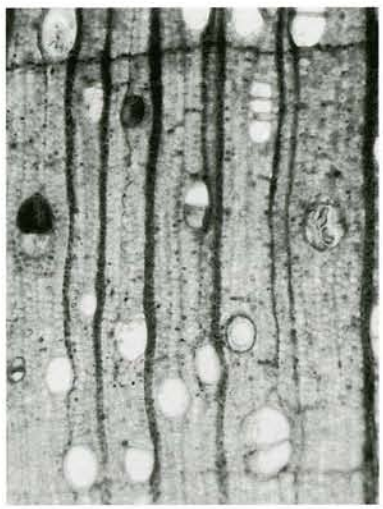


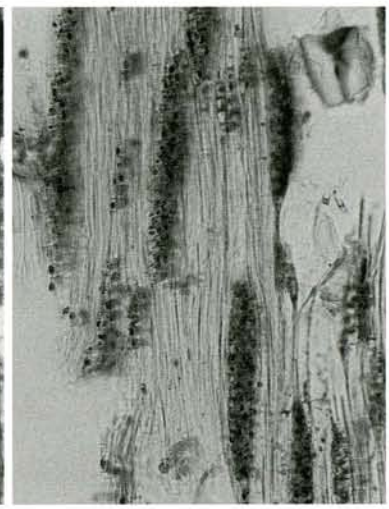
12c. ヤナギ属　R ×270

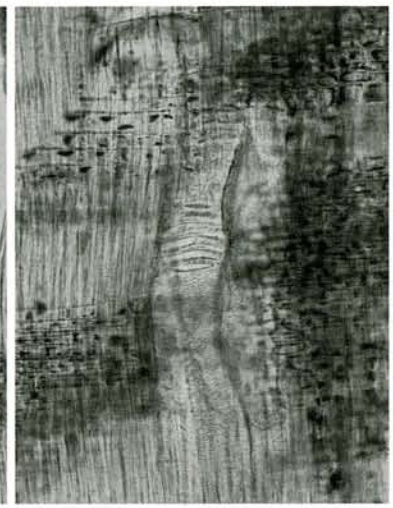
C ：横断図（木口）、T ：接線断面（板目）、R ：放射断面（柾目）

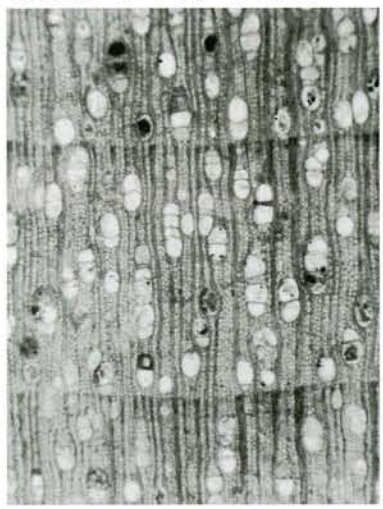
×のあとの数字は画面での拡大倍率

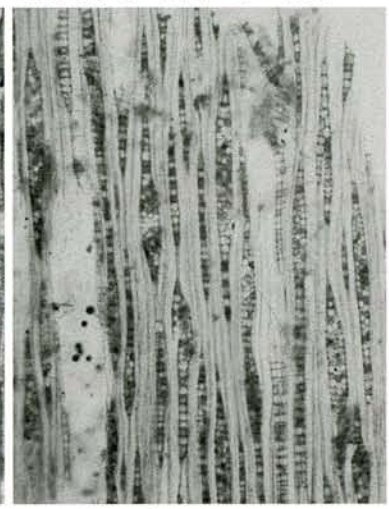
市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　4

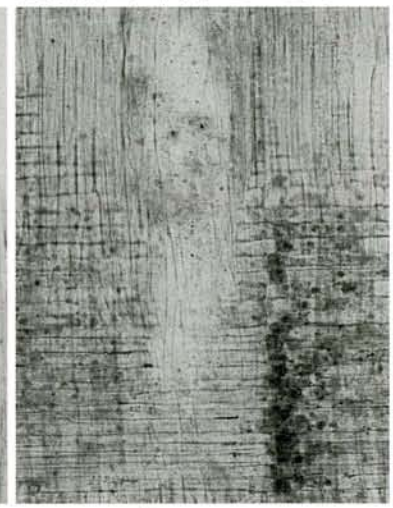

13a. カバノキ属　C ×54

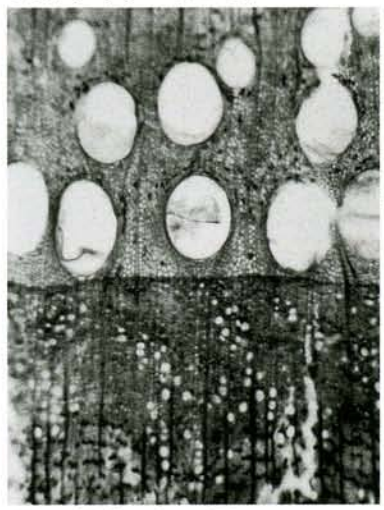

13b. カバノキ属　T ×108

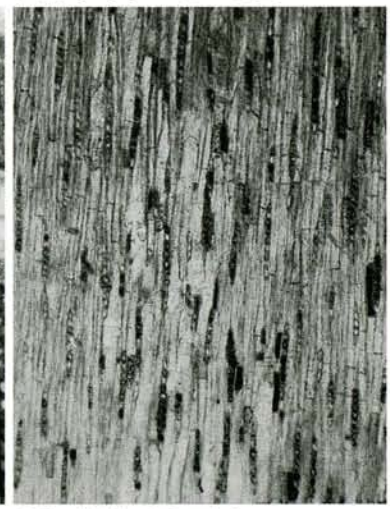

13c. カバノキ属　R ×108


14a. アサダ　C ×27


14b. アサダ　T ×108


14c. アサダ　R ×108


15a. クリ　C ×27

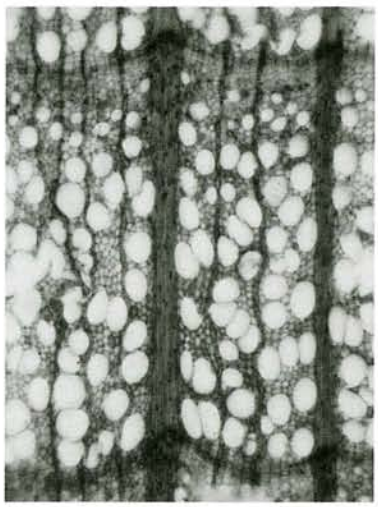

15b. クリ　T ×24

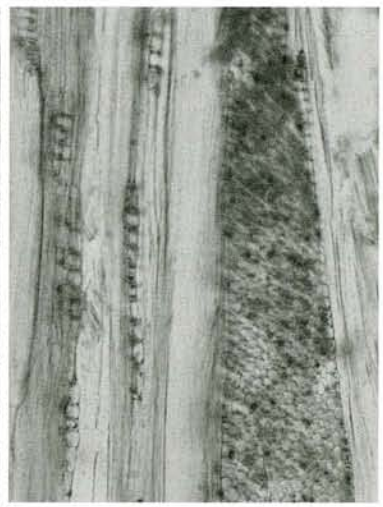
15c. クリ　R ×108

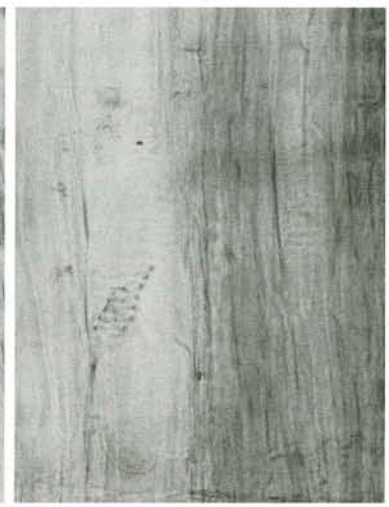
C ：横断図（木口）、T ：接線断面（板目）、R ：放射断面（柾目）

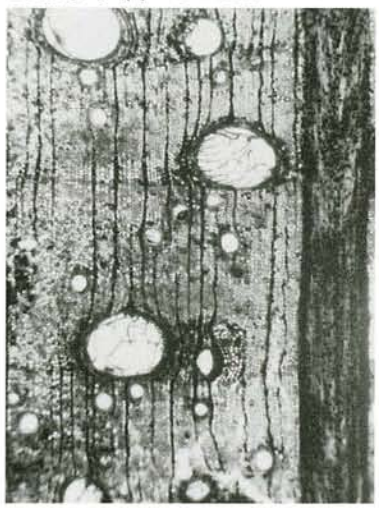
×のあとの数字は画面での拡大倍率

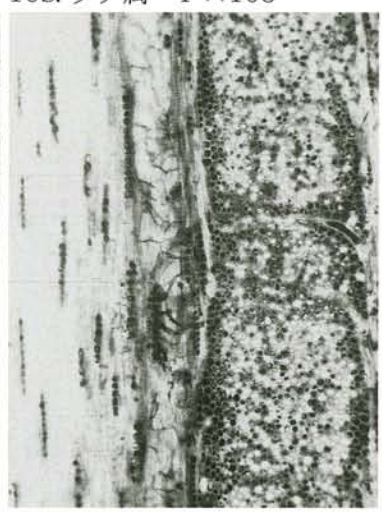
市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　5

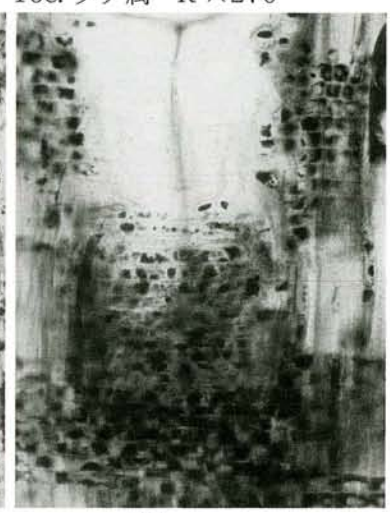

16a. ブナ属　C ×54

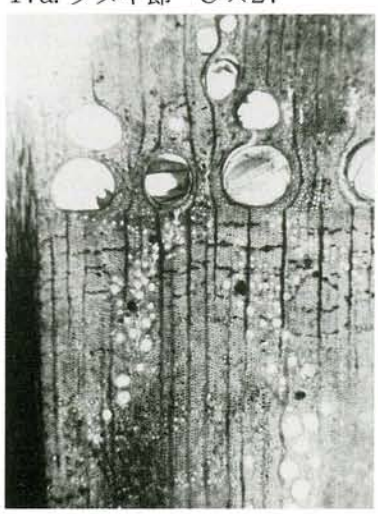

16b. ブナ属　T ×108

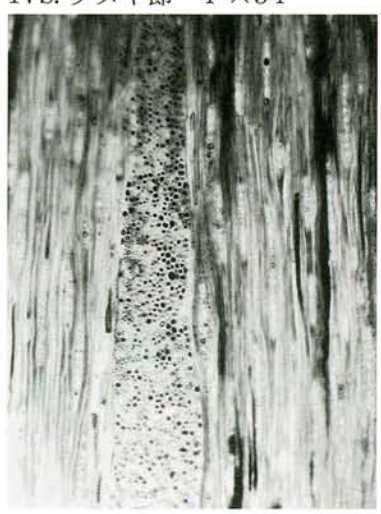

16c. ブナ属　R ×270


17a. クヌギ節　C ×27


17b. クヌギ節　T ×54


17c. クヌギ節　R ×108


18a. コナラ節　C ×27

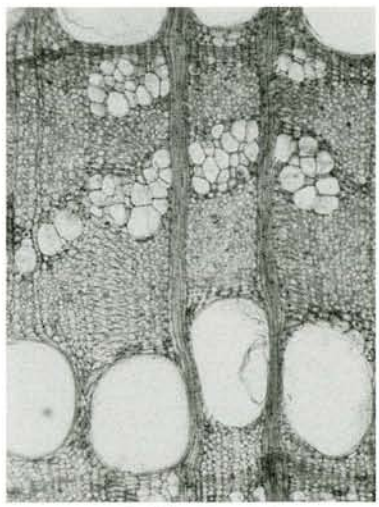

18b. コナラ節　T ×54

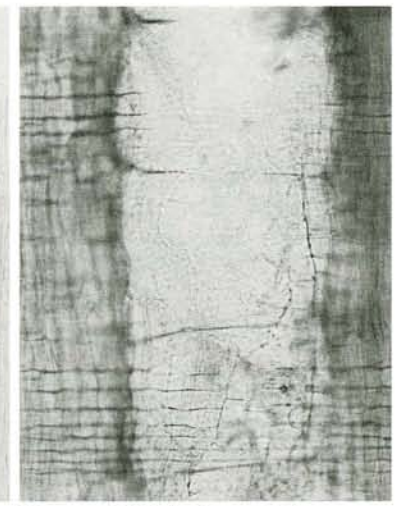
18c. コナラ節　R ×108

C：横断図（木口）、T：接線断面（板目）、R：放射断面（柾目）

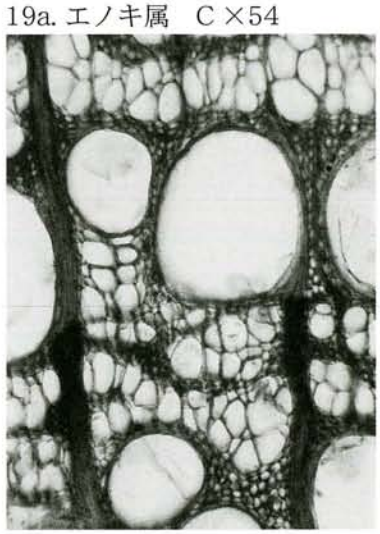
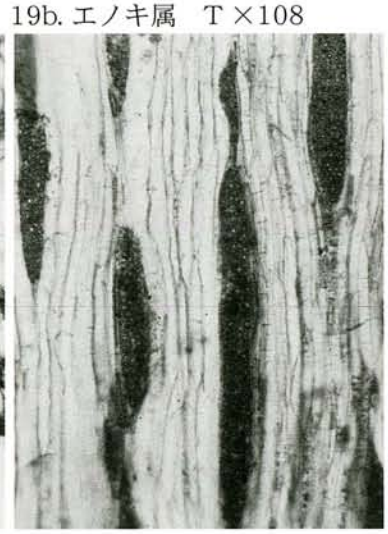
×のあとの数字は画面での拡大倍率

市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　6

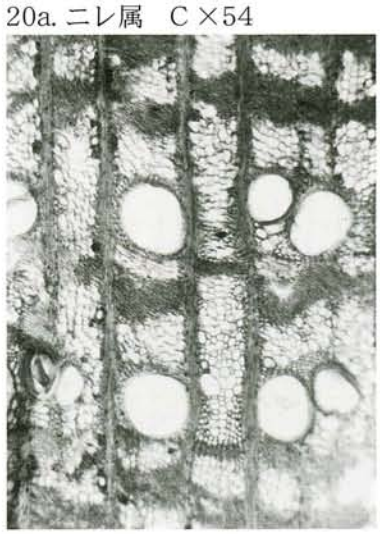


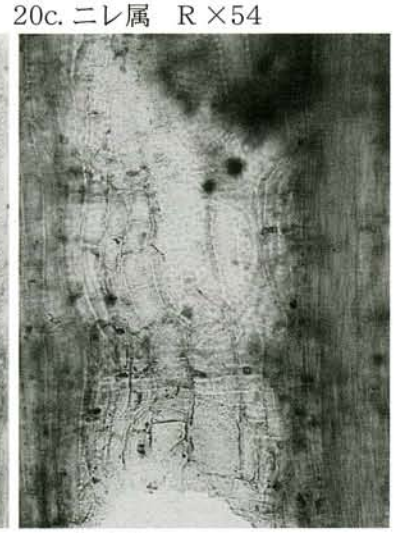


19a. エノキ属　C ×54　　19b. エノキ属　T ×108　　19c. エノキ属　R ×108

20a. ニレ属　C ×54　　20b. ニレ属　T ×54　　20c. ニレ属　R ×54



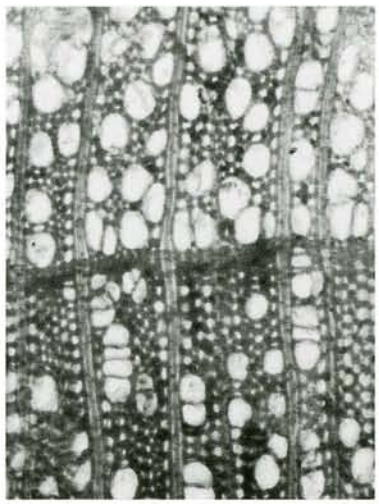


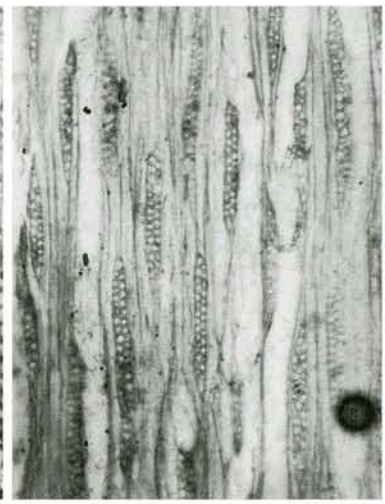
21a. ケヤキ　C ×27　　21b. ケヤキ　C ×27　　21c. ケヤキ　R ×108

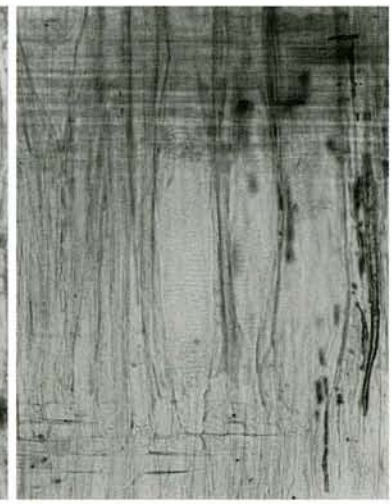
C ：横断図（木口）、T ：接線断面（板目）、R ：放射断面（柾目）

×のあとの数字は画面での拡大倍率

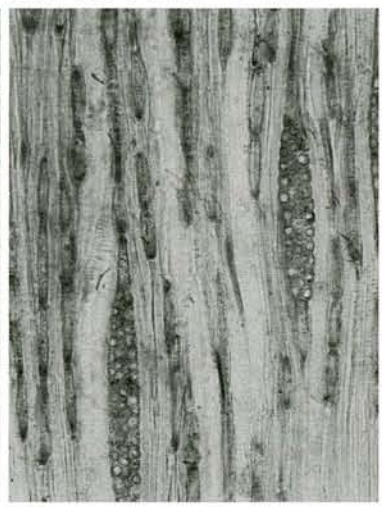
市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　7

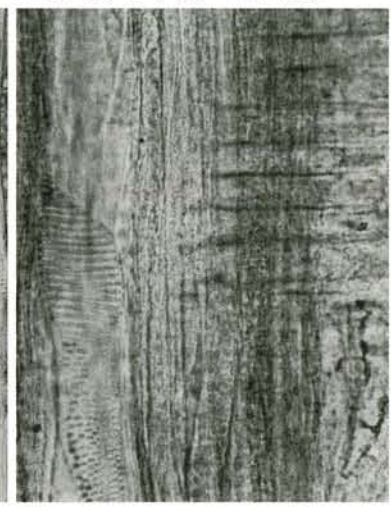

22a. モクレン属　C ×54

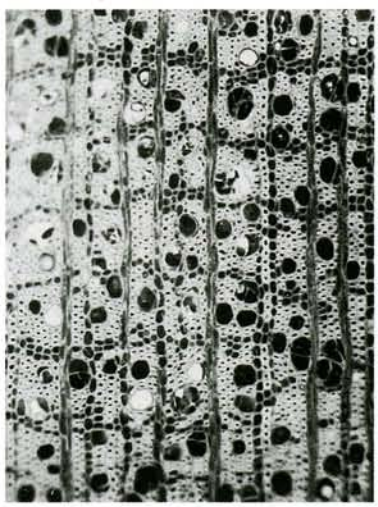

22b. モクレン属　T ×54

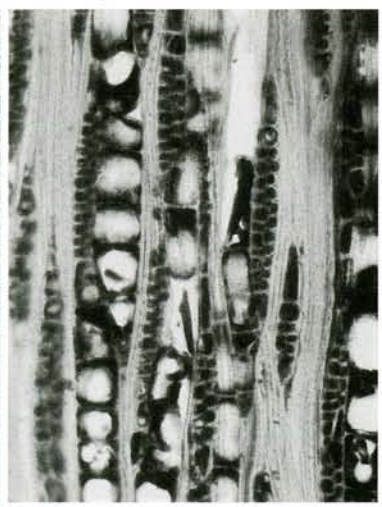

22c. モクレン属　R ×108

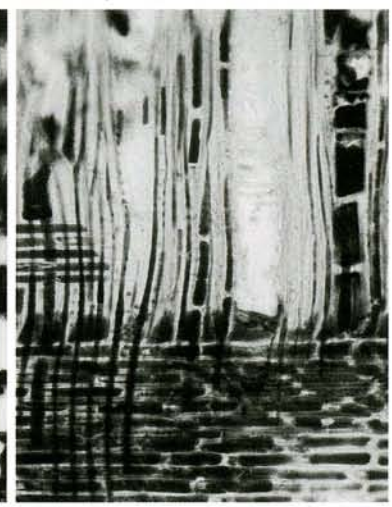
23a. モッコク　C ×54


23b. モッコク　T ×108


23c. モッコク　R ×270


24a. イスノキ　C ×54

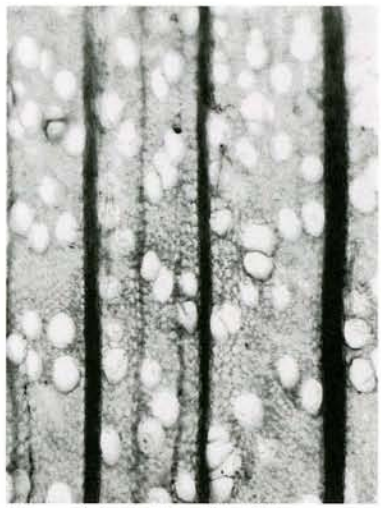

24b. イスノキ　T ×108


24c. イスノキ　R ×108

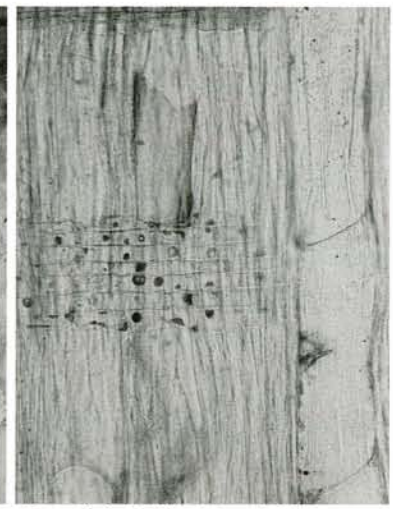
C ：横断図（木口）、T ：接線断面（板目）、R ：放射断面（柾目）

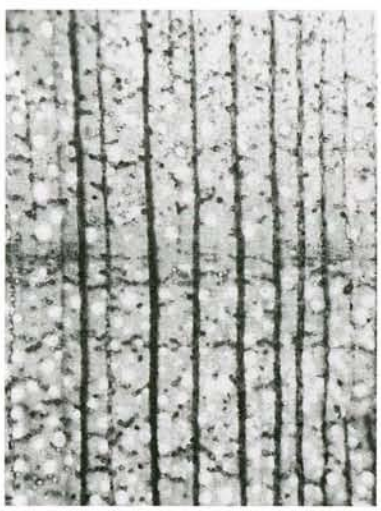
×のあとの数字は画面での拡大倍率

市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　8


25a. サクラ属　C ×54

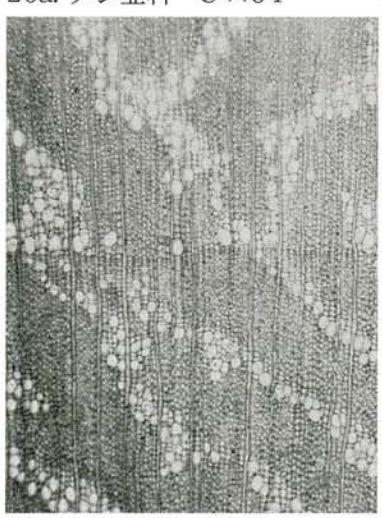
25b. サクラ属　T ×108

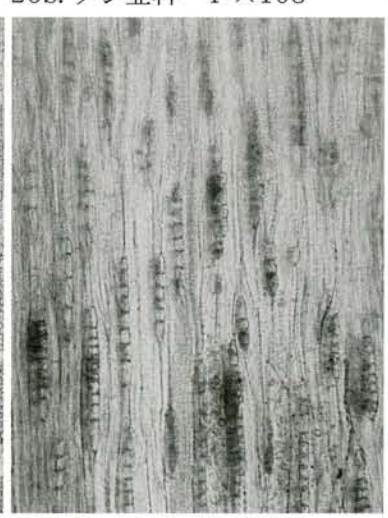

25c. サクラ属　R ×108

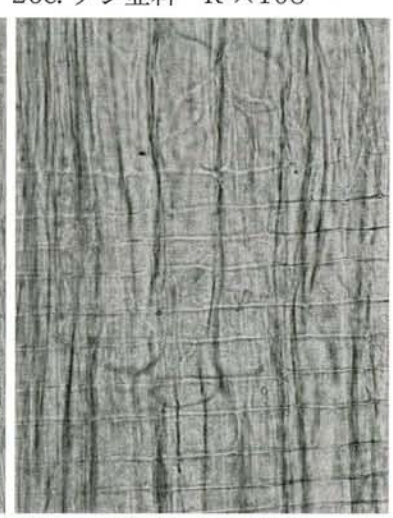

26a. ナシ亜科　C ×54

26b. ナシ亜科　T ×108

26c. ナシ亜科　R ×108


27a. コクサギ　C ×54

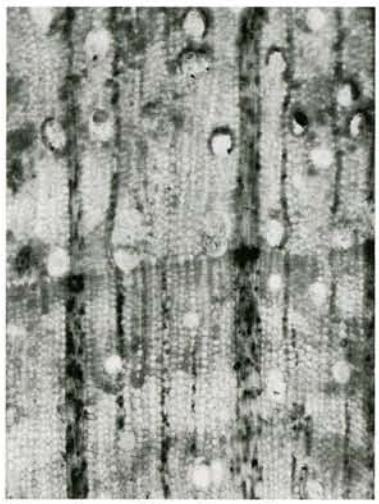

27b. コクサギ　T ×108


27c. コクサギ　R ×270

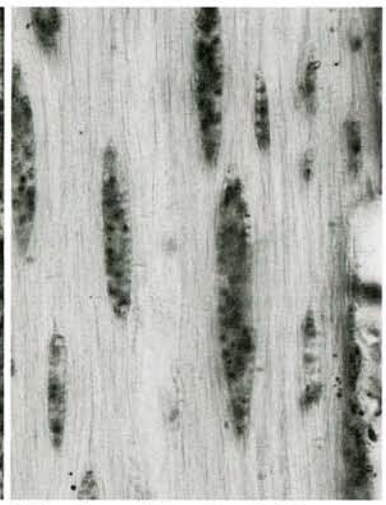
C ：横断図（木口）、T ：接線断面（板目）、R ：放射断面（柾目）

×のあとの数字は画面での拡大倍率

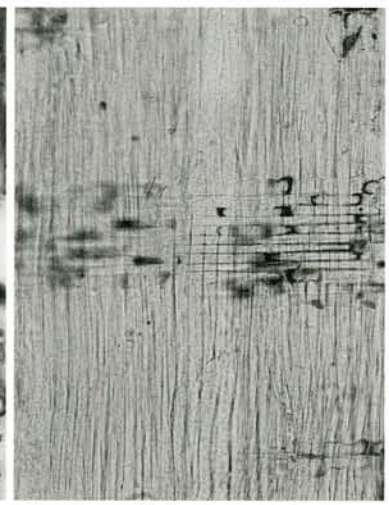
市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　9



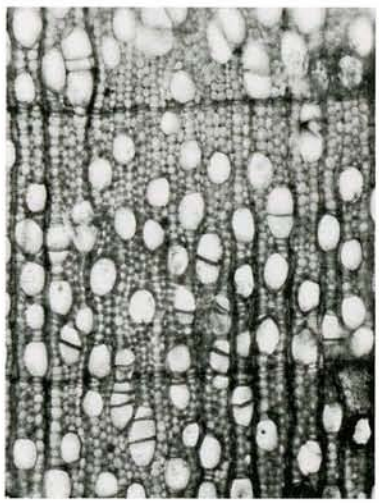
28a. カエデ属　C ×54



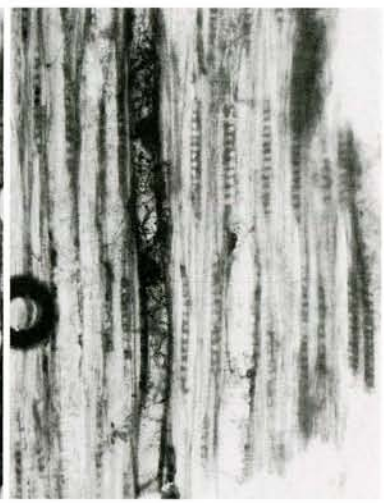
28b. カエデ属　T ×108



28c. カエデ属　R ×108

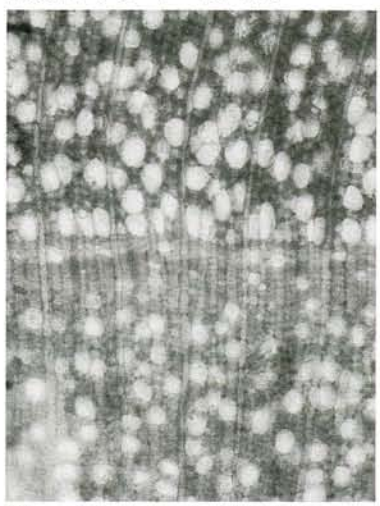


29a. トチノキ　C ×54

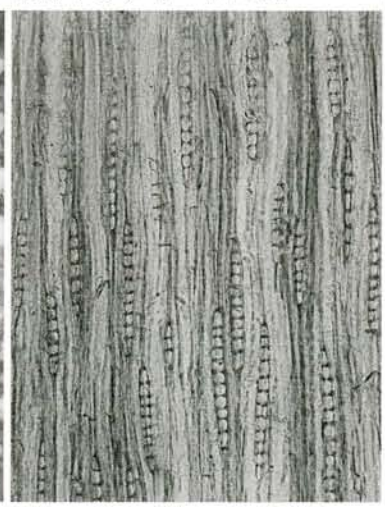


29b. トチノキ　T ×54

29c. トチノキ　R ×270



30a. ニシキギ属　C ×54

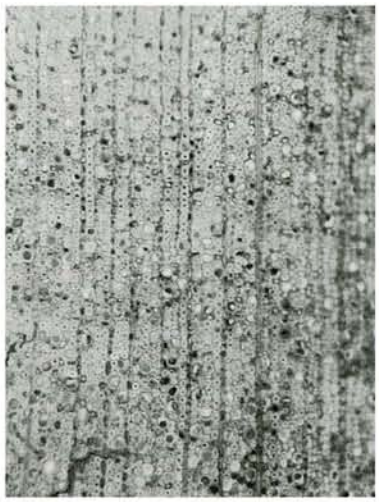


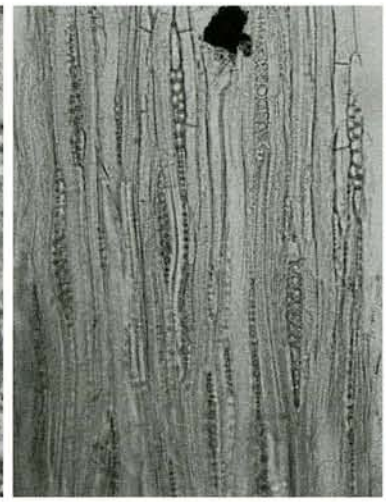
30b. ニシキギ属　T ×108

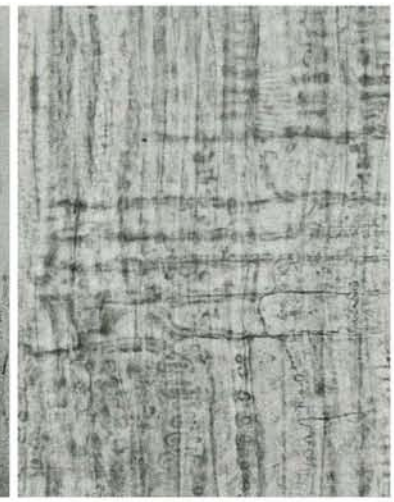
C：横断図（木口）、T：接線断面（板目）、R：放射断面（柾目）

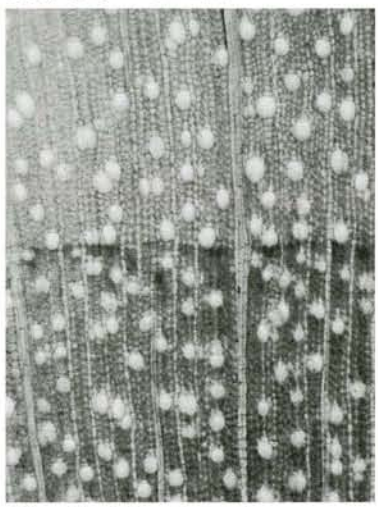
×のあとの数字は画面での拡大倍率

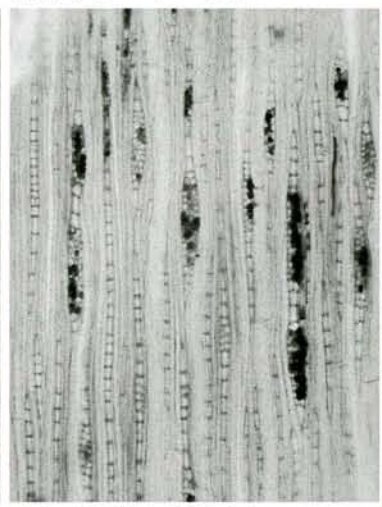
市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　10

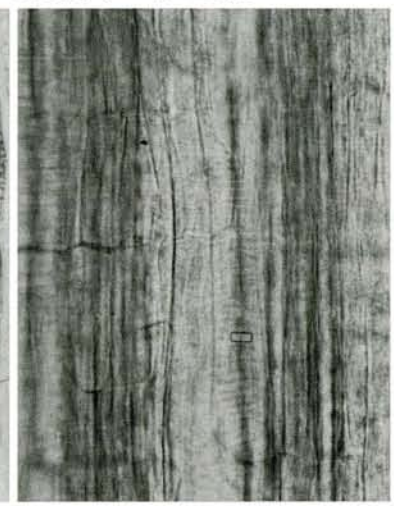

31a. ツゲ　C ×54

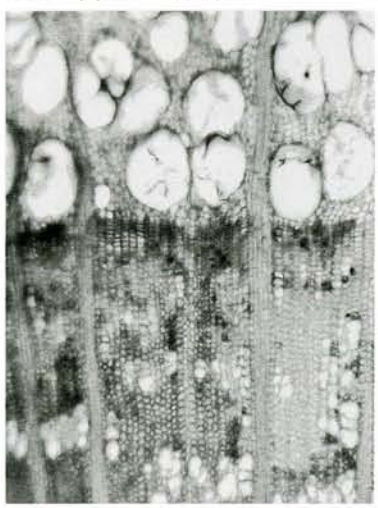

31b. ツゲ　T ×108

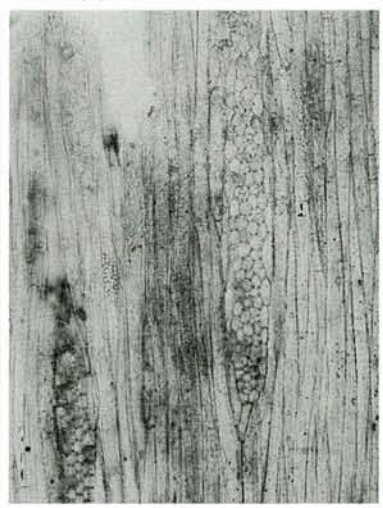

31c. ツゲ　R ×270

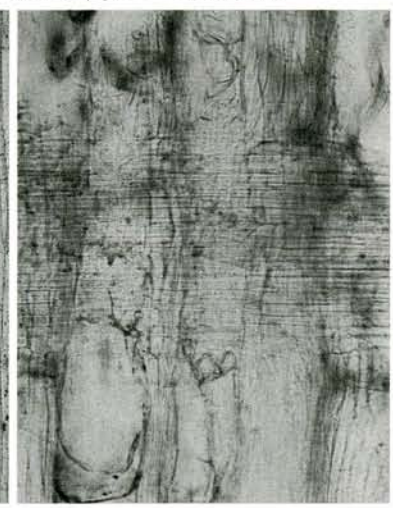

32a. キブシ　C ×54


32b. キブシ　T ×54


32c. キブシ　R ×270


33a. タラノキ　C ×54

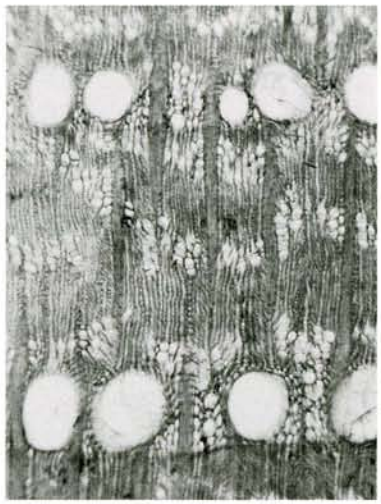

33b. タラノキ　T ×108


33c. タラノキ　R ×108

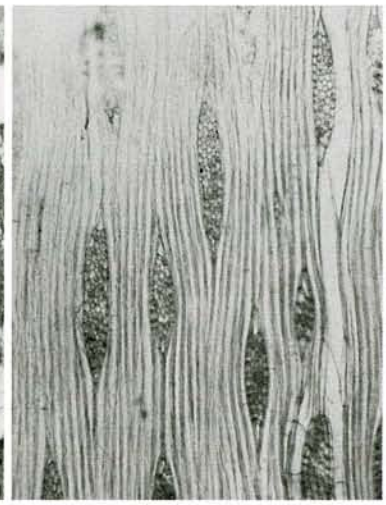
C ：横断図（木口）、T ：接線断面（板目）、R ：放射断面（柾目）

×のあとの数字は画面での拡大倍率

市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　11

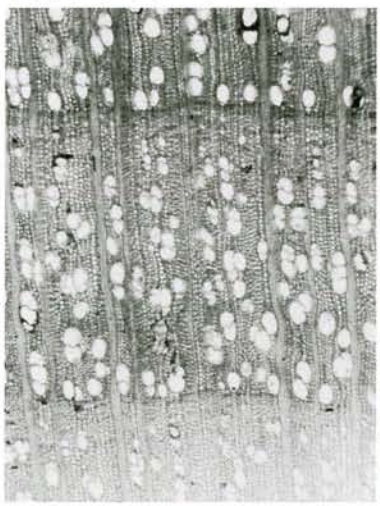


34a. ハリギリ　C ×27

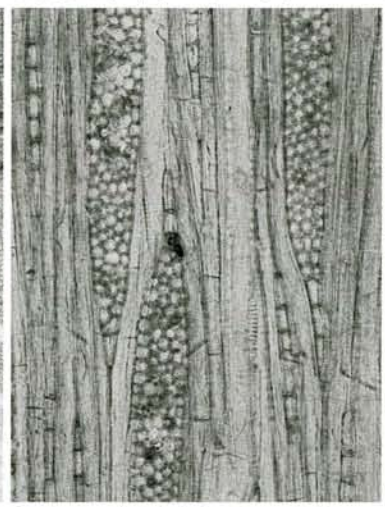


34b. ハリギリ　T ×54

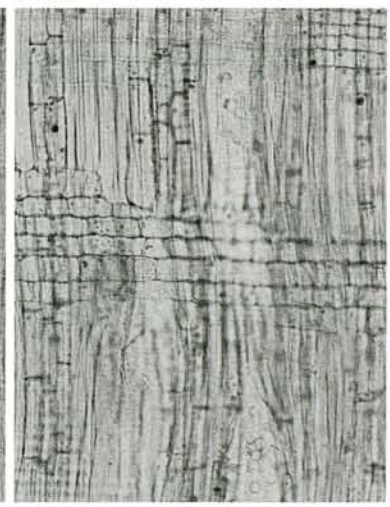
34c. ハリギリ　R ×108



35a. エゴノキ属　C ×27

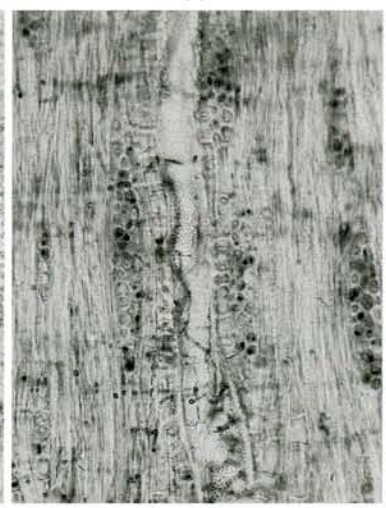


35b. エゴノキ属　T ×108

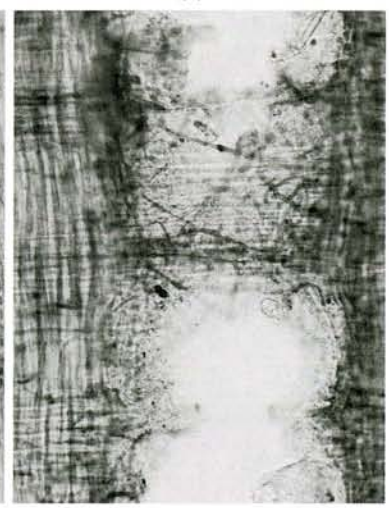


35c. エゴノキ属　R ×108

36a. トネリコ属　C ×54



36b. トネリコ属　T ×108



36c. トネリコ属　R ×108

C ：横断図（木口）、T ：接線断面（板目）、R ：放射断面（柾目）

×のあとの数字は画面での拡大倍率

市川橋遺跡出土木材顕微鏡写真　12

附章２　多賀城市市川橋遺跡における自然科学分析

Ⅰ　市川橋遺跡の花粉分析・寄生虫卵分析

１　はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。一方、人や動物などに寄生する寄生虫の卵殻は、花粉と同様の条件下で堆積物中に残存しており、人の居住域では寄生虫卵による汚染度が高くなる。寄生虫卵分析を用いてトイレ遺構の確認や人糞施肥の有無の確認が可能であり、寄生虫卵の種類から、摂取された食物の種類や、そこに生息していた動物種を推定することも可能である。

ここでは、市川橋遺跡で検出された道路側溝の堆積物において花粉分析と寄生虫卵分析を行い、溝の堆積環境および周辺植生について検討する。

２　試　　料

試料は、多賀城外の南北大路の道路側溝の埋土から採取された18点である。

試料の内訳は、SD1768e（西側溝）の灰褐色砂質土（２層，試料１と試料２)、灰褐色砂質土（１層，試料３)、SD1767e（東側溝）の灰褐色砂質土（３層，試料５と試料６)、褐色土（２層，試料７)、SD1768a（西側溝）の灰褐色砂質土（２層，試料９と試料10)、灰褐色砂質土（１層，試料11)、SD1767a（東側溝）の灰褐色砂質土（２層，試料12と試料13)、灰褐色砂質土（１層，試料14)、SD1768c（西側溝）の灰褐色砂質土（３層，試料15と試料16)、灰褐色砂質土（２層，試料17)、SD1767b（東側溝）の赤褐色土混じり暗灰褐オリーブ色土（試料18)、灰褐オリーブ色シルト（試料19)、灰褐色砂質土（試料20）である。

３　方　　法

(1) 花粉分析

花粉粒の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

1) ５％水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
2) 水洗処理の後、0.5㎜の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
3) 25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
4) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
5) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

(2) 寄生虫卵分析

微化石分析法を基本に、以下のように行った。

1) サンプルを採量
2) 脱イオン水を加えて撹拌
3) 篩別および沈澱法により大きな砂粒や木片等を除去
4) 25％フッ化水素酸を加えて30分静置（2～3度混和）
5) 遠心分離（1500rpm、2分間）による水洗の後にサンプルを2分割
6) 片方にアセトリシス処理を施す
7) 両方のサンプルを染色後、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
8) 検鏡・計数

4 結果

(1) 分類群

出現した分類群は、花粉では樹木花粉26、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉26、シダ植物胞子2形態の計57、寄生虫卵では3分類群である。これらの学名と和名および粒数を表1に示す。花粉数が200個以上計数できた試料は、花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを作成した（図1、2）。なお、200個未満であっても100個以上の試料については傾向をみるため参考に図示した。主要な分類群は顕微鏡写真を図版に示した。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、ミズキ属、エゴノキ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、バラ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、ユリ科、ネギ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、ツリフネソウ属、アリノトウグサ属－フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ科、オオバコ属、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

・回虫　*Ascaris lumbricoides*

回虫は世界に広く分布し、現在でも温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられ、卵には受精卵と不受精卵がある。遺跡の堆積物の分析では、長期に及ぶ堆積年数や薬品処理の影響により、受精卵と不受精卵の区別は不明瞭である。比較的大きな虫卵で、およそ80×60㎛あり楕円形で外側に蛋白膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。

・鞭虫　*Trichuris trichiura*

鞭虫は世界に広く分布し、現在ではとくに熱帯・亜熱帯の高温多湿な地域に多くみられる。卵の大きさは、50×30㎛でレモン形あるいは岐阜ちょうちん形で、卵殻は厚く褐色で両端に無色の栓がある。糞便とともに外界に出た虫卵は、3～6週間で感染幼虫包蔵卵になり経口感染する。

・肝吸虫　*Clonorchis sinensis*

肝吸虫はアジア地域に広く分布し、特に中国、日本、ベトナム、韓国に多い。日本では岡山県南部、琵琶湖沿岸、八郎潟、利根川流域などが流行地として知られている。虫卵は、およそ30×16㎛でなすび型で一端に陣笠状の小蓋を有する。卵殻の表面には亀甲状の紋理を認める。糞便とともに外界に出た虫卵は、水中で第1中間宿主のマメタニシに食べられ、セルカリアになり水中に遊出し、第2中間宿主のモツゴ、モロコ、コイ、フナ、タナゴに侵入してメタセルカリアとなり、魚肉とともにヒトに摂取され感染する。

(2) 花粉群集の特徴

1) SD1768e 遺構（西側溝）

花粉密度は低く、ほとんど検出されなかった。

2) SD1767e 遺構（東側溝）

3層（試料5、6）では草本花粉の占める割合が非常に高い。ヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科が高率で出現し、アカザ科－ヒユ科、チドメグサ亜科、キク亜科などが伴われる。クワ科－イラクサ科も多い。樹木花粉ではマツ属複維管束亜属、スギ、コナラ属コナラ亜属などが非常に低率で出現する。試料5において鞭虫卵が検出された。2層（試料7）は花粉密度が低いが、そうした中で草本花粉の占める割合が高い。ヨモギ属、イネ科が高率で出現し、タデ属サナエタデ節、カヤツリグサ科、セリ亜科などが伴われる。樹木花粉ではブナ属、コナラ属コナラ亜属が多く、マツ属複維管束亜属、スギなどが伴われる。

3) SD1768a 遺構（西側溝）

花粉密度は非常に低く、花粉はほとんど検出されなかった。

4) SD1767a 遺構（東側溝）

2層（試料12、13）では花粉密度が低いが、その中で草本花粉の占める割合が高い。イネ科、カ

ヤツリグサ科、ヨモギ属が高率で出現する。樹木花粉ではブナ属、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属がやや優位で、モミ属、マツ属複維管束亜属などが伴われる。1層（試料14）では花粉密度が非常に低く、ほとんど検出されなかった。

5）SD1768c 遺構（西側溝）

3層（試料15、試料16）では花粉密度は低い。このうち、試料15では、草本花粉の占める割合が高い。イネ科を主に、ヨモギ属、アカザ科－ヒユ科、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節などが伴われる。樹木花粉ではブナ属、モミ属、マツ属複維管束亜属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキなどが出現する。回虫卵と鞭虫卵が検出された。試料16では花粉はほとんどされなかった。2層（試料17）では花粉密度が非常に低く、ほとんど検出されなかった。

6）SD1767b 遺構（東側溝）

試料18、19では花粉密度が比較的高く、草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属が出現する。クワ科－イラクサ科が比較的高率で出現している。試料18において、鞭虫卵、肝吸虫卵を検出した。樹木花粉ではブナ属、コナラ属コナラ亜属が出現し、マツ属複維管束亜属、スギ、クリなどが伴われる。試料20では花粉密度は非常に低くほとんど検出されないが、回虫卵が検出された。

5　花粉分析から推定される植生と環境

1）SD1768e 遺構（西側溝）

花粉密度が非常に低いことから、土壌生成作用や乾燥と湿潤を繰り返す堆積環境により、花粉などの有機質遺体の分解が進んだことが考えられる。花粉がほとんど検出されないため植生の変遷は不明だが、わずかに出現したヨモギ属、イネ科、アカザ科－ヒユ科などは陽当たりのよい乾燥を好む草本であることから、周辺はこれらの生育する乾燥した堆積環境であったと考えられる。よって、当該溝は常時滞水していたのではなく、乾燥と湿潤を繰り返すような比較的乾燥した溝であったと推定される。

2）SD1767e 遺構（東側溝）

下位より、3層ではヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科、チドメグサ亜科、キク亜科、クワ科－イラクサ科などの草本が生育するやや乾燥した環境が推定される。溝にはセリ亜科などの水生植物が生育していたとみられる。なお、鞭虫卵が検出されており、居住域周辺からの汚染の影響が考えられる。2層ではブナ属、コナラ属コナラ亜属、マツ属複維管束亜属を主とする森林が拡大したようである。

3）SD1768a 遺構（西側溝）

花粉密度が非常に低く、土壌生成作用や乾湿を繰り返す堆積環境の下、花粉などの有機質遺体の分解が進んだことが考えられる。当該溝は常時滞水していたのではなく、乾湿を繰り返すような比較的乾燥した溝であったと推定される。

4）SD1767a 遺構（東側溝）

下部の2層では、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属の草本が生育する陽当たりの良い乾燥した

環境であり、周辺地域にはブナ属、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属等の森林が分布がしていたと推定される。1層は土壌生成作用、乾湿を繰り返すような比較的乾燥した堆積環境であったと推定される。

5) SD1768c 遺構（西側溝）

3層では、イネ科を主にヨモギ属、アカザ科－ヒユ科、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節などの草本が生育し、周囲はやや乾燥した堆積環境が示唆される。溝は湿地から浅い滞水域を呈していたと推定される。回虫卵、鞭虫卵が検出され、溝には居住域からの汚染があったと考えられる。2層の時期は有機質が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返すような比較的乾燥した堆積環境であったと推定される。

6) SD1767b 遺構（東側溝）

試料18、19ではヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科、クワ科－イラクサ科などの草本が生育しやや乾燥した環境が推定される。試料20では、有機質が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返すような比較的乾燥した堆積環境が推定される。回虫卵、鞭虫卵、肝吸虫卵が検出されており、溝は居住域周辺からの汚染の影響があったと考えられる。

6　まとめ

市川橋遺跡の溝内堆積物について花粉分析を行った結果、周囲はヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科やクワ科－イラクサ科などの草本が生育するやや乾燥した環境が推定され、溝内は総体的に有機質の分解する乾燥ないし乾燥と湿潤を繰り返すような堆積環境であったと推定された。寄生虫卵が検出され、居住域周辺からの汚染の影響が考えられた。

参考文献

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p.248－262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.

中村　純（1973）花粉分析．古今書院，p.82－110.

中村　純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

中村　純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13，p.187－193.

中村　純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p.21－30.

Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. Jounal of Archaeological Science, 19, p.231－245.

金原正明（1999）寄生虫．考古学と動物学，考古学と自然科学，2，同成社，p.151－158.

金原正明・金原正子（1992）花粉分析および寄生虫．藤原京跡の便所遺構－藤原京7条1坊－，奈良国立文化財研究所，p.14－15.

金子清俊・谷口博一（1987）線形動物・扁形動物．医動物学，新版臨床検査講座，8，医歯薬出版，p.9－55.

Ⅱ　市川橋遺跡の珪藻分析

1　はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映していることから、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

ここでは、869年の陸奥国大地震の際の津波でできた窪みの堆積物について、珪藻分析から検討を行う。

2　試料

試料は、SX1779の1層より採取された堆積物1点である。

3　方法

以下の手順で珪藻を抽出し、プレパラートを作成した。

1）試料から乾燥重量1ｇを秤量

2）10％過酸化水素水を加え、加温しながら1晩放置

3）上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗

4）残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥

5）マウントメディアによって封入し、プレパラート作成

6）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600～1000倍で行った。計数は珪藻被殻が100個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

4　結果

出現した珪藻は、中塩性種（汽水生種）2分類群、貧塩性種（淡水生種）37分類群である。計数された珪藻の学名と個数を表2に示す。また珪藻総数を基数とする百分率を算定したダイアグラムを図3に示す。

以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記し、珪藻の検出状況を示す。

〔中塩性種〕

Achnanthes brevipes

〔貧塩性種〕

Amphora copulata、*Aulacoseira sp.*、*Gomphonema parvulum*、*Hantzschia amphioxys*、*Navicula capitata*、*Navicula contenta*、*Navicula cryptocephala*、*Navicula cryptotenella*、*Navicula elginensis*、*Navicula mutica*、*Navicula pupula*、*Navicula veneta*、*Navicula viridula v. rostellata*、*Neidium affine*、*Neidium ampliatum*、*Pinnularia appendiculata*、*Pinnularia*

microstauron、*Pinnularia subcapitata*、*Surirella ovata*

貧塩性種（淡水生種）で *Hantzschia amphioxys* の陸生珪藻、流水不定性種の *Navicula cryptotenella*、*Navicula pupula* が比較的高率で出現し、*Navicula mutica* などの陸生珪藻が伴われる。

5　珪藻分析から推定される堆積環境

陸生珪藻が多く、流水不定性種、止水性種、流水性種が伴われることから、湿った環境が中心であるが、止水域、流水域となる時期もあったとみなされる。なお、海水性種は認められないことから、海水の影響については論じられない。

表２　市川橋遺跡における珪藻分析結果

分類群	SX1779 試料21 X－6 1層
貧塩性種（淡水生種）	
Achnanthes lanceolata	1
Amphora copulata	3
Amphora mantana	1
Amphora sp.	2
Fragilaria capucina	1
Frustulia vulgaris	1
Gomphonema angustatum	1
Gomphonema parvulum	2
Hantzschia amphioxys	14
Navicula americana	1
Navicula capitata	2
Navicula confervacea	1
Navicula contenta	5
Navicula cryptocephala	4
Navicula cryptotenella	9
Navicula cuspidata	1
Navicula elginensis	3
Navicula mutica	7
Navicula pupula	8
Navicula trivialis	1
Navicula veneta	3
Navicula viridula v. rostellata	2
Neidium affine	5
Neidium ampliatum	3
Nitzschia brevissima	1
Pinnularia appendiculata	5
Pinnularia borealis	1
Pinnularia gibba	1
Pinnularia interrupta	1
Pinnularia microstauron	4
Pinnularia nodosa	1
Pinnularia subcapitata	4
Rhoicosphenia abbreviata	1
Rhopaldia gibberula	1
Stauroneis phoenicenteron	1
Surirella angusta	1
Surirella ovata	2
中塩性種（汽水生種）	
Achnanthes brevipes	1
Nitzschia levidensis v.victoriae	1
合　計	107
未同定	31
破　片	92
試料 1 cm³ 中の殻数密度	1.4×10^5
完形殻保存率（%）	60.0

参考文献

Hustedt, F. (1937－1938) Systematische und ologishe Untersuchungen uber die Diatomeen-Flora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch.Hydrobiol, Suppl. 15, p.131－506.

Patrick, R.eimer, C. W. (1966) The diatom of the United States, vol. 1. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No. 13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 644p.

Lowe, R. L. (1974) Environmental Requirements and pollusion tolerance of fresh-water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.

Patrick, R.eimer, C. W. (1975) The diatom of the United States, vol.2. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 213p.

Asai, K. &, Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous

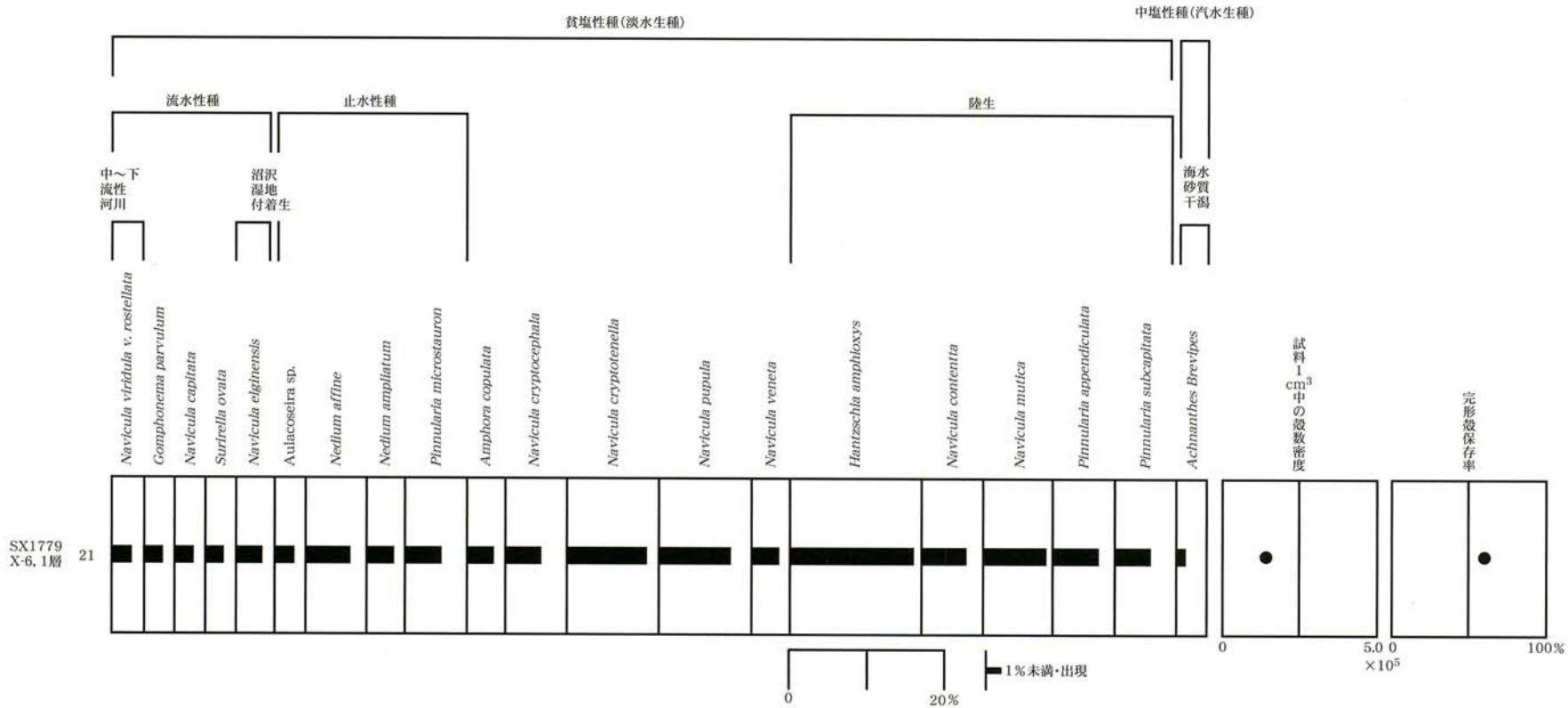


図３　多賀城市、市川橋遺跡における主要珪藻ダイアグラム

taxa.Diatom, 10, p.35－47.

小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－．植生史研究，第１号，植生史研究会，p.29－44.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，p.1-20.

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用．東北地理，42，p.73－88.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌，6，p.23－45.

Ⅲ　市川橋遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）分析

1　はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

ここでは、市川橋遺跡で検出された道路側溝の堆積物について植物珪酸体分析を行い、当時の農耕および周辺環境について検討する。

2　試料

分析試料は、多賀城外の南北大路の道路測溝（西側 SD1768e、東側 SD1767e）の埋土から採取された試料４と試料８の計２点である。

3　分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

1）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
2）試料約１ｇに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g 添加（電子分析天秤により0.1mg の精度で秤量）
3）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
4）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
5）沈底法による20μm以下の微粒子除去
6）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
7）検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}g）をかけて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である（杉山，2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4　分析結果

(1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表１および図１に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ヨシ属、シバ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族Ａ（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

(2) 植物珪酸体の検出状況

南北大路の西側測溝 SD1768e の埋土（試料４）および東側測溝 SD1767e の埋土（試料８）について分析を行った。その結果、イネが多く検出され、ヨシ属、シバ属、ススキ属型、ウシクサ族Ａ、ネザサ節型、クマザサ属型、ミヤコザサ節型なども検出された。イネの密度は、試料４では5,700個/g と高い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/g を超えている。また、試料８でも4,700個/g と比較的高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、各試料ともイネが優勢となっていることが分かる。

5　植物珪酸体分析から推定される植生と環境

多賀城外の南北大路における測溝埋土の堆積当時は、周辺で稲作が行われていたと考えられ、そこから何らかの形で測溝内にイネの植物珪酸体が混入したと推定される。当時の測溝内もしくはその周辺は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、シバ属、ススキ属、ネザサ節などが生育する日当たりの良い比較的乾燥したところも見られたと推定される。

参考文献

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189－213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，９，p.15－29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73－85.

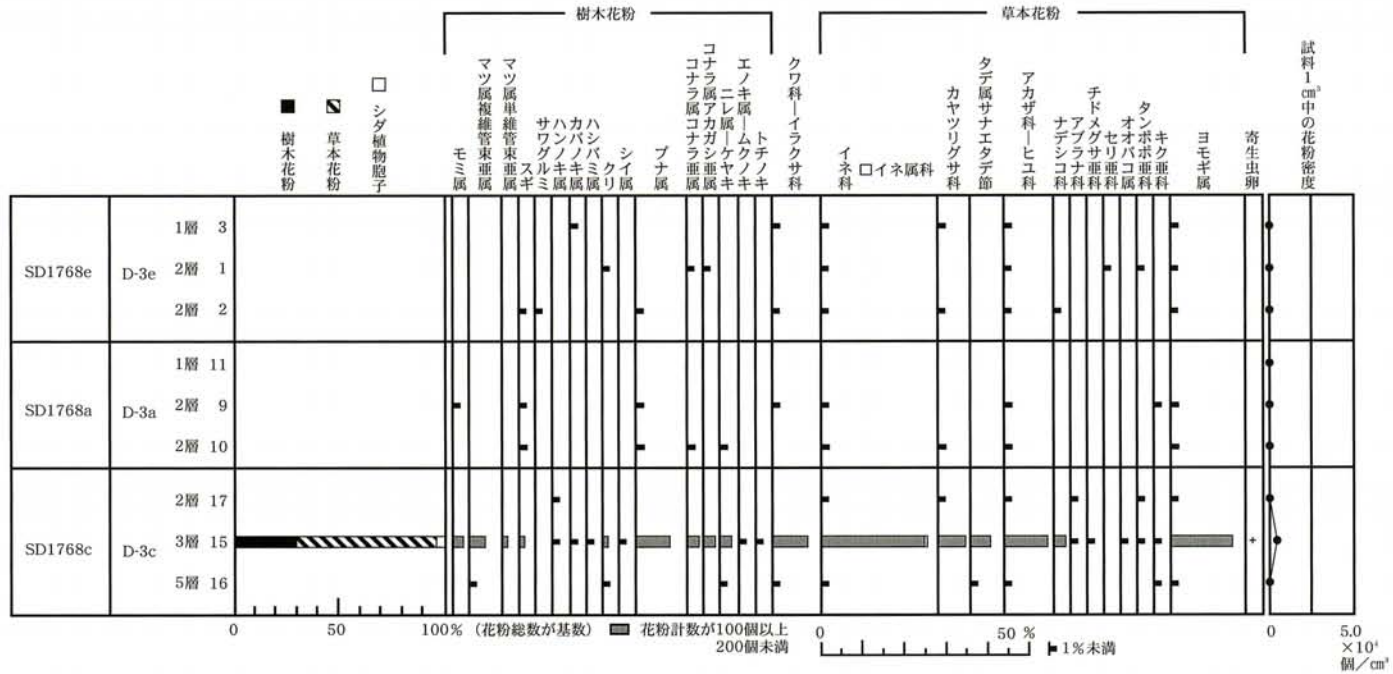


図１　多賀城市、市川橋遺跡、西側溝における花粉ダイアグラム

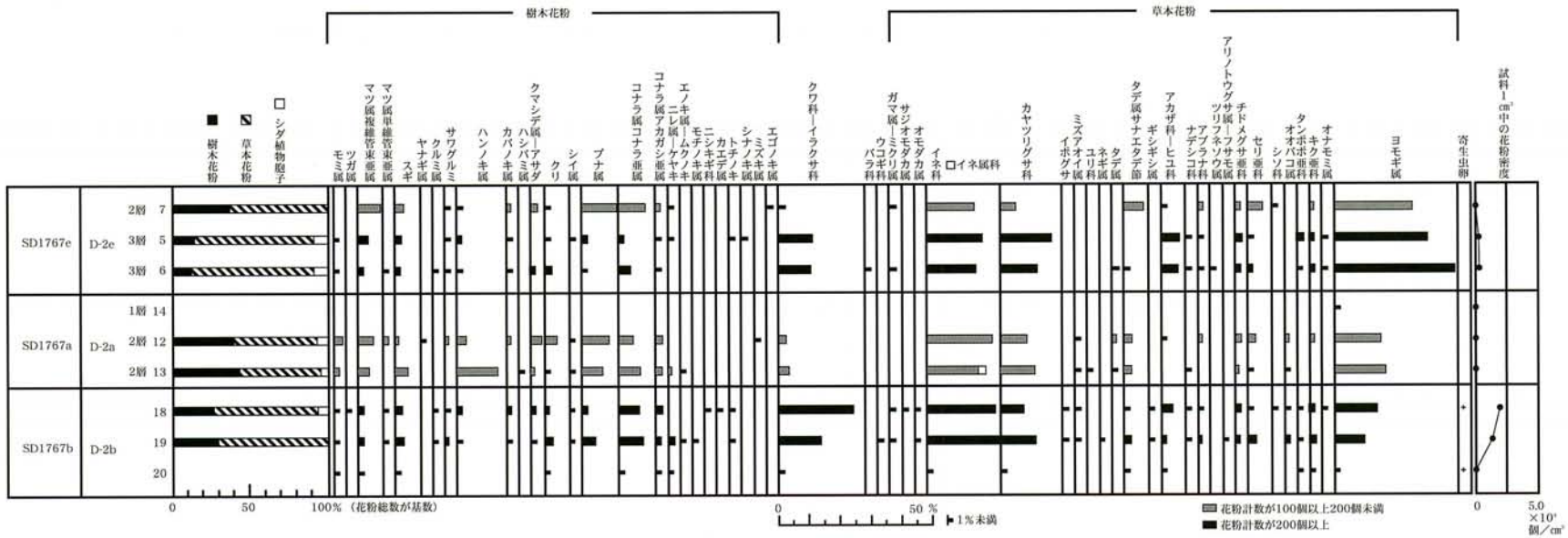


図２　多賀城市、市川橋遺跡、東側溝における花粉ダイアグラム

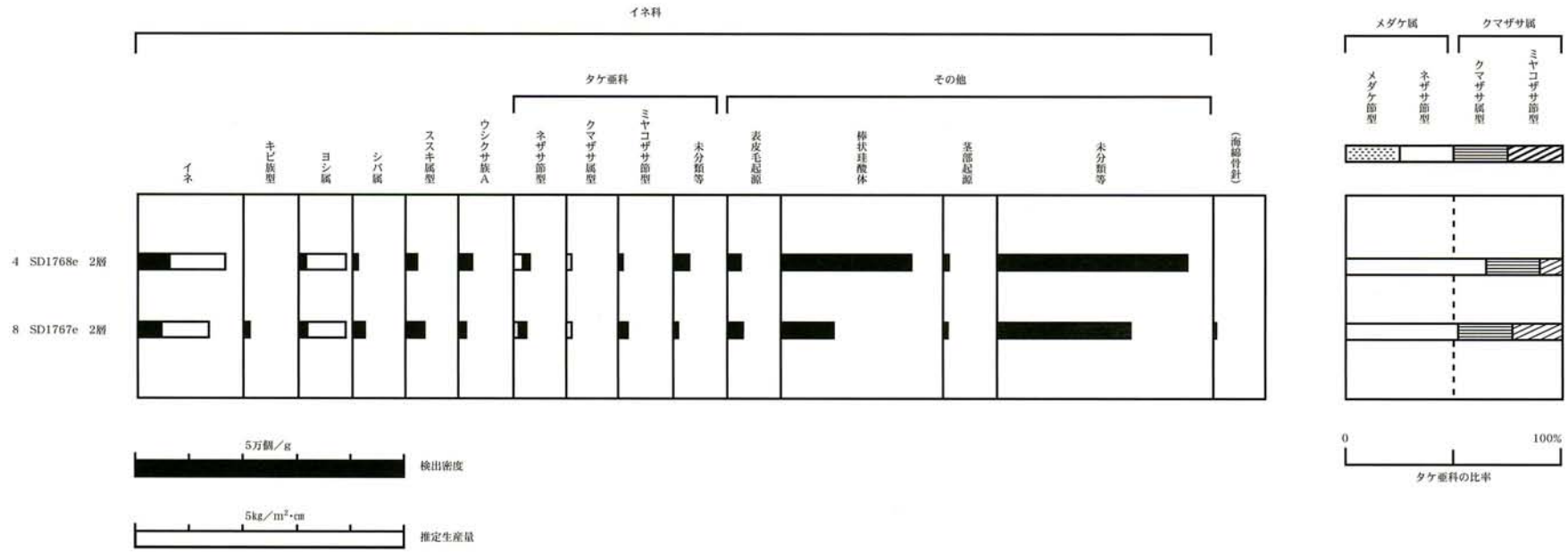
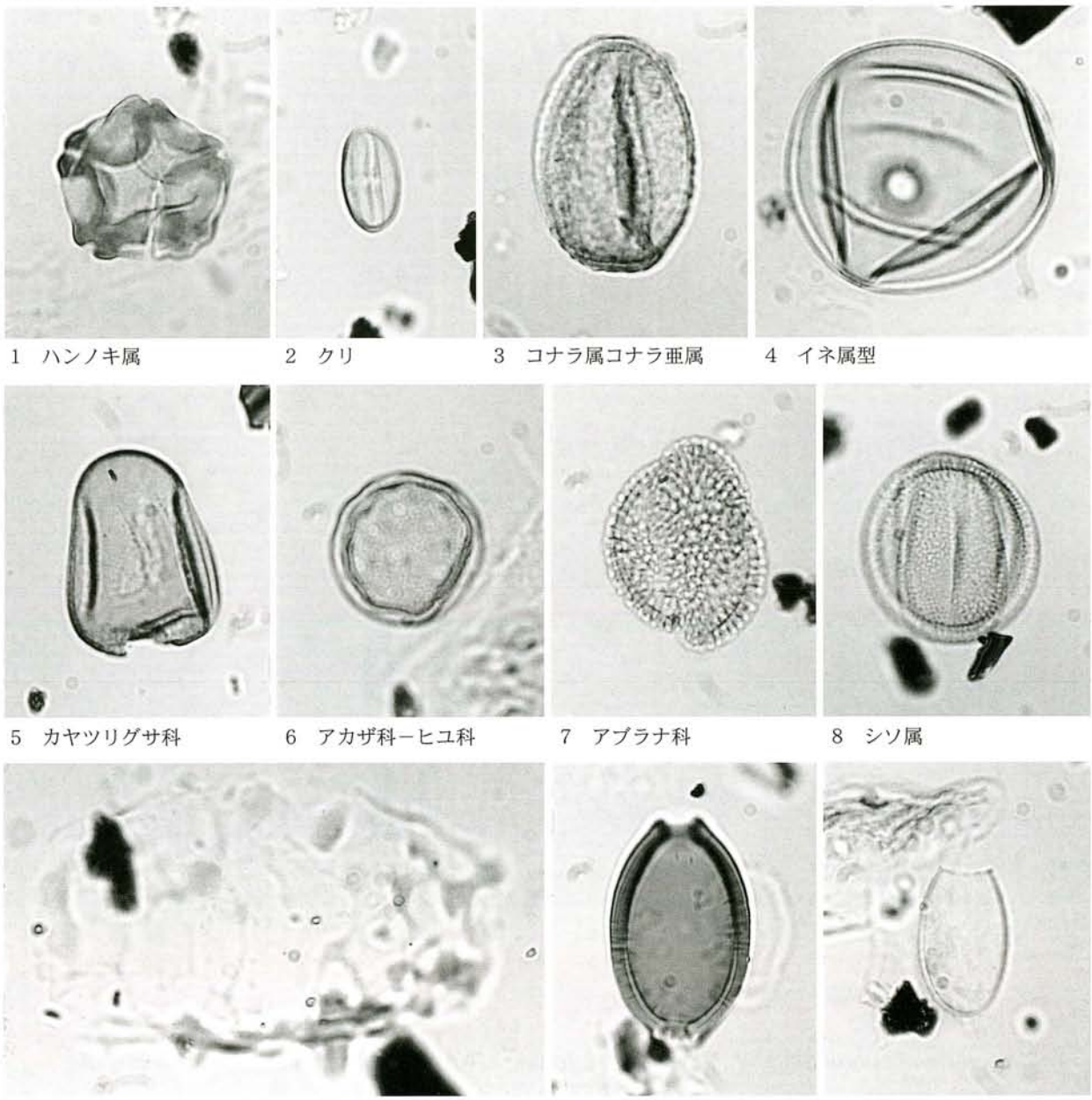


図４　多賀城市、市川橋遺跡における植物珪酸体分析結果

表１　多賀城市、市川橋遺跡における花粉分析結果

分類群		SD1768e			SD1767e			SD1768a			SD1767a			SD1768c			SD1767b		
		D-3e			D-2e			D-3a			D-2a			D-3c			D-2b		
		2層		1層	3層		2層	2層		1層	2層		1層	3層		2層			
学名	和名	1	2	3	5	6	7	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Arboreal pollen	樹木花粉																		
Abies	モミ属				2	2		2			5	3		5			1	1	1
Tsuga	ツガ属																1		
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複雑管束亜属				8	6	11				8	6		7	1		9	6	2
Pinus subgen. Haploxylon	マツ属単維管束亜属					2					3			2			1	1	
Cryptomeria japonica	スギ		1		5	5	4	1	1		2	7		2			11	10	2
Salix	ヤナギ属										1								
Juglans	クルミ属					1											2		
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ		1		2	3	1				2						4	4	
Alnus	ハンノキ属				3	2	1				5	23		1		1	7	3	
Betula	カバノキ属			1	1	1	2				2			1			7	1	
Corylus	ハシバミ属											1		1					
Capinus-Ostrya japonica	クマシデ属－アサダ					4	3				6	2					7	3	
Castanea crenata	クリ	1			1	8	1				7	1		2	1		6	10	2
Castanopsis	シイ属				2						1	1		1			2	1	
Fagus	ブナ属		1		4	1	17	1	3		15	12		14			10	17	
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	1			4	13	13		1		8	12		6			36	31	1
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	1			1	1	2				4	4		5			11	6	2
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属－ケヤキ				1		1		1			2		4	2			8	1
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属－ムクノキ											1		1				3	
Ilex	モチノキ属																	1	
Celastraceae	ニシキギ科																1		
Acer	カエデ属																1		
Aeculus turbinata	トチノキ				1									1			3	2	
Tilia	シナノキ属				1														
Cornus	ミズキ属										1								
Styrax	エゴノキ属						1												
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉																		
Moraceae-Urticaceae	クワ科－イラクサ科		2	1	29	39	1	2			4	6		15	2		133	54	3
Rosaceae	バラ科					1													
Araliaceae	ウコギ科																	1	
Nonarboreal pollen	草本花粉																		
Typha-Sparganium	ガマ属－ミクリ属					1	1										1	3	
Alisma	サジオモダカ属																1		
Sagittaria	オモダカ属																1	3	
Gramineae	イネ科	1	4	4	48	61	23	15	7		35	29		44	5	4	120	91	5
Oryza type	イネ属型										1	4		1			3	3	
Cyperaceae	カヤツリグサ科		3	2	44	46	7		2		14	19		11		2	40	45	3
Aneilema keisak	イボクサ																1	1	
Monochoria	ミズアオイ属										1	1					1	2	
Liliaceae	ユリ科											1							
Allium	ネギ属																	1	
Polygonum	タデ属					1					2	1							
Polygonum sect. Persicaria	タデ属サナエタデ節					1	9				4	4		7	1		2	8	1
Rumex	ギシギシ属																5	2	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	5	5	1	15	20	1	1	4		1			17	3	3	19	6	2
Caryophyllaceae	ナデシコ科		1		2	1						1		3			3	1	
Cruciferae	アブラナ科				1	1	2				2			1		1	2	4	
Impatiens	ツリフネソウ属					1													
Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属－フサモ属																	1	
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科				5	6	2				3	2		1			9	5	
Apioideae	セリ亜科	1			2	5	7				4	1					2	10	
Labiatae	シソ科						1										4		
Plantago	オオバコ属										2	1		1			4	6	
Lactucoideae	タンポポ亜科	1			5	2								1		1	2	3	1
Asteroideae	キク亜科				3	6	2	2			2			1	2		8	8	1
Xanthium	オナモミ属				2	1											1		
Artemisia	ヨモギ属	3	2	1	81	152	38	15	13		26	29	1	24	8	3	76	39	12
Fern spore	シダ植物胞子																		
Monolate type spore	単条溝胞子	4	8	3	13	16	5	1	2		3	5	1	7	3	2	14	5	3
Trilate type spore	三条溝胞子		1		6	10					6					1	5		
Arboreal pollen	樹木花粉	3	3	1	36	49	57	4	6	0	70	75	0	53	4	1	120	108	11
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	2	1	29	40	1	2	0	0	4	6	0	15	2	0	133	55	3
Nonarboreal pollen	草本花粉	11	15	8	208	305	93	33	26	0	97	93	1	112	19	14	305	242	25
Total pollen	花粉総数	14	20	10	273	394	151	39	32	0	171	174	1	180	25	15	558	405	39
	試料1㎤中の花粉密度	1.1	1.4	8.0	2.2	3.2	1.1	2.8	2.4	0.0	1.2	1.3	0.7	1.3	1.9	1.1	2.0	1.4	3.3
		$\times10^2$	$\times10^2$	$\times10$	$\times10^3$	$\times10^3$	$\times10^3$	$\times10^2$	$\times10^2$		$\times10^3$	$\times10^3$	$\times10$	$\times10^3$	$\times10^2$	$\times10^2$	$\times10^4$	$\times10^4$	$\times10^2$
Unknown pollen	未同定花粉	0	0	0	7	8	7	1	2	0	6	7	0	11	2	1	6	10	2
Fern spore	シダ植物胞子	4	9	3	19	26	5	1	2	0	9	5	1	7	3	3	19	5	3
Helminth eggs	寄生虫卵																		
Ascaris (lumbricoides)	回虫卵													1					1
Trichuris (trichiura)	鞭虫卵				1									1			1		
Clonorchis sinensis	肝吸虫卵																1		
Total	計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	1
	試料1㎤中の寄生虫卵密度	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	1.4	0.0	0.8
					$\times10$									$\times10$			$\times10$		$\times10$
	明らかな消化残渣	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)	(−)

市川橋遺跡の花粉・寄生虫卵



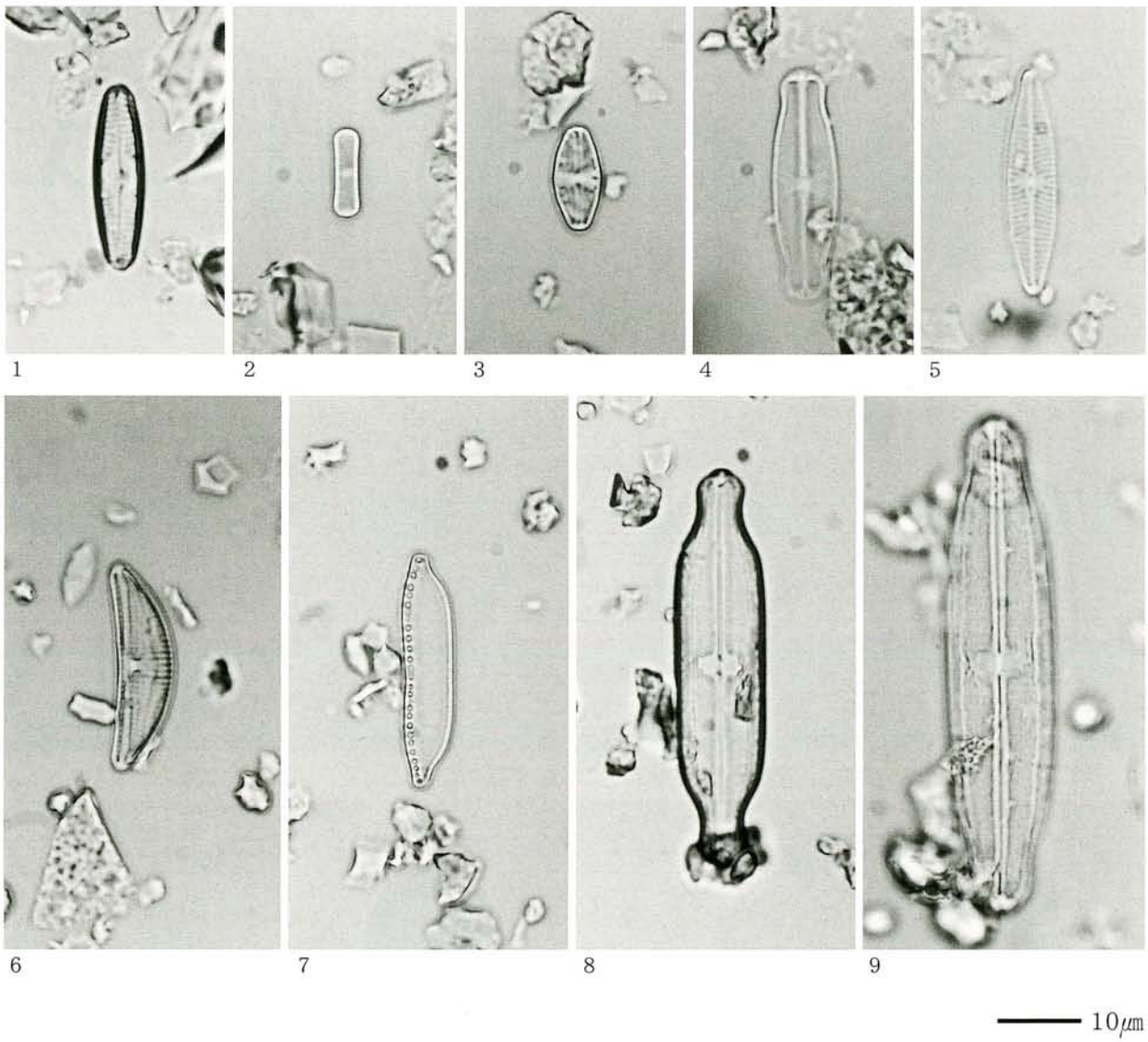
1　ハンノキ属　　2　クリ　　3　コナラ属コナラ亜属　　4　イネ属型

5　カヤツリグサ科　　6　アカザ科－ヒユ科　　7　アブラナ科　　8　シソ属

9　回虫卵　　10　鞭虫卵　　11　肝吸虫卵

―― 10μm

市川橋遺跡の珪藻

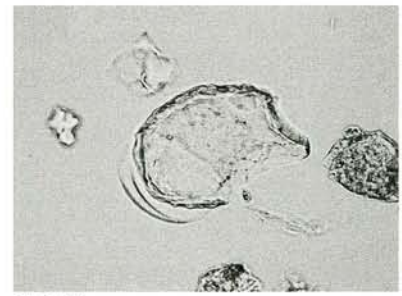


1. *Pinnularia appendiculata* 2. *Navicula contenta* 3. *Navicula mutica* 4. *Navicula pupula*
5. *Navicula Cryptotenella* 6. *Amphora copulata* 7. *Hantzschia amphioxys* 8. *Neidium affine*
9. *Neidium ampliatum*

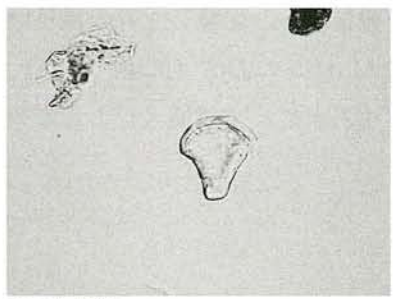
植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

イネ
試料４

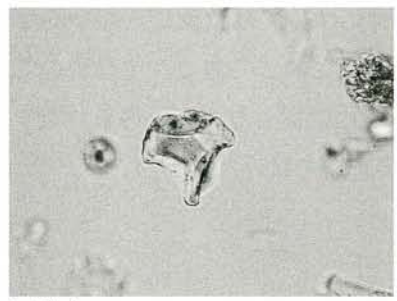
イネ（側面）
試料４



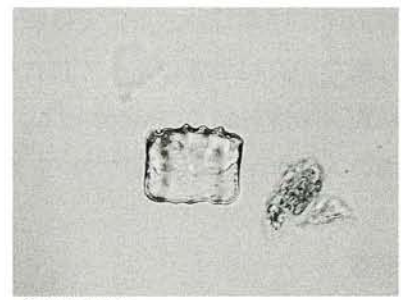
ヨシ属
試料４



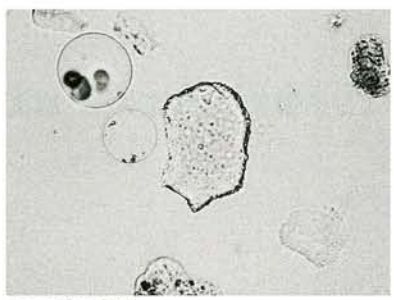
ススキ属型
試料８



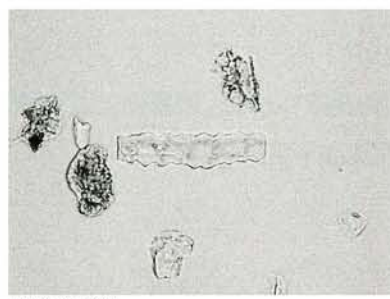
シバ属
試料４



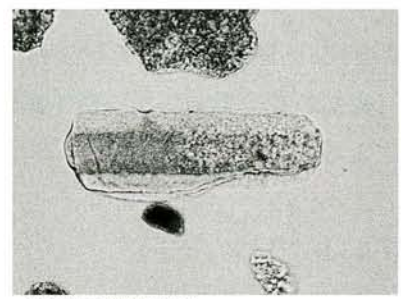
ネザサ節型
試料８



クマザサ属型
試料８



棒状珪酸体
試料８



イネ科の茎部起源
試料８

50μm

附章３　市川橋遺跡出土人骨

東北大学大学院医学系研究科人体構造学分野
澤田純明・川久保善智・百々幸雄

1993年および1998年～2001年の宮城県多賀城市市川橋遺跡の発掘調査において、河床跡から平安時代（10～11世紀）に帰属すると思われる数体分の人骨が発見された。すべて散乱状態で出土しており個体の同定は難しい。ここでは個々の骨について部位別に人類学的所見を報告する。記載した骨の番号は発掘の調査担当者によって付された注記に同じである。主な骨の計測は Martin の方法（馬場, 1991）、顔面平坦度計測は Yamaguchi（1973）に従った。また得られたデータをもとに、市川橋人骨と日本列島の人類集団との関係について若干の考察を試みた。

頭蓋

頭蓋の計測値を表１、顔面平坦度を表２、形態小変異を表３にまとめた。

R-0467・R-0468・R-0469・R-0470

複数の骨番号からなるが１個体の脳頭蓋である。顔面部と左側頭骨および頭頂骨の左半を欠く。腐食による骨質の劣化が著しい。年齢・性別は不明。

R-0546（写真１：上）

遺存状態：下顎を除くほぼ完全な頭蓋。右頬骨と両側の後頭顆のみが欠損する。歯は両側の第一小臼歯と右第二小臼歯の歯根が植立して残存する。

年齢：蝶形骨後頭骨縫合が癒合しており成人であることは間違いない。頭蓋の三主縫合の閉塞状態をみるに老齢には達しておらず、壮年（20～30代）から熟年（40～50代）程度と思われる。

性別：眉間や乳様突起、外後頭隆起の形状から男性的な印象を受けるが、断定できるほどにはっきりした性徴は認められない。

形態学的特徴：頭蓋の上面観は前方が狭い卵円形で、前頭結節の発達は弱い。三主縫合の走向は比較的複雑である。頭蓋長幅示数は79.2と短頭に近い中頭を示す。後面観は各辺が緩やかな弧を描く五角形で、頭頂結節が軽度に発達している。乳様突起は他の出土頭蓋に比べるとやや大きく鉛直方向に突出する。外後頭隆起は軽度に発達している。側面から見ると、鼻根部の陥凹はごく弱く、眉間がわずかに膨隆するが眉弓は平坦である。前額部の立ち上がりは弱い。歯槽性突顎の傾向が認められる。顔面では、眼窩は円形に近い方形を呈し、眼窩示数は81.0で中眼窩型を示す。右眼窩上縁に眼窩上孔が認められるが左は切痕である。鼻骨は狭く平坦である。鼻示数は52.2で広鼻型である。犬歯窩は左側に浅く認められるが右側は破損のため不明。

傷病：左第二・第三大臼歯の歯槽が閉鎖しており、齲歯あるいは歯槽膿漏の可能性がある。

表 1　市川橋遺跡出土頭蓋の計測値と示数

Martin's No.			R546	R547	R548	R549	R553～558	R1631～1634
			壮年～熟年	壮年～熟年	10代後半	壮年～熟年	壮年～熟年	壮年～熟年
			男性？	男性？	女性？	男性？	男性	男性？
1	Maximum cranial length	脳頭蓋最大長	173	175	181	-	(179)	(183)
5	Basion-nasion length	頭蓋底長	95	100	97	-	-	-
8	Maximum cranial breadth	脳頭蓋最大幅	137	130	133	-	(149)	(148)
8／1	Cranial index	頭蓋長幅示数	79.2	74.3	73.5	-	(83.2)	(80.9)
9	Minimum frontal breadth	最小前頭幅	92	86	72	-	(95)	93
9／8	Transversaler frontoparietal index	横前頭頭頂示数	67.2	66.2	54.1	-	-	-
17	Basionbregma height	バジオン・ブレグマ高	128	130	130	-	-	-
17／1	Cranial length-height index	頭蓋長高示数	74.0	74.3	71.8	-	-	-
17／8	Cranial breadth-height index	頭蓋幅高示数	93.4	100.0	97.7	-	-	-
40	Basion-prosthion length	顔長	90	96	97	-	-	-
45	Bizygomatic breadth	頬骨弓幅	129	128	-	-	-	-
48	Upper facial height	上顔高	66	63	61	-	-	-
48／45	Kollman's upper facial index	コルマン上顔示数	51.2	49.2	-	-	-	-
48*	Upper facial height (Howells)	上顔高（Howells）	63	60	58	-	-	-
51	Orbital breadth	眼窩幅	42	43	41	-	-	-
52	Orbital height	眼窩高	34	35	33	-	-	-
52／51	Orbital index	眼窩示数	81.0	81.4	80.5	-	-	-
54	Nasal breadth	鼻幅	24	24	26	-	-	26
55	Nasal height	鼻高	46	48	46	-	-	-
54／55	Nasal index	鼻示数	52.2	50.0	56.5	-	-	-
61	External palate breadth	上顎歯槽突起幅	-	-	60	-	-	65
65	Bicondylar breadth	下顎関節突起幅	-	-	-	116	-	-
69	Height of mandibular symphysis	オトガイ高	-	-	-	30	-	-
71a	Least breadth of ramus	最小下顎枝幅	-	-	-	32	-	-

計測値の単位は mm; 括弧内は参考値

表２　市川橋遺跡出土頭蓋の顔面平坦度計測

		R546	R547	R548	R1631～1634
Frontal chord (FC)	前頭骨弦長	96.9	96.7	90.2	(94.5)
Frontal subtense (FS)	前頭骨垂線長	16.9	15.6	13.2	(10.0)
FS:FC	前頭骨平坦示数	17.4	16.1	14.7	(10.6)
Simotic chord (SC)	鼻骨弦長	5.4	4.1	7.6	-
Simotic subtense (SS)	鼻骨垂線長	1.3	1.6	1.2	-
SS:SC	鼻骨平坦示数	24.1	39.0	16.4	-
Zygomaxillary chord (ZMC)	頬上顎骨弦長	-	-	93.0	-
Zygomaxillary subtense (ZMS)	頬上顎骨垂線長	-	-	22.0	-
ZMS:ZMC	頬上顎骨平坦示数	-	-	23.7	-

計測値の単位は mm；括弧内は参考値

R-0547（写真１：下）

遺存状態：下顎を除くほぼ完全な頭蓋。右上顎骨歯槽突起の臼歯部、右頬骨、右側頭骨頬骨突起、および両側の乳様突起の下半が欠損する。歯はすべて脱落している。

年齢：蝶形骨後頭骨縫合が癒合しており成人であることは間違いない。歯が残存していないため年齢段階の推定は難しいが、頭蓋の三主縫合の閉塞状態をみるに老齢には達しておらず、壮年から熟年程度と思われる。

性別：眉間と眉弓、および項平面の形状から男性的な印象を受ける。

形態学的特徴：頭蓋の上面観は楕円に近い卵円形で、前頭結節の発達は弱い。三主縫合の走向は比較的複雑である。頭蓋骨長幅示数は74.3と中頭に近い長頭を示す。後面観は、頭頂結節と矢状縫合部が突出し、側面がほぼ鉛直に下降する五角形である。外後頭隆起の発達は弱いが項平面に若干の凹凸が認められる。側面観では、鼻根部の陥凹はごく浅い。眉間と眉弓が軽度に膨隆している。顔面では、眼窩上縁がやや直線的であるが、全体として眼窩は円形に近い方形を呈する。眼窩示数は81.4で中眼窩型を示す。両眼窩上縁に眼窩上孔が認められる。鼻骨はごく狭く、正中部が前方にやや突出する。鼻示数は50.0で中鼻型である。犬歯窩はない。

傷病：左第二小臼歯・第一大臼歯の歯槽が閉鎖しており、齲歯あるいは歯槽膿漏の可能性がある。

R-0548（写真２：上）

遺存状態：下顎を除くほぼ完全な頭蓋。右頬骨側頭突起と右側頭骨頬骨突起、および両側の後頭顆が欠損する。歯は大臼歯のみが残存する。

年齢：蝶形骨後頭骨縫合は癒合しておらず、第二大臼歯の萌出は完了しているが第三大臼歯は未萌出であることから、10代後半と推定される。

性別：未成年であるため性別の判定は難しいが、平坦な眉間と眉弓、小さな乳様突起、未発達の外後頭隆起などの特徴から女性的な印象を受ける。

形態学的特徴：頭蓋の上面観は楕円に近い卵円形で、前頭結節が軽度に発達している。三主縫合の走

表 3　市川橋出土頭蓋の形態小変異の出現状況

		R-546		R-547		R-548		R-549		R-553～559		R-560～563		R-1631～1634	
		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L
Metopism	前頭縫合	-		-		-		/		-		/		-	
Supraorbital nerve groove	眼窩上神経溝	-	-	-	+	-	-	/	/	/	-	-	/	-	+
Supraorbital foramen	眼窩上孔	+	-	+	+	+	+	/	/	+	+	-	/	-	+
Ossicle at lambda	ラムダ小骨	+		-		+		/		-		/		-	
Biasterionic suture trace	横後頭縫合痕跡	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	/	/	-	-
Asterionic bone	アステリオン小骨	+	-	-	-	-	-	/	/	/	-	-	/	-	-
Occipito-mastoid wormians	後頭乳突縫合骨	-	-	-	-	-	-	/	/	/	-	-	/	-	-
Parietal notch bone	頭頂切痕骨	+	-	-	-	+	-	/	/	/	-	-	/	-	-
Condylar canal patent	顆管開存	+	+	+	+	+	+	/	/	/	/	/	/	/	/
Precondylar tubercle	前顆結節	/	/	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
Paracondylar process	傍顆突起	-	-	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/
Hypoglossal canal bridging	舌下神経管二分	-	-	-	-	-	-	/	/	-	/	/	/	/	/
Foramen of Huschke	フシュケ孔	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
Foramen ovale incomplete	卵円孔形成不全	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
Foramen of Vesalius	ベサリウス孔	-	-	+	+	-	-	/	/	+?	-	-	-	-	-
Pterygo-spinous foramen	翼棘孔	/	-	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	-	-
Medial palatine canal	内側口蓋管	-	-	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	-	-
Transverse zygomatic suture trace	横頬骨縫合痕跡	/	-	/	-	/	-	/	/	/	/	/	/	/	/
Jugular foramen bridging	頚静脈溝二分	-	-	+	-	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/
Sagittal sinus groove left	矢状洞溝（左）	-		-		-		/		-		/		+	
Clinoid bridging	床状突起間骨橋	-	-	-	-	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/
Mylohyoid bridging	顎舌骨筋神経溝骨橋	/	/	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	/	/

+ : present,　- : absent,　/ : unknown

向は比較的複雑である。頭蓋骨長幅示数は73.5と長頭を示す。後面観は、円形に近い五角形である。外後頭隆起、項平面ともに発達していない。乳様突起は小さい。側面観では、鼻根部は平坦で、眉間と眉弓は発達せず、前額面がほぼ垂直に立ち上がる。顔面では、眼窩は円形に近い方形であり、眼窩示数は80.5で中眼窩型を示す。両眼窩上縁に眼窩上孔が認められる。鼻骨は狭く平坦である。鼻示数は56.5で

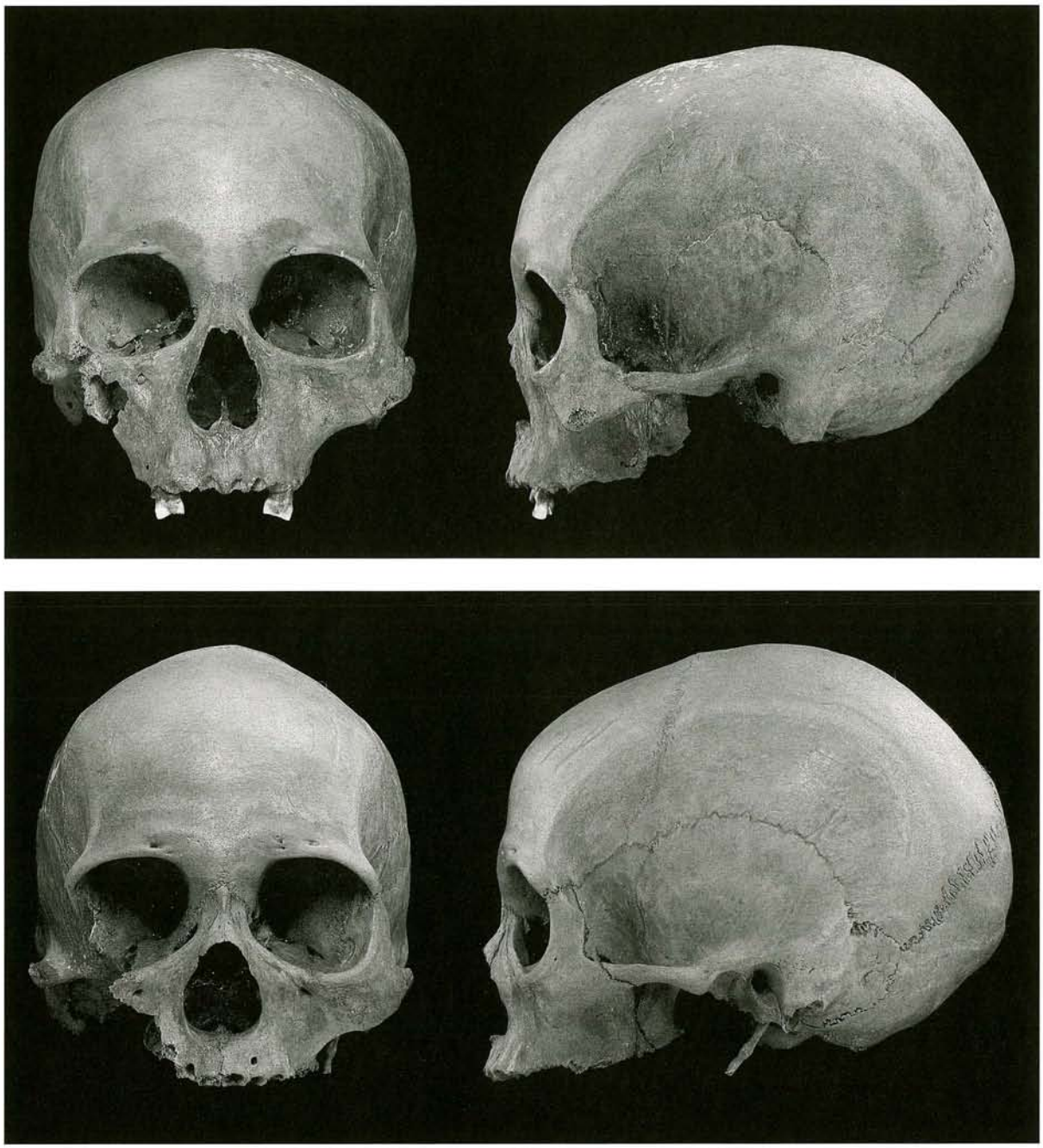


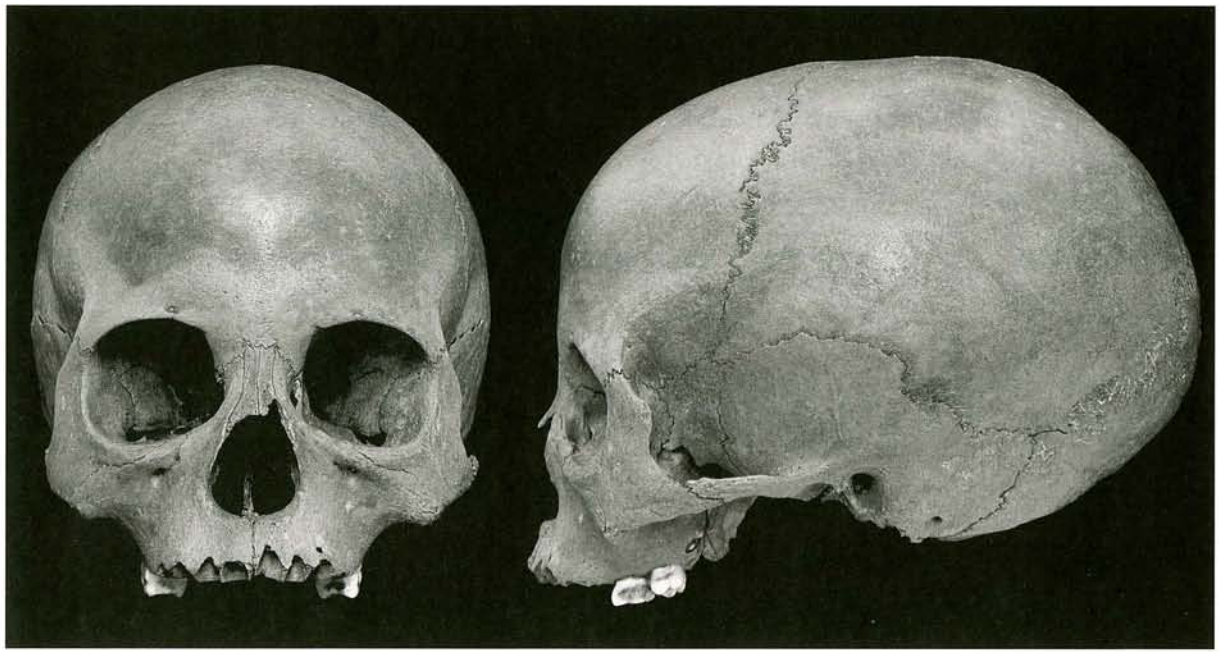
写真 1　上：R-0546 頭蓋　下：R-0547 頭蓋

広鼻型である。犬歯窩はない。

R-0549

遺存状態：ほぼ完全な下顎骨だが両側の下顎角周辺が破損している。歯は左犬歯、左右の全小臼歯と第一・第二大臼歯および右第三大臼歯が残存する。

年齢：第三大臼歯の萌出が完了しているため成人である。咬耗は軽度であり、壮年から熟年程度と推定される。



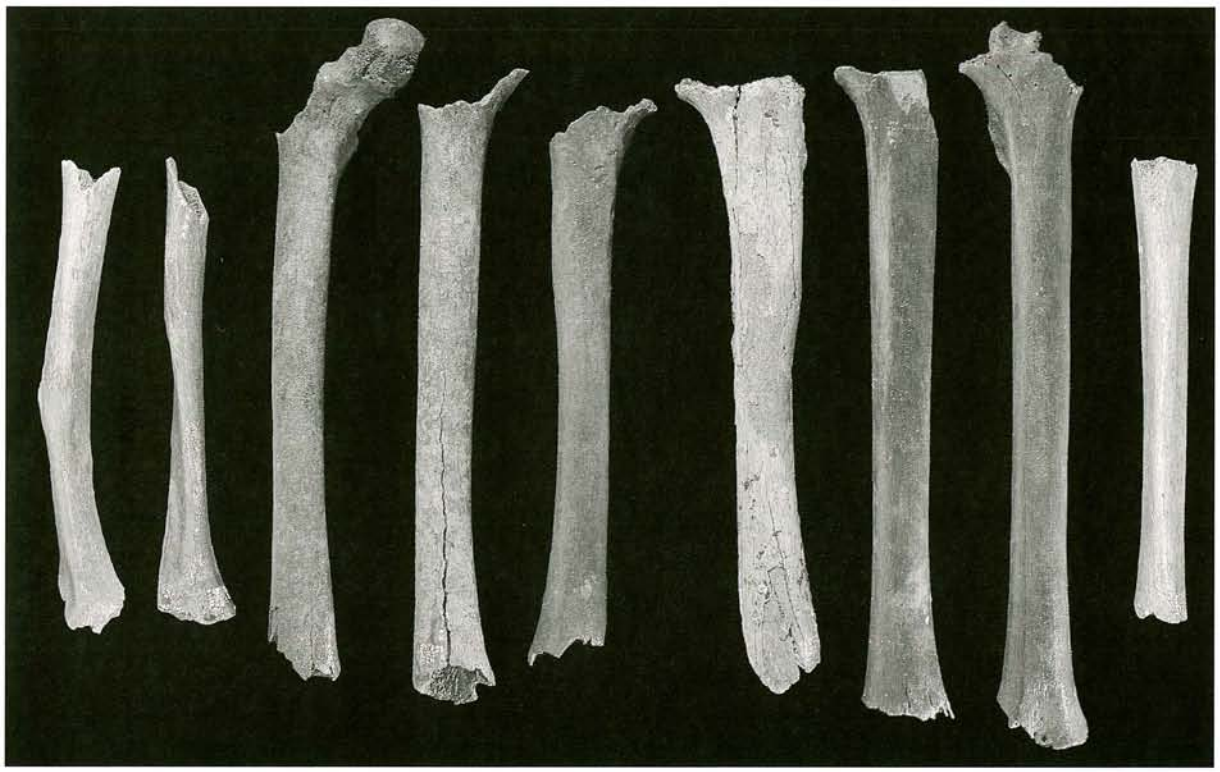


写真 2　上：R-0546 頭蓋
下：（左から）R-0415・R-0693 左上腕骨、R-0583・R-56・R-0569 右大腿骨、
R-0472・R-0585・R0586 左大腿骨、R-0509 右脛骨

性別：下顎体が厚く頑丈であり、またオトガイ三角が前方に突出していることから男性的な印象を受ける。

形態学的特徴：左側に２個のオトガイ孔が認められる。筋突起の前縁はほぼ垂直に立ち上がり、下顎枝の幅はさほど広くない。切歯２歯が萌出しておらず、歯槽の形状からみて両側の中切歯もしくは側切歯の先天性欠如と思われるが、萌出歯が脱落しているため同定は不可能である。藤田（1995）によれば、日本人では中切歯で1.22％、側切歯で0.69％の欠如率の報告があるという。右下顎角の破損部付近には小型哺乳類とみられる噛痕が観察される。左下顎角の破損部は、下顎体下部から下顎枝後縁にかけて削ぎ取ったかのような形状を呈して奇妙な印象を与えるが、その成因は判然としない。

傷病：左側の臼歯部に歯槽膿漏と思われる軽度の骨吸収が認められる。

R-550

右頬骨と右上顎骨頬骨突起破片。

R-0551

右上顎第二小臼歯の遊離歯。歯頸部遠心面に象牙質にまで達する齲蝕が認められる。

R-0552

右上顎第一小臼歯の遊離歯。歯頸部遠心面に象牙質にまで達する齲蝕が認められる。出土状況からR-0549～R-0552は１個体の可能性がある。

R-0553・R-0554・R-0555・R-0556・R-0557・R-0558

遺存状態：複数の骨番号からなるが１個体の脳頭蓋である。顔面骨の大部分を欠く。

年齢：頭蓋の大きさと三主縫合の閉塞状態からみて壮年から熟年程度と推察される。

性別：乳様突起と外後頭隆起から項平面にかけての形状から男性と思われる。

形態学的特徴：頭蓋の上面観は前方が狭い卵円形で、前頭結節の発達は弱い。三主縫合の走向は他の出土頭蓋に比べて単純である。頭蓋骨長幅示数は83.2と短頭を示す。後面観は、上辺が緩やかな弧を描き、側面が鉛直に下降する方形に近い五角形である。乳様突起は比較的大きく鉛直方向に突出する。外後頭隆起はやや発達しており、項平面にも凹凸が認められる。側面から見ると、鼻根部の陥凹は観察不可能であるが、眉間と眉弓はやや膨隆している。前額部の立ち上がりは弱い。顔面では、眼窩上縁が緩やかな弧を描き、眼窩上孔が両側とも認められる。

R-0560・R-0561・R-0562・R-0563

遺存状態：複数の骨番号からなるが１個体の脳頭蓋である。骨質の保存状態は悪く骨表面の剥落が随所に認められる。

年齢：頭蓋の大きさからみて成人段階に達していると思われる。

性別：乳様突起が比較的大きく鉛直方向に突出していることから男性的な印象を受ける。

R-564～R-570

ヒトの頭蓋の小破片群。1個体に属するかどうかは不明。

R-0580・R-0581

左右の頭頂骨であり、複数の骨番号からなるが1個体に属する。年齢・性別は不明。

R-1631・R-1632・R-1633・R-1634

遺存状態：複数の骨番号からなるが1個体の頭蓋である。両側の鼻骨、左上顎骨前頭突起・側頭突起、左頬骨、後頭骨の底部と外側部、蝶形骨の体が欠損する。歯は両側の第一・第二大臼歯が残存する。下顎はなし。

年齢：第三大臼歯の歯槽が開放していることから成人段階には達している。第一・第二大臼歯の咬耗がやや進んでおり一部に象牙質が露出しているが、頭蓋の三主縫合は内・外板ともに閉塞しておらず、壮年から熟年程度と思われる。

性別：乳様突起や項平面の形状から男性的な印象を受ける。

形態学的特徴：頭蓋の上面観は卵円形である。前頭結節は発達していない。三主縫合の走向は他の出土頭蓋に比べて簡単である。頭蓋骨長幅示数は、80.9と中頭に近い短頭を示す。後面観は、円形に近い五角形で最大幅はやや下に位置する。項平面が軽度に発達している。乳様突起は比較的大きく、鉛直方向に突出する。側面観では、眉間と眉弓の膨隆は弱い。鼻根部の観察は不可能。軽度の歯槽性突顎が認められる。眼窩は完全に保存されていないが、各辺がゆるやかな弧を描く方形を呈する。左眼窩上縁に眼窩上孔が認められるが、右側は切痕である。

傷病：前頭骨右眼窩面にクリブラ・オルビタリア（Cribra orbitalia）が認められる。クリブラ・オルビタリアとは栄養・健康状態などに起因する鉄欠乏性貧血が主原因であるとされる多孔性の骨変化である。また右上顎第一大臼歯の歯頸部遠心側に齲蝕が認められる。

椎骨・肋骨

R-40・R-0268・R-0280

R-40はほぼ完形の環椎、R-0268は完形の上位胸椎、R-0280は左上位肋骨である。

四肢骨

四肢骨の計測値は表4にまとめた。

R-0699

左鎖骨。骨端が欠損しており、骨幹部のみが残存する。

R-0415（写真2：下）・R-0510・R-0693（写真2：下）

R-0510は右上腕骨、他は左上腕骨で、全て骨幹部のみが残存する。いずれも三角筋祖面の発達は弱い。

表 4　市川橋遺跡出土四肢骨の計測値と示数

Humerus

Martin's No.			R-0510(L)	R-0693(R)
5	Maximum diameter of mid-shaft	中央最大径	(23)	(19)
6	Minimum diameter of mid-shaft	中央最小径	(18)	(14)
6／5	Index of cross-section	骨体横断示数	(78)	(74)
7	Least circumference of the shaft	骨体最小周	62	53

Femur

Martin's No.			R-56(R)	R-0471(R)	R-0569(R)
6	A-P diameter of midshaft	骨体中央矢状径	25	30	22
7	M-L diameter of midshaft	骨体中央横径	26	28	25
6／7	Pilasteric index	骨体中央断面示数	97	107	88
8	Circumference of mid-shaft	骨体中央周	80	88	75

Martin's No.			R-0583(R)	R-0584(R)	R-0747(R)
6	A-P diameter of midshaft	骨体中央矢状径	23	22	22
7	M-L diameter of midshaft	骨体中央横径	25	27	25
6／7	Pilasteric index	骨体中央断面示数	95	81	90
8	Circumference of mid-shaft	骨体中央周	77	78	73

Martin's No.			R-472(L)	R-0545(L)	R-0585(L)
6	A-P diameter of midshaft	骨体中央矢状径	26	18	24
7	M-L diameter of midshaft	骨体中央横径	28	20	27
6／7	Pilasteric index	骨体中央断面示数	95	93	88
8	Circumference of mid-shaft	骨体中央周	88	60	79

Martin's No.			R-0586(L)	R-0745(L)	R-0746(L)
6	A-P diameter of midshaft	骨体中央矢状径	28	29	22
7	M-L diameter of midshaft	骨体中央横径	27	27	23
6／7	Pilasteric index	骨体中央断面示数	105	108	96
8	Circumference of mid-shaft	骨体中央周	85	82	70

Tibia

Martin's No.			R-0416(R)	R-0509(R)	R-0511(L)
8	A-P diameter of midshaft	中央最大矢状径	31	31	20
9	M-L diameter of midshaft	中央横径	19	21	13
9／8	Index of cross-section	中央横断示数	62	67	65
10	Circumference of mid-shaft	骨体中央周	80	83	55
10b	Minimum circumference	骨体最小周	73	74	50

計測値の単位は mm; 括弧内は参考値

R-0693は極めて華奢であり、女性か未成年と思われる。計測可能なR-0510とR-0693の骨体横断示数はそれぞれ79.4と73.2で、強い扁平性を示すとはいえない。R-0415は骨幹中央部に骨折の治癒痕が認められる。

R-56（写真２：下）・R-0471・R-0569（写真２：下）・R-0583（写真２：下）・R-0584・R-0747・R-0472（写真２：下）・R-0545・R-0585（写真２：下）・R-0586（写真２：下）・R-0745・R-0746

前６者は右大腿骨、他は左大腿骨である。R-0583のみ骨頭が残存するが、他は全て両端を欠く。R-0586は殿筋粗面から粗線にかけて強く発達しており骨幹部後面がやや柱状性を呈するが、他の大腿骨では粗線の発達は軽度から中程度であり骨幹部は柱状性を示さない。R-0545は小さく華奢であり未成年である可能性が高い。

R-0416・R-0509（写真２：下）・R-0511

前２者は右脛骨、後者は左脛骨である。全て骨端を欠いており骨幹部のみが残存する。R-0416の脛示数は62.4と扁平脛であるが、中央部の横断形は三角であり縄文時代人に多く見られる扁平脛骨とは異なる。他の脛骨は中脛に属する。R-0511は小さく華奢であり未成年と考えられる。

市川橋遺跡出土人骨と日本列島の他集団との比較

成人男性と思われる完形頭蓋２個体（R-0546、R-0547）について、頭蓋の計測値12項目（表１）と顔面平坦度計測値４項目（表２）の計16項目に基づき、日本列島の人類集団との簡単な比較を行なった。比較に用いた人類集団は縄文時代人、北海道続縄文時代人、西日本弥生時代人、東日本古墳時代人、鎌倉時代人、府内江戸時代人、北東北江戸時代人、北海道アイヌ、関東現代人、東北現代人の10集団である。これらの10集団と市川橋人骨の間で、簡便な多変量解析法であるペンローズの形態距離を算出した（表５）。比較集団のデータは川久保（2004）による。

R-0546頭蓋と他の集団との間の距離を比較すると、府内江戸時代人に最も近く、関東現代人と東北現代人、北東北江戸時代人と続く。R-0547頭蓋と他の集団との間の距離を比較すると、R-0546頭蓋と同様に府内江戸時代人に最も近く、次いで東北現代人、北海道アイヌ、北東北江戸時代人と並んだ。両個体とも縄文時代人や北海道続縄文時代人との距離は大きい。近藤・百々（1996）は、ほぼ同時代と思われる宮城県多賀城市山王遺跡から出土した頭蓋（No.2333）について、縄文時代人、東日本古墳時代人、北海道アイヌ、現代日本人との間のペンローズの形態距離を計算し、No.2333頭蓋との距離が現代日本人、北海道アイヌ、東日

表５　ペンローズの形態距離

	R-0546	R-0547
縄文時代人	0.9958	1.1875
続縄文時代人	1.0320	1.0856
西日本弥生時代人	0.8089	0.9847
東日本古墳時代人	0.8656	0.9736
鎌倉時代人	0.9040	0.8692
府内江戸時代人	0.7293	0.7689
北東北江戸時代人	0.7638	0.8616
北海道アイヌ	0.8212	0.8540
関東現代人	0.7439	0.8685
東北現代人	0.7365	0.8238

本古墳時代人、縄文時代人の順に近いことを報告している。また頭蓋の非計測的形態小変異をみると、縄文時代人や北海道アイヌで出現頻度が高い舌下神経管二分は市川橋人骨には認められず、一方縄文時代人やアイヌに比べて現代および歴史時代の本土和人で出現頻度が高い眼窩上孔は、眼窩上縁が観察できた市川橋人骨6体のうち5体に認められた。充分な個体数ではないため以上の結果の解釈には慎重であるべきだが、多賀城近辺の平安時代人が、縄文時代人や北海道アイヌよりも歴史時代以降の本土和人に近い頭蓋形態を備えていたことは指摘しておいてもよいだろう。

まとめ

市川橋遺跡の河床跡から、少なくとも9体分の頭蓋を含む散乱人骨が出土した。壮年から熟年程度の成人が多いが、未成年の骨も含まれている。数体の人骨には、齲歯、歯槽膿漏、クリブラ・オルビタリア、骨折などの傷病痕が認められた。また頭蓋の形態学的特徴は、縄文時代人や北海道アイヌよりも歴史時代ないし現代の本土和人に近いことが示された。

謝辞

人骨の整理と観察に際し、奥松島縄文村歴史資料館の菅原弘樹学芸員、東北大学大学院歯学系研究科鈴木敏彦助手、同医学系研究科坂上和弘助手・瀧川渉助手、同医学系研究科博士課程大学院生前田朋子氏・佐伯史子氏からご助力を頂いた。記して感謝申し上げたい。

文献

馬場悠男（1991）「人体計測法Ⅱ人骨計測法」. 雄山閣, 東京.

藤田恒太郎（1995）「歯の解剖学 第22版」. 金原出版, 東京.

川久保善智（2004）東日本住民における顔面平坦度の地域差と時代変化. 東北大学大学院医学系研究科博士論文.

近藤　修・百々幸雄（1998）山王遺跡多賀城前地区出土人骨. 宮城県文化財調査報告書「山王遺跡 IV」, pp.158-168.

Yamaguchi, B. (1973) Facial flatness measurements of the Ainu and Japanese crania. Bull. Nat. Sci. Mus. 16: 161-171.

附章四　市川橋遺跡出土の文字資料について

例言

一、本章は、市川橋遺跡A区・D区から出土した木簡・漆紙文書・墨書土器についてまとめたものである。

二、本章二節の執筆は新井重行氏（東京大学史料編纂所）がおこなった。

三、資料の整理から調査にいたるまで平川南氏（国立歴史民俗博物館教授）、三上喜孝氏（山形大学助教授）にご指導・ご教示いただいている。記して感謝の意を表したい。

目次

例言
一　木簡について
二　漆紙文書について
三　墨書・刻書土器について

一　木簡について

凡例

一、道路側溝（南北大路・東西大路・東一道路・東〇道路・西〇道路・西一道路・南一道路）、河川、その他の遺構（溝・土壙・井戸）ごとにまとめ、各遺構内で文書（文書様木簡・記録簡）、付札（貢進物荷札・付札）、その他の木簡の順で記載した。

一、各木簡については、法量（長さ・幅・厚さ。欠損している場合は括弧付きで示す）、型式、出土遺構及び層位をまず記載し、続いて釈文、形状を述べ、適宜解釈を加えた。出土遺構の詳細については本編を参照されたい。なお、木簡番号については、市川橋遺跡出土木簡の通し番号である。

一、型式番号は以下の通りである。

011　短冊形。
019　一端が方頭で他端は折損・腐食で原形が失われたもの。
031　長方形の材の両端の左右に切り込みを入れたもの。
032　長方形の材の一端の左右に切り込みを入れたもの。
033　長方形の材の一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもの。
039　長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損あるいは腐食して不明なもの。

051　長方形の材の一端を尖らせたもの。
059　長方形の材の一端を尖らせているが、他端は欠損。
061　用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。
065　用途未詳の木製品に墨書のあるもの。
081　折損、腐食その他によって原形の判明しないもの。
091　削屑。

一、釈文に加えた符号は木簡学会で定めたものを使用し、以下の通りである。

「　」　木簡の上端・下端が原形をとどめていることを示す。
＜　木簡の上端・下端などに切り込みのあることを示す。
○　穿孔のあることを示す。
■　抹消により判読困難なもの。
□□□　欠損文字のうち、字数の確認できるもの。
□　欠損文字のうち、字数の数えられないもの。
『　』　異筆、追筆であることを示す。
・　木簡の表裏に文字のある場合、その区別を示す。
〔　〕　校訂に関する注で、原則として釈文の右傍に付し、本文に置き換えるべき文字を含む場合。
カ　筆者、編者が加えた注で疑問の残るもの。

一、掲載した写真および実測図の縮尺は特に断らない限り約1／2である。

一、当教育委員会発行の略報や『木簡研究』（木簡学会）などで既報告のものあるが、報告内容が異なる場合は本報告内容が優先するものとする。

第四九号木簡　659×(38)×9　011　SD1767c

・「　　□□

○　磐城団解　申進上兵士事　合九人　　刑部子立　　道丈部竹万呂 代丁　」

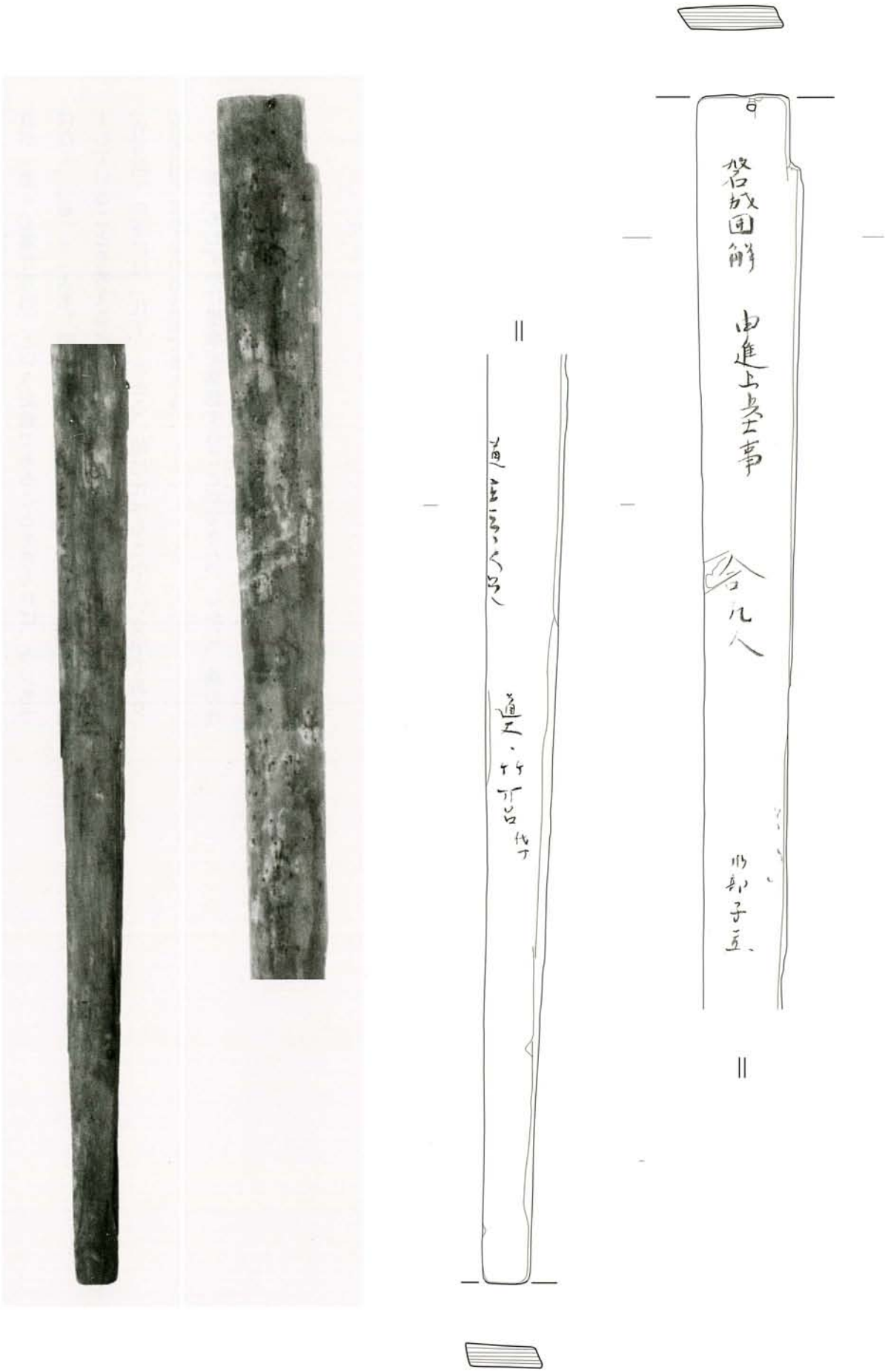
道□□□人足

・「　　□□□□　　」

南北大路東側溝ＳＤ一七六七ｃから出土した。南北大路の側溝には五時期の変遷があるが、そのうち三番目の時期の側溝である。『日本三代実録』貞観十一年（八六九）五月二十六日癸未条にみえる陸奥国大地震による津波の影響を受けたと思われるＳＸ一七七九によって破壊されているため、下限については八六九年以前に求めることができる。また、この層からはロクロ調整された土師器が出土していることから、上限を八世紀末に求めることができる。陸奥国で最後に設置された磐城団の史料上の初見は承和十五年（八四八）五月辛未（十五日）条である。承和初年まで遡るとする説もあるが（鈴木拓也「九世紀陸奥国の軍制と支配構造」『古代東北の支配構造』吉川弘文館、一九九八）、いずれにせよ、磐城団の設置時期と出土遺構の年代とは相違しない。

上端および下端は原形をとどめるが、左右両側面は欠損している。本来はより幅広の短冊形であったと推測される。上端近くに孔があるが、その孔はオモテからウラにかけて垂直なものではなく、斜め上から下にむかって穿たれたものである。柱などに掛けて使用されたと推測できるだろう。

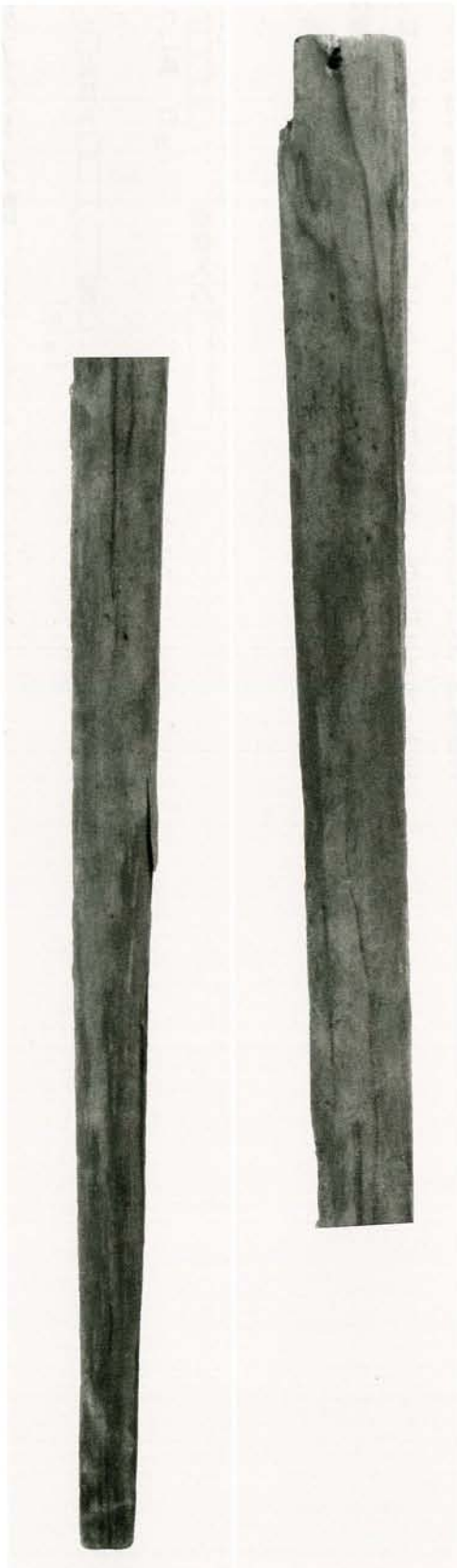
内容は、磐城団からの兵士進上に関する上申文書である。進上する兵士の人数は、残画から九人と判断できる。「合九人」の記載の下には九人の名前が列記されていたと思われるが、現況では三人の人名しか確認することはできない。一人目「刑部子立」の右上にも墨痕を確認することができるが、人名か否かについては判断が難しい。二人目と三人目（二段目・三段目）の冒頭は「道」で共通している。「道」で始

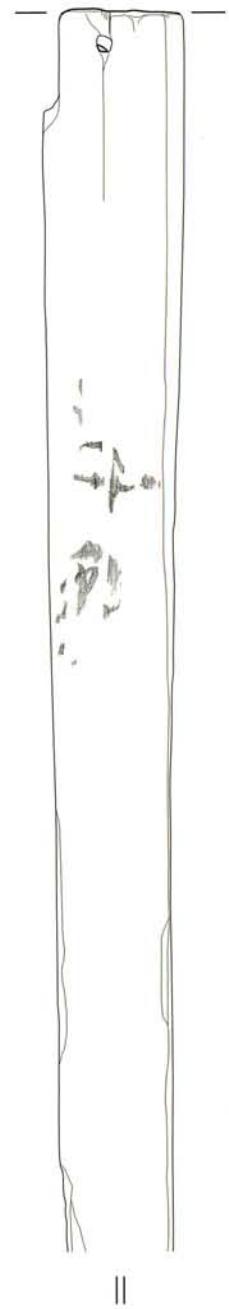


第49号木簡オモテ面

まるウジ名の例として「道守」や「道嶋」などがある。ただし、三人目が「道＋丈部竹万呂」という記載であることを考えれば、ウジ名ではなく、「道」＋「人名」の可能性があろう。本木簡が道路側溝から出土していることを考えると、「道」字と道路との関連性が注目される。「竹万呂」の下には「代丁」とある。他に比べると小さい文字であり、「竹万呂」にかかわる注記であろう。

ウラ面にもわずかに墨痕を確認することができた。しかし、墨の残りは良くなく、文字数などは不明で、オモテ面との関係についても不明とせざるを得ない。





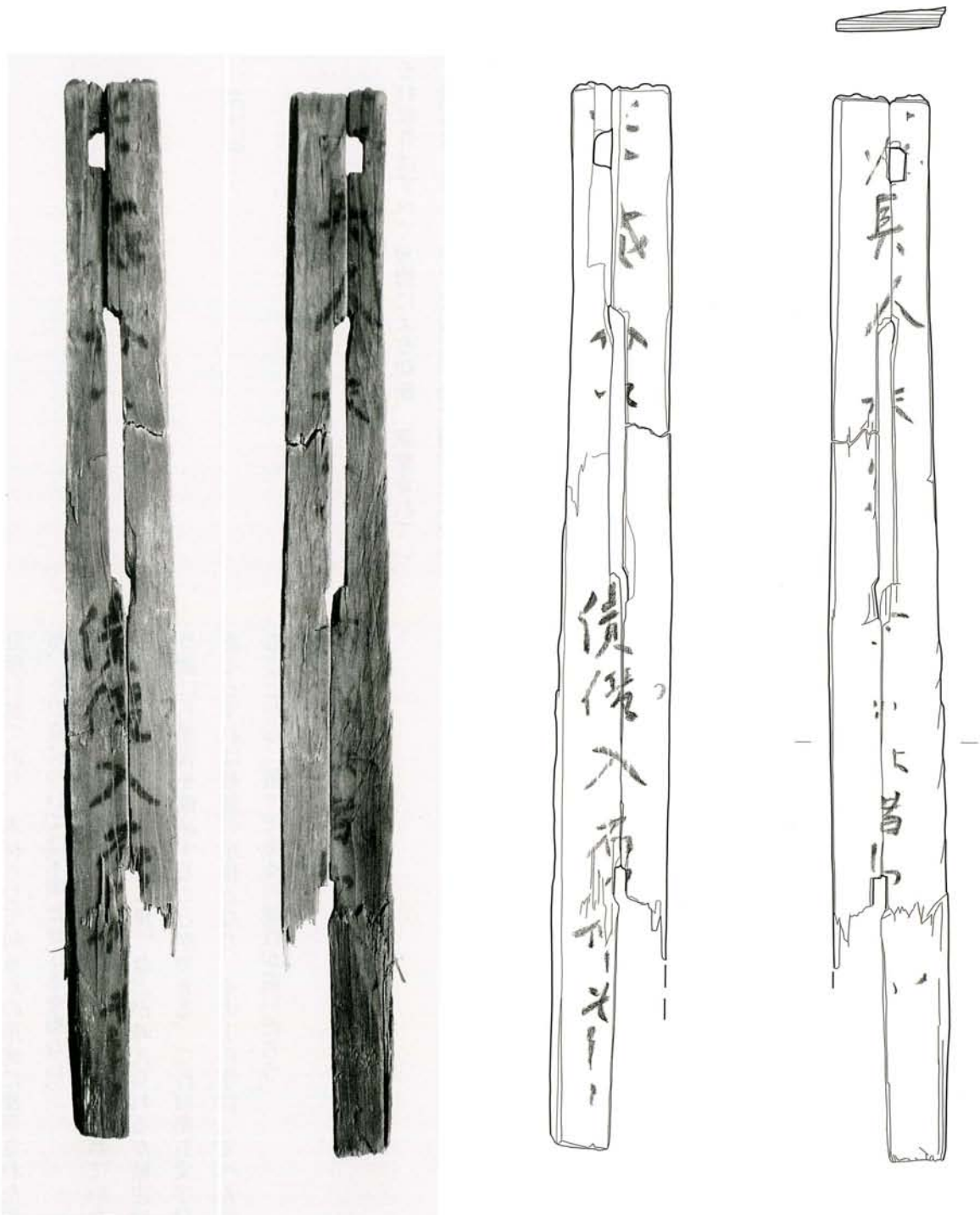
第49号木簡ウラ面

第五〇号木簡　(330)×35×6　019　SD1767c

・「□火長人□□□□者□　□〔上ヵ〕

・「□□□□　債借入石□□□□〔貳　口ヵ〕

三片接合。上端は刃物によるキリオリ。下端は欠損し、左右両側面は原形をとどめる。上部にある墨痕が切れているため、上端のキリオリは二次利用のためのものである可能性もある。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。ただし下方は一部荒れている。四箇所に長方形の孔がある。間隔は等しくない。墨痕を切る孔であるため、二次利用のための孔であると判断される。第一孔が比較的丁寧な作りであるのに対し、第二～四孔特に第二・第三孔は粗雑な作りである。第四九号木簡と同一遺構から出土している。オモテ面には軍団における兵士十人の長である「火長」とみえる。それ以外の詳細については不明とせざるを得ないが、軍団関係の内容であり、第四九号木簡との関連性が注目される。



第50号木簡

第五一号木簡　(142)×49×19　065　SD2342d

・『□□』

謹解　申進上春

米事　合□□□□

・　　『□□』

〔更カ〕　〔枚カ〕

合□□　□□

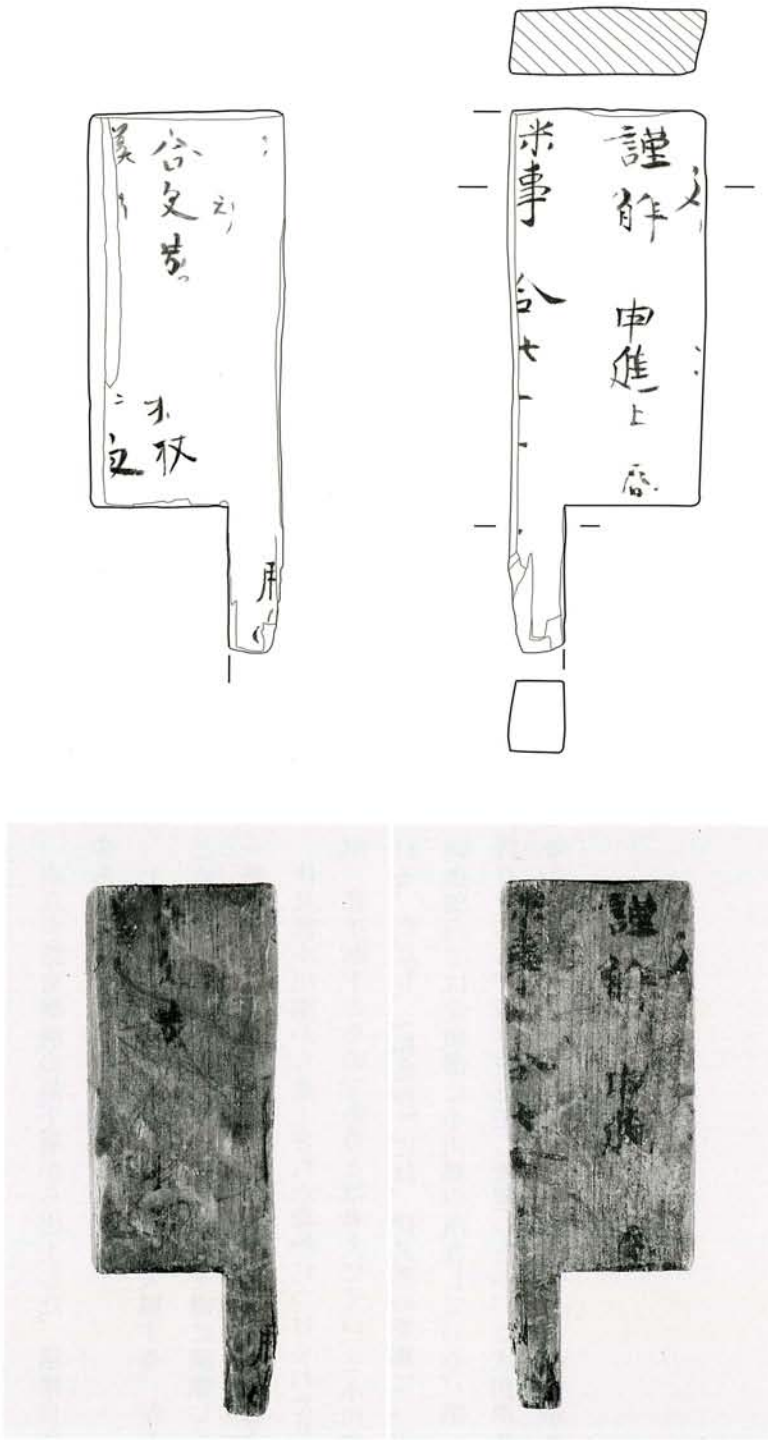
□□　□□

下端のみ欠損し、それ以外はすべて刃物により切断、調整されていることが確認できる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

墨書は二種類確認できる。一つは春米進上についての「解」であり、もう一つはオモテ面右側およびウラ面右側に見える墨書である。

二度の使用のうち最初の使用は、オモテ面右側面およびウラ面右下方に見える墨書内容である。これはともに墨書が切られていることから、横は左右ともに現況よりも大きいものであったと考えられる。そして不要になった後、春米の「解文」木簡として使用されたと考えられる。右側面は刃物による成形をうけていること、一度目の墨書を切っていることなどから解文が記載される時に切断されたと考えられる。また、材が不整形であるにもかかわらず、解文の一行目と二行目の文言が続いているため、下部も解文が記載される時に切断されたと考えられる。ただし、左側面に関しては、解文の墨書（三行目）を切っていることから、横幅はより大きなものであったと考えられる。解文が不要になった後左側面が切断されたのであろう。本木簡は不整形かつ分厚い材であり、木材として何らかの用途に使用された可能性もあるが、その点については不明とせざるを得ない。

オモテ面「合」の下は春米の合計数量が記載されていたと考えられる。残画からは「廿」や「卅」などが考えられるが断定は難しい。ウラ面にも墨書を確認することができる。二行目第五文字目が「枚」であるとすれば数量の単位となり、その上の字は「てへん」が見えていることから「拾」である可能性が高いだろう。



第51号木簡

第五二号木簡　167×14×7　051　SD2342d

〔郷カ〕
・「□□□戸主物部□速□□□」
・「　延暦十年九月□日　　」

完形。上端は圭頭状につくる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

「戸主物部（某）」から進上された物品に付けられた荷札。上から二字目は「野」などが考えられるが、断定は難しい。下部の墨書を物品名およびその数量とみれば、「糒六斗」の可能性もあるだろう。延暦十年は七九一年にあたる。

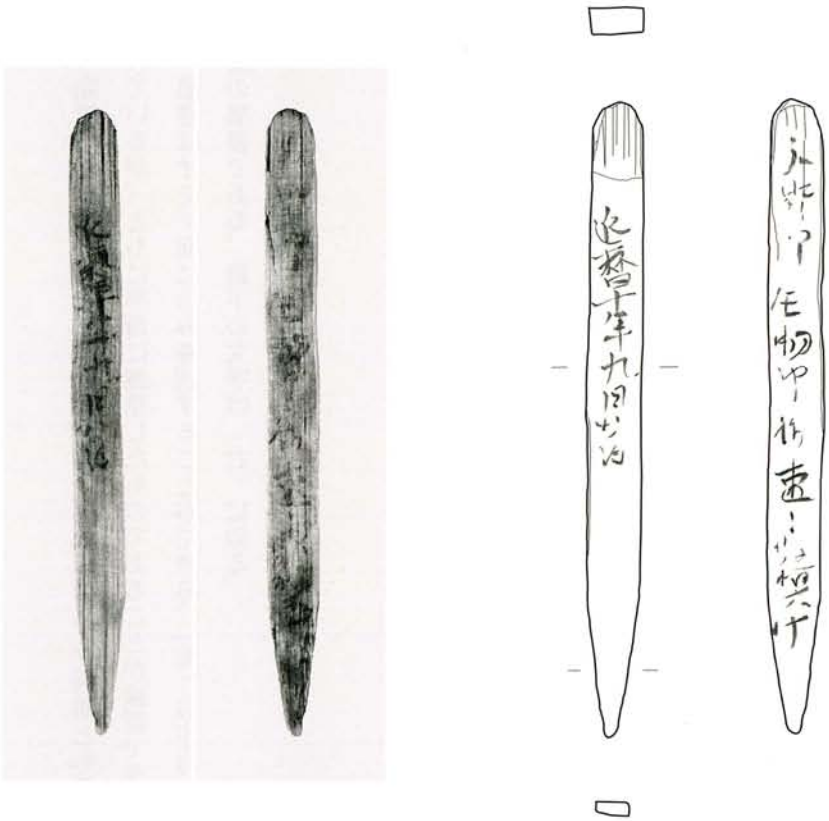
第五三号木簡　(141)×26×4　039　SD2767a

（削り残り）
「〈『□』伊具郡小川里公□□

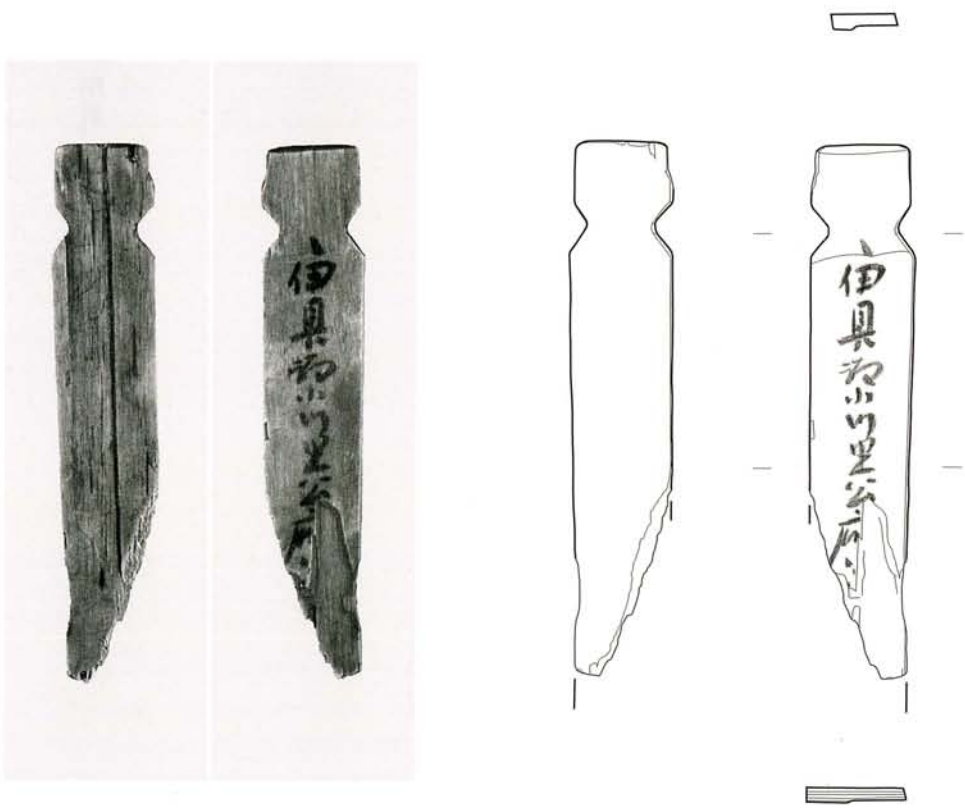
南北大路東側溝の最下層から出土した。遺構自体は八世紀後半ごろのものである。

上端は原形をとどめるが、下端は欠損する。左右両側面は原形をとどめる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整しているが、ウラ面は一部剥離している。オモテ面上端を面取り加工している。

伊具郡小川里から進上された荷物につけられた札。「小川里」とあるが、郡里制下のものであるとは考えにくい。「小川郷」のことと考えられる。ただし、『和名抄』には、伊具郡の管郷に「小川郷」はみえない。陸奥国内では安積郡に小川郷が所在している。第一文字目部分は削り残りである。誤字を訂正し使用したか、二次利用された可能性などが考えられる。「公」の下の字は「公廨」の可能性がある。



第52号木簡



第53号木簡

第五四号木簡　109×17×5　033　SD2342d

「〈高□□」

完形。ただし材の腐食が甚だしい。オモテ・ウラ両面とも表面が荒れているが、ともに平滑に調整したものであることが確認できる。

墨書はオモテ面にのみ確認することができる。「高」以下は四文字程度の墨書である。最下の文字は「衣」に似る。

第五五号木簡　(209)×(21)×4　081　SD1767a

□□

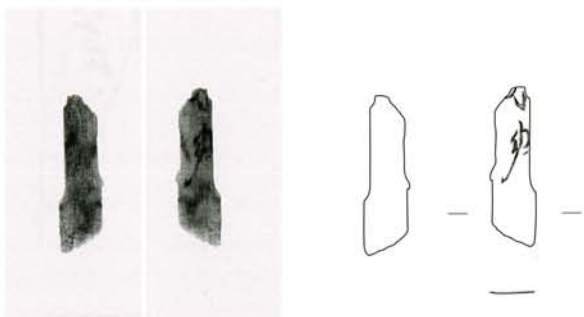
下端および右側面は原形をとどめるが、上端および左側面は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

オモテ面にのみ墨痕を確認することができる。ただし文字は半截されており、判読は困難である。

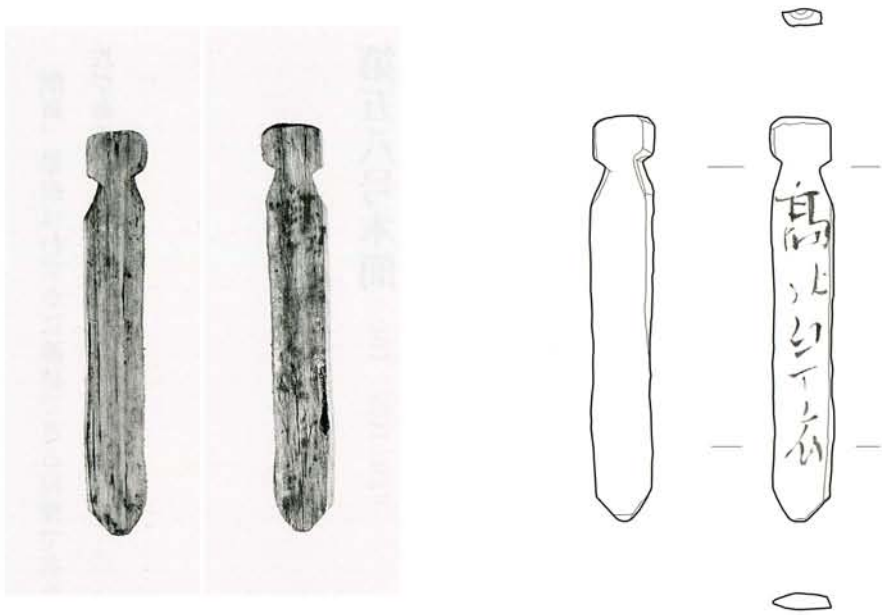
第五六号木簡　091　SD1767a

□□

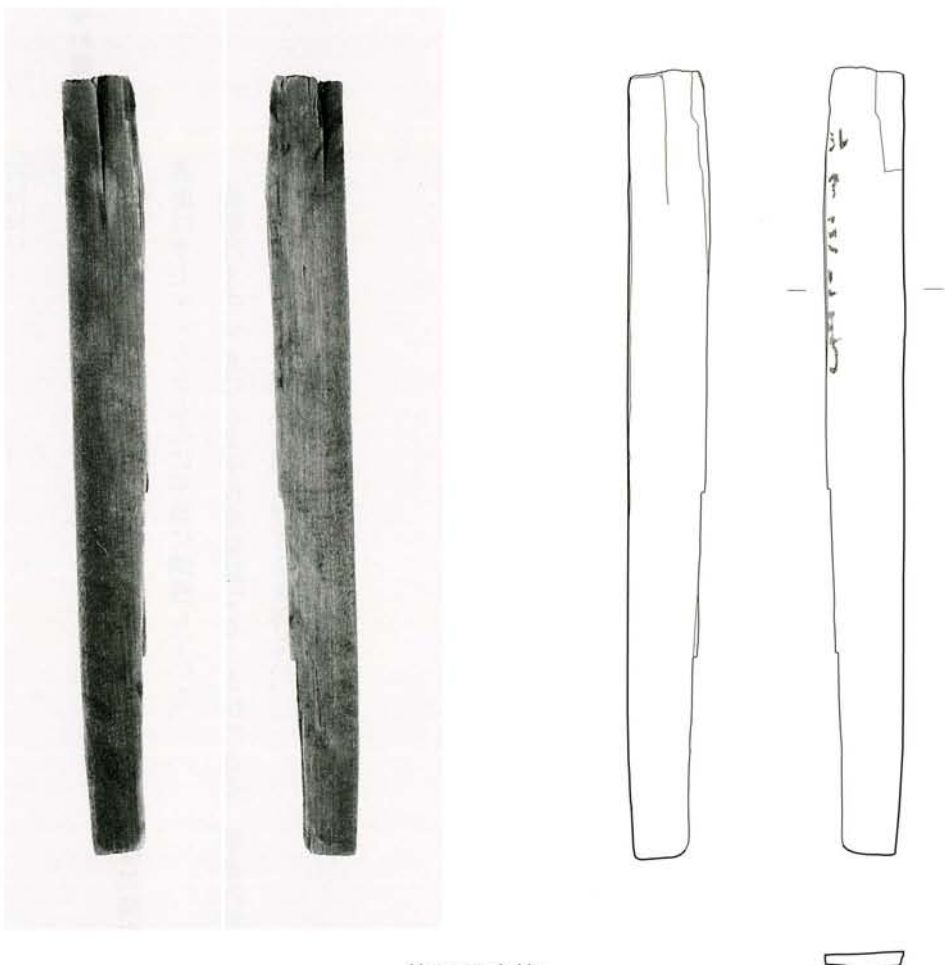
削屑。二文字分の墨痕が確認できる。



第56号木簡



第54号木簡



第55号木簡

第五七号木簡　091　SD1767a

□

削屑。墨痕はわずかに確認できる程度である。ほかに接合しない細片がある。

第五八号木簡　091　SD1767a

□

削屑。墨痕はわずかに確認できる程度である。

第五九号木簡　(74)×(21)×2　065　SX2451

〔麻カ〕
「□□□

上端および左右両側面の上半は原形をとどめるが下半は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

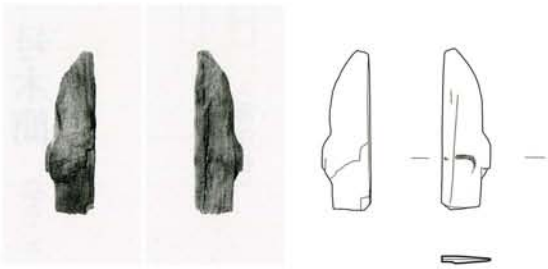
墨書はオモテ面に三文字程度確認することができる。墨書内容や形状との関係など詳細は不明とせざるを得ない。

第六〇号木簡　(67)×(19)×5　039　SD1918c

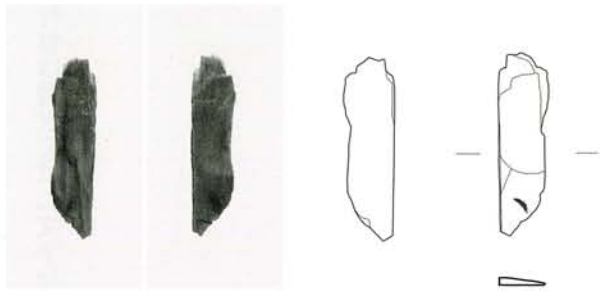
〈白米上

上端・下端ともに欠損する。左側面も欠損するが、右側面はほぼ原形をとどめる。また、右側面上部に切り込みのあることがわずかに確認でき、付札状の木簡であったことが判明する。表面については、ウラ面の欠損が甚だしいが、オモテ・ウラ両面ともに平滑に調整されている。

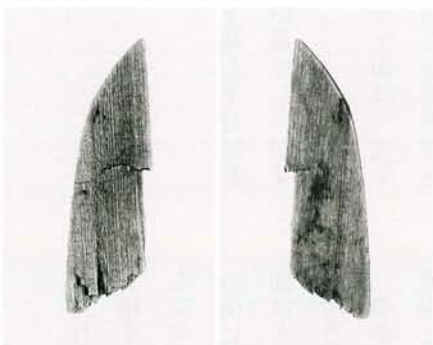
一文字目は字体としては「百」に似るが、「白」であると判断した。白米の付札である。

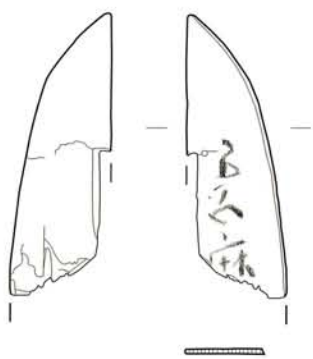


第58号木簡

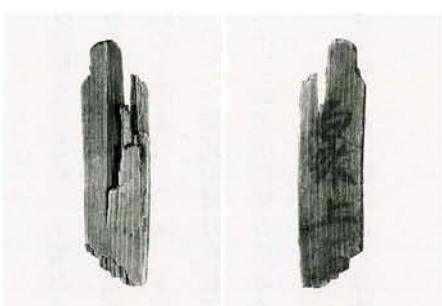


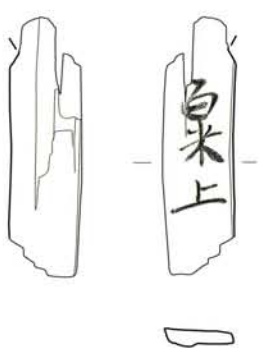
第57号木簡





第59号木簡





第60号木簡

第六一号木簡　(54)×(42)×9　061　SX1940D

〔符カ〕
・「□
・「□□
□□　（題箋軸）

軸部はすべて欠損し、題箋部のみ残る。上端および下端左半分は原形をとどめるが、左右両側面は欠損する。表面は腐食が甚だしいがオモテ・ウラともに平滑に調整している。

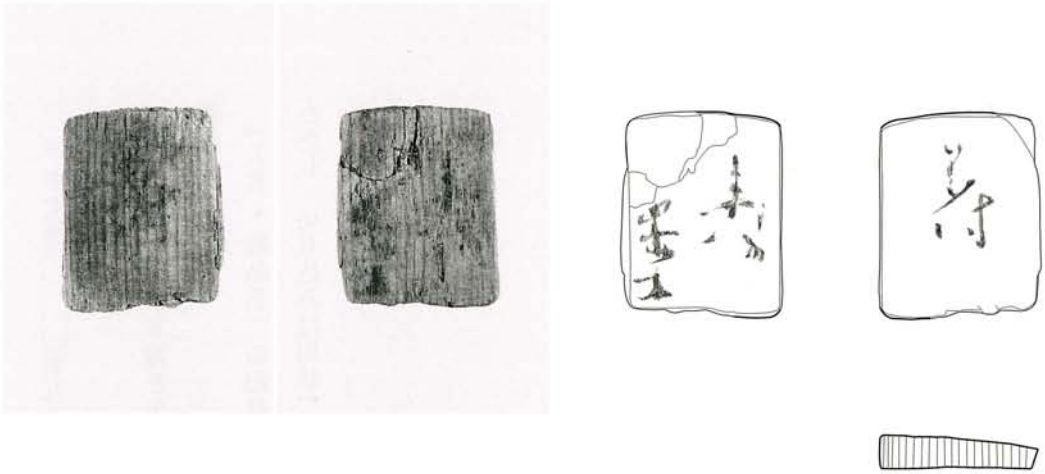
題箋軸。オモテ・ウラともに墨書が確認できる。オモテ面は一文字の墨書と見れば「符」と解釈できる。ウラ面は二行にわたる墨書である、一行目の文字数は一文字とも見られるが断定し難く、上部を欠損する二行目は現況では二文字分確認できる。

第六二号木簡　(253)×(15)×4　031　SD2201A

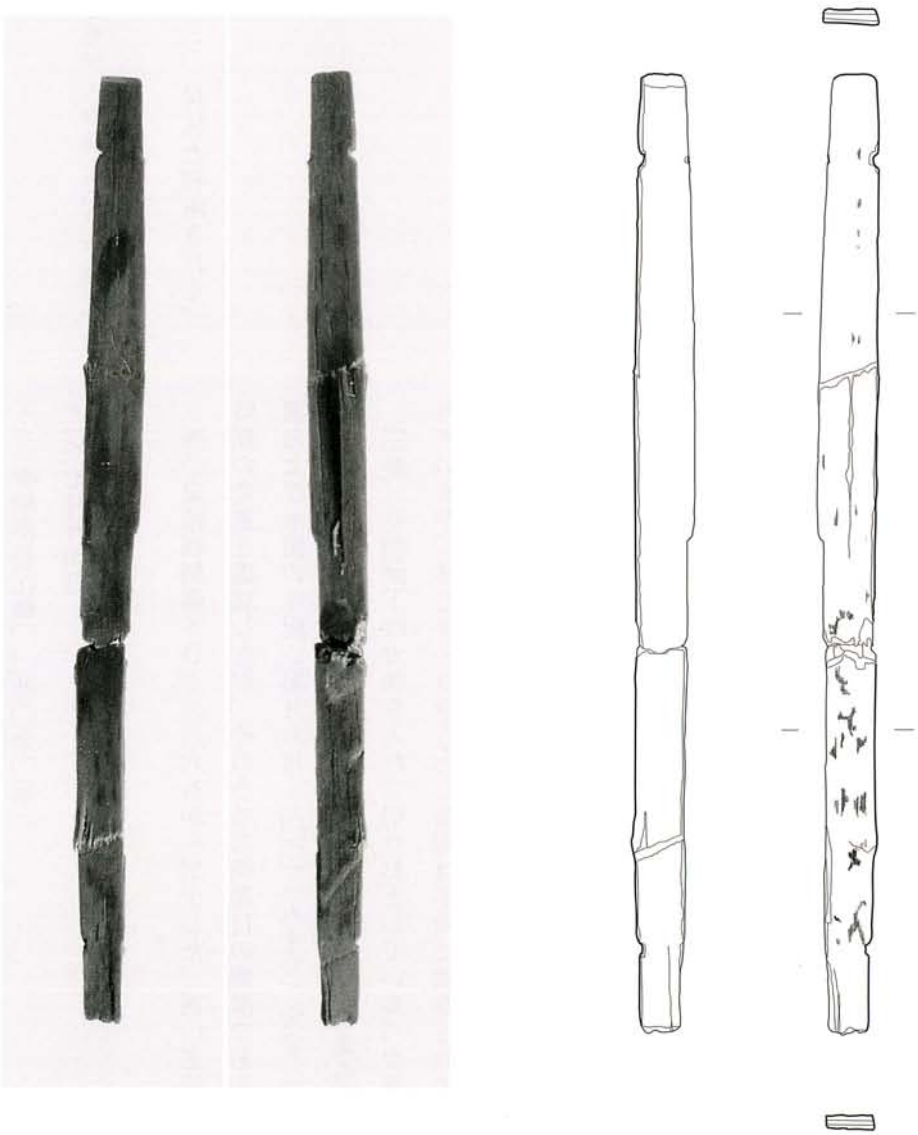
「V□□□□V

二片接合。上端および右側面は原形をとどめ、下端および左側面は欠損する。ウラ面の上端は面取りされている。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。右側面の上端より二〇㎜、下端より二〇㎜の所にそれぞれ切り込みがあり、〇三一型式の付け札状である。左側面は欠損しているが、上端より二十二㎜の所に切り込みをわずかに確認できる。

墨書はオモテ面にのみ確認できるが、文字数などの詳細については不明とせざるを得ない。



第61号木簡



第62号木簡

第六三号木簡　(235)×33×5　019　SD2386e

「　戸主丈部□□米五斗

上部右隅および下端を欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

「人名＋物品名」の記載形式をとることから、付札と判断される。ただし、切り込みは現状では確認できない。

第六四号木簡　215×21×5　032　SD2486b

・「〈安積郡長江郷□〔五カ〕□部□米□斛」

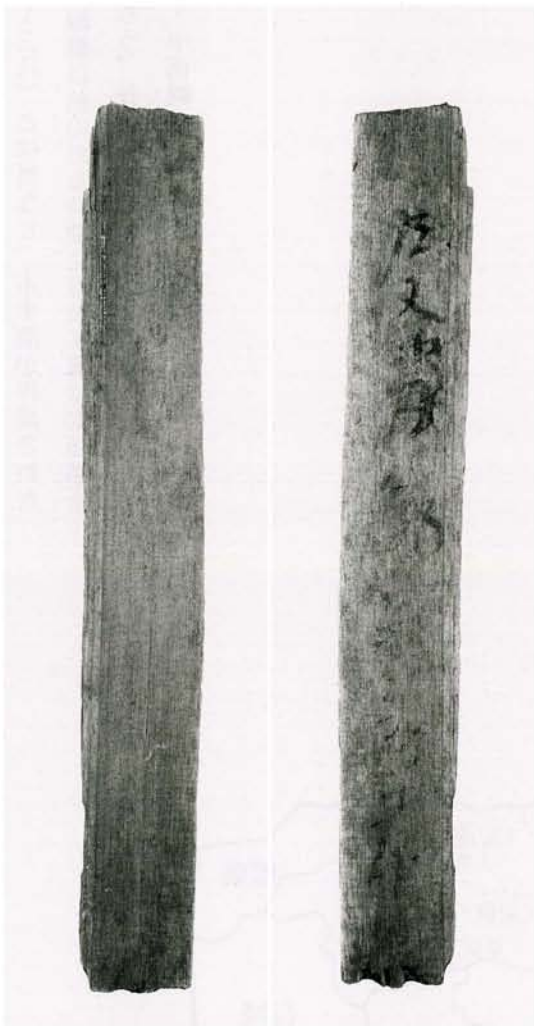
・「〈七月廿四日　」

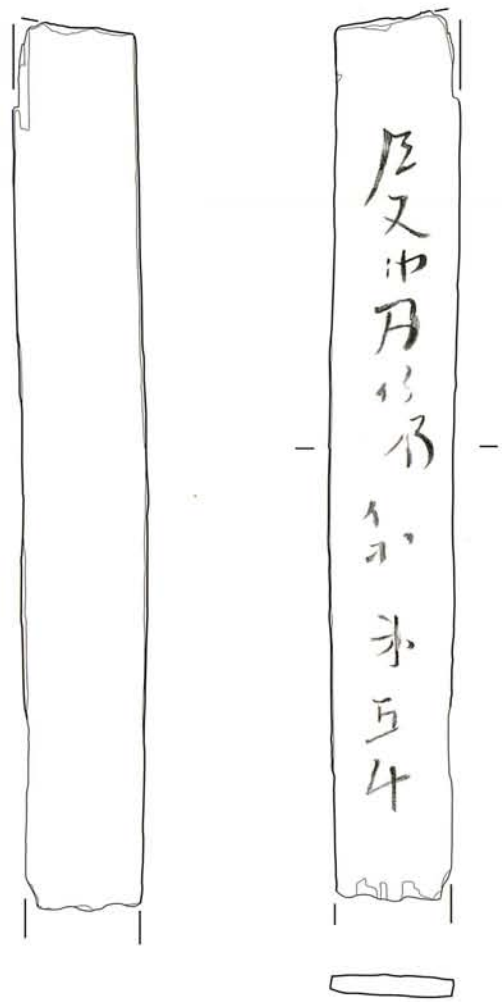
西〇道路西側溝ＳＤ二三八六ｂから出土した。西〇道路西側溝は六時期の変遷を確認したが、そのうち二時期目の側溝である。前後の側溝および木簡の年紀（第九六号―「□□〔天平カ〕宝字三年」、第七四号―延暦十九年）から、遺構の年代は八世紀後半と考えられる。

完形。右側面下は刃物を入れて切りおとしている。ウラ面は少々荒れているが、オモテ・ウラともに表面は平滑に調整されている。オモテ面上端は面取りしている。切り込みは、半円形にえぐるいわゆる「エグリ技法」によるものである。

安積郡長江郷から進上された米の荷札。オモテ面「郷」より下の字は三文字程度であり、「嶌部□」「□鳥部」などの可能性もあるが、断定は難しい。ウラ面には進上の月日が記載されている。

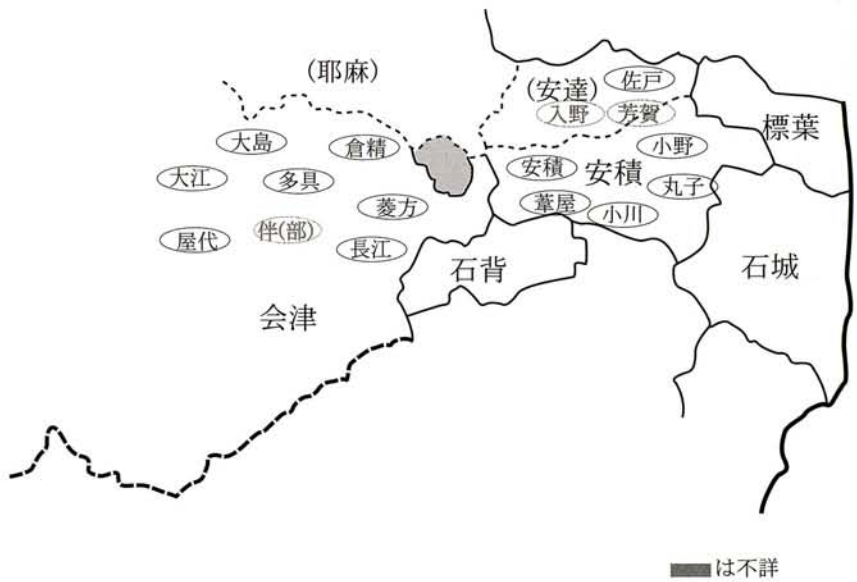
『和名類聚抄』によれば、長江郷は安積郡ではなく、会津郡の管郷である。そもそも安積郡を含む会津地域は、郡郷編成に数度の変遷がある。『続日本紀』によれば養老二年（七一八）の石背国設置により陸奥国から分置され、その後数年で陸奥国に再併合されている。また、延喜六年（九〇六）正月、安積郡北部（入野・佐戸）を安達郡として独立させたとされる（『延喜式民部省頭注』）。ただし、『和名抄』（承平年間＝九三一～三八編纂）諸本には反映されていない。さらに、『和名抄』高山寺本は入野・佐戸両郷を耶麻郡所属にするなど相違が見られる。





第63号木簡

会津地方の郡郷編成に混乱があったのかもしれない。よって、『和名抄』編纂時（承平年間＝九三一～三八）とは異なり、本木簡が作成された時期、すなわち、『和名抄』編纂以前のある時期には長江郷は安積郡所属だったと考えられるであろう。長江郷は、会津地方南部、現在の下郷町弥五島・大沢・湯野上・小沼崎から会津若松市大戸町上三寄にかけての地域に比定される。



会津・安積郡内諸郷位置図

第64号木簡

第六五号木簡　199×22×5　032　SX2459

〔六カ〕
「〈色麻郡米□斗　」

完形。オモテ・ウラともに表面を平滑に調整している。

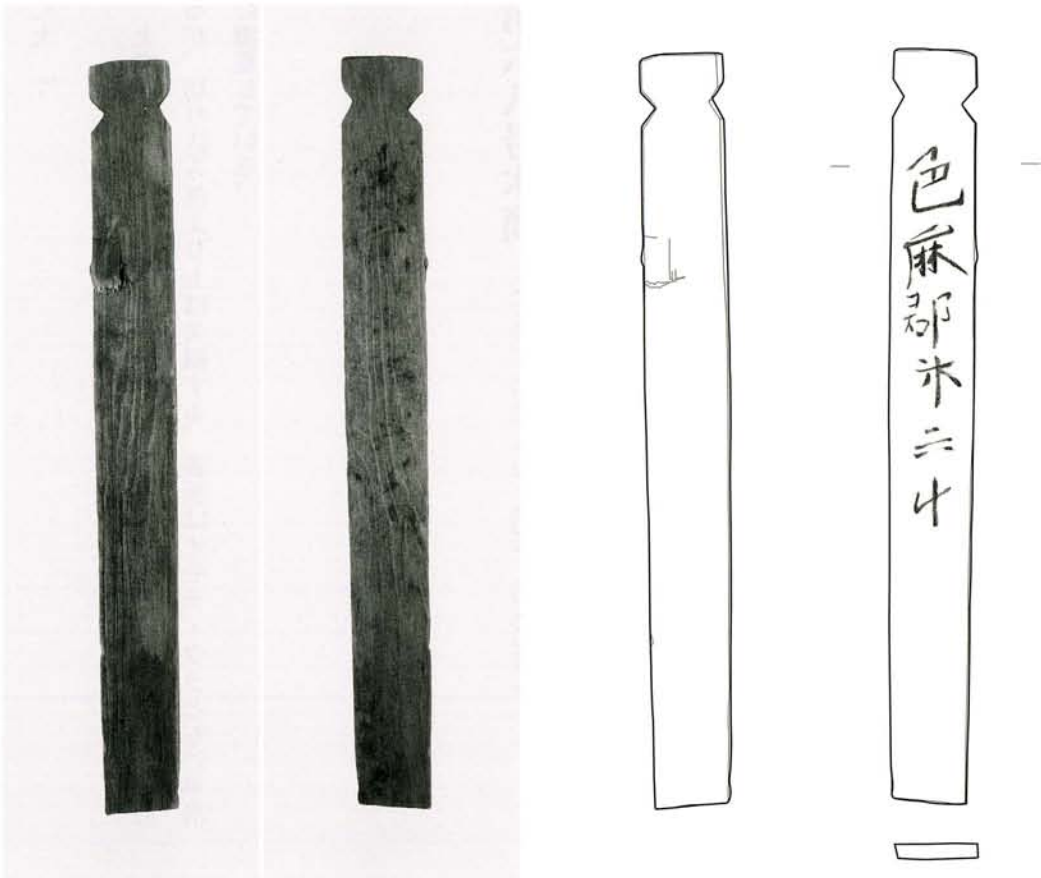
色麻郡から進上された米の付札。数量は「三」にも似るが、運筆からは「六」の可能性が高い。色麻郡は、現在の宮城県加美郡中新田町（現・加美町）付近に比定されている。

第六六号木簡　143×30×6　031　SD2386b

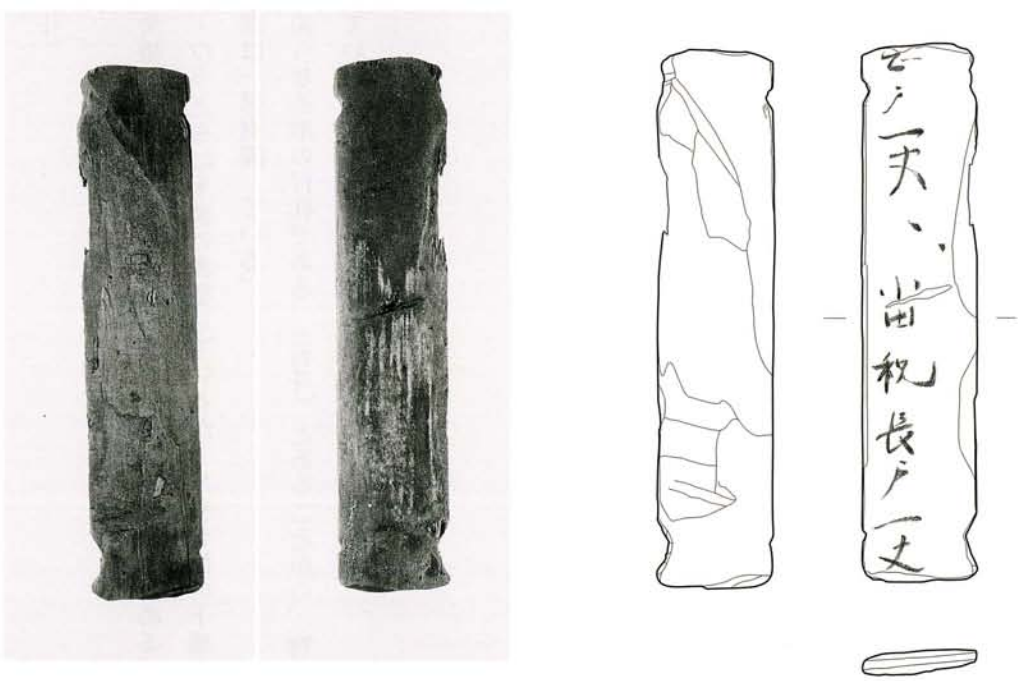
〔小田カ〕
「〈□戸一丈□□□□税長戸一丈〉」

完形。ただし、左側面は一部欠損している。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整しているが、ウラ面はそのほとんどが粗く削られている。粗い削りが二次的成形か否かについては不明とせざるを得ない。

墨書はオモテ面にのみ確認することができる。



第65号木簡



第66号木簡

第六七号木簡　(83)×24×5　032　SD2459

〈大　」

上端は欠損し、下端は原形をとどめる。左右両側面は原形をとどめるが、切り込み部より上は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

第六八号木簡　(124)×(10)×3　032　SD2386b

〈□□□万□

材の腐食が甚だしい。上端は欠損するが、下端および左右両側面は原形をとどめる。ただし、左右両側面ともに切り込み部より上は欠損している。表面は荒れているが、平滑に調整している。

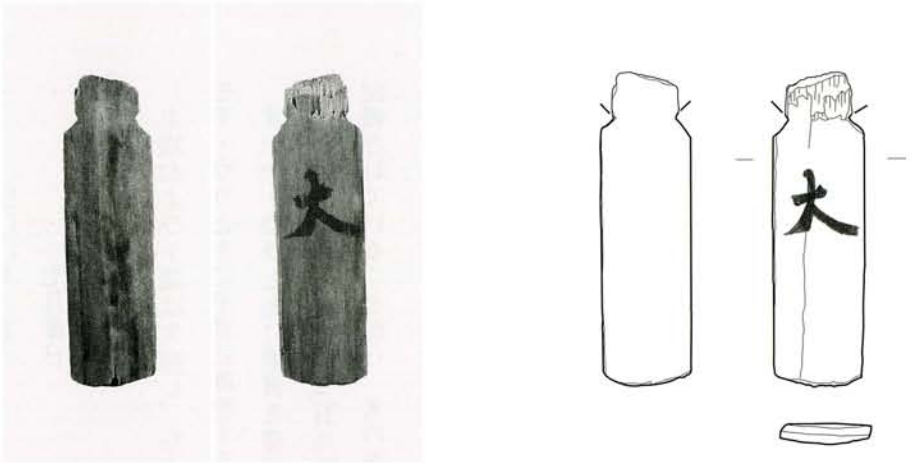
物品の付け札。

第六九号木簡　(75)×26×3　059　SD2386b

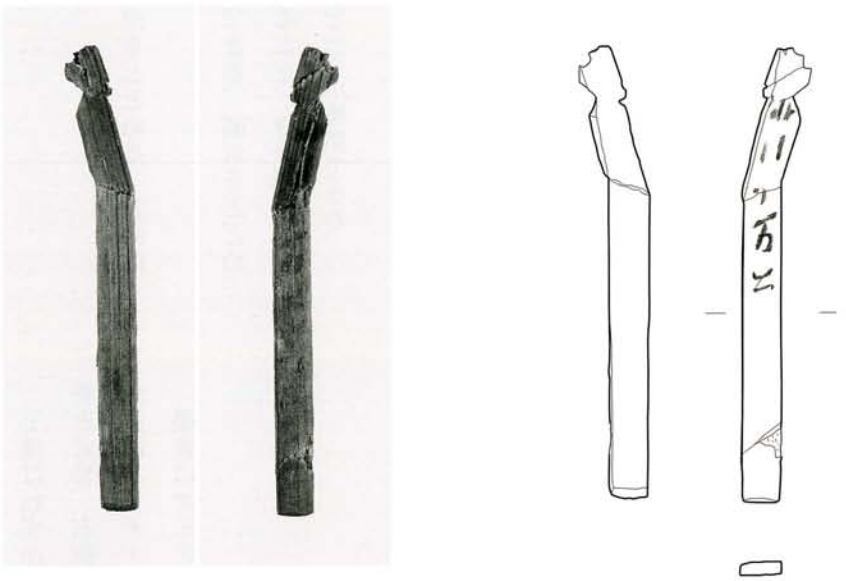
□万呂五斗」

上端は欠損するが、下端および左右両側面は原形をとどめる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整しているが、オモテ面の下部および裏面の上部は一部剥離している。

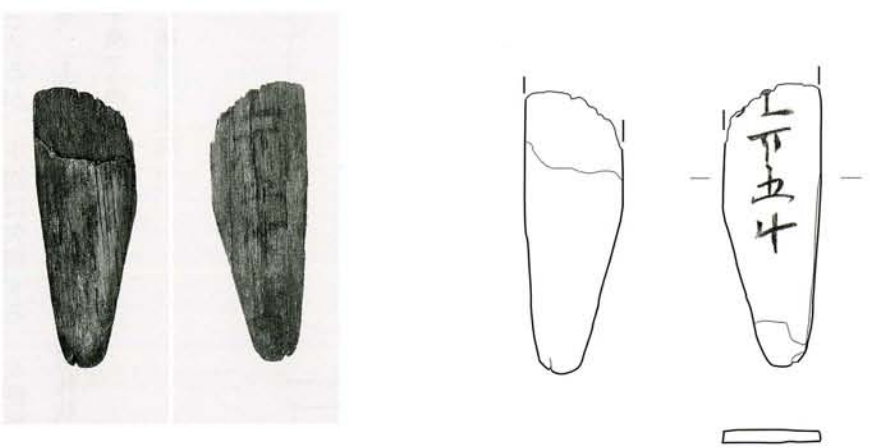
下端を尖らせる形の付札である。「五斗」とあることから、物品名は記載されていないが米であろう。



第67号木簡



第68号木簡



第69号木簡

第七〇号木簡　(185)×16×5　081　SD2386b

・　〔石カ〕
　　□□□角　五斗
・　　七月卅日

上端および下端は欠損し、左右両側面は原形をとどめる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整する。

オモテ・ウラともに墨書を確認することができる。原形をとどめてはいないが、オモテ面に「五斗」の記載があること、ウラ面に日付が記載されていることから、米の進上荷札であることが推測できる。

第七一号木簡　(102)×16×6　039　SD2386b

「〈

上端および左右両側面は原形をとどめ、下端が欠損する。ただし、左右両側面ともに切り込み部より上を欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

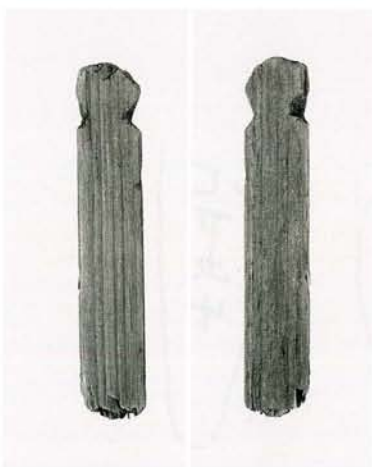
墨書はオモテ・ウラともに確認できない。

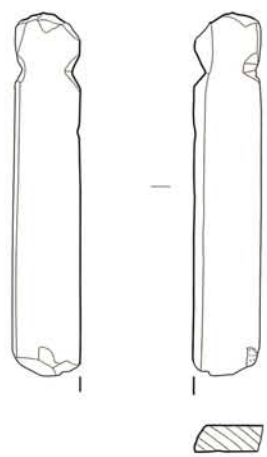
第七二号木簡　(96)×(18)×7　039　SD2386e

「〈

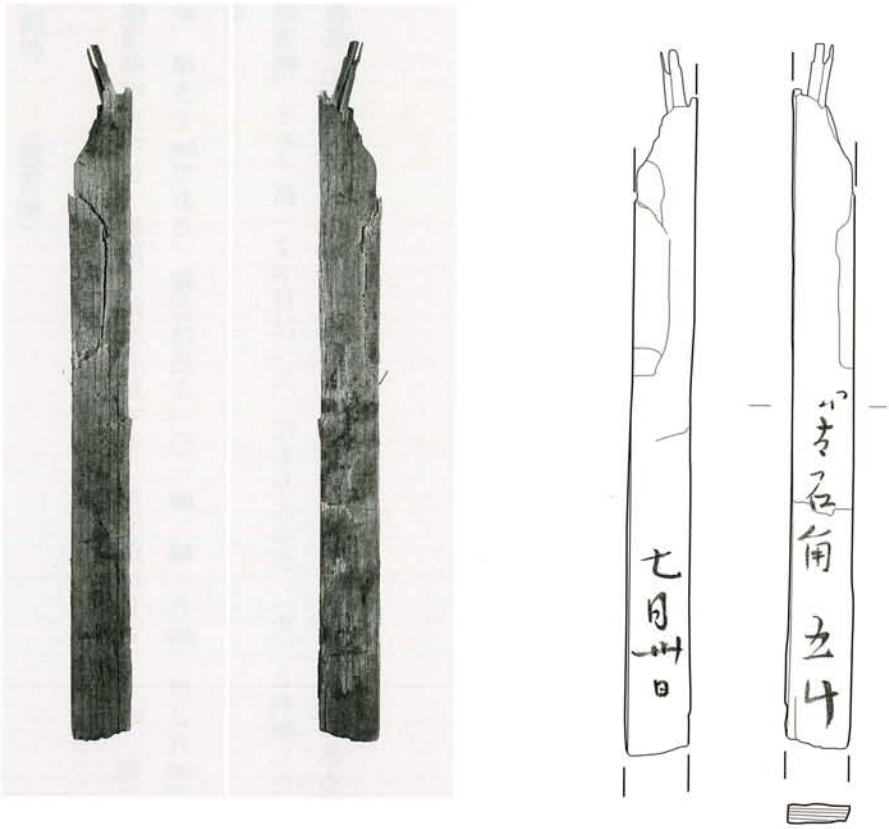
上端はわずかに原形をとどめるが、下端は欠損する。左側面は原形をとどめ、右側面は欠損する。上部に切り込みがあり、付札状である。表面はオモテ・ウラともに平滑である。

墨書はオモテ・ウラともに確認できない。

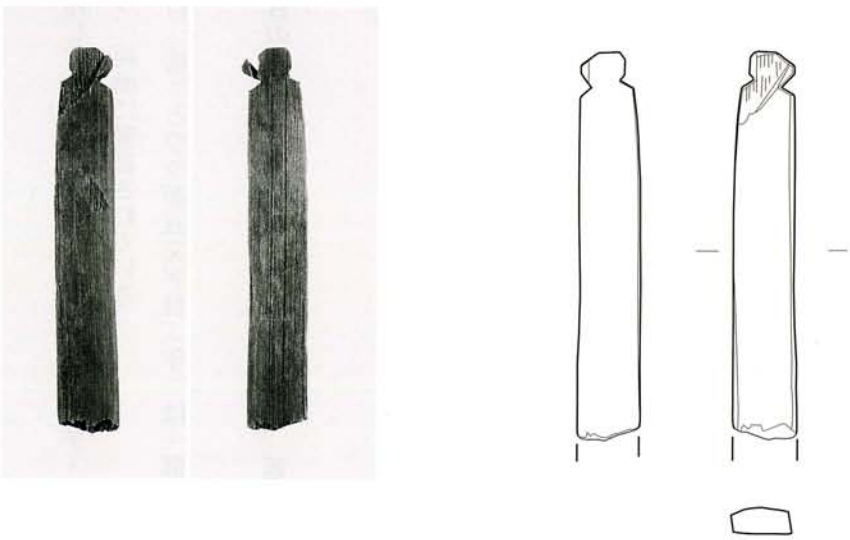




第72号木簡



第70号木簡



第71号木簡

第七三号木簡　(130)×26×9　061　SD2386b

・「失馬文
・「国判　　(題箋軸)

題箋部は完存し、軸部下端が欠損する。題箋部は長さ二九㎜、幅二六㎜、厚さ七㎜である。軸部は長さ一〇一㎜、幅一九㎜、厚さ九㎜である。

題箋軸。オモテ面一文字目は「矢」にもみえるが、「失」と判断した。文書名「失馬文」は六国史や「計会帳」などの諸史料には未見である。

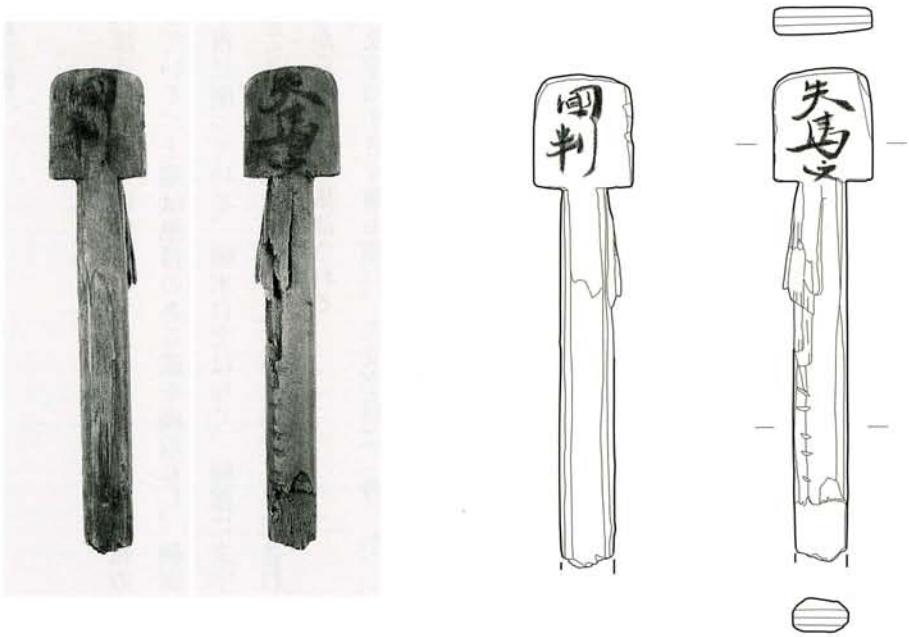
第七四号木簡　(133)×28×6　061　SD2386c

・「収納借貸正税貳
・「　　延暦十九年□　　(題箋軸)

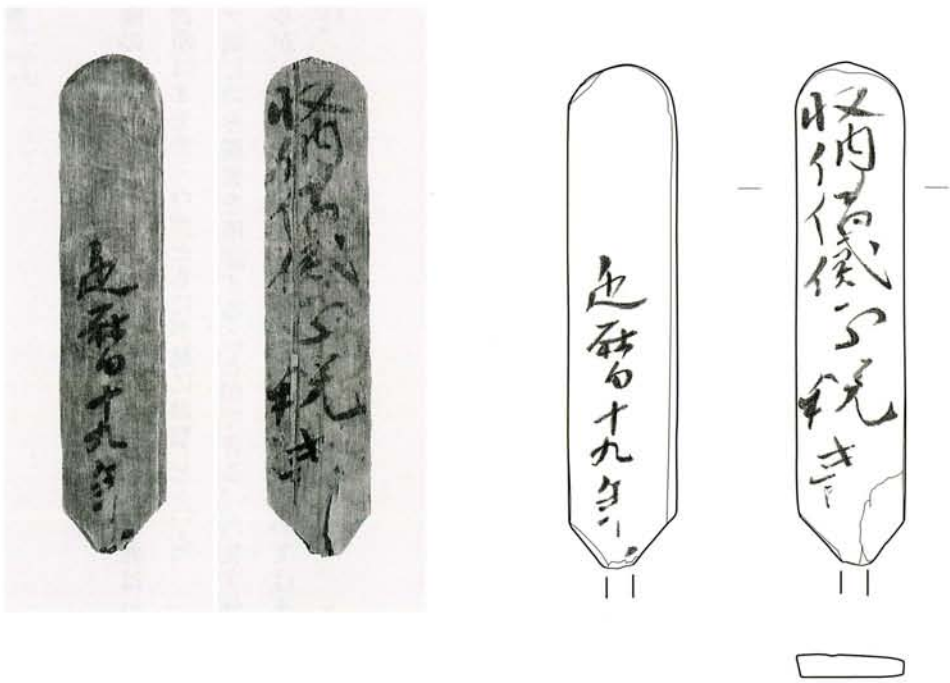
題箋部はほぼ完存し、軸部は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整しており、両面に墨書されている。

オモテ面七文字目「貳」とウラ面五文字目「年」は一部表面が削り取られている。

題箋軸。正税借貸の収納にかかわる文書の軸である。延暦十九年は八〇〇年にあたる。



第73号木簡



第74号木簡

第七五号木簡　(274)×11×11　061　SD2386b

〔券カ〕
「馬□　（題箋軸）

断面がほぼ正方形で、四隅をわずかに面取りした棒状の木簡。下端のみ欠損している。上端は墨書のある面を面取りし、側面は、四面とも表面を平滑に削っている。軸木口ではなく、軸部に文字を記した例は現在のところ見当たらないが、文字が上端近くに記されていることや形態などから題箋軸と推測される。

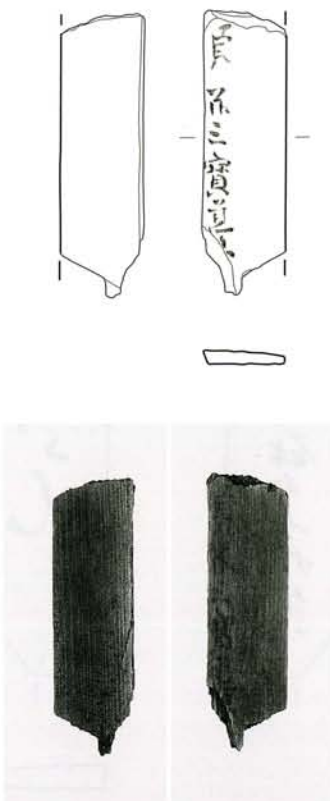
題箋軸。文字は小さく筆も細い。二文字目は「券」か。「馬券」という文書名は六国史や「計会帳」などの諸史料には未見である。

第七六号木簡　(75)×(22)×4　081　SD2386e

〔道カ〕
□□三寶□□

右側面のみ原形をとどめ、上端・下端および左側面はいずれも欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

オモテ面にのみ墨書を確認することができる。六文字分の墨書が確認できるが、その一部は左側が欠損し、詳細については不明とせざるを得ない。



第76号木簡

S=1/1

第75号木簡

第七七号木簡　(110)×(40)×4　081　SD2386g

・□□□
□□□
□□□□□　〔道ヵ〕
・□□□□□

右側面は原形をとどめるが、上端・下端および左側面は欠損する。表面はオモテ・ウラともに少々荒れているが、平滑に調整している。

オモテ・ウラで天地が逆に文字が書かれている。おそらく一連のものではなく、別々に記されたものであろう。

ウラ面の第二～四文字目までは、門構えの文字であることが確認でき、第五文字目も同じく門構えの文字である可能性が高い。ウラ面は、門構えの文字を習書したものか。

第七八号木簡　(98)×(19)×3　081　SD2386b

〔道道道ヵ〕
□□□□□

上端・下端および左右両側面いずれも欠損する。ただし、右側面上端は刃物により角を丸く調整したことが確認できることから、二次的な成形であると推測される。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

文字はオモテ面にのみ確認できる。半截されているため詳細は不明であるが、二～四文字目は同字で「道」に似る。右側面上端の調整痕跡のある部分にも墨痕を確認することができる。この墨痕は切られているため、本木簡は木簡として使用された後何らかの材に転用された可能性がある。

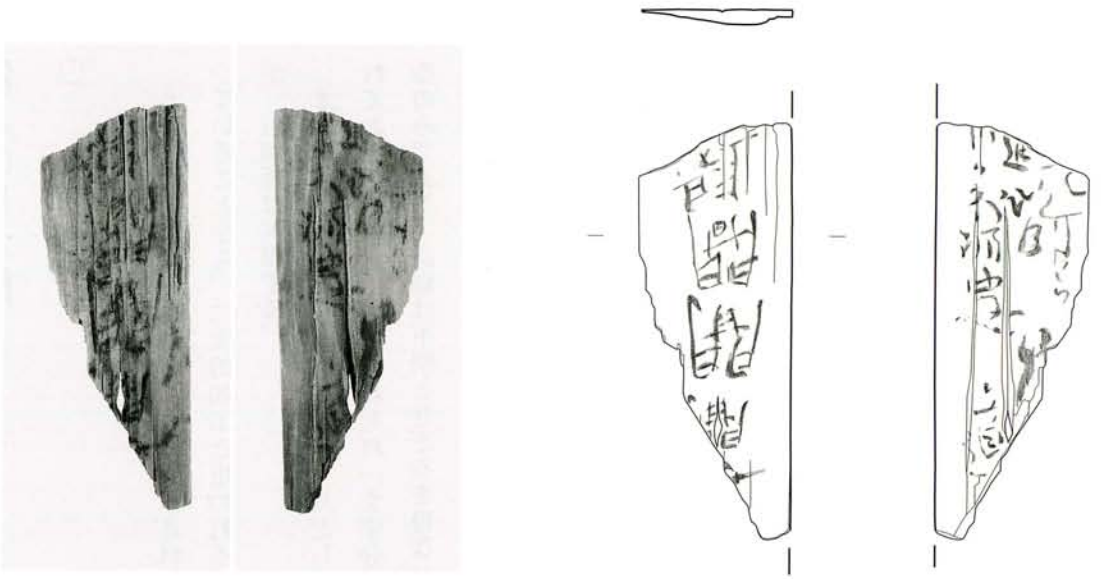
第七九号木簡　(73)×22×4　081　SD2386b

〔大ヵ〕
・□
『□　□　□』

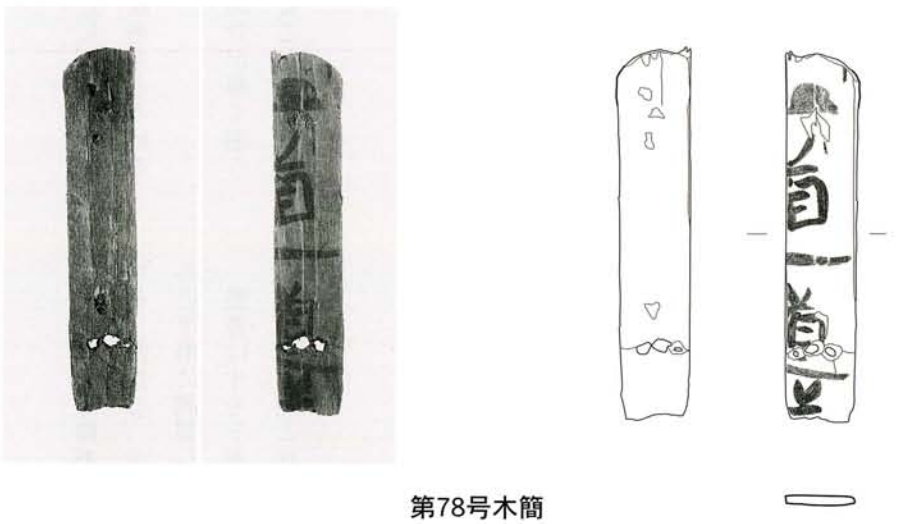
・　『□』
〔大ヵ〕
□　大

上端・下端ともに欠損する。左右両側面は刃物を入れ調整している。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

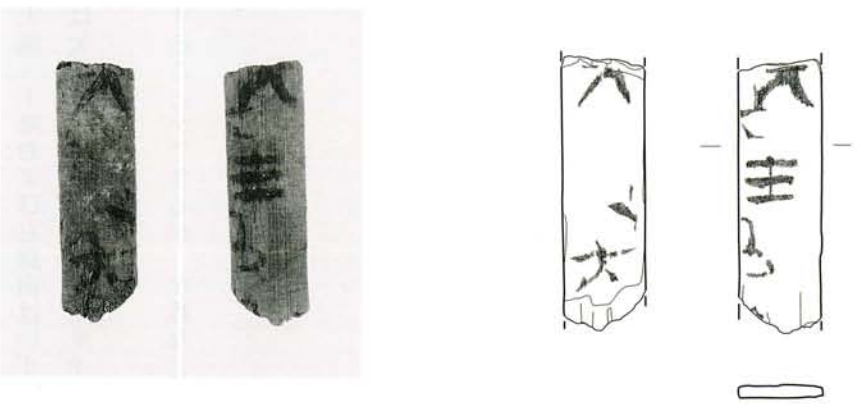
墨書は、濃いものと薄いものとの二種類が認められる。薄いものについては半截されており、右半分のみが残る。薄い墨書が書かれ、不要になった後に転用され、濃い墨書が書かれたか。左右両側面は、転用時に成形された可能性がある。



第77号木簡



第78号木簡



第79号木簡

第八〇号木簡　(60)×17×1　081　SD2386e

□　□」

上端は欠損し、下端は円弧状に成形されている。ただし、文字を切っていることから、二次的加工と思われる。左側面は原形をとどめるが、右側面は欠損する。

オモテ面のみ墨痕が確認できる。ただし、表面の大部分が薄く削られており、上方と下方にそれぞれ一文字分の墨痕であることが判明するのみであり、詳細は不明とせざるを得ない。

第八一号木簡　(101)×16×1　081　SD2386b

・　□
・　□

上端・下端はともに欠損する。左右両側面はいずれも一部欠損するものの原形をとどめる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

墨書はオモテ・ウラともに確認できる。ただし墨書部分は半分欠損しており、文字の判読は困難である。また、オモテ・ウラ関係も不明である。

第八二号木簡　(198)×(13)×2　081　SD2386e

□□

左側面のみ原形をとどめ、上端・下端および右側面はいずれも欠損する。ただし、左側面も上部は欠損している。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

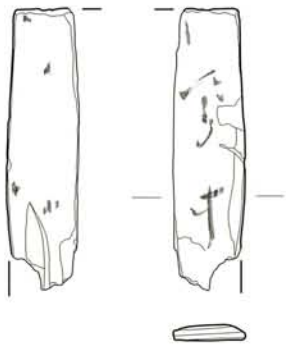
墨書はオモテ面にのみ確認することができるが、字数などの詳細については不明とせざるを得ない。

第八三号木簡　(75)×(19)×4　081　SD2386b

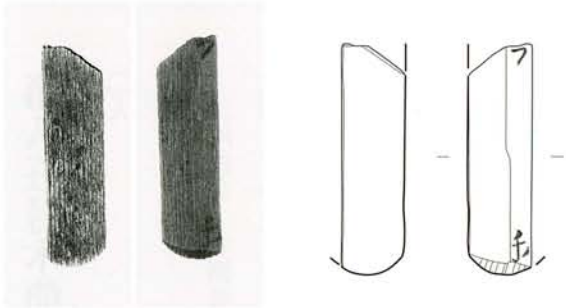
・□□
・□□

上端のみ原形をとどめ、それ以外は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

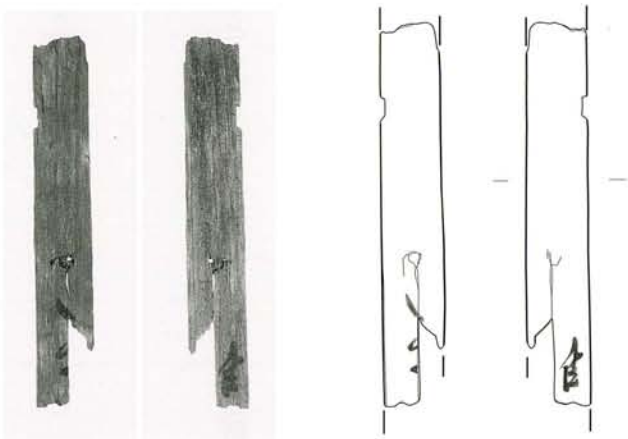
墨書は両面に確認できるが、文字数をはじめとする詳細については不明である。



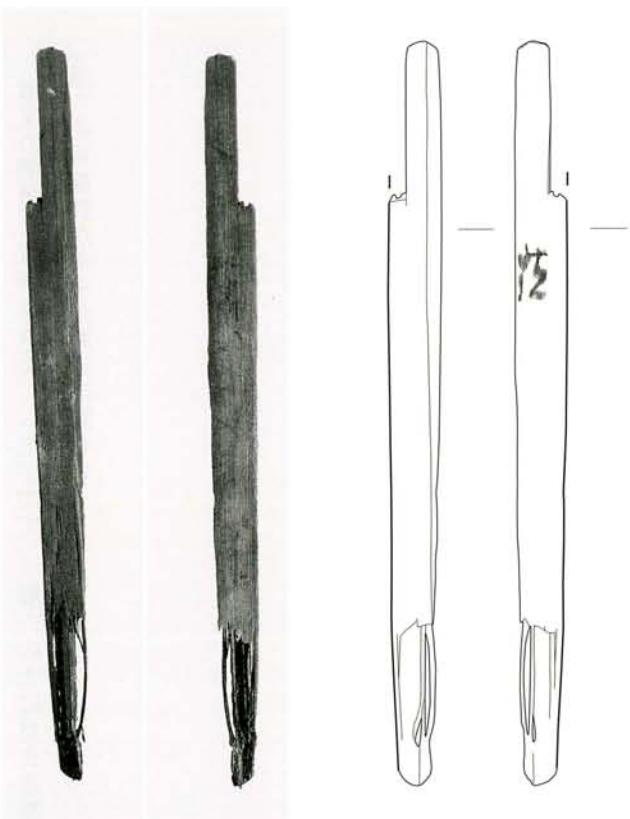
第83号木簡



第80号木簡



第81号木簡



第82号木簡

第八四号木簡　(132)×15×4　019　SD2386c

□□

上端および下端は欠損するが、左右両側面は原形をとどめる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

オモテ面にのみ墨痕を確認することができる。しかし、文字の天地や字数などは判然としない。

第八五号木簡　(40)×(14)×3　081　SD2386g

□人

二片接合。右側面は原形をとどめるが、上端・下端および左側面は欠損している。

二文字分の墨書が確認できるが、詳細は不明である。

第八六号木簡　091　SD2386b

□解

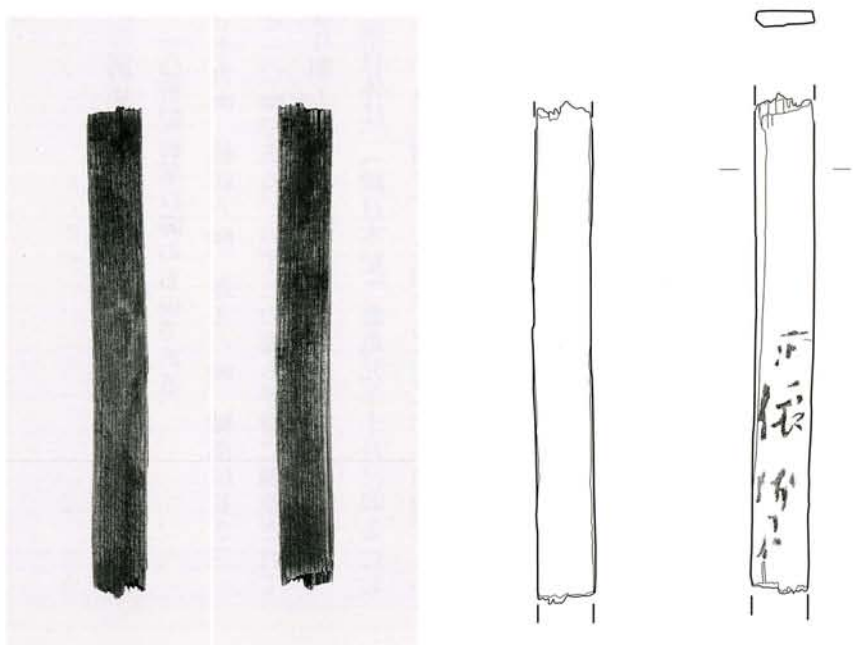
二片接合。ほかに四片の削屑があり、うち二片に墨痕が認められるが、直接接合はしない。

解文の削屑と推測される。したがって、「解」の上に見える墨痕は「謹」の可能性があるが断定は難しい。

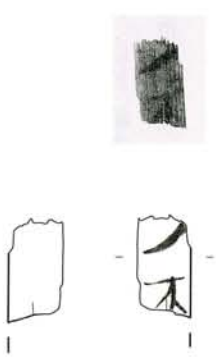
第八七号木簡　091　SD2386b

□□

二文字分の墨痕が確認できる。



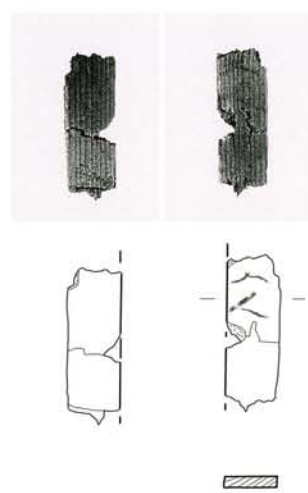
第84号木簡



第87号木簡

S=1/1

第86号木簡



第85号木簡

第八八号木簡

396×46×10　061　SD1703f

・「精好」
・「精好」　（題箋軸）

西一道路ＳＸ一七〇三のＦ期西側溝から出土した。Ｆ期は灰白色火山灰降下以降であり、一〇世紀前葉以降のものである。

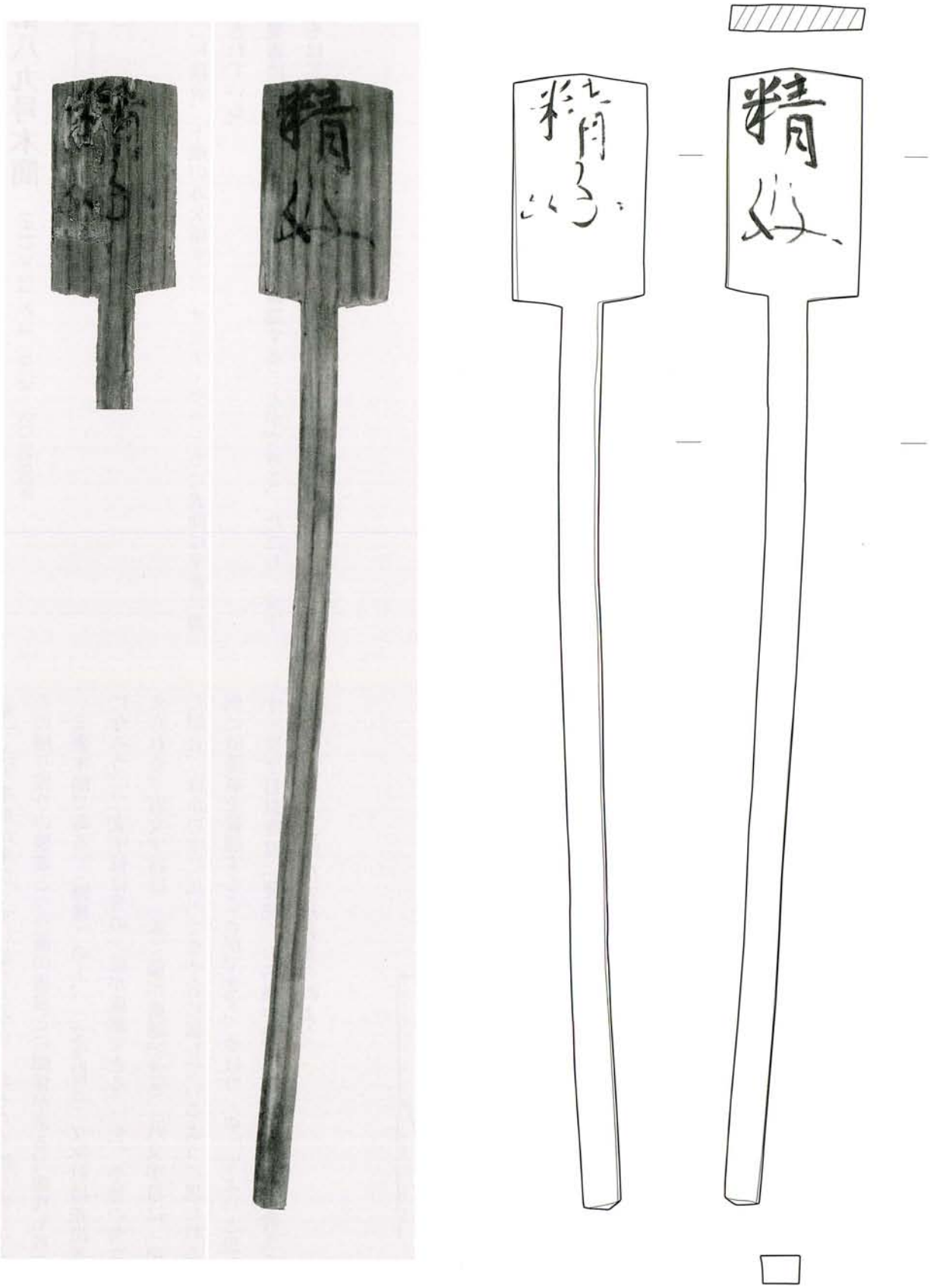
完形。題箋部は長さ七九㎜、幅四六㎜、厚さ八㎜、軸部は長さ三一七㎜、幅一三㎜、厚さ一〇㎜である。いずれの面も平滑に調整されている。軸部下端は面取り加工されている。

題箋軸。「精好」の語自体は、『続日本紀』霊亀元年十月己卯条において、粟を「於二諸穀中一、最是精好。」と述べるように、「精密でよいこと。また出来ばえの美しいこと。」などの意をもつ（『大漢和辞典』より）。ただし、「精好」の語は、良質な絹を述べる際に使用される例が多く見受けられる。たとえば、『尾張国郡司百姓等解文』第六条（永延二年―九八八）では、尾張国守藤原元命が、「当国の美糸」を私用し、「他国の麁糸」を貢進に充てたことが記されているが、「亦至二于精好之生糸一者、責二取当国之美糸一、織二私用之綾羅一、買二上他国之麁糸一、備二貢官之例進一。（以下略）」とみえる。また、時期はすこし下るが、『左経記』長元七年（一〇三四）十二月十四日および十五日の両条では、陸奥国が貢納する絹について、述べられている。

十四日庚午、天晴。（中略）義賢申云。件解文長元六年料載二絹数一、今年料不レ載。仍問二其旨一之処、綱丁申云、所レ進之絹千二百疋也。而先例所レ進陸奥絹三百、他国絹三百也。是彼国絹難レ得也。仍半分以二代物一路次之間交易備也。為レ代之例。而此度絹、彼国絹三百、他国九百疋也。若依レ違二先例一不レ注二絹数一歟者、以二此旨一可レ申者。

十五日辛未、天晴。（中略）綱丁安信申云、彼国依二絹難一レ得、左右相構当国絹三百疋奉レ之。遣九百疋交二易隣国一所レ奉也者。仰、解文付二頭弁一可レ令レ奏。但於レ絹者、雖二当国絹一疎悪者可二返給一也。雖二他国一於レ宜者可レ納也者。

この記事によれば、陸奥国の貢納する絹の粗悪化が進んでいること、その場合は他国の良質な絹を代わりに納めていること、その際各年の絹の数を記載した「去今両年絹解文」が提出されることなどがうかがえる。絹の粗悪化が深刻な事態に至っていることは、陸奥国においても例外ではなかったことが確認できよう。本木簡「精好」も、十世紀前葉以降の絹に関する文書の題箋軸と考えてよいであろう。



第88号木簡

第八九号木簡　(91)×21×3　019　SD1962a

・「□□□
・「　□□

二片接合。下端のみ欠損する。オモテ・ウラともに表面は平滑に調整されている。

墨書は、オモテ・ウラ両面に確認することができる。ただし、文字数をはじめとして詳細については不明とせざるを得ない。

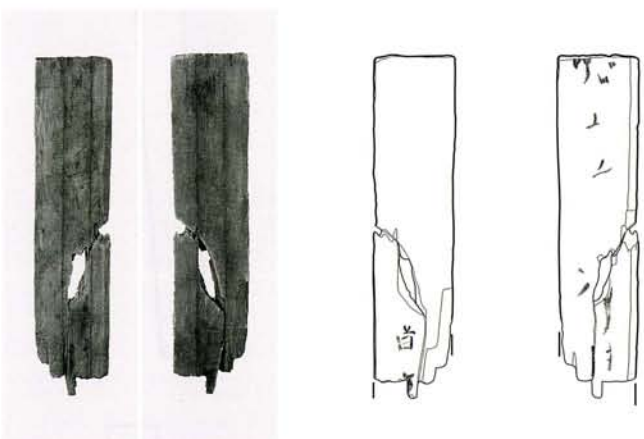
第九〇号木簡　(342)×22×7　019　SX2479

・「莫□謹牒□宣捧申便使□□□知下□□
・「■■□　□□□□

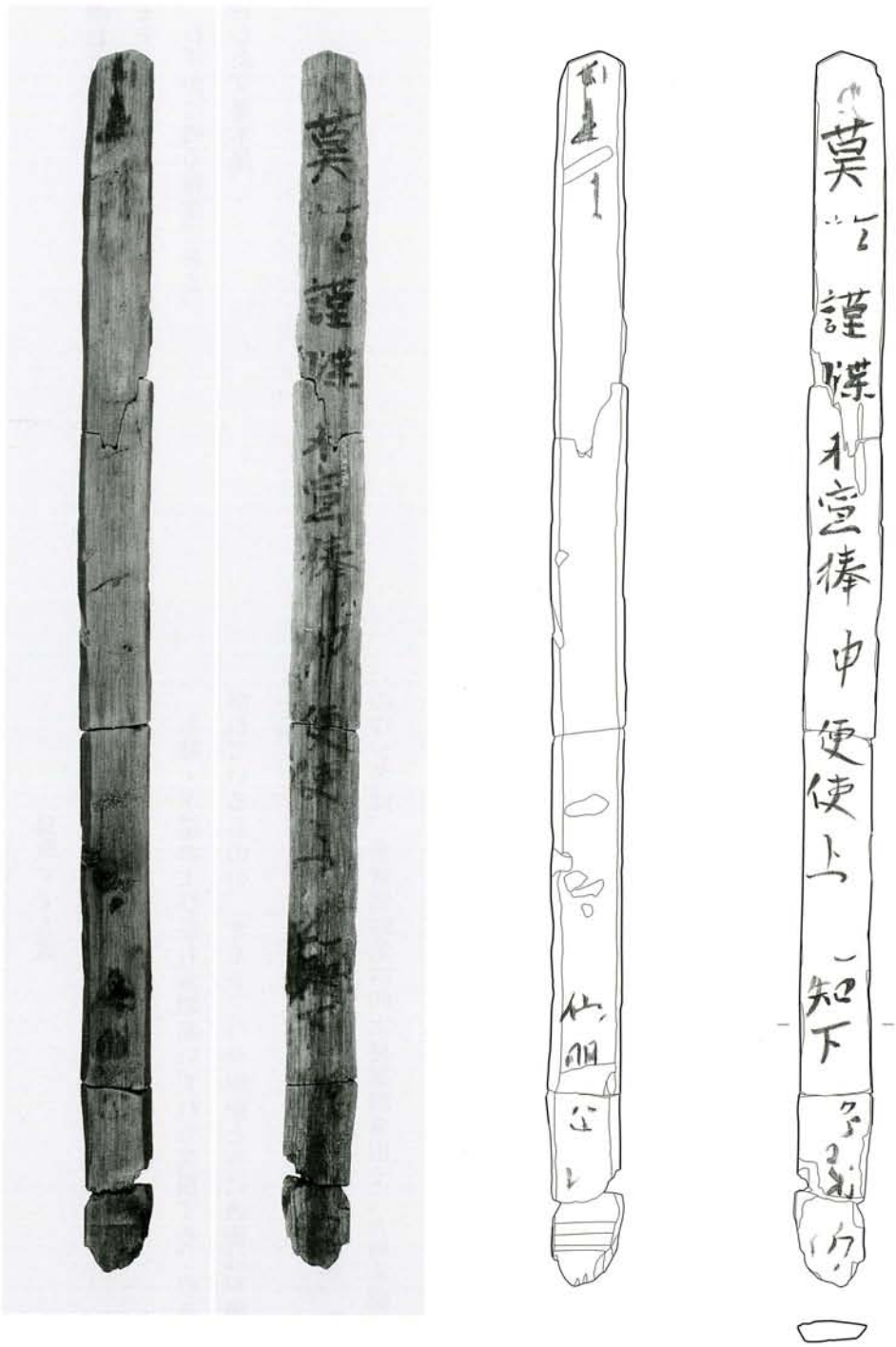
五片接合。上端および左右両側面は原形をとどめるが、下端は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑であるが、ウラ面は一部削られている。

墨書は、オモテ・ウラ両面に確認することができる。オモテとウラとの墨書の関係は不明である。なお、釈文および実測図には示していないが、オモテ面第一文字目「莫」の上に墨痕が確認できる。一部「莫」とも墨痕が重なっていることから、おそらく削り残りであろう。その削り残りの墨書とウラ面の墨書とに関係がある可能性も残る。

文書木簡である。「謹牒」の上、一文字目と二文字目は差出者の名前になろう。二文字目は旁の一部が確認できる。「乞」や於の旁などが考えられる。五文字目は「禾」偏が確認できる。八文字目は「申」と見た場合、ほかの字に比べてやや右に偏しているように思われるが、左側には墨痕を確認することができず、やはり「申」でよいと思われる。十一文字目以降は「便使」の名前が記されているものと考えられる。「上部」「上」「占」などが考えられよう。



第89号木簡



第90号木簡

第九一号木簡　(103)×28×3　019　SX1735A/B

□解　申進人□

二片接合。上端および下端は欠損するが、左右両側面は原形をとどめる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整しているが、ウラ面はほとんどが剥離し、わずかに残る程度である。

人の進上を報告した文書木簡。

第九二号木簡　84×15×3　011　SX2101B

「算取人田太部富得」

完形。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

墨書はオモテ面のみ確認できる。職名＋人名の記録簡である。「算取人」は六国史等には未見。

第九三号木簡　(111)×(46)×3　081　SX2365

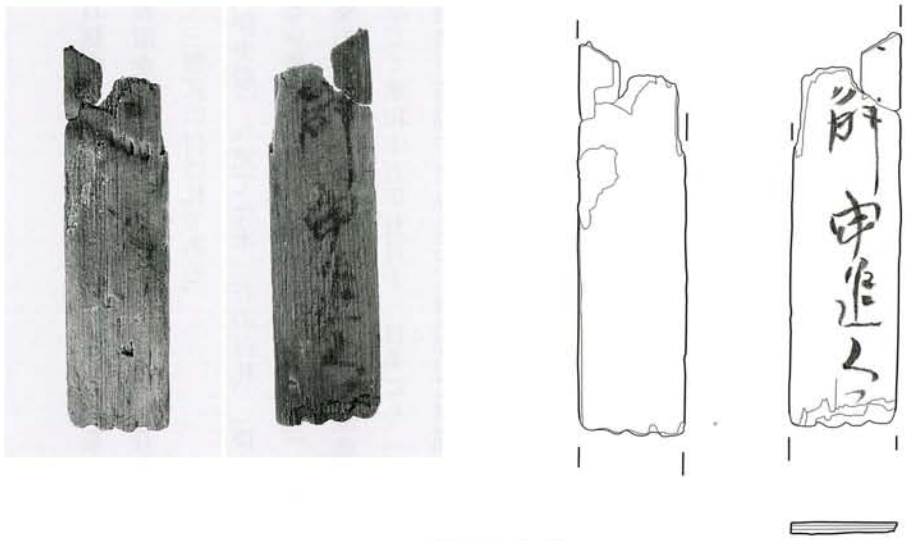
□□□

鳥取マ子人成

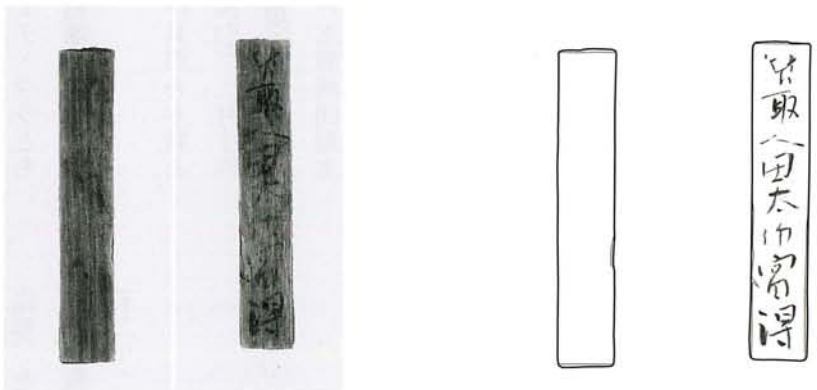
□升五合　鳥取マ稲人□

上端・下端および左右両側面いずれも欠損する。ウラ面の一部が剥がれているものの、オモテ・ウラ両面ともに表面は平滑に調整されている。

物品の数量単位と人名が確認できる。食料支給簿か。なお、「鳥取部」のウジ名は、多賀城跡第四四次発掘調査出土二九号木簡にもみえる。



第91号木簡



第92号木簡

第93号木簡

第九四号木簡　142×24×6　033　SX1735B

「〈伊少穀一石」

右側面下部が欠損するほかは、原形をとどめる。オモテ・ウラともに表面を平滑に削っている。左右に切り込みがあり、他端を尖らせる○三三型式の付け札である。

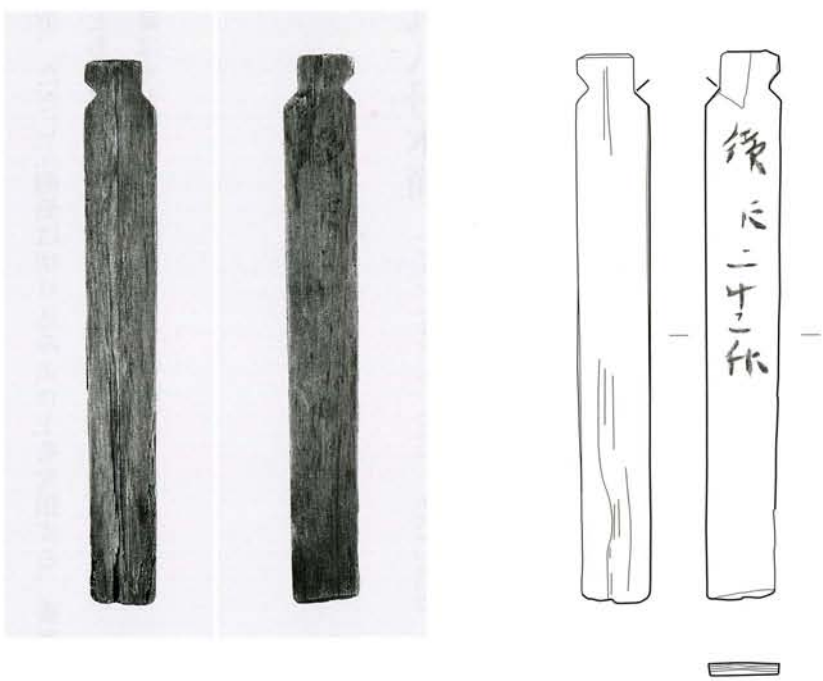
「伊少穀」へ充てた米一石の付札。「伊少穀」とは、伊具郡を本貫とする少穀のことであろう。『続日本後紀』承和七年（八四〇）二月十六日条の賜姓記事では「伊具郡擬大穀陸奥真成等」と表現されている。おなじく承和十五年五月十三日条にも「伊具郡麻積郷戸主磐城団擬主帳陸奥臣善福」とみえる。軍穀名に軍団名を冠するのではなく、郡名を冠することが広く行われていたことをうかがうことができる。

第九五号木簡　145×19×4　032　SX2101A

「〈御米二斗二升　　」

完形。ただし、右側面下部と左側面切込み部より上を欠損する。表面は一部荒れているが、オモテ・ウラともに平滑に調整している。米二斗二升の付札である。

第94号木簡



第95号木簡

第九六号木簡　(104)×(21)×6　081　SX2379

・□壹　裏　百　串　」
〔天平カ〕
・□□寶字三年三月廿一日」

下端および左側面は原形をとどめる。上端は欠損しているが山形に成形されていたことが推測される。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

上端を尖らせた形の荷札である。オモテ面には物品と数量が記載されている。第一文字目は「月」偏のみ残る。第二文字から下は数量記載で、百串のものを一裏にし、その裏に付けた札である。一文字目は「腊」である可能性を指摘できよう。「腊」の単位としては、「串」のほか「斤」や「古（＝籠）」などが知られる。「串」が用いられた例としては、新潟県八幡林遺跡出土木簡や平城宮出土木簡がある。「平宍□串」（八幡林遺跡出土二四号木簡）「□宍一百串」（同二七号木簡）、「鹿脯卌串　上長」（『平城宮跡出土木簡概報（三一）』）などである。

ウラ面は貢進日が記載されている。「寶字」の上は墨痕がわずかに見える程度であるが、「天平」であろう。天平宝字三年は七五九年。

第九七号木簡　62×27×9　032　SX1735B

「〈　」

完形。ただし左側面は切り込みより上を欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

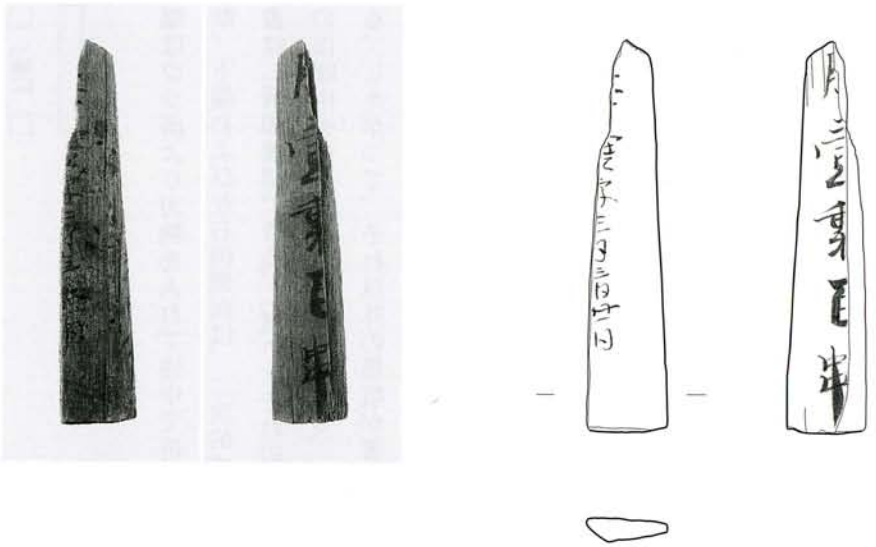
墨書はオモテ・ウラ両面ともに確認できない。

第九八号木簡　115×19×4　032　SX1735B

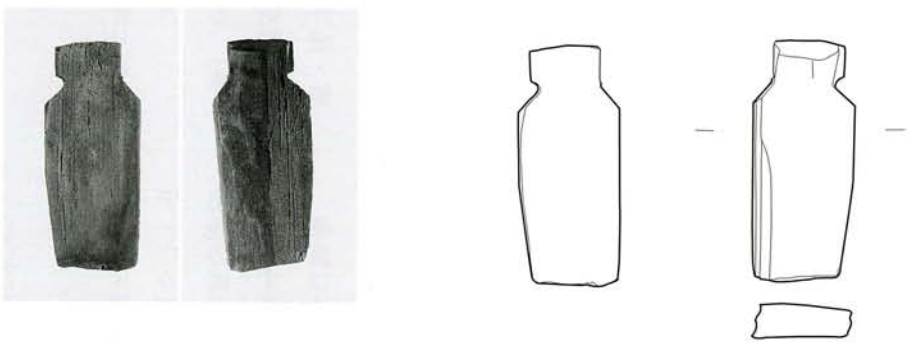
「〈　」

完形。ただし左側面は一部欠損している。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されているが、ウラ面の下半部は剥がれている。

墨書はオモテ・ウラ両面ともに確認できない。



第96号木簡



第97号木簡

第98号木簡

第九九号木簡　(114)×35×10　039　SX1812

・□□
□『無』□
・□□」

上端はウラ面より刃物を入れて途中で折る、いわゆるキリオリによる切断。下端および左右両側面は、二次的成形がなされている。

墨書は二種類確認できる。「無」とそれ以外の薄い墨書である。「無」は材のほぼ中央に書かれているのに対し、それ以外の墨痕は切断されている。したがって、それ以外の墨痕が書かれた木簡がまず作成・使用されて不要となった後に、成形されて「無」が記されたと考えられる。その際、オモテ面の表面をカットグラス状に削り取っていることも確認できる。また、下方左右両側面に切り込みのようなものが確認できる。最初に記された墨書よりも内側に見えることから、二次的成形時のものであると判断されるが、この切り込みが付札としての機能を持つものであるか否かについては不明である。

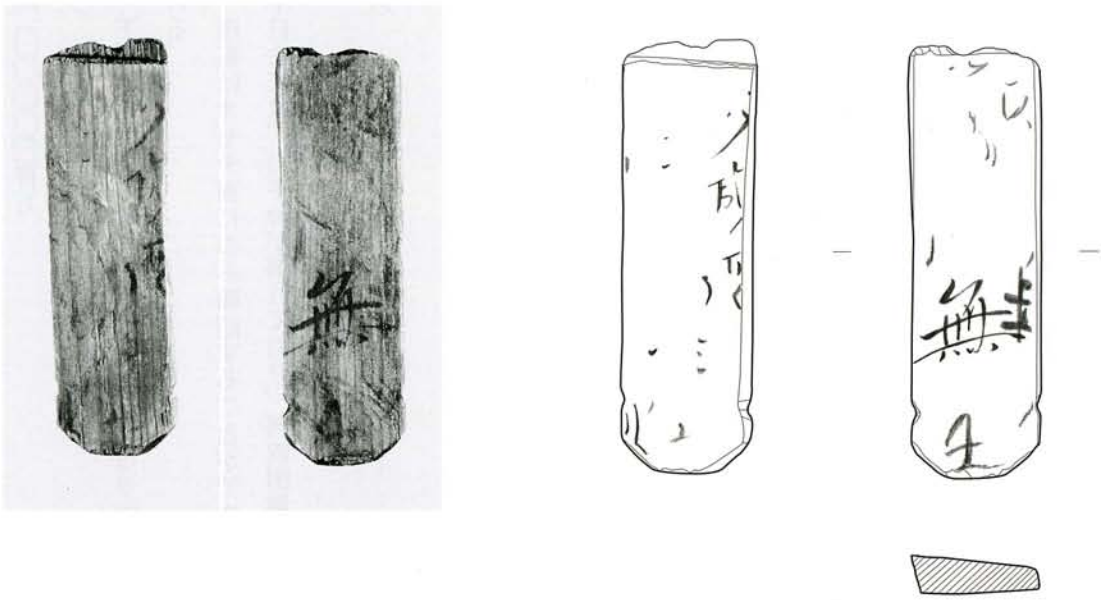
内容は、「無」一文字であるため、不明とせざるを得ない。

第一〇〇号木簡　195×(17)×4　065　SX2379

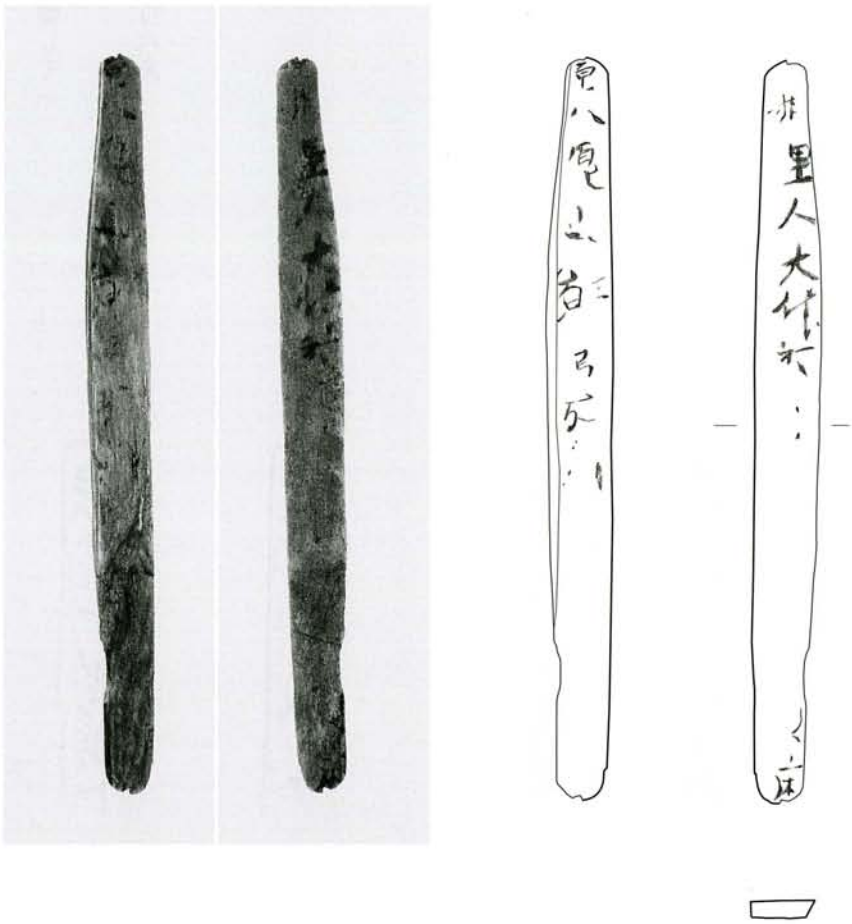
・□里人大伴部□　□□〔麻カ〕
・□□□□□□□

上端・下端ともに一部欠損するが丸く成形している。ただし、オモテ・ウラ両面に確認できる墨痕を両端ともに切っているため、木簡使用後の成形であると判断される。左側面は原形をとどめるが、右側面は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

墨書はオモテ・ウラともに確認できる。オモテ面に「大伴部」のウジ名が記されているが、人名が記されているのみで、オモテ・ウラの関係をはじめ、内容その他の詳細については不明とせざるを得ない。「大伴」氏は、弘仁十四年（八二三）、淳和天皇の諱大伴を避けて「伴」氏に改めている。オモテ面最下の文字は「麻」か。



第99号木簡



第100号木簡

第一〇一号木簡　(210)×35×10　019　SX2101A

「□□□□□□押万

下端のみ欠損する。表面はオモテ・ウラ両面ともに平滑に調整している。

墨痕はオモテ面にのみ確認することができる。第一文字目から六文字目までは、右半分が削れており、判読困難である。

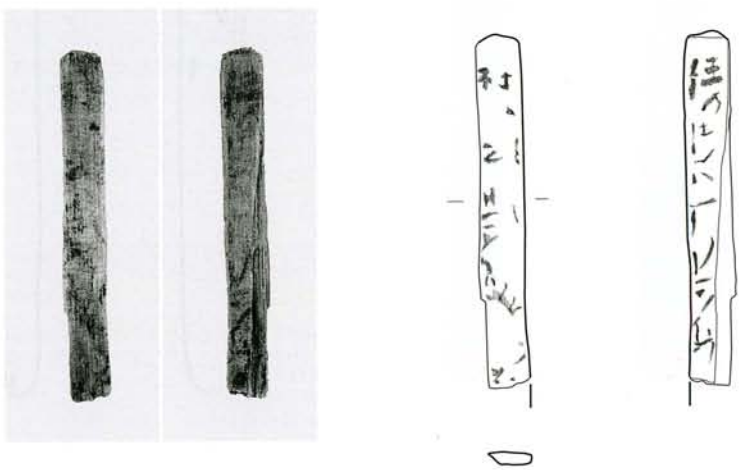
第一〇二号木簡　(94)×(12)×4　081　SX2101B

・「□□□□

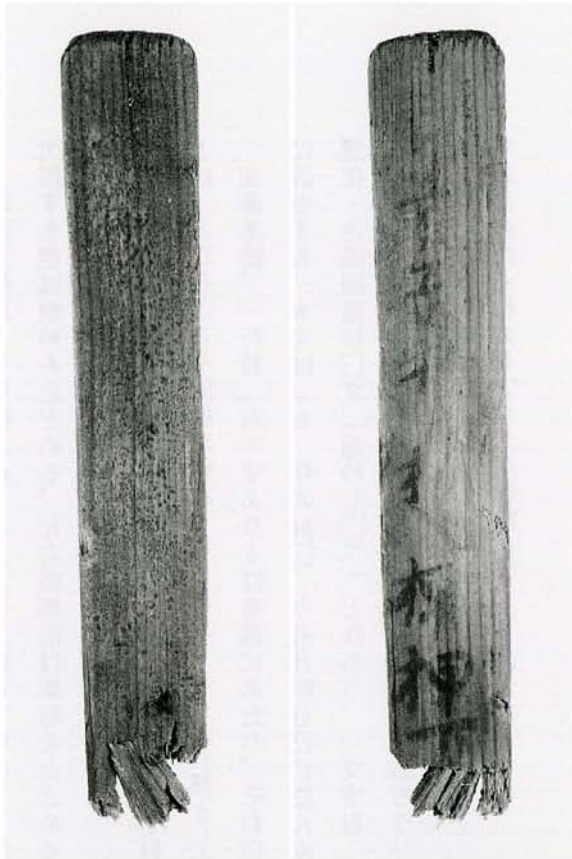
・「□□□□

上端および左側面は原形をとどめるが、下端および右側面は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整するが、オモテ面は一部欠損している。

墨書はオモテ・ウラともに確認できるが、字数その他の詳細は不明である。



第102号木簡



第101号木簡

第一〇三号木簡　(287)×34×8　081　SD2381

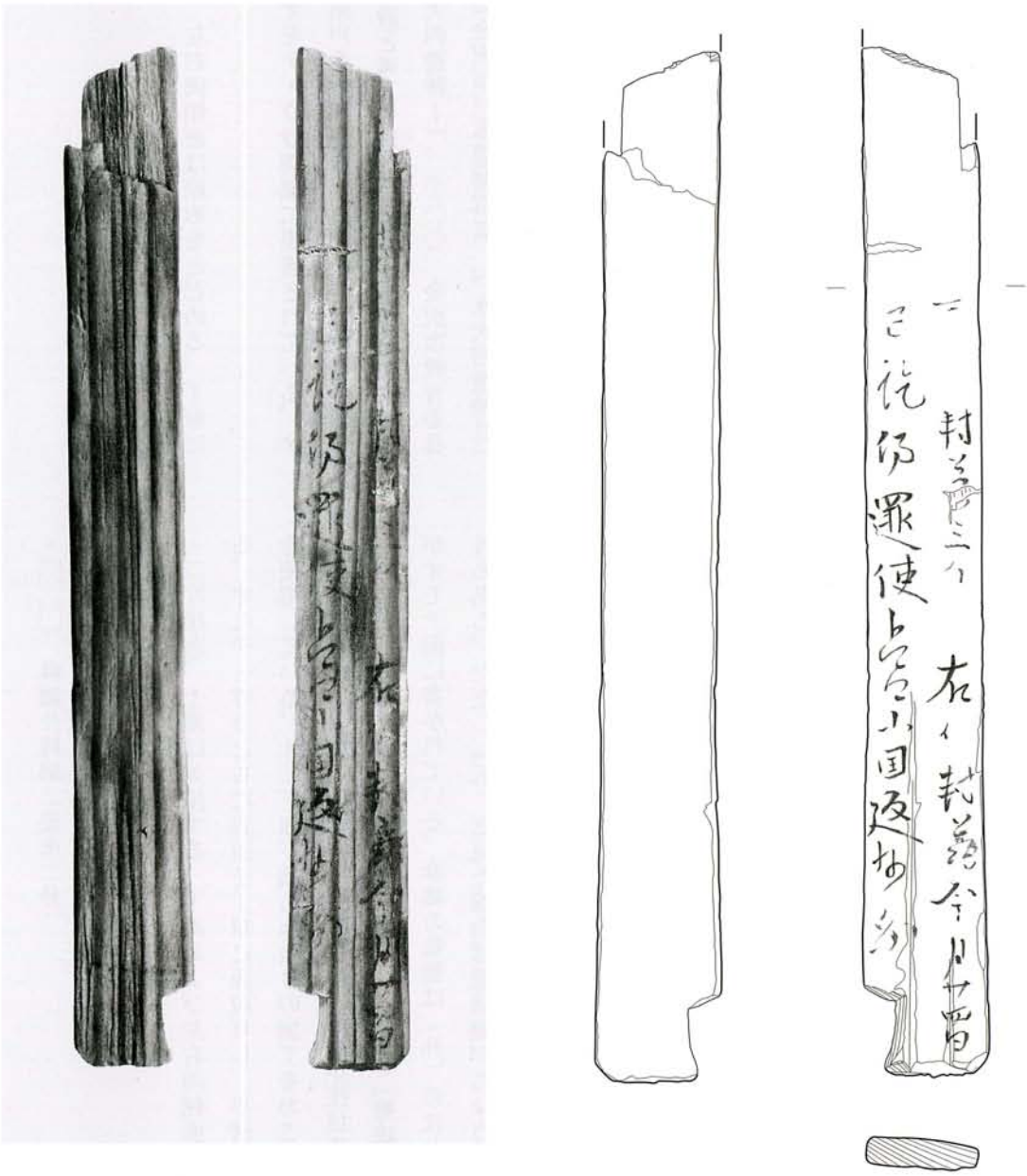
□□封□三□　　右件封□今月廿四日

〔已カ〕
□訖仍還使占マ小国返抄□　　」

上端は刃物により切断され、右上方を欠損している。下端は左隅を欠損する他は原形をとどめる。左右両側面は原形をとどめる。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整されている。

墨書は、オモテ面に二行確認することができる。一文字目「封」の上は、ところどころ墨痕を確認することができるが判然としない。

文書木簡。一行目「右」字より上は事書にあたり、それ以下は本文に該当する。本文は「右、件の封□、今月廿四日已に訖んぬ。仍って還使・占部国返抄□す（返抄し□）。」となろう。一文字目「封」の下の字と、七文字目「封」の下の字はおそらく同字であろう。残画からは「蔵」などが考えられるが、断定は難しい。なお「封蔵」は、「封じておさめたくわえる」（『大漢和辞典』）の意味を持つ。



103号木簡

第一〇四号木簡 (128)×16×8 081 SD2342d

・×年五月卅日舎人家宿買物
・　□□巻□

上端・下端ともに欠損する。左右両側面は原形をとどめる。丁寧に面取り加工した枝材である。

内容は、文書木簡である。オモテ・ウラ両面に墨書されている。オモテ面「舎人家宿」は、石川県戸水大西遺跡から出土した墨書土器の「宿家」が駅より格下の宿泊施設と考えられている（金沢市文化財紀要一六〇『戸水遺跡群Ⅱ　戸水大西遺跡Ⅰ』二〇〇〇、金沢市教育委員会。金沢市文化財紀要一七四『金沢市戸水遺跡群Ⅲ　戸水大西遺跡Ⅱ』二〇〇一、金沢市教育委員会）ことを参考にすれば、「舎人の宿家」のことかもしれない。

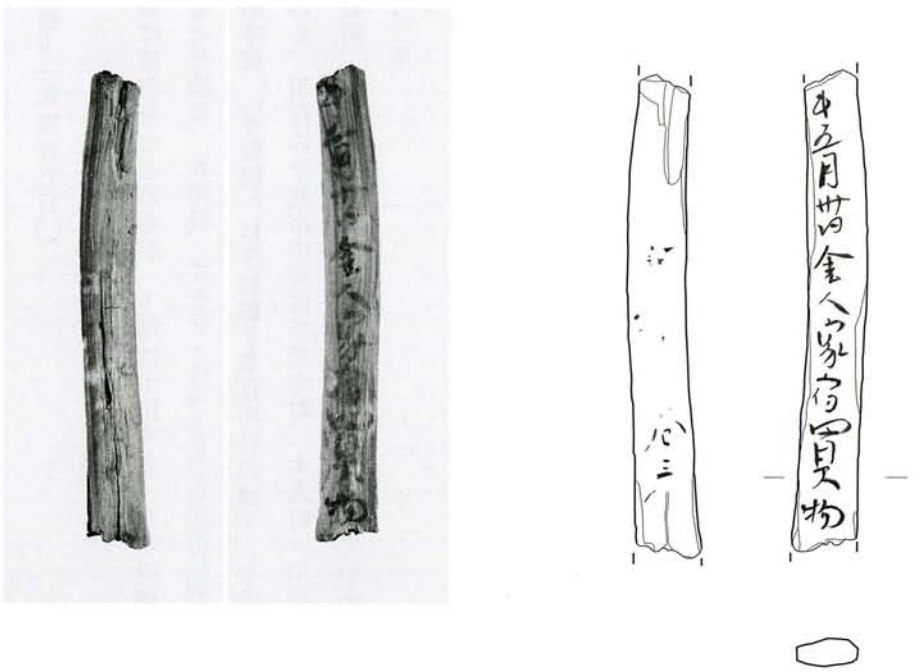
接合しないものの、同じく枝材を使用した第一〇五号木簡との関連性が注目される。

第一〇五号木簡 (150)×18×7 019 SX2451

・□□　麻綿廿袴綿二要米二升」
・　□巻　子　集　　」

二片接合。上端は欠損する。下端および左右両側面は原形をとどめる。オモテ・ウラともに表面を丁寧に面取りし、平滑に調整した枝材を使用している。オモテ面下端も面取りの加工をおこなっている。同じく枝材を使用した第一〇四号木簡との関連性が注目される。

物品名と数量を列記したものである。「麻綿」・「袴綿」・「米」の数量がオモテ面に書かれている。麻綿の数量は「廿」のほか、「五」の可能性もある。ただし「五」と見た場合は最終画がちょうど欠損部分に該当することもあり、確認できない。「袴綿」は、袴に用いる綿の意と解すれば、数量は「二」（単位記載なし）となろう。ただし、綿でできた袴という意味の「綿袴」が、「袴綿」と表記された可能性も指摘できるだろう。そのように考えれば、次の「要」字は袴の単位「腰・腰」と解釈できるかもしれない。ウラ面にも何らかの物品が記載されていたと見られ、数量単位「巻」が記されている。「子集」最後に記載されていることからは人名か。



104号木簡

105号木簡

第一〇六号木簡 (104)×17×2 019 SD2163B 1層

・「千葉郷　私馬矢五□
・「延暦十一年四月五日□

上端は原形をとどめるが、下端は欠損する。左右両側面はいずれも原形をとどめる。表面は、オモテ・ウラともに平滑に調整されている。

文書木簡。「千葉郷」は下総国千葉郡所在の郷で、千葉郡の郡家所在郷である。現在の千葉市中央区千葉寺町、大森町・川戸町付近（さらに浜野町、生実町を含める場合あり）に比定されている。延暦十一年は七九二年。

第一〇七号木簡 (79)×(30)×4 032 SD2386g

□□□ ＜
十　十口

上端・下端および左右両側面いずれも欠損する。ただし、右側面下方にキリカキ痕を確認することができる。表面については、オモテ面が平滑に調整されていることを確認することができるが、ウラ面は剥離している。

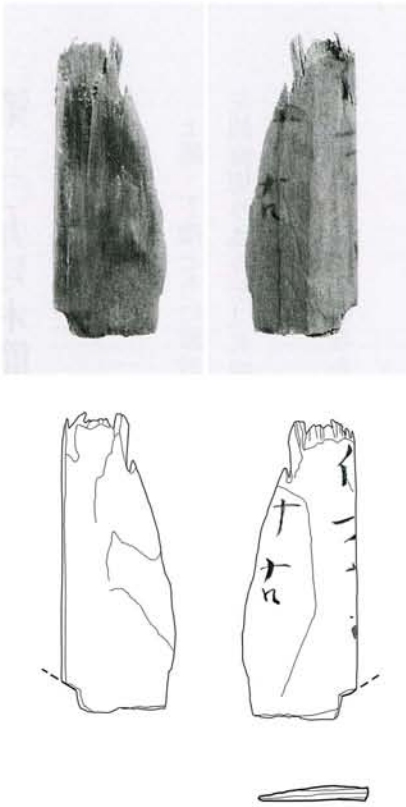
墨書は、オモテ面に二行にわたって確認することができる。キリカキがあることから、付札か。そのように考えれば、「十口」は、物品の数量か。

第一〇八号木簡 201×26×4 032 SX2451

「＜

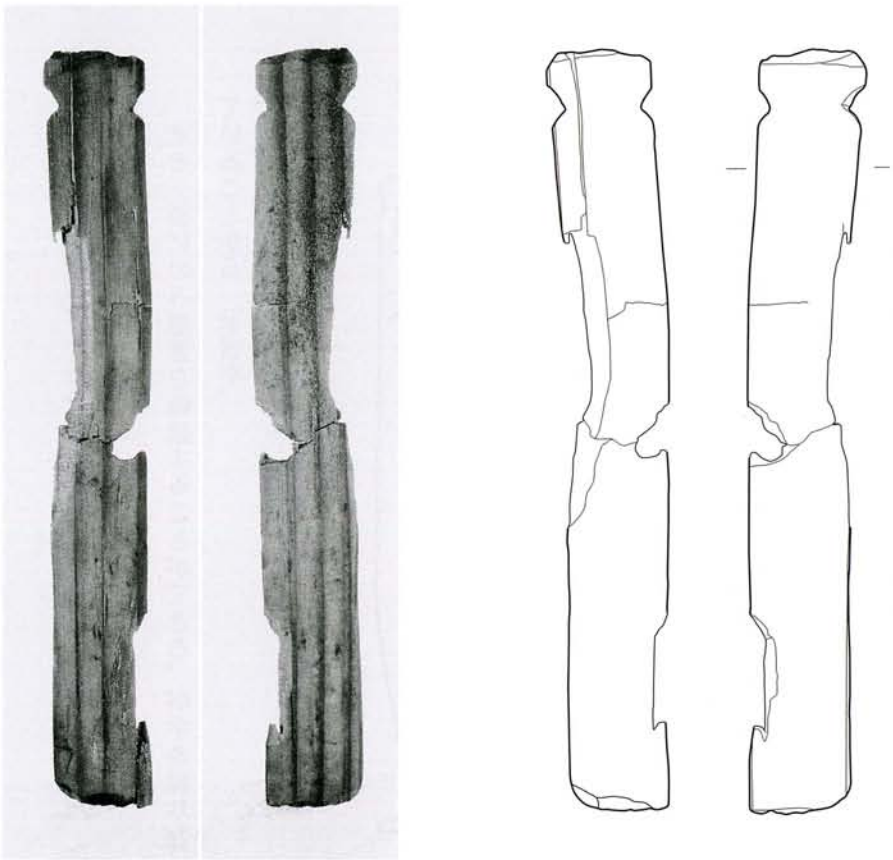
二片接合。上端・下端および左右両側面いずれも原形をとどめる。表面は平滑に調整されている。

墨書は、オモテ・ウラともに確認できない。



第107号木簡

第106号木簡



第108号木簡

第一〇九号木簡　152×14×2　033　SD2100　2層

「〈継長　」

上端・下端ともに原形をとどめる。左右両側面も原形をとどめるが、左側面切り込み部は欠損している。オモテ面のみ表面を平滑に調整している。

先を尖らせた形態をもつ付札。「継長」は人名か。

第一一〇号木簡　223×26×20　065　SD2381

「　　官」

円柱状の材を不整形に削った木製品。一部欠損している。用途は不詳。下端部は断面が円形を呈しており、その一部を面取りして平坦な面を作り出し、文字を記している。墨書は木製品に伴うものかと推測されるが、詳細は不明。

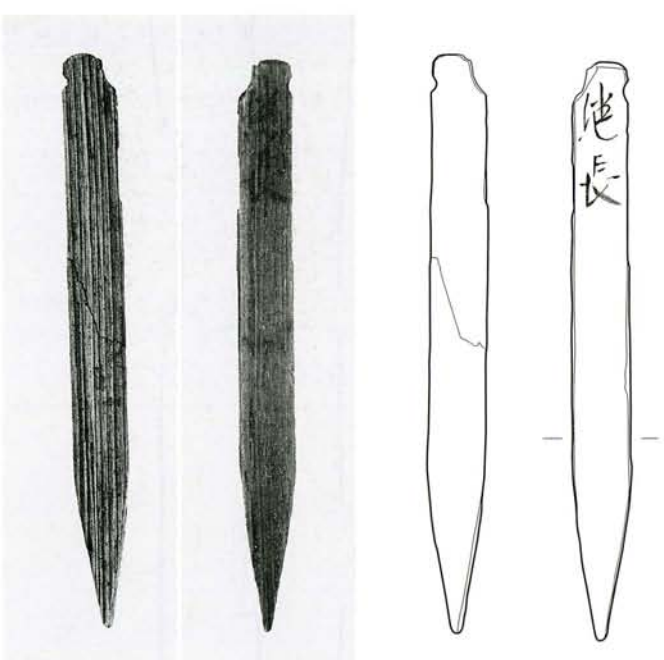
第一一一号木簡　445×34×8　011　SD2363

□□　　大大大大大大大

□□道浄河浄河之之之之之人人人人人人人人

完形。二片接合。オモテ面のみ表面を平滑に調整している。ただし、左下の一部が削れている。

オモテ面にのみ墨書を確認することができる。同字を繰り返し記していることから、習書か。



第109号木簡

第110号木簡

第一一二号木簡　(209)×(23)×8　081　SE1912

・「□□　□　□□□

・「□

上端のみ原形をとどめ、下端および左右両側面は欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

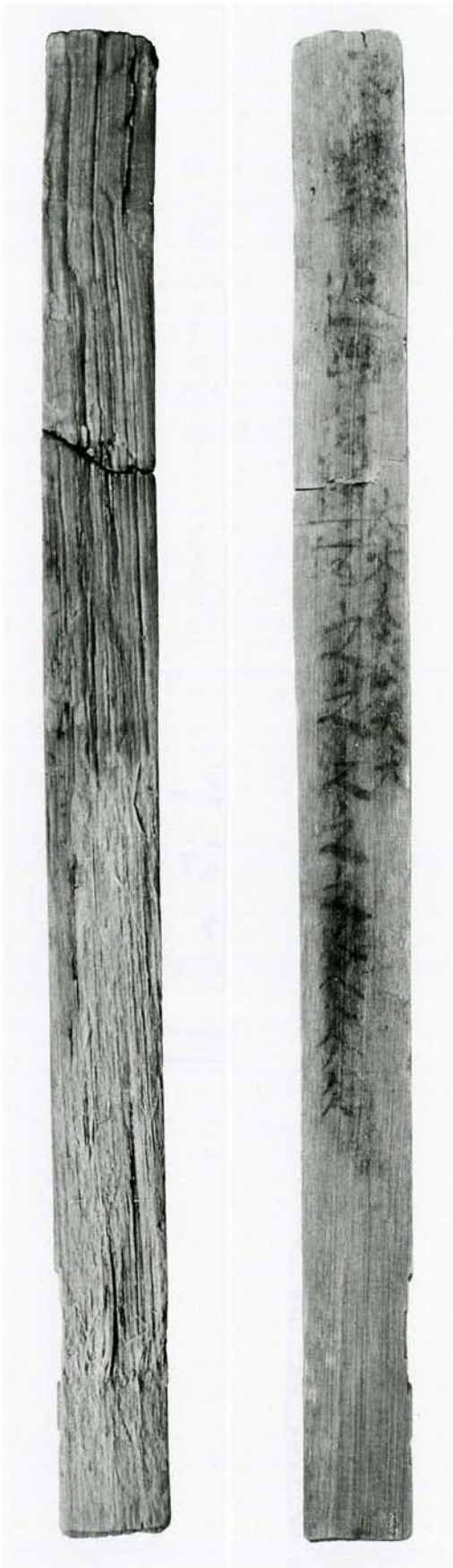
墨書はオモテ・ウラ両面に確認できるが、詳細は不明とせざるを得ない。

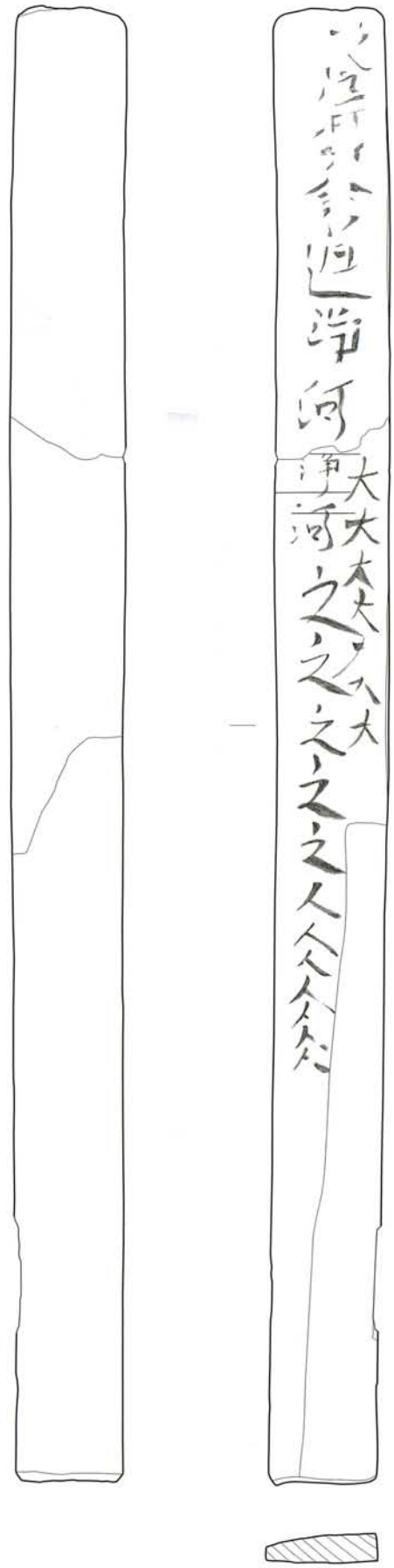
第一一三号木簡　(88)×(4)×2　081　SD2386b

□□

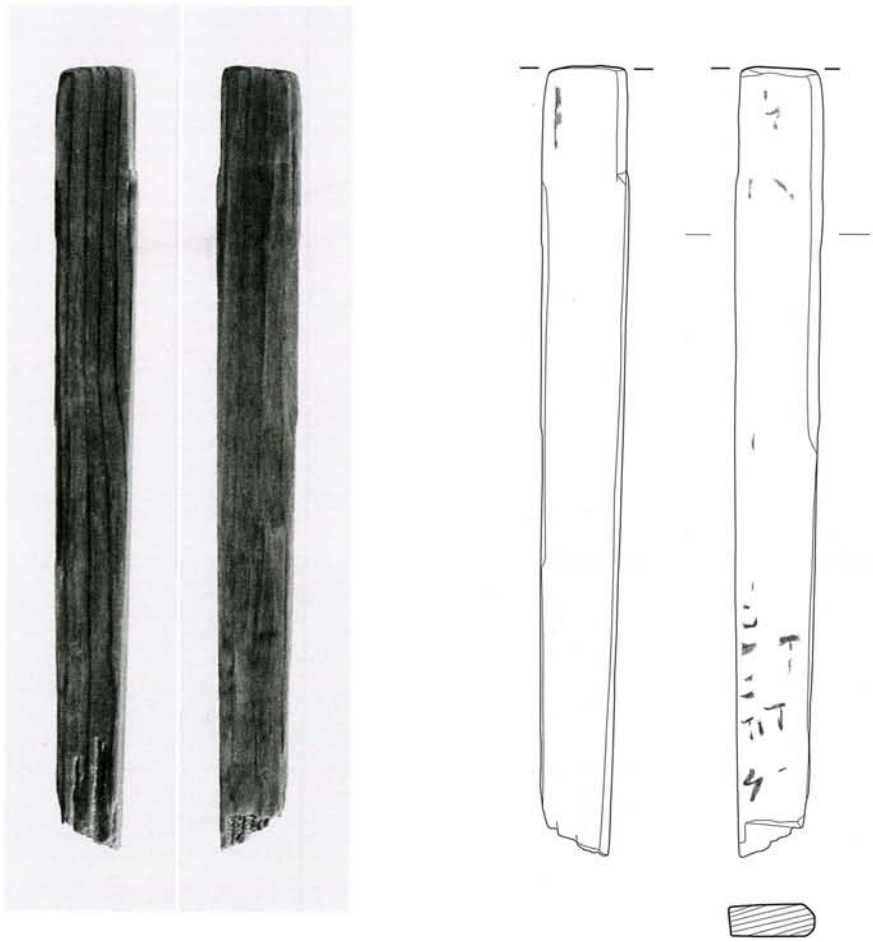
上端・下端および左右両側面いずれも欠損する。表面はオモテ・ウラともに平滑に調整している。

墨痕はオモテ面にのみ確認することができるが、幅がわずか四㎜しか残っていないため、文字数等詳細については不明とせざるを得ない。

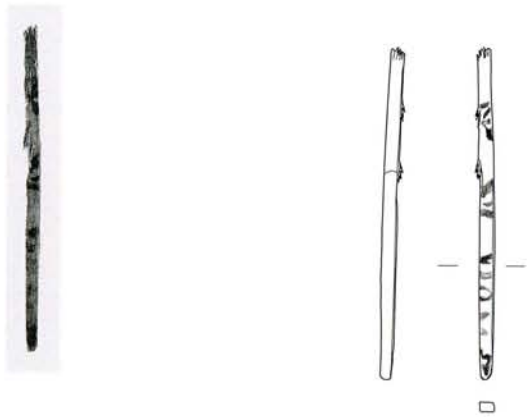




第111号木簡



第112号木簡



第113号木簡

二　漆紙文書について

凡例

一、本節は、漆紙文書についてまとめたものである。文字の確認できたものを報告の対象とした。このほか文字の確認できなかった漆紙は七点、漆付着土器は三点である。

一、漆紙文書については、A区・D区のほか、C区出土のものについても収録している。出土遺構については、『多賀城市文化財調査報告書第七〇集』を参照されたい。

一、釈文に加えた符号は以下の通りである。

□□□　欠損文字のうち、字数の確認できるもの。

□〕　欠損文字のうち、字数の確認できないもの。

〔　〕　校訂に関する注で、原則として釈文の右傍に付し、本文に置き換えるべき文字を含む場合。

（　）　説明注

カ　筆者、編者が加えた注で疑問の残るもの。

一、掲載した図版類は特に断らない限りほぼ原寸である。

本節をなすにあたり、平川南氏（国立歴史民俗博物館教授）にご教示いただいている。

第二号漆紙文書　SX1600B（C区）

一、形状

折らずにそのまま廃棄されたもの。法量は一四・二×一二・八㎝である。

現状はC字形をしており、全体の四分の三ほどの周縁が残る。容器の復元直径は約一四㎝である。ウルシ面にわずかに木質の付着がみられることから、容器は土器ではなく曲物と考えられる。

蓋紙としての利用の際に紙を内側へ向けて折り込んでいる。折り込まれた縁の周囲に、約五㎜の幅で固形化した漆が帯状に付着している部分があることから、落とし蓋のようにして使用されたと推定される。

文字は両面に確認できた。ウルシ面には八行（復元を含む）が確認でき、文字の大きさは、大きいものが約一・三㎝四方、小さいものが約一・〇㎝四方、行間は約一・六㎝である。オモテ面には四行（復元を含む）が確認でき、文字の大きさは約一・五㎝四方、行間は約二㎝（「位」の部分）である。

ウルシ面には漆の下に墨痕が確認できる箇所があったため、グライダーを用いて表面をわずかに削り取ったところ、数文字を確定することができた。なおこの作業以前に写真撮影をおこない、作業中の赤外線テレビカメラ画像はビデオテープに収めた。

なお、以下に掲げる釈文のほかに、オモテ面の上に複雑に折りたたまれている部分に、どの行に当たるか判断できなかった墨痕がある。

二、釈文

【ウルシ面】

□　□□〔等等ヵ〕
〔乗ヵ〕
□驛　驛馬　□□□
□□符一枚柴田郡□□□月卅日〔模ヵ〕
傳□　□及下　武蔵　相□
□　迎
戸主物
□部内山道□□

（※このほか、折り込まれた部分に墨痕あり）

【オモテ面】

〔在カ〕
□□□
位

□半飛
□

三、内容

【ウルシ面】

一行目三文字目は「しんにょう」が明瞭に確認できる。墨痕からは「速」「連」などが近い。

二行目一文字目に墨痕は確認できたが判読できなかった。

四行目一文字目は、漆紙の縁の部分に文字がかかっているが、赤外線カメラにより観察したところ「傳」と判読して間違いない。

六行目一文字目は旁の一部であるが、墨痕からは「継」「述」などが考えられる。

七行目の「戸主物」の三文字は天地逆に書かれている。

八行目一文字目は「てへん」もしくは「きへん」が確認できる。六文字目は「ごんべん」は確認できるが旁の一部分を欠き、判読できない。字形からは「訊」「諾」などが近い。

ウルシ面は、陸奥国府における駅馬や伝の使用・文書の逓送などにかかわる帳簿と考えられる。

記載の中に「驛馬」（二行目）「傳」（四行目）などと見えるのが注目される。三行目の「符一枚」については、下達文書の「符」と「傳符」の場合が考えられる。公文書にみられるそれぞれの単位に注目すると、例えば官司間で授受した公文書の目録である「出雲国計会帳」（『大日本古文書』一―五八七）や「伊勢国計会帳」（『大日本古文書』二四―五四七）では文書の「符」の単位として「道」「條」「紙」などがあるが「枚」は見られない。一方「傳符」については、郡稲の収支を記録した「越前国郡稲帳」（『大日本古文書』一―四六一）のなかに「肆剋傳符壹枚」という表記があり「枚」という単位が確認できる。ただし、文書の性格がやや異なるが、寺院作成の財産目録である「西大寺資財流記帳」（『寧楽遺文』中巻）には「一巻　太政官符并案〈五十五枚〉」（〈　〉は細字）という表記があり、いずれかを早計に判断するのは避けるべきであろう。

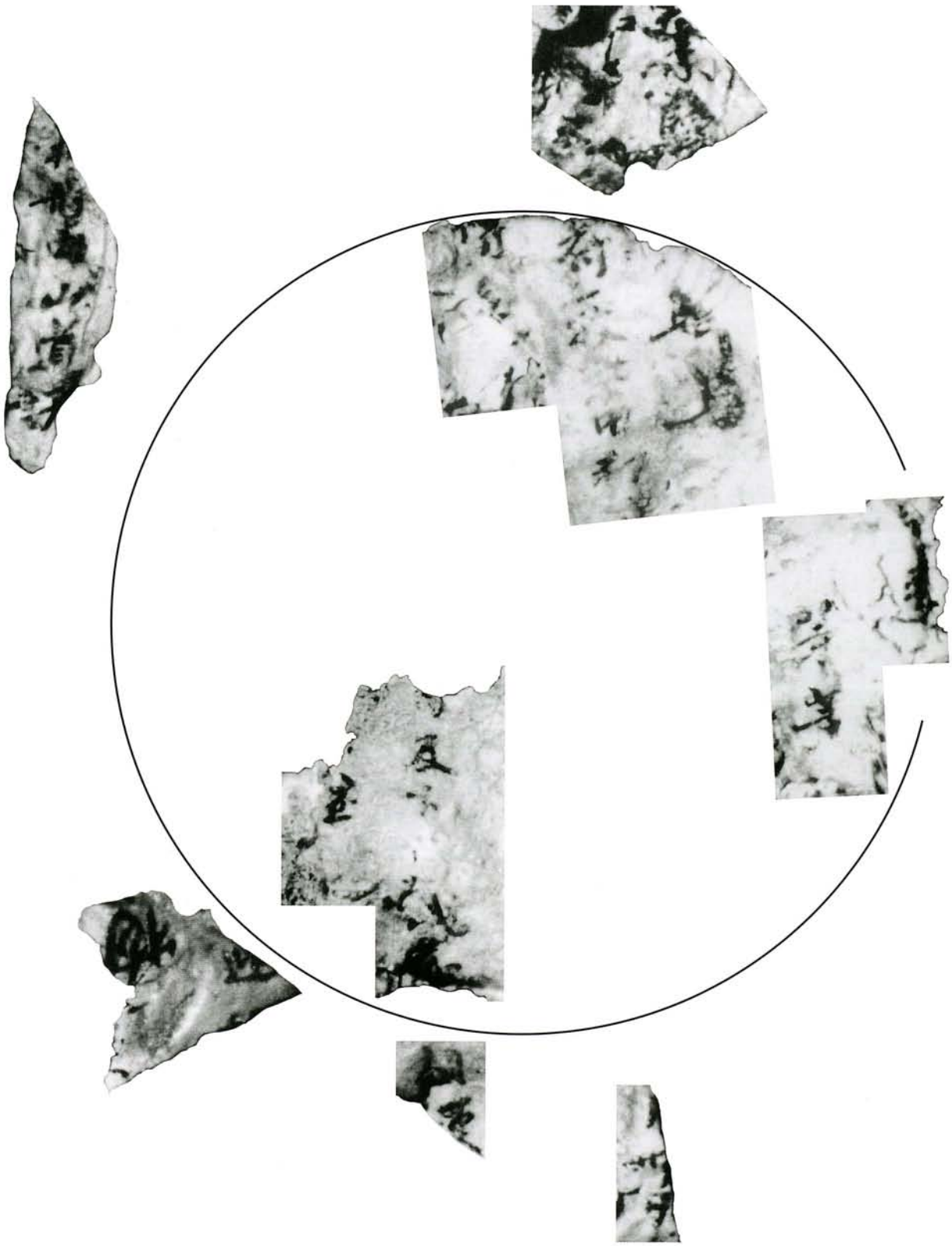
地名に関する記述として「柴田郡」（三行目）「武蔵」「相模」（五行目）「山道」（八行目）がある。

陸奥国柴田郡は、多賀城の南西約三〇㎞、現在の宮城県柴田郡付近に比定され『延喜式』（兵部省）によると、柴田郡には柴田駅があり、駅馬十疋・伝馬五疋が備えられていた。

「相模」については国名（相模国）・郷名（色麻郡相模郷）が考えられるが「武蔵・相模」と連続することから国名である可能性が高い。なお武蔵・相模という順は、陸奥国から都へ向かうルート上にあり、かつ国境を接している国であることから、仮にこの部分に陸奥国から都へ向かうルート上の国名が列記されていると考えると、「武蔵」の上には「常陸」「下総」などの国名が想定される。そこで再び五行目の墨痕に注目すると、三文字目を「下」と読み、一文字目を「国」の下半

■部分はオモテ面
--- 部分は折込想定線

第２号漆紙文書　ウルシ面



第２号漆紙文書　赤外画像

とみても字形としては矛盾がない。以上の検討から、五行目を推定復元すると

…国及下総 武蔵 相模…

となる。一案として掲げておく。

武蔵国は宝亀二（七七一）年に東山道から東海道へ改められており（『続日本紀』宝亀二年十月己卯条）、下総・武蔵・相模という記載順は東海道に属することをふまえたものと考えられることから、当文書は宝亀二年以降の作成ということになる。

また、一文字目を「国」とすれば、「及」字をはさんで東海道の国が続けて列記されるとは考えがたいので、「及」字の上には、陸奥国と同じく東山道に属し、征夷の際に物資の補給地として重視されていた上野・下野などの国名が記載されていた可能性がある。

「山道」（八行目）に関しては『続日本紀』天平九（七三七）年四月戊午条に藤原麻呂からの報告として「山海両道を開き、海道に田夷遠田君雄人を、山道に帰服狄和我君計安壘を派遣して夷狄を鎮撫した」との記述がある。また、宮城県赤井遺跡からは「海道」と記した付札木簡が出土している（『木簡研究』一二三）。当文書には「部内山道」と記されており、「山道」という語が陸奥国内の行政的な地域名称として使用されていたことがわかる。

【オモテ面】

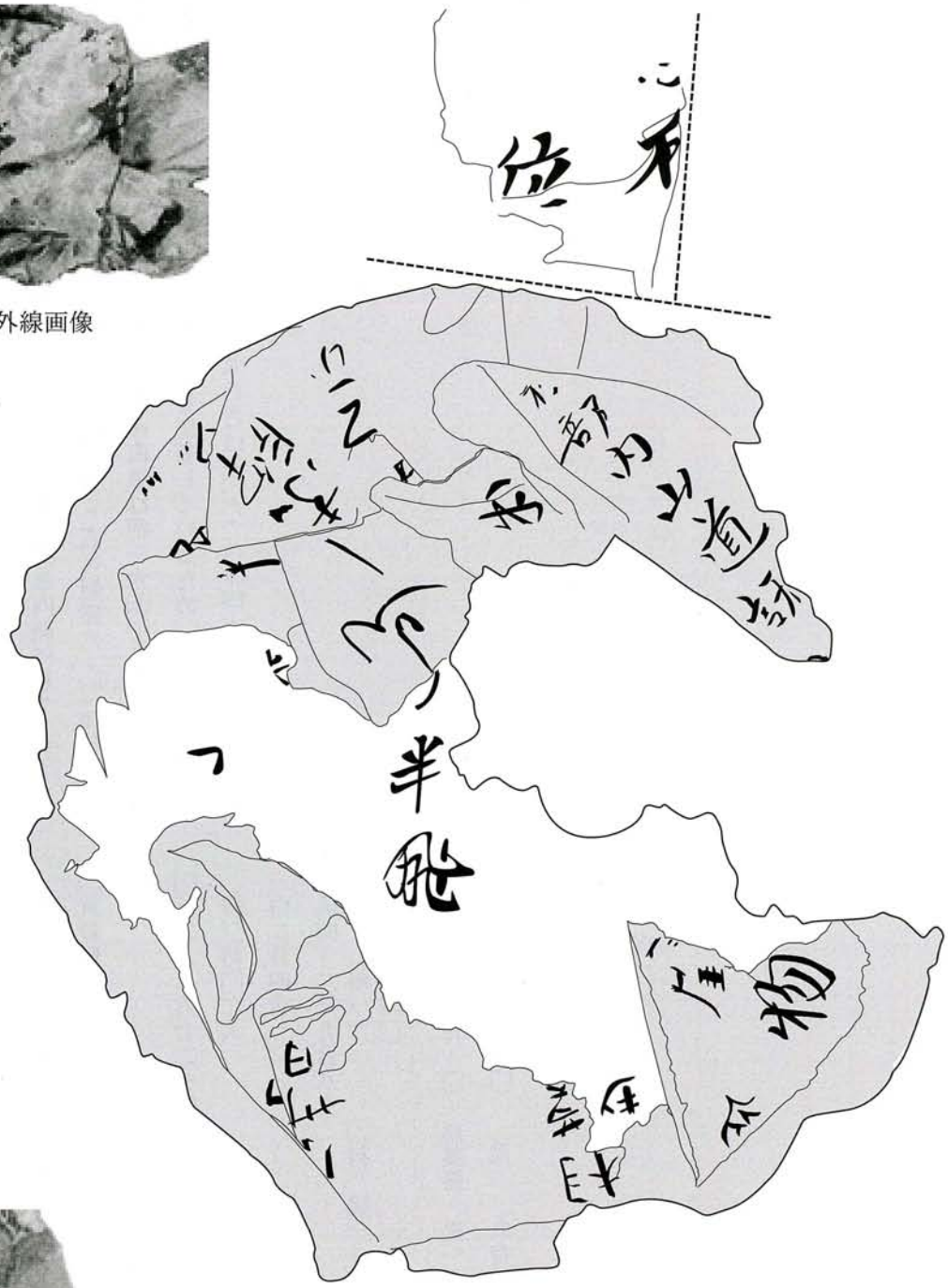
オモテ面は複雑に折りこまれた紙片が付着しており、この紙片の下にも文字が存在するが、現状では確認できない。また、ウルシ面の破損した部分から確認できるオモテ面の文字がある。

一行目はウルシ面から確認できるオモテ面の文字である。三文字目は現状では折り込まれており文字の向きが一致しないが、復元すると「□〔在力〕」とした文字と同じ行にあたる。文字の旁部分「反」のみ確認できる。

三行目はオモテ面から、現存部分の中央に確認できる。「半飛」の文字は明瞭であり「半」の上にも文字が存在するが、折られた紙片に隠れている。

いずれも謹直な楷書体で書かれているが、内容は判然としない。

赤外線画像



赤外線画像

部分はウルシ面
----- は折込想定線

第２号漆紙文書　オモテ面

第三号漆紙文書　SD2386g（D区）

一、形状

漆容器の蓋紙として再利用されたのち、ウルシ面を内側にして二つ折りにして廃棄されたもの。法量は長径一五・五×短径八・二cmで、現状は半円形をしている。漆容器の復元直径は約一六cmである。文字は漆面にのみ確認されたが、漆により密着しているため、はがして観察することはできない。文字の大きさは約〇・八cm四方、行間は約一・五cm。

二、釈文

□

□一升八夕　四□□□　□

合六夕　訳語秋成□合二夕　狩□□一斗

□軍毅健児等二升六合□□□

合

□俘囚二人六合二夕□□□従七合二夕　真成三合□〔六カ〕

狩□持□二人

白二升四合　□

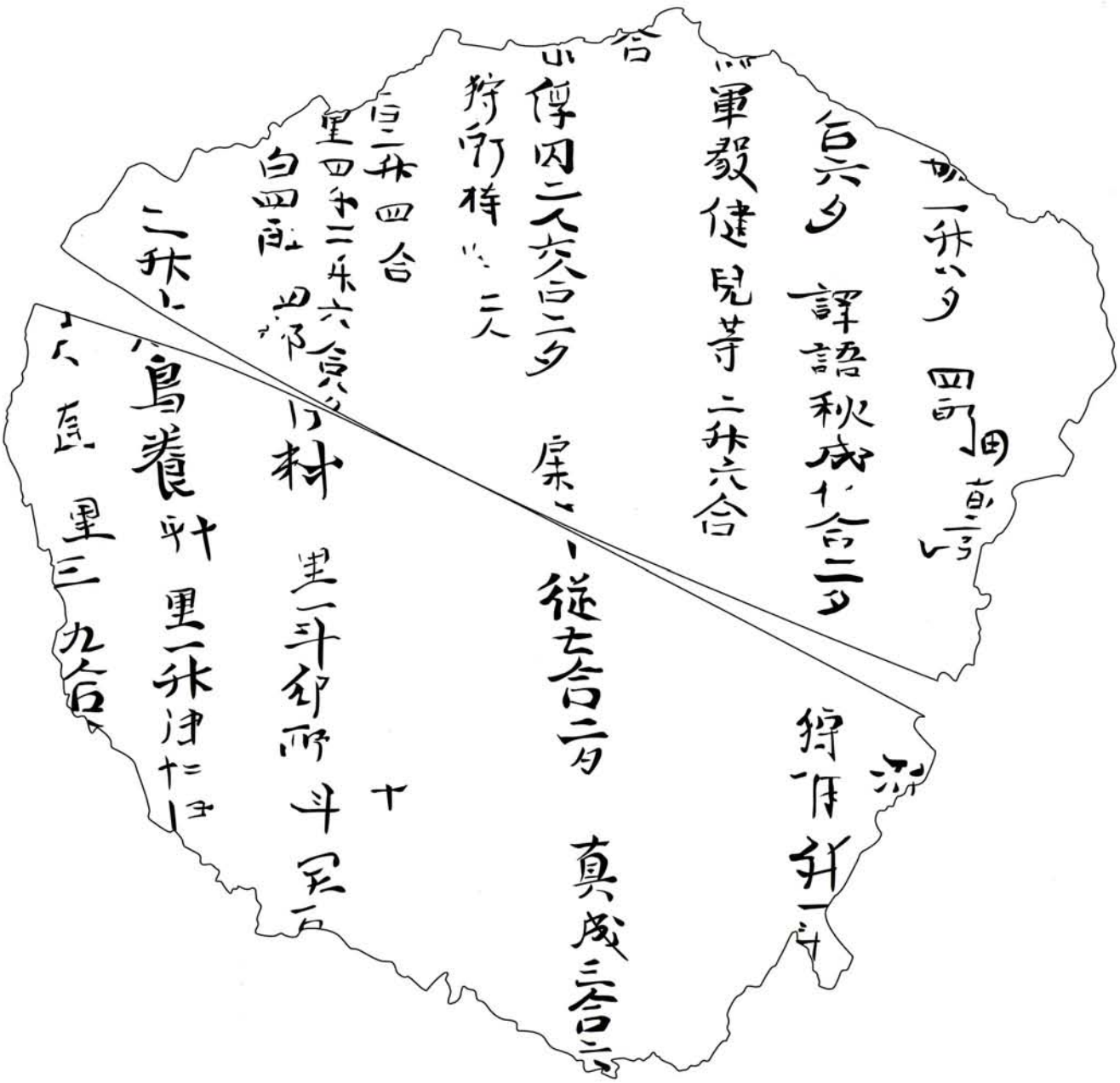
黒四斗二升九合八夕〔所料カ〕

〔斛カ〕　□料　黒一斗□□□□

白四□四□

□一升　□　鳥養料　黒一升□□□〔料カ〕

□□　□　黒三　九合□



第３号漆紙文書（反転・展開）

三、内容

一行目一文字目は、「田」のようにもみえるが、他の行と比べて文字が小さく、行も揃わない。

「狩」字は七行目にもみえるが、いずれもその下に続く文字を判読できなかった。一四文字目は「并」に似る。

六行目一〇文字目は「戸主」のようにみえるが、確認できる墨痕は「戸」と「未」を合わせたような字形で「戸主」とは考えがたい。

八行目六文字目は「十」のような墨痕が確認できるのみで、上下に文字は確認できなかった。

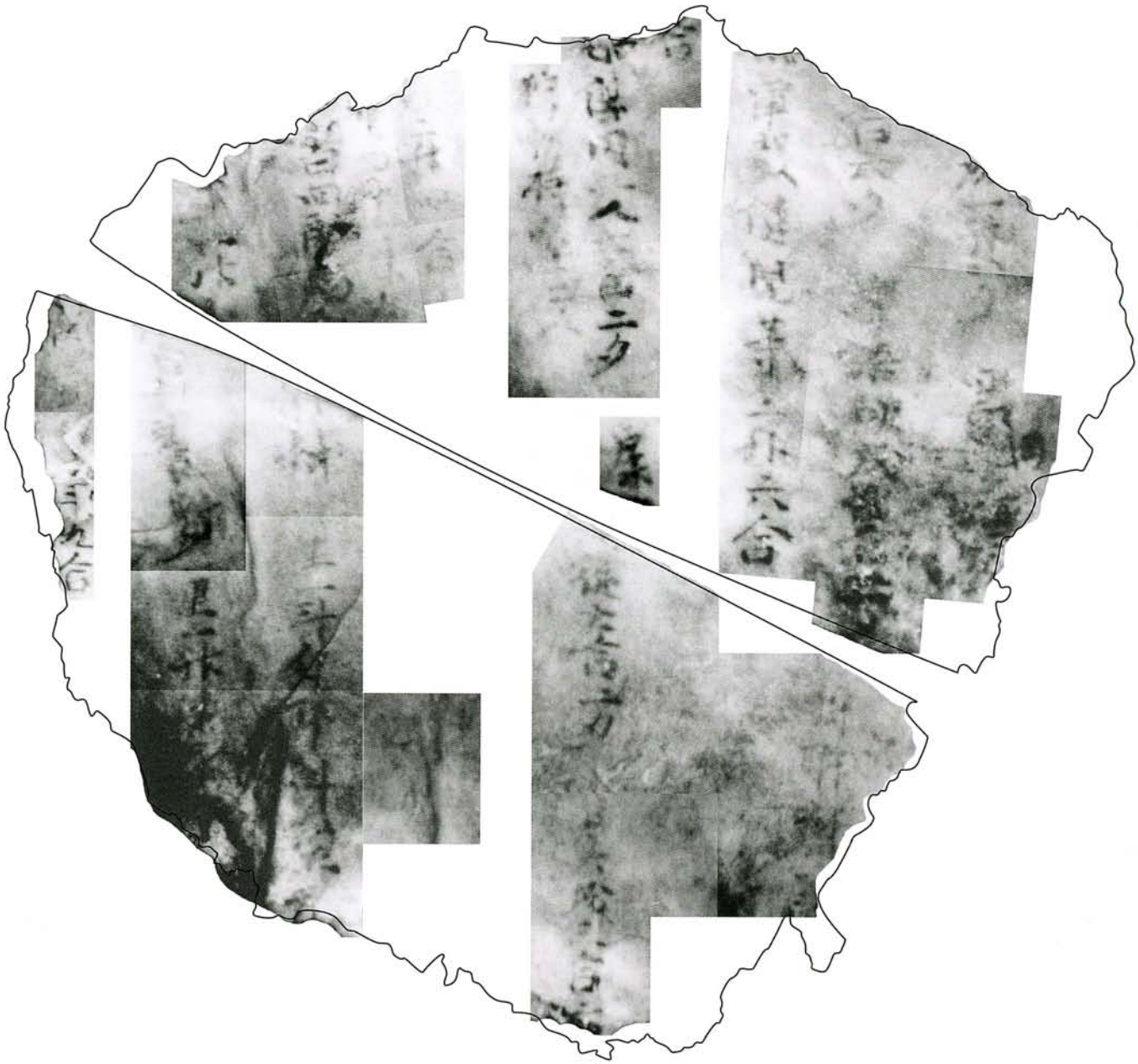
九行目の「黒四斗…」と「白四□…」は、行間がこの部分のみ狭いことおよび下に続く文字との関係から、割書であると思われる。下の「□料」の内訳を記したものであろう。左行五文字目は「おおざと」が明瞭に確認できた。

一〇行目一二文字目は「津」に似る。

一一行目三文字目は「直」に似る。

全体に「斗・升・合・夕」の単位が確認できる。また、白・黒などの記載があることから「白米」「黒米」という米の単位と考えられ、本文書は食料支給の帳簿であると思われる。前半には軍毅・健児などの職掌名・人数・支給量などが記されるが、八行目を境として、白・黒の別が記されるようになり、一項目の記載量がやや多くなる。また、費目を示すと思われる「〇料」という表記がみえる。

前半の記載のうち、一人当たりの支給額が判明するのは六行目の「俘囚二人六合二夕」つまり俘囚一人当たり三合一夕、および「真成三合□」のみであるが、一人当たりの支給額が約三合と少ないことから、ここに記されているのは一食分程度の食料支給と考えられる。多賀城作成であれば、国府での行事に参加した者への食料支給などが考えられる。訳語（三行目）については、いちおう職掌名とウヂ名とが考えられるが、六行目に「真成三合□」と人名のみの表記があること、および前半部分には「軍毅・健児」などの職掌名が見られることから考えると職掌名の可能性が高いか。職掌としての蝦夷訳語は『続日本紀』養老六（七二二）年四月丙戌条に「征二討陸奥蝦夷、大隅薩摩隼人等一将軍已下及有功蝦夷、并譯語人、授二勲位一各有レ差。」とあり、『日本三代実録』元慶五年（八八一）五月三日庚戌条に「従陸奥蝦夷訳語外従八位下物部斯波連永野外従五位下」とあるなど、八・九世紀を通じてその存在が確認できる。陸奥国の健児（四行目）については、史料の初見が大同五（八一〇）年であり、大同元（八〇六）年頃に導入されたと考えられていることから（鈴木拓也「九世紀陸奥国の軍制と支配構造」『古代東北の支配構造』吉川弘文館、一九九八年）、本文書の作成年代は大同年間以降と考えられる。なお『延喜式』（兵部省）によれば、陸奥国に健児三二四人が置かれている。



赤外画像

第四号漆紙文書　SD2021（D区）

一、形状

漆の蓋紙として再利用され、そのまま廃棄されたもので、パレットとして使用した土師器に固形化した漆とともに付着している。土師器は口縁部を欠損しており、残存するのは漆が付着している部分のみである。

漆紙文書は下半を欠損し、不整形な半月形をしており、残存部分の法量は一三・二×一〇・八cmである。

文字はオモテ面に確認できた。文字の大きさは、大字が約〇・八cm四方、小字が〇・六cm四方で、行間は約一・五cmである。文字のほかに横界線が二本確認でき、界線の幅は二・三cmである。縦界線・印影は確認できなかった。

二、釈文

（横界線）

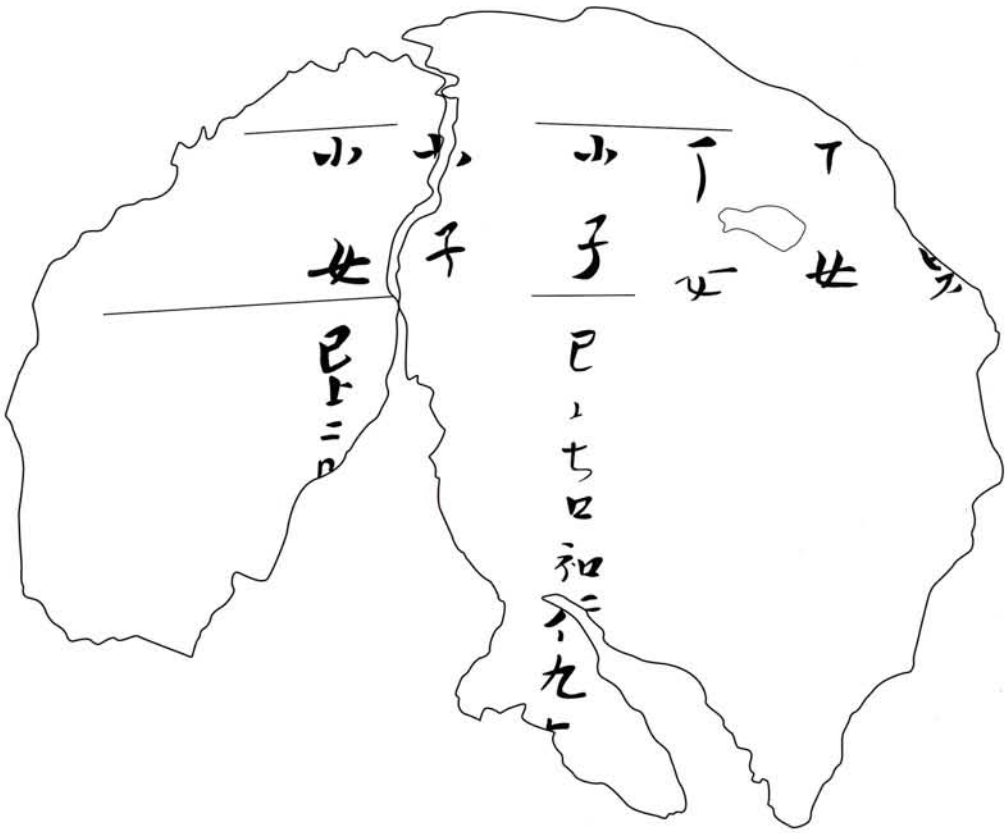
男
丁女
丁女
小子　　已上七口弘仁九年
小子
小女　　已上二口

三、内容

籍帳様の文書である。二本の横界線で区切られた欄に「丁女」「小子」などの年齢区分を記し、その下の欄に注記を記す。一～三・五行目の年齢区分の下には文字はない。また、文書の奥には二行分ほどの余白があるが、この部分にも文字は確認できなかった。

一行目一文字目は一部文字を欠損するが「男」として間違いない。ここには年齢区分が記されるはずであるから、「男」のつく年齢区分として「中男」と推定できる（現存の籍帳のなかには「小男」という表記の例もあるが〈「讃岐国戸籍」『大日本古文書』一―三一七～三一八など〉、当文書には「小子」という表記が使用されていることから、「小男」はあたらない）。

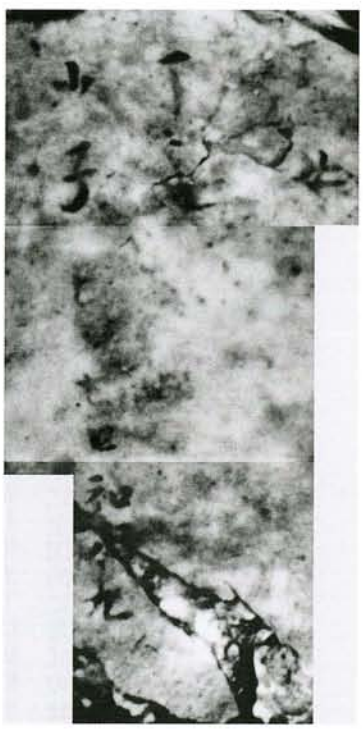
注記の内容については欠損のため不明であるが、戸口の死亡や移動などの注記がなされたものであろう。現存の籍帳のうち類似の書式をもつものとして「陸奥国戸口損益帳」（『大日本古文書』一―三〇五～



横 →

界

線 →



第４号漆紙文書

三〇八）が挙げられる（岸俊男「いわゆる「陸奥国戸籍」の残簡」『日本古代籍帳の研究』塙書房、一九七三年などを参照）。

料紙に注目すると、本文書は年齢区分の記載が現存料紙のかなり上方に書かれているのが特徴的である。現存の戸籍・計帳のうち年齢区分が界線によって区切られる書式を持つものは、年齢区分が料紙の中ほどあるいはやや下方に位置するのが普通である。

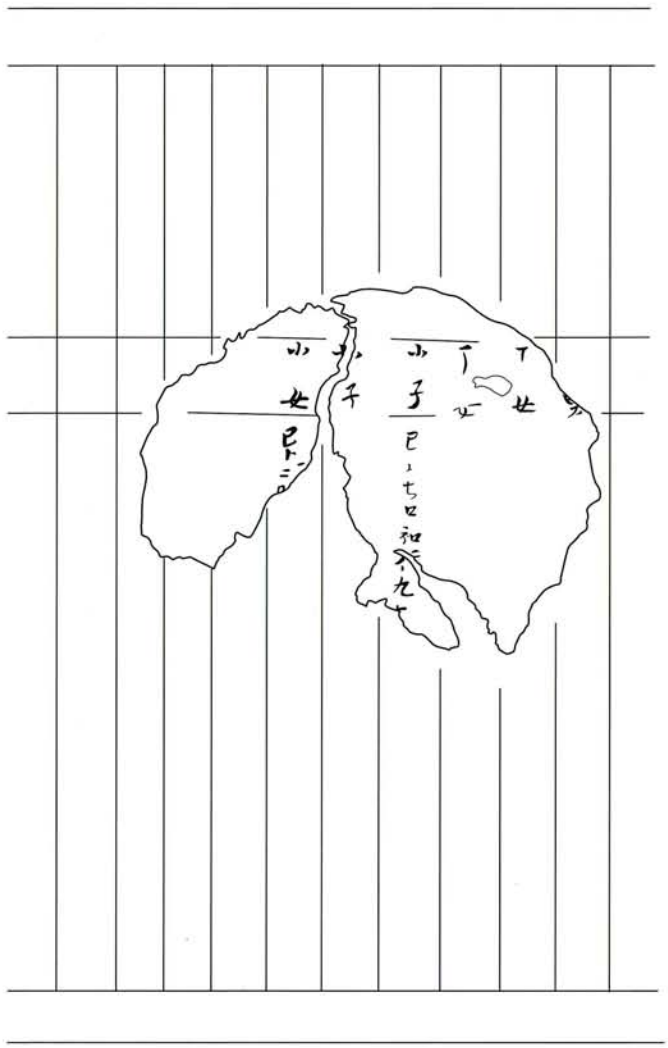
漆の蓋紙として使用するには、現存部分の周囲にも紙が必要であるから、仮に本文書の年齢区分記載が料紙の中央にあるとすると、蓋をする際に下方の料紙が足りず、不都合を生じる。

前掲の「陸奥国戸口損益帳」は戸籍・計帳の例と異なり、年齢区分がかなり上方に記載されている。この帳簿が死亡や移来の情報を書き込むことを目的としたためであろう。試みに本文書の第一界線と、「陸奥国戸口損益帳」の第二界線を重ねてみると、残存部分が料紙の縦幅のちょうど中央に位置し、界線の幅はやや異なるものの、文字の大きさ、行間等はほぼ一致することから、本文書の記載様式は「陸奥国戸口損益帳」と同様のものであるとみてよい。和銅年間より弘仁年間まで、同じ書式で戸口の移動がまとめられていた点が注目される。多賀城市の山王遺跡第十二次調査SD一八〇出土の第一号文書は、郷里制下（七一七～七四〇）の戸口損益帳案とみている。（『多賀城市文化財調査報告書第四五集　山王遺跡Ⅰ』一九九七年）

「戸口損益帳」は造籍から次の籍年までの戸口の異同を集計したものであるから、この文書が「戸口損益帳」であるとすれば、一次利用された時期は弘仁九（八一八）年以降の最初の造籍年まで、ということになる。平田耿二氏によると弘仁三（八一二）年の造籍後、次の籍年である弘仁九年の造籍は史料で確認できないが（平田耿二「平安時代の戸籍について」『日本古代籍帳制度論』吉川弘文館、一九八六年の五一二頁第四九表を参照）、和銅元（七〇八）年の造籍のために作成されたとされる「陸奥国戸口損益帳」には、大宝二（七〇二）年から和銅元年までの注記がみられることから、当文書が「戸口損益帳」であるとすれば、弘仁九年の注記を持つ当文書は弘仁九年の造籍を裏付ける史料としてよいだろう。ただし、当文書には弘仁九年の注記しか確認できないことなどから、単年度の集計である可能性を考慮する必要がある。

一～四行は、一行目以前に三人分の記載を欠き、一戸内における計七人分の異同を抜き出したものと考えられるが、この部分は男女順の配列になっていない。人名や続柄の記載を欠くため判然としないが、養老五年下総国戸籍のように戸主との親等順に配列されていたか。

なお陸奥国の籍帳の書式については、養老五年までは御野型の書式（男女順に配列）であり養老五（七二一）年に全国的に書式の統一が行われるという指摘がある（平川南「古代の籍帳と道制」『九州史学』一一六、一九九六年）。



陸奥国戸口損益帳の界線(模式)と見取図

現況(S=1/2)

第五号漆紙文書　SD2386g（D区）

一、形状

断片であるが、片面にのみ漆の付着が認められるので、蓋紙として再利用された文書の一部であろう。法量は九・五×五・二㎝である。両面に文字が確認でき、オモテ面の文字の大きさは約一・〇㎝四方、行間は約一・五㎝、ウルシ面の文字の大きさは約一・〇㎝四方、行間は約一・二㎝である。

二、釈文

【オモテ面】

□　□□□
二――――――（縦墨線）
並曹備
□
□十

【ウルシ面】

□十□
□堪佃　堪佃壹
参段伯歩
〔田カ〕
□代□□□□二段三
――――――

三、内容

オモテ面の一行目は文字の左端が微存している。

二行目には、「二」字の直下より墨線が引かれている。

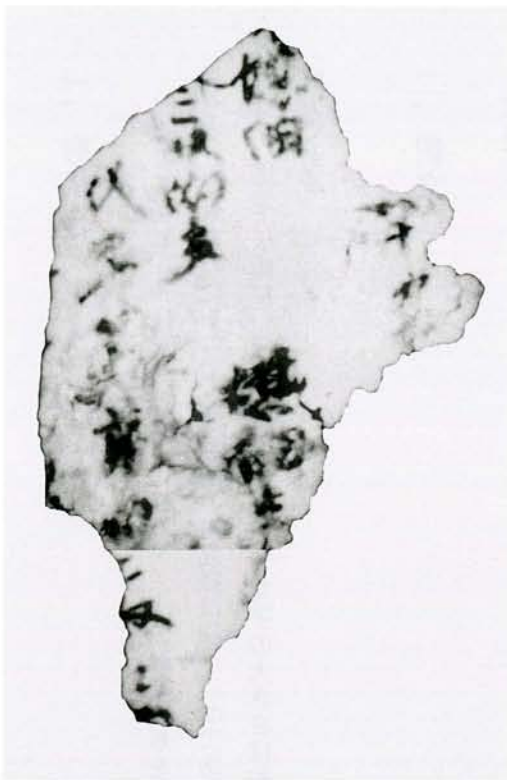
四行目一文字目は文字を欠損しているが、二・五行目からここに数字が入るとすれば「十」が近い。

「物品名＋数量」という書式が想定される。「並曹備」とは、「（以上の物は）みな曹司に備えられている」の意味か。

曹司については、山王遺跡から「西曹司」墨書土器（『山王遺跡Ⅲ』宮城県教育委員会）、多賀城跡（ＳＫ二〇〇六土壙）から「曹司」墨書土器（『宮城県多賀城跡調査研究所年報』一九九〇）の出土例があり、多賀城内およびその周辺に曹司が存在していたことが知られる。

以上よりオモテ面の内容は、物品の数量と保管場所をまとめた帳簿と考えられる。また、謹直な文字で書かれていることから、一時的な控えなどではないであろう。

ウルシ面は堪田などの田積を記した帳簿である。四行目以降は、漆



ウルシ面

オモテ面

第５号漆紙文書

付着のため墨痕が明瞭でない。
文字の謹直さからオモテ面が一次利用面であると判断される。

第六号漆紙文書　SK1343（C区）

一、形状

二点を接合し、長径一一・五×短径九・三㎝のほぼ円形をしている。折らずに廃棄されたもので、漆容器の復元径は約一二㎝である。
文字はオモテ面に一行のみ確認できた。文字の大きさは約一・五㎝四方である。

二、釈文

宝亀三年

三、内容

右端に年号のみが確認された。宝亀三年は七七二年にあたる。漆紙の状態からは、他の部分がとくに磨滅しているようには見えないことから、墨痕が確認できない部分は余白のまま廃棄されたものと考えられる。年号は文書の末尾部分にあたるか。

第６号漆紙文書

第七号漆紙文書 SD1694（A区）

一、形状

四点の小片を接合した大きな断片一点と、小断片、および多数の細片からなる。文字を確認できた断片は五点、墨痕を確認できた断片は三点である。確認できた文字はすべてウルシ面に書かれたものであるが、文字は赤外線カメラによってもウルシ面からは確認することができず、オモテ面から左文字で確認することができた。

文字が確認できた断片の法量は①一一・二×一〇・五cm、②四・九×四・〇cm、③三・六×二・八cm、④三・七cm×二・五cm、⑤三・三×二・四cmである。文字の大きさは約一・五cm四方、行間は約二・五cmで、各断片ともほぼ共通している。界線や印影は確認できなかった。

墨痕が確認できた断片の法量は、⑥一・一×〇・八cm、⑦一・四×一・二cm、⑧〇・九×一・三cmである。

なお、漆紙文書のほか一・五×一・三cmほどの漆が付着した布の小片が共伴している。

二、釈文

①

□□□

延暦九年七月廿□

□□

□□　□□

②

□□

到□

③

□

□状

④

□□

⑤

□□□

①

第７号漆紙文書　①（オモテ面からの反転実測）

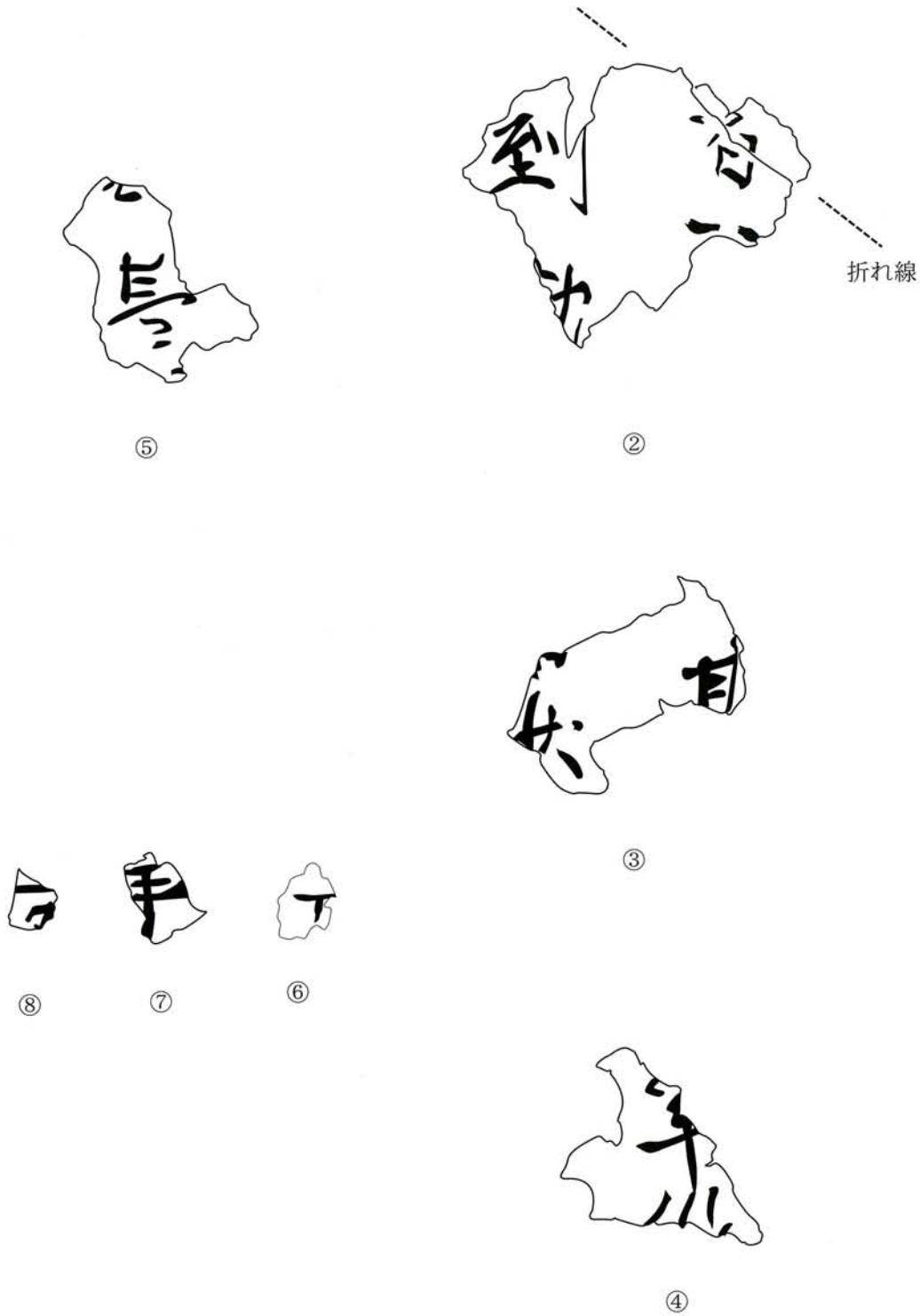
三、内容

①二行目九文字目は、残画からは「九」あるいは「五」が近い。三・四行目には墨痕が認められる。文書末尾の年紀・署名部分にあたるか。

③一行目一文字目は文字の上半が残存しており、残画は「其」に似る。

④一文字目は文字が半存しており、残画からは「軍」が近い。

⑤一・三文字目は墨痕が確認できる。二文字目は字形からは「長」が近い。



第７号漆紙文書　②～⑧

第八号漆紙文書　SD1798（A区）

一、形状

三片を接合した大断片と三つの断片、三つの小片の計七点からなる。うち三片のオモテ面に墨痕が確認できた。

①三片を接合した大断片で、法量は九・三×七・八㎝である。当文書は蓋紙として再利用され、のちにウルシ面を内側にして折られて廃棄されたもので、一・二行目の間に縦方向の折目が確認できる。文字はオモテ面にあり、大きさは約一・五㎝四方、行間約三㎝で界線や印影は確認できなかった。

②長径四・〇㎝×短径一・三㎝の小片で、オモテ面に墨痕が確認できるが、いずれの文字も欠損しており、判読できなかった。

③長径五・八㎝×短径二・一㎝の小片で、オモテ面にわずかに墨痕が確認できる。

二、釈文

①

□依忽□

米

②

□

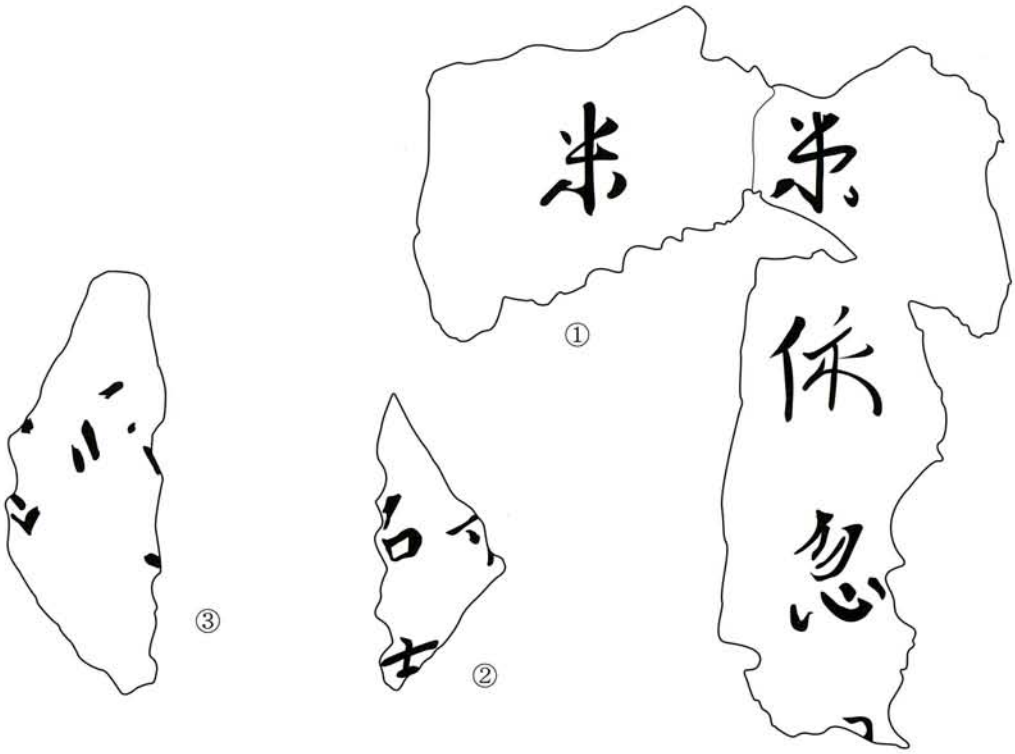
□□

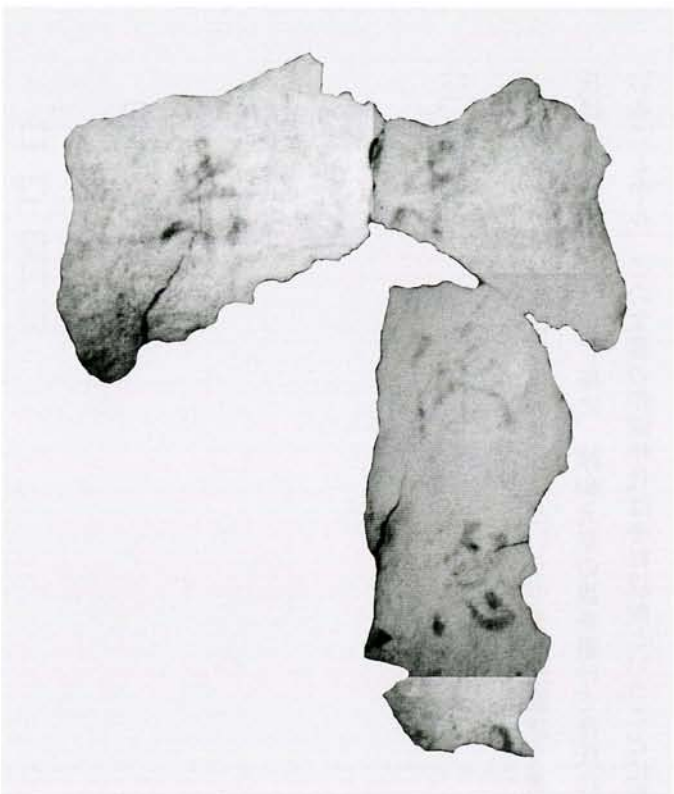
③

（墨痕）

三、内容

①謹直な文字であるが内容は不明である。





第８号漆紙文書

第九号漆紙文書 SE1672（A区）

一、形状

六片を接合した断片（一三・九×六・五㎝）と三点の小片からなる。もっとも大きな断片については両面に文字を確認できた。ウルシ面には二行確認でき、文字の大きさは約一・〇㎝四方で、行間は約二・二㎝である。界線や印影は確認できなかった。

当文書は、ウルシ面を内側にして折られて廃棄されたものである。断片は折られた状態で出土したが、その後の調査時に折目がはがれ、ウルシ面の紙質の一部が左右に分かれてしまっている。そのため、折目より左半の文字は左文字でみえているが、これはもと右半の文字と同一の面に書かれていたものである。左半に文字の有無は確認できなかった。なお釈文は本来の文字の位置を復元して示した。

オモテ面については、墨痕は明瞭であるがいずれの文字も欠損しており、判読できなかった。文字の大きさは約一・五㎝四方で行間は約二・〇㎝である。

小片のうち一点（一・八×〇・七㎝）には墨痕が確認できた。

二、釈文

【ウルシ面】

大伴部□　□

□　□　□□□

【オモテ面】

□□

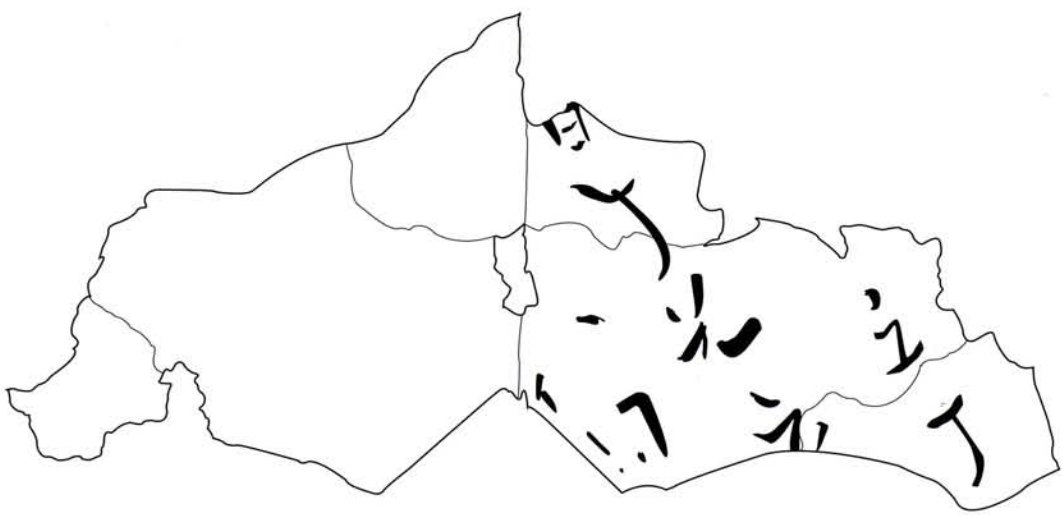
□□□□

□□

三、内容

ウルシ面の一行目には「大伴部」というウヂ名が確認できた。大伴氏は弘仁十四（八二三）年に、淳和天皇の諱を避けて伴氏に改姓していることから、この文書の作成年代はそれ以前ということになる。

二行目二文字目は「うかんむり」が確認できる。



第９号漆紙文書（上：ウルシ面、下：オモテ面）

第一〇号漆紙文書　SD1411（C区）

一、形状

漆のパレットとして使用した土器の蓋紙として再利用され、そのまま土器とともに廃棄されたもので、土器底部の直径一〇cmほどの範囲に漆と紙質の断片が付着している。土器の口径は一三・五cmで一部欠損している。

土器底部に残るやや大きい紙片に左文字で数文字が確認できた。つまり文字はウルシ面に書かれていることになる。確認できた底部の文字の大きさは一・五cm四方、行間は一・五cmであるが、釈文の一・二行目は文字が重なっているようにも見え、判然としない。

また、漆の周縁に沿っていくつかの墨痕（左文字）を確認できた。この部分には紙質は残っていない。なお、周縁の文字はどの行の何文字目であるかを断定できないので、釈文中に示していない。前記の文字の大きさ、行間で均等に割り付けた際の復元案を示しておくので参考にされたい。

二、釈文

□□□
□□
□　私□□
□佰□　（※漆の周縁に沿って文字の断片あり）

【参考　釈文復元案】

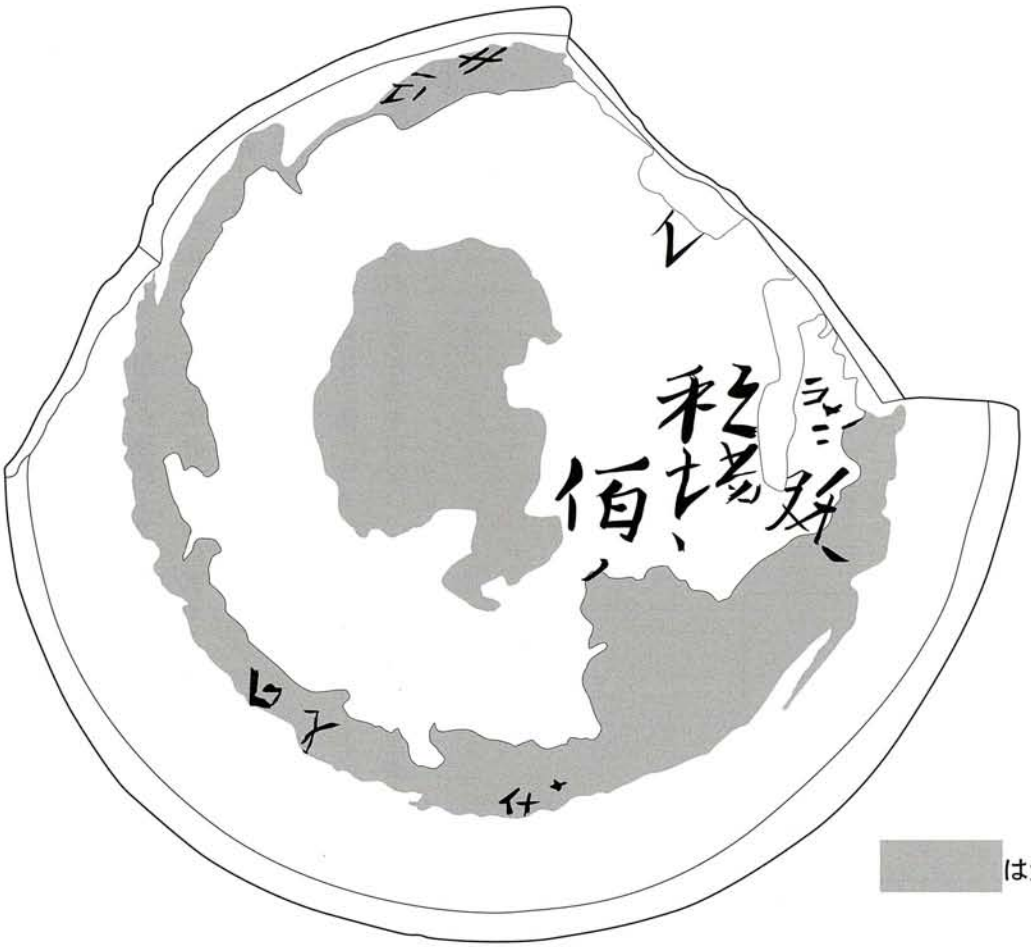
□□□
□□
□　私□□
□佰□　□
□　□
□　□

三、内容

一行目二文字目では「のぎへん」であろう。二行目二文字目に一部重なる。

三行目三文字目は「つちへん」および旁の一部が明瞭に確認できるが、判読できなかった。

文書の内容については不明とせざるをえない。



赤外画像

現況写真(S=1/2)

第10号漆紙文書（反転復元）

第一一号漆紙文書　SD2386g（D区）

一、形状

多数の小片からなる。文字・墨痕が確認できた断片については、別表に法量を示した。ウルシ面・オモテ面の両面に文字・墨痕を確認でき、「健児」「勝」「縄」など複数の断片に共通する文字がみられるが、文字の大きさは均一ではなく筆跡も複数存在するため、同一の文書であるかは不明である。また、ウルシ面・オモテ面の利用関係、および文書の内容についても不明とせざるを得ない。ただし、付着した漆の状態はよく似ている。

番号	法量（縦×横）	備考
1	3.2×2.5	
2	2.8×3.0	
3	4.0×3.2	
4	3.5×4.0	
5	1.9×5.6	
6	2.6×1.7	
7	2.6×2.2	
8	1.5×4.2	
9	1.7×3.3	
10	2.0×1.3	
11	1.7×1.4	
12	2.3×2.0	
13	1.8×1.3	
14	1.5×1.1	
15	1.5×1.6	
16	1.3×1.6	
17	2.9×2.3	墨痕
18	1.8×2.5	墨痕
19	1.8×2.0	墨痕
20	1.9×0.6	墨痕
21	1.6×1.5	墨痕
22	1.7×1.6	墨痕
23	1.5×1.1	墨痕
24	1.1×1.6	墨痕
25	1.2×1.8	墨痕
26	1.1×0.9	墨痕

二、釈文

①

【オモテ面】

□□

【ウルシ面】

□□

□健児□

□□

②

【オモテ面】

□酉□

【ウルシ面】

勝

③

【オモテ面】

□柴

□

【ウルシ面】

□□

集□

④

【オモテ面】

□□

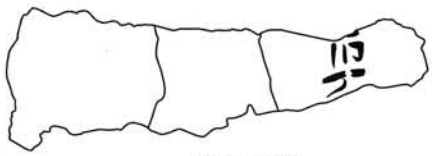
□館

□□

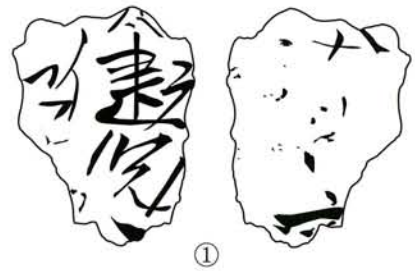
【ウルシ面】

縄

□□□



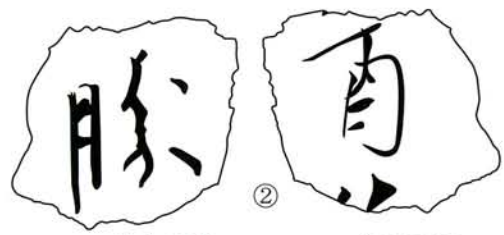
オモテ面



①

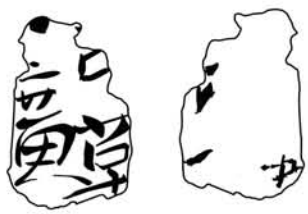
ウルシ面　　オモテ面

⑤
ウルシ面

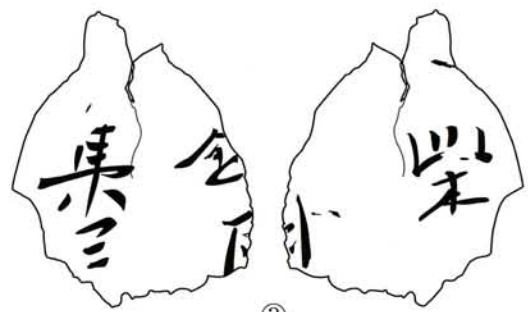


②

ウルシ面　　オモテ面



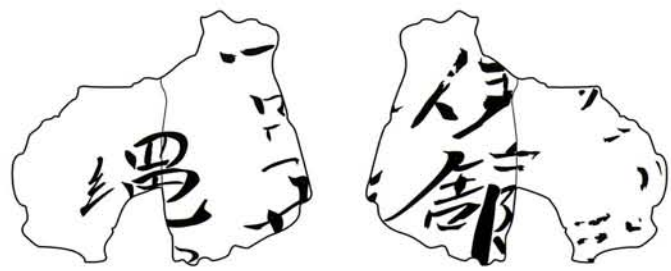
ウルシ面　　⑥　　オモテ面



③

ウルシ面　　オモテ面

⑦　ウルシ面



ウルシ面　　④　　オモテ面

第11号漆紙文書　①～⑦

⑤
【オモテ面】
□児
【ウルシ面】
□□
□□
□□

⑥
【オモテ面】
□
□□
【ウルシ面】
□□
□廣

⑦
【ウルシ面】
健児
□

⑧
【オモテ面】
□□
□
【ウルシ面】
勝

⑨
【オモテ面】
□
〔馬ヵ〕
□
【ウルシ面】
□□

⑩
【オモテ面】
〔庭ヵ〕
□□
【ウルシ面】
縄

⑪
【ウルシ面】
□□

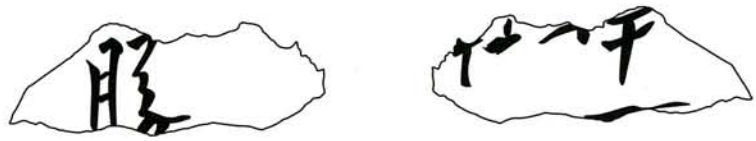
⑫
【ウルシ面】
□□□
□

⑬
【ウルシ面】
二日
【オモテ面】
（墨痕）

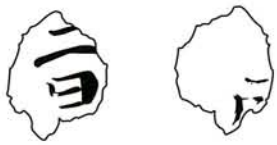
⑭
【ウルシ面】
□□

⑮
【ウルシ面】
□□

⑯
【ウルシ面】



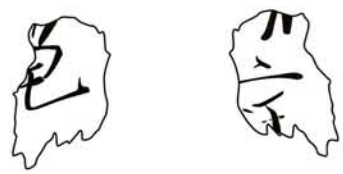
ウルシ面　⑧　オモテ面



ウルシ面　⑬　オモテ面

ウルシ面　⑨　オモテ面

⑭　ウルシ面



ウルシ面　⑩　オモテ面

⑮　ウルシ面

⑪　ウルシ面

⑯　ウルシ面

⑫　ウルシ面

第11号漆紙文書　⑧～⑯

三、内容

①ウルシ面の文字の大きさは約一・二cm四方。一・二行目の文字は一部重なる。「健児」の文字が確認できることより、当文書の作成年代は大同年間以降と考えられる（第三号文書参照）。

②ウルシ面・オモテ面ともに文字の大きさは約二cm四方。

③ウルシ面・オモテ面ともに文字の大きさは約一・二cm四方。オモテ面の「柴」字は柴田郡に関わるか。

④ウルシ面・オモテ面ともに文字の大きさは約一・五cm四方、行間は約二cm。ウルシ面一行目末尾の文字は「廿」に似る。二行目には「縄」とあり、器仗に関わる記述か。オモテ面は「館」字は明瞭に確認できるが、その上の文字は判読できなかった。

⑤ウルシ面の文字の大きさは約一・二cm四方、行間約一・八cm。三行分が確認できたがいずれの文字も判読できなかった。二行目二文字目は「柴」の上半に似る。三行目一文字目は「毅」に似る。オモテ面には「児」字が確認できた。あるいは「健児」か。文字の大きさは約〇・八cm。

⑥ウルシ面の文字の大きさは約一・五cm四方、行間は約一・五cm。一・二行目の文字は一部重なる。一行目二文字目は「かわへん」が確認できる。

⑦文字の大きさは約一・二cm四方。二行目は各文字の一部を欠くが「健児」として間違いない。

⑧ウルシ面の文字の大きさは約一・五cm四方。オモテ面は文字の上半を欠く。

⑨いずれも文字の一部を欠く。オモテ面二行目は「馬」に似る。

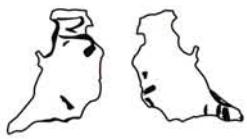
⑩ウルシ面に「縄」の右半が残る。オモテ面二文字目は「庭」に似る。

⑫文字の大きさは約一cm四方。一行目二文字目は「乗」に似る。

⑬ウルシ面の文字の大きさは約〇・八cm四方。

上記以外の断片については、文字の一部を欠くか、墨痕が確認できるのみで、文字の大きさ等を測定できなかった。

ウルシ　⑳　オモテ



ウルシ面　㉑　オモテ面

㉒　ウルシ面

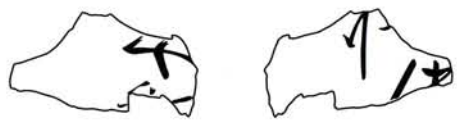
㉓　ウルシ面

㉔　ウルシ面

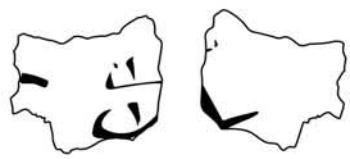
㉕　ウルシ面

㉖　オモテ面

⑰　オモテ面



ウルシ面　⑱　オモテ面



ウルシ面　⑲　オモテ面

第11号漆紙文書　⑰～㉖

第一二号漆紙文書　SI1488（C区）

一、形状

いくつかの断片を接合した大きな断片四点と、四×三㎝ほどの断片三点、および多くの小断片・細片からなる。大きな断片のウルシ面には、固形化した漆が筋状に付着していることから、蓋紙の周縁部にあたると考えられる。小断片はいずれも漆の付着が少ない。

文字・墨痕が確認されたのはそのうちの三点で、いずれもオモテ面である。法量は①八・二×三・五㎝、②三・八×二・三㎝、③二・八×一・七㎝で、①は明瞭に「寶」字が確認でき、文字の大きさは約一・五㎝四方である。「寶」の上には一～二文字分の余白がある。なお、C区からは「宝亀三年」の年紀を持つ漆紙文書（第六号）が出土していることを参考にすると、①についても年号「宝亀」の可能性があろう。②③はいずれも墨痕で判読に至らなかった。いずれにも界線・印影は確認できなかった。

また、紙継目とみられる、幅〇・三㎝、長さ一・三㎝ほどの帯状の凸部をもつ小断片（法量は一・六×〇・八㎝）が存在する。その糊代の幅からは非常に丁寧な紙継であるといえ、当文書が公文書である可能性が指摘できる。

二、釈文

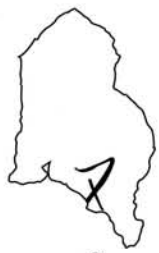
①　寶

②　□

③　□

①

①赤外画像



③

②

第12号漆紙文書

第一三号漆紙文書　SX1812（A区）

一、形状

三片を接合した断片（八・九×六・三㎝）と十一点の小片（墨痕なし）からなる。最も大きな断片のうち紙質が残っている部分は、オモテ面左半の六・七㎝×二・五㎝ほどの部分で、大部分の紙質は失われている。紙質が残る部分に文字が半存している。

文字は一行四文字が確認できた。文字の大きさは約一・〇㎝四方で字間は約一・五㎝である。界線や印影は確認できなかった。

二、釈文

（オモテ面）

部□□□

三、内容

二文字目は残画からは「成」が近いか。

四文字目は残画からは「しめすへん」と考えられる。

第一四号漆紙文書　43区第Ⅳ層（A区）

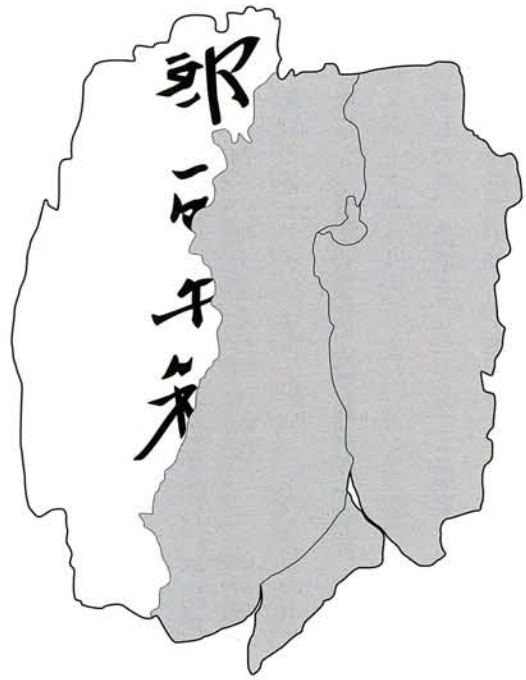
一、形状

多数の小片よりなる。一点の小片（二・八×二・三㎝）にはオモテ面に文字が確認できた。文字の大きさは約一・〇㎝四方である。

その他数点の小片に墨痕が確認できた。

二、釈文

枚



は漆膜部分

第13号漆紙文書

第14号漆紙文書

まとめ

市川橋遺跡からは計一三点の漆紙文書が出土した。うち文書の作成年代を知りうるものは以下のとおり。

（1）文書に紀年を有するもの

第六号…宝亀三（七七二）年

第一二号…宝亀（七七〇～七八一）か

第七号…延暦九（七九〇）年

第四号…弘仁九（八一八）年

（2）文書の内容より年代が推定できるもの

第二号…宝亀二（七七一）年以降

第三・一一号…大同年間（八〇六～八一〇）以降

第九号…弘仁十四（八二三）年以前

年代を知りうる文書の作成年代は七七〇年頃から八二〇年頃までに収まり、他の文書や遺構の年代を考えるうえで参考になろう。

また、文字が確認できなかった蓋紙も含めると、漆容器の直径が復元できるものについては直径一五cm前後のものが多い。平川南氏は、漆液を入れた容器（曲物）の推定径を一四cm前後、二二cm前後、三三cm前後の小・中・大の三グループに分類したが、そのうちの小グループに属することになる（『漆紙文書の研究』総論第一章註（6）、六〇～六一頁、吉川弘文館、一九八九年）。また、ウルシ面に固形化した漆が厚く付着しているものや、蓋紙をした土器ごと廃棄されたものもみられることから、当遺跡周辺では、下地塗りなどに用いる漆が、同時に大量に使用された状況が推測される。

また、内容の判明する文書についてはいずれも陸奥国府多賀城で作成されたものと考えられ、明確に多賀城以外の施設で作成されたと分かる文書は存在しない。

なお、漆紙文書は文書の保管や移動を考慮せねばならず、文書の作成年代と蓋紙としての利用の年代が必ずしも近いとは限らない点に十分に留意する必要がある。

三　墨書・刻書土器について

凡例

一、墨書土器については、筆のはしりが認められるものはできるだけ採録した。したがって破片資料も多数含まれている。それ以外の墨付や転用硯などの墨痕については墨書土器の範疇に含めていない。

一、刻書土器については、焼成前の土器に刻んだものを「ヘラガキ」、焼成後の土器に刻んだものを「線刻」と称して区別し、土器に刻む行為の総称として「刻書」の呼称を用いている。

一、本節中において掲載した実測図は、本編から必要に応じて抜粋したものである。縮尺は本編と同じく三分の一である。写真図版については任意の縮尺である。写真図版については、基本的には墨書の天地を基準に掲載した。

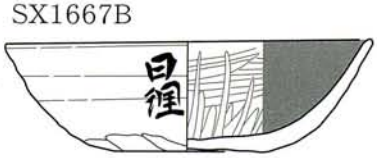
一、対象となった土器については、「墨書・刻書土器一覧表」として掲げ、器種・遺構・層位・文字内容・記載部位・記載方向などをまとめた。

ここでは、若干の傾向を述べる。

墨書は一文字あるいは二文字の墨書が圧倒的に多い。また、それぞれの墨書の出土地には際だった傾向などはとくにみられず、同一文字の点数もそれほど多くない。そのなかで、SE一六七三井戸跡やSD一六七九溝跡を中心としたA一一区周辺からは「奈」字が多く出土している。他地区に比べると完形品の割合も高い。ただし、意味は現時点では捉えにくい。

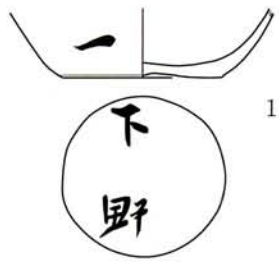
記載された文字の種類、内容は実に多彩である。たとえば地名では「日理」・「下野」などがある。そのほか、「□郡」と底部にヘラガキされたものもある。人名には「田郷丈部（以下欠）」と記されたものや「中成」「石成」や「秦」、「麻呂」などが見られる。あるいは「厨」や「宅」「家」・「舎」、「政所」などの施設名、「酒」や「魚」などの用途を記したもの、「得万」や「福」「富」、「万福」などの吉祥句などもある。また五芒星「☆」の魔除け記号も出土している。横画五本と縦画四本で示すいわゆる「九字」は確認できなかったが、「井」が出土している。井戸を示す「井」である場合もあるが、井戸跡からの出土は確認できない。したがって、これは魔除け記号と考えてよいだろう。「神悦」と記されたものも二点出土しているが、文字どおり捉えるならば、神への饗応を示すものであろう。神への饗応を示すものとしては、ほかに「身代／酒」、「身代／盛」と記された土器がある。これらは下総国を中心とした東国地域に多く見られる墨書土器と共通した記載様式である。いずれも破片資料であるが、「身代」は体部に横位で記され、「酒」・「盛」は体部に正位に記されている。これは、いわゆる多文字墨書土器とされ、『日本霊異記』（中巻―二四）にみえる説話

SX1667B



717

SX2100・2層



1264

SE1671

239 240 241

SX1812・4b層

545

SD1667B

665

SD2386d

954

SX2365・4層

1016

2940

SX2365・4層

1002

1004

SD831

1173

SD2201b

1193

105区第Ⅲ層

2961

SD1768a

111

SD2344b

890

SX1667B

710

SD1652

286

313

314

SD1667B

885

SX1667C

766

SD2163・2層

343

SX1812・4c層

(体部)

(底部)

579

SX1667C

764

83区X56

1289

SX1667B

722

SX2365・5層

1065

SX2100・2層

1267

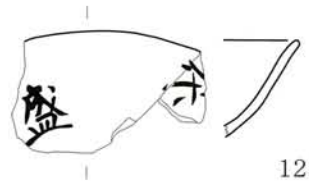
1270

SX2365・4層

1006

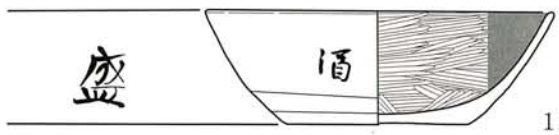
SD1768c

115



123

SD1768c

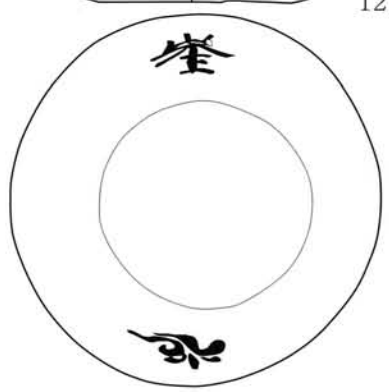


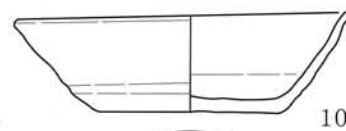
117

SX2365・4層

1019

1210

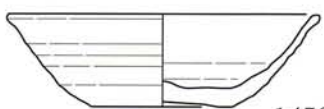




1022

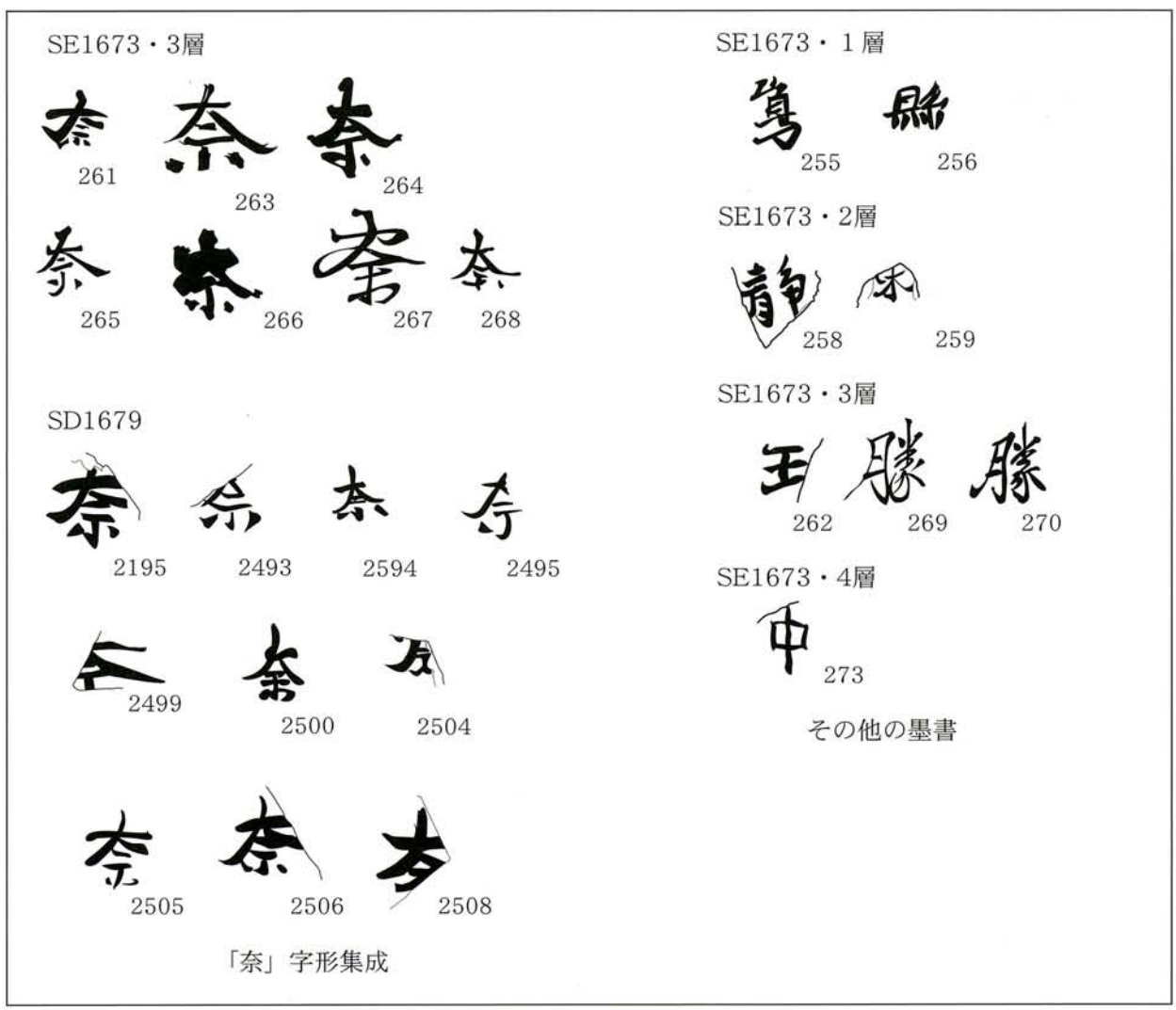
1021

SX1900



1450

を手がかりに理解されている。すなわち「身（＝形＝方＝命）＋召＋代（替）」という表現形式を持ち、冥界の閻魔王に飲食物を饗応することによって死を免れようとする信仰・祭祀と深く関わっていることを示すものである。また、饗応する飲食物は「酒」であり、器に盛った状態で字を認識できるよう正位で記しているものと考えられよう。「盛」の場合も、「盛　酒」と記された墨書土器がほかに出土していることを考えれば、同じく酒を盛ったものと考えてよいだろう。則天文字の墨書も確認することができた。則天文字とは、周知のとおり、武周の則天武后が制定し、使用させた文字である。今回の調査地区からは、「埊」（地）、𡴀（人）が出土している。特に埊（地）についてはSX二三六五・四層から、四点出土している。正位で体部に記されたものが一点、底部に記されたものが三点である。記載部位は異なるものの、いずれも体部に記号を伴っている点が注目される。体部に同様の記号が記されているものが一点出土している。破片であるため詳細は不明とせざるを得ないが、これも則天文字「埊」を体部ないし底部に伴ったものと考えられよう。



付表　墨書・刻書土器一覧

〔凡例〕

一覧表の中の「文字」の欄で使用した符号の凡例は次のとおりである。

「□」……釈読は困難だが、一文字記載されていることが確認できたもの。もしくは字数は不明であるが、明らかに墨書ないし刻書・漆書がなされていることが確認できたもの。

「□□」……釈読は困難だが、文字数の確認できるもの。

「□」・「□」…同一の部位に記載されているが、熟語ではなく一字ずつで意味を持つと判断したもの。

「□」／「□」…異なる部位に記載されていることを示す。

「□〔カ〕」…文字を確定しがたいもの。

「□（　）」…墨書・刻書・漆書の別を記す。ただし墨書に関しては必要な場合のみ記す。

「□（　）」…文字の内容に関する注記。

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
土師器	甕	SD 1767a 2	人面墨書	体部外面	正位	眉か	62	A	5061
須恵器	杯	SD 1767b 2	「三□」	底部外面	/	二文字目「国」などか	2245	A	5108
土師器	杯	SD 1767c 3	「永」	底部外面	/		63	A	5062
土師器	杯	SD 1767c 3	「上」（墨書）/「×」（ヘラガキ）	底部外面/底部内面	/		65	A	5067
須恵器	杯	SD 1767c 3	「依知」	体部外面	横位		67	A	5064
土師器	甕	SD 1767c 2	人面墨書	体部外面	正位	2面	69	A	5490
土師器	甕	SD 1767c 3	人面墨書	体部外面	正位	4面	70	A	5489
須恵器	杯	SD 1767c 3	「紀」	体部外面	正位		3198	A	5114
土師器	杯	SD 1768a 2	「今」（墨書）・「□」（線刻）	底部外面	/	門構えの文字	110	A	5503
土師器	杯	SD 1768a	「宅」	底部外面	/		111	A	5065
土師器	杯	SD 1768c 2	「□〔大カ〕」	体部外面	倒位		114	A	5007
土師器	杯	SD 1768c 2	「酒」・「身代」	体部外面	正位・横位		115	A	5069
土師器	杯	SD 1768c 2	「酒」・「盛」	体部外面	正位		117	A	5009
土師器	杯	SD 1768c 2	「盛」・「身代」	体部外面	正位/横位		123	A	5008
土師器	杯	SD 1768c 2	「酒」・「□」	体部外面	正位・横位		2247	A	5066
土師器	杯	SD 1768c 2	「□」	底部外面	/		2248	A	5070
須恵器	杯	SD 1768c 1	「□」	底部外面	/		2249	A	5112
須恵器	杯	SD 1768c 3	「□〔林カ〕」	底部外面	/		2250	A	5113
土師器	杯	SD 1768c	「□」	体部外面	正位カ		2251	A	8104
土師器	杯	SD 1768d 2	「□」	体部外面	/		2252	A	5060
須恵器	杯	SD 1768d 3	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		2253	A	5073
土師器	杯	SD 1768d 2	「□判」	体部外面	正位		2254	A	5115
須恵器	杯	SD 1768f 4	「夫」	底部外面	/		131	A	5068
須恵器	杯	SD 1768f 2	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		2255	A	3436
土師器	杯	SD 1768f 3	「二」	体部外面	正位		2256	A	5059
土師器	杯	SD 1768f 1	「□」	体部外面	/		2257	A	5063
須恵器	杯	SD 1768f 4	「十」	体部外面	正位		2258	A	5110
須恵器	杯	SD 1666c 1	「□」	底部外面	/		2259	A	2127
土師器	杯	SD 1666e 1	「□」	体部外面	/		2260	A	2118
土師器	杯	SD 1666e 1	「□」	体部外面	正位カ		2261	A	2120
須恵器	杯	SD 1666e 1	「□」	体部外面	/		2262	A	2125
須恵器	杯	SD 1666e 1	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		2263	A	2135
土師器	杯	SD 1701b 1	「□」	体部外面	/		163	A	1756
須恵器	高台付杯	SD 1701b 1	「六」（ヘラガキ）	底部外面	/		168	A	2132
土師器	杯	SD 1701b 1	「□」	体部外面	/		2264	A	1602
土師器	杯	SD 1701b 1	「□□」	体部外面	横位	二文字目福か	2265	A	2117
土師器	杯	SD 1701b 1	「□」	体部外面	/		2266	A	2119
土師器	杯	SD 1701b 1	「□」	体部外面	/		2267	A	2121
須恵器	杯	SD 1701b 1	「□」	体部外面	/		2268	A	2128
須恵器	杯	SD 1701b 1	「中成」	底部外面	/		2269	A	2129
土師器	杯	SD 1701b 1	「□」	体部外面	/		2270	A	2567
土師器	杯	SD 1701b 1	「□」	体部外面	正位		2271	A	4960
土師器	杯	SD 1703a 1	「＊」（ヘラガキ）	底部外面	/		172	A	307
須恵器	瓶	SD 1703b 2	「（記号）」	底部外面	/		178	A	290
土師器	杯	SD 1703f 1	「□」	体部外面	正位		183	A	276
須恵器	杯	SD 1704a 3	「六」	底部外面	/		189	A	277
須恵器	杯	SD 1704a 3	「舎人」	体部外面	横位		191	A	282
須恵器	杯	SD 1704a 3	「□」	体部外面	倒位カ		2272	A	281
土師器	杯	SE 2421 掘り方埋土	「□」	底部外面	/		211	A	279
土師器	杯	SE 2421 1	「□」	体部外面	/		2273	A	283
土師器	杯	SE 2421 側内埋土	「大山」	体部外面	正位		212	A	289
土師器	杯	SE 2299 側内埋土2	「勢」	体部外面	正位		219	A	288
須恵器	杯	SE 2299 抜き穴	「□」（ヘラガキ）	底部外面	/		2274	A	362
須恵器	杯	SE 2148 側内埋土1	「大万」	体部外面	正位		226	A	2152

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録
土師器	杯	SE 2148 側内埋土2	「□〔大カ〕」	体部外面	/		2275	A 2147
土師器	杯	SE 2148 側内埋土3	「□」	体部外面	/		2276	A 2148
土師器	杯	SE 2148 側内埋土4	「□」	体部外面	/		2277	A 2149
土師器	杯	SE 2148 側内埋土5	「□」	体部外面	/		2278	A 2150
須恵器	杯	SE 2148 側内埋土6	「□」	体部外面	倒位カ		2279	A 2151
須恵器	杯	SE 2148 側内埋土7	「□」	体部外面	倒位		2280	A 2153
土師器	杯	SE 2148 側内埋土8	「□」	体部外面	倒位カ		2281	A 2159
土師器	杯	SE 2148 側内埋土	「□」	体部外面	正位	あるいは二文字	228	A 2146
土師器	杯	SE 2148 側内埋土2	「伊」	体部外面	正位		3199	A 2843
土師器	杯	SE 2150 側内埋土1	「□」	体部外面	正位		232	A 2161
土師器	杯	SE 2150 側内埋土	「□」	底部外面	/		2282	A 2144
土師器	高台付杯	SE 2150 抜穴	「平」・「石万呂」	体部外面	正位		2283	A 2140
土師器	杯	SE 2150 掘り方埋土	「雁」	体部外面	倒位		2284	A 2142
土師器	杯	SE 2150 側内埋土	「□」	体部外面	/		2285	A 2143
須恵器	杯	SE 2150 灰白下層	「□」	体部外面	/		2286	A 2145
土師器	杯	SE 2150 側内埋土	「□」	体部外面	倒位		2287	A 2171
土師器	杯	SE 2149 2	「□」	体部外面	/		235	A 2158
土師器	杯	SE 2149 側内埋土	「大」・「□」	体部外面	正位		236	A 2160
土師器	杯	SE 2149 掘り方埋土	「□」	体部外面	正位カ		237	A 2155
須恵器	杯	SE 2149 側内埋土1	「□」	体部外面	正位		2288	A 2845
土師器	杯	SE 2149 側内埋土2	「□」	体部外面	/		2289	A 2157
土師器	杯	SE 2149 掘り方埋土	「(記号カ)」	体部外面	/		2291	A 2156
土師器	杯	SE 1671 側内埋土	「厨」	底部外面	/		239	A 1059
土師器	杯	SE 1671 側内埋土	「厨」	底部外面	/		240	A 1076
土師器	杯	SE 1671 側内埋土	「厨□〔宍カ〕」	底部外面	/		241	A 1072
須恵器	杯	SE 1671 側内埋土	「大」	体部外面	倒位		242	A 1074
須恵器	杯	SE 1671 側内埋土	「中」	底部外面	/		243	A 1071
須恵器	杯	SE 1671 抜き穴	「□」	体部外面	/		2292	A 1070
土師器	杯	SE 1671 井戸枠埋土	「○（文様カ）」	底部外面	/		2293	A 2975
須恵器	杯	SE 1672 側内埋土	「田坏」	体部外面	正位		244	A 1075
須恵器	杯	SE 1672 抜き穴灰白下	「□〔二カ〕」	底部外面	/		245	A 2638
須恵器	杯	SE 1672 側内埋土	「石」	底部外面	/		246	A 1062
土師器	杯	SE 1672 掘り方埋土	「仲」	体部外面	正位		247	A 1057
土師器	杯	SE 1673 掘り方埋土	「仲」	体部外面	正位		248	A 1069
土師器	杯	SE 1674 掘り方埋土	「□」	体部外面	/		2294	A 1058
土師器	杯	SE 1675 掘り方埋土	「□」	体部外面	/		2295	A 1060
土師器	杯	SE 1676 掘り方埋土	「□」	体部外面	/		2296	A 1061
土師器	杯	SE 1677 掘り方埋土	「□」	体部外面	正位カ		2297	A 1063
須恵器	杯	SE 1678 掘り方埋土	「井」（墨書）・「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		2298	A 1064
土師器	杯	SE 1679 掘り方埋土	「□」	体部外面	/		2299	A 1066
土師器	杯	SE 1680 掘り方埋土	「□」	体部外面	正位カ		2300	A 1068
土師器	杯	SE 1681 掘り方埋土	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		2301	A 1442
土師器	高台付杯	SE 1672 枠内灰白上	「□」（墨書）/「□〔田カ〕」（線刻）	体部外面/底部外面	/		2302	A 1446
須恵器	杯	SE 1672 掘り方埋土	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		2303	A 2963
須恵器	杯	SE 1672 抜き穴灰白上	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		2304	A 2974
土師器	杯	SE 1673 抜き穴	「□〔鳥カ嶌カ〕	体部外面	正位		249	A 1093
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土	「嶌」	体部外面	倒位		255	A 1046
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土	「縣」	体部外面	倒位		256	A 1049
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土2層	「静」	体部外面	正位		258	A 1081
土師器	杯	SE 1673 側内埋土2層	「□」	底部外面	/		259	A 1088
土師器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「□〔三カ〕」	底部外面	/	ほかに体部外面墨付	260	A 1050
土師器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「奈」	体部外面	正位		261	A 1042
土師器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「王」	底部外面	/		262	A 1043
土師器	高台付杯	SE 1673 側内埋土3層	「奈」	体部外面	正位		263	A 1052
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「奈」	体部外面	正位		264	A 1053
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「奈」	体部外面	正位		265	A 1045
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「奈」	体部外面	正位		266	A 1055
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「奈」	底部外面	/		267	A 1044
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「奈」	底部外面	/		268	A 1054
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「勝」	底部外面	/		269	A 1056
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「勝」	底部外面	/		270	A 1051
土師器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「□〔田カ〕」	体部外面	倒位カ		271	A 1091
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「□」	体部外面	正位カ		272	A 1085
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土4層	「中」	体部外面	正位		273	A 1092
土師器	甕	SE 1673 抜き穴	「□」	体部外面	/		2305	A 1047
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「□」	体部外面	/		2306	A 1077
須恵器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「□」	体部外面	/		2307	A 1078
土師器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「□」	体部外面	/		2308	A 1089
土師器	杯	SE 1673 側内埋土3層	「□」	底部外面	/		2309	A 1090

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	瓶	SE 1673 側内埋土3層	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		2310	A	1458
須恵器	杯	SE 1692 埋土1層	「□」	底部外面	/	二文字か(二文字目は「上」)	275	A	1065
土師器	杯	SE 2314 抜き穴	「㊤」	体部外面	横位		277	A	287
土師器	杯	SE 2314 抜き穴	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		278	A	397
土師器	杯	SE 2314 抜き穴	「□」	体部外面	正位カ		279	A	284
土師器	杯	SE 2314 抜き穴	「万」	体部外面	正位		280	A	285
須恵器	杯	SE 2314 側内埋土	「□」	体部外面	/		2311	A	292
土師器	杯	SD 1652 1	「川□」	底部外面	/		284	A	118
土師器	杯	SD 1652 1	「中成」	体部外面	横位		286	A	111
須恵器	杯	SD 1652 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		308	A	90
須恵器	杯	SD 1652 1	「□〔×カ〕」	底部外面	/		309	A	144
須恵器	杯	SD 1652 1	「×」	底部外面	/		310	A	148
須恵器	杯	SD 1652 1	「×」	底部外面	/		311	A	86
須恵器	杯	SD 1652 1	「(記号カ)」	底部外面	/		312	A	87
須恵器	杯	SD 1652 1	「中成」	底部外面	/		313	A	95
須恵器	杯	SD 1652 1	「中成」	底部外面	/		314	A	88
須恵器	高台付杯	SD 1652 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		315	A	89
須恵器	杯	SD 1652 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		2313	A	91
土師器	高台付杯	SD 2295 2	「卌」(ヘラガキ)	底部外面	/	九字の略か	323	A	358
土師器	杯	SD 2298 1	「吉」	体部外面	正位		326	A	278
須恵器	杯	SD 2298 1	「□〔万カ〕」	体部外面	正位		327	A	291
土師器	杯	SD 2503 1	「(記号カ)」	底部外面	/		335	A	1935
土師器	甕	SD 2317 1	「□取火長□〔令カ〕納□」	体部外面	横位		329	A	5495
須恵器	杯	SD 2163 1	「天」・「天」	体部外面	横位		340	A	1929
須恵器	杯	SD 2163 1	「□」	底部外面	/	体部外面墨付	341	A	2162
須恵器	杯	SD 2163 2	「秦」	底部外面	/		343	A	1898
須恵器	杯	SD 2163 2	「大」	底部外面	/		344	A	1912
土師器	杯	SD 2294	「*」(ヘラガキ)	体部外面	正位		2314	A	367
須恵器	杯	SD 2163 1	「大」	体部外面	倒位		2315	A	1901
土師器	杯	SK 1651 1	「山」	体部外面	正位		350	A	113
土師器	杯	SK 1651 1	「山」	体部外面	正位		351	A	114
土師器	杯	SK 1651 1	「山」	体部外面	正位		352	A	116
土師器	杯	SK 1651 1	「□」	体部外面	正位カ		353	A	115
須恵器	杯	SK 2164 1	「河」	体部外面	倒位		383	A	401
土師器	杯	SK 2164 2	「三」(ヘラガキ)	底部外面	/		384	A	1862
須恵器	杯	SK 2445 1	「万」/「□」	体部外面/底部外面	倒位		390	A	1883
須恵器	杯	SK 2445 1	「□〔大カ〕」	体部外面	横位		393	A	1888
土師器	杯	SK 2446 1	「□」	体部外面	横位カ		395	A	1891
須恵器	杯	SK 2446 1	「□□〔万カ〕」	底部外面	/		2317	A	1893
須恵器	杯	SK 1697 1	「本」	底部外面	/		397	A	1094
土師器	杯	SX 1812 1	「□」	体部外面	/		2318	A	4072
土師器	杯	SX 1812 1	「□」	体部外面	正位		2319	A	4075
土師器	甕	SX 1812 2	人面墨書	体部外面	正位	顎鬚	430	A	4418
土師器	杯	SX 1812 3b	「在」	底部外面	/	左文字	490	A	4114
須恵器	杯	SX 1812 3b	「m(記号)」・「m(記号)」	体部外面	正位カ		491	A	3963
須恵器	杯	SX 1812 3	「人」・「人」	体部外面	倒位		492	A	4106
須恵器	杯	SX 1812 3	「永」	体部外面	倒位		493	A	4094
土師器	甕	SX 1812 3	人面墨書	体部外面	正位	目と鼻	495	A	5478
土師器	甕	SX 1812 3b	人面墨書	体部外面	正位	部位判然としないが、目か	496	A	4426
土師器	甕	SX 1812 3b	人面墨書	体部外面	正位	目と眉	498	A	4427
土師器	甕	SX 1812 3	人面墨書	体部外面	正位	目と鼻	495	A	5478
土師器	甕	SX 1812 3	人面墨書カ	体部外面	/		497	A	4416
土師器	甕	SX 1812 3	人面墨書カ	体部外面	正位		499	A	4415
須恵器	杯	SX 1812 3	「□」	体部外面	/		500	A	4414
土師器	杯	SX 1812 3	「□〔厨カ〕」	体部外面	正位		2316	A	4112
須恵器	杯	SX 1812 3	「人」	体部外面	正位		2320	A	4095
須恵器	杯	SX 1812 3	「(記号)」	体部外面	正位カ		2321	A	4096
須恵器	杯	SX 1812 3	「□」	底部外面	/		2322	A	4099
須恵器	杯	SX 1812 3	「□」	体部外面	/		2323	A	4101
須恵器	杯	SX 1812 3	「□」	体部外面	/		2324	A	4102
須恵器	杯	SX 1812 3	「□」	体部外面	正位		2325	A	4104
土師器	杯	SX 1812 3	「□」	体部外面	倒位カ		2326	A	4107
土師器	杯	SX 1812 3	「□」	体部外面	正位		2327	A	4108
土師器	杯	SX 1812 3	「(記号カ)」	体部外面	/		2328	A	4109
土師器	杯	SX 1812 3	「□」	体部外面	正位		2329	A	4110
土師器	杯	SX 1812 3	「□」	体部外面	正位		2330	A	4111
土師器	杯	SX 1812 3	「□」	底部外面	/		2331	A	4113
土師器	杯	SX 1812 3	「□〔mカ〕(記号カ)」	体部外面	正位カ		2332	A	4115
土師器	杯	SX 1812 3	「□」	体部外面	/		2334	A	4117

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SX 1812 3	「□〔主カ〕」	底部外面	/		2335	A	4393
須恵器	杯	SX 1812 4	「廷」	体部外面	正位		543	A	4067
土師器	杯	SX 1812 4b	「雄」	体部外面	倒位		538	A	4026
土師器	杯	SX 1812 4b	「色」	体部外面	正位		539	A	4032
土師器	杯	SX 1812 4b	「全山」	体部外面	正位	合わせ文字	540	A	4041
須恵器	杯	SX 1812 4b	「(記号)」	体部外面	正位		541	A	4314
須恵器	杯	SX 1812 4b	「◎〔記号〕」	体部外面	正位		542	A	4315
土師器	杯	SX 1812 4b	「大二」・「□〔大二カ〕」	体部外面	正位		544	A	4031
須恵器	杯	SX 1812 4b	「厨」	底部外面	/		545	A	4317
土師器	甕	SX 1812 4b	人面墨書	体部外面	正位カ		546	A	4419
土師器	甕	SX 1812 4b	人面墨書カ	体部外面	/		547	A	4421
土師器	甕	SX 1812 4b	人面墨書カ	体部外面	/		548	A	4422
土師器	甕	SX 1812 4b	人面墨書	体部外面	正位	顔の輪郭	549	A	4420
土師器	杯	SX 1812 4b	「□」	底部外面	/		2336	A	4015
土師器	杯	SX 1812 4b	「(記号・文様カ)」	体部外面/底部外面	/		2337	A	4018
土師器	杯	SX 1812 4b	「□」	底部外面	/		2338	A	4020
土師器	杯	SX 1812 4b	「□」	体部外面	/		2339	A	4021
土師器	杯	SX 1812 4b	「□」	体部外面	/		2340	A	4022
土師器	杯	SX 1812 4b	「□」	体部外面	正位カ		2341	A	4023
土師器	杯	SX 1812 4b	「上」	底部外面	/		2342	A	4025
土師器	杯	SX 1812 4b	「□」	体部外面			2343	A	4027
土師器	杯	SX 1812 4b	「□□〔万呂カ〕」	体部外面	横位		2344	A	4028
土師器	杯	SX 1812 4b	「衣」	底部外面	/		2345	A	4029
土師器	杯	SX 1812 4b	「□」	体部外面	正位	「イ」篇などか	2346	A	4034
土師器	杯	SX 1812 4b	「□」・「□」	体部外面	/		2347	A	4035
土師器	杯	SX 1812 4b	「□」	体部外面	正位		2348	A	4036
土師器	杯	SX 1812 4b	「伊」	体部外面	正位		2349	A	4038
土師器	杯	SX 1812 4b	「□〔大カ丈カ〕」	体部外面	正位		2350	A	4039
土師器	杯	SX 1812 4b	「□」	底部外面	/		2351	A	4040
須恵器	杯	SX 1812 4b	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		2352	A	4248
須恵器	杯	SX 1812 4b	「□」	底部外面	/		2353	A	4318
須恵器	杯	SX 1812 4b	「二」	体部外面	正位カ	画数記号か	2354	A	4319
土師器	杯	SX 1812 4c	「永」	体部外面	正位		574	A	4053
土師器	杯	SX 1812 4c	「継」(墨書)/「×」(ヘラガキ)	体部外面/底部外面	正位		575	A	4056
土師器	高台付皿	SX 1812 4c	「宇」	体部外面	正位		576	A	4049
須恵器	杯	SX 1812 4c	「人」	体部外面	正位		577	A	4058
須恵器	杯	SX 1812 4c	「永」	底部外面	/		578	A	3680
須恵器	杯	SX 1812 4c	「秦」/「秦」	体部外面/底部外面	正位		579	A	5493
土師器	甕	SX 1812 4c	人面墨書カ	体部外面	/		580	A	4417
須恵器	杯	SX 1812 4c	人面墨書	体部外面	正位		581	A	5483
土師器	不明	SX 1812 4c	人面墨書	体部外面	/	口・顎鬚・耳	630	A	4437
土師器	杯	SX 1812 4c	「□」	体部外面	正位カ		2355	A	3818
土師器	杯	SX 1812 4c	「□」	体部外面	正位カ		2356	A	4044
土師器	杯	SX 1812 4c	「□」	体部外面	正位		2357	A	4045
土師器	杯	SX 1812 4c	「□」	体部外面	正位カ		2358	A	4046
土師器	杯	SX 1812 4c	「□」	体部外面	/		2359	A	4048
土師器	杯	SX 1812 4c	「千」	体部外面	倒位		2360	A	4054
須恵器	杯	SX 1812 4c	「□」	体部外面	正位		2361	A	4061
須恵器	杯	SX 1812 4c	「天」	体部外面	正位		2362	A	5511
土師器	杯	SX 1812 4c	「□」	体部外面	/		3200	A	4051
須恵器	杯	SX 1812 4d	「鳥」	体部外面	倒位		584	A	4085
須恵器	杯	SX 1812 4d	「十人」	体部外面	正位		2363	A	4084
須恵器	瓶	SX 1812 4d	「□」(ヘラガキ)	底部外面	/		2364	A	4333
須恵器	杯	SX 1812 4d	「□」	底部外面	/		2365	A	4354
土師器	杯	SX 1812 5	「月」・「月」/「月」	体部外面/底部外面	横位		594	A	3926
土師器	杯	SX 1812 5	「㊀」	体部外面	正位		595	A	3929
須恵器	杯	SX 1812 5	「夫」	体部外面	倒位		596	A	4321
須恵器	瓶	SX 1812 5	「(習書カ)」	体部内面	/	筆慣らしの類カ	597	A	4268
須恵器	杯	SX 1812 5	「定」	底部外面	/		598	A	4324
土師器	杯	SX 1812 5	「□」	体部外面	正位カ		2366	A	3917
土師器	杯	SX 1812 5	「□」	体部外面	倒位	記号か	2367	A	3924
土師器	杯	SX 1812 5	「□」	体部外面	正位	「オ」	2368	A	3930
須恵器	杯	SX 1812 5	「□」	体部外面	正位		2369	A	4323
須恵器	杯	SX 1812 5	「□」	体部外面	正位		2370	A	4325
土師器	杯	SX 1812 6	「体」	体部外面	正位		599	A	3676
須恵器	杯	SX 1812 6	「大万」	体部外面	横位		600	A	4080
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書	体部外面	正位	耳と髭か	415	A	4403
須恵器	杯	SX 1812 7	「卌」・「卌」	体部外面	正位カ	九字の省略形か	615	A	3675
土師器	杯	SX 1812 7	「酒」・「福」	体部外面	正位・倒位		616	A	3933

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SX 1812 7	「(記号カ)」/「(記号)」	体部外面/底部外面	/		617	A	3953
須恵器	杯	SX 1812 7	「徳」	体部外面	倒位		618	A	3955
須恵器	杯	SX 1812 7	「財」	体部外面	横位		619	A	3957
須恵器	杯	SX 1812 7	「歳」	体部外面	正位		620	A	3958
須恵器	杯	SX 1812 7	「大」	体部外面	正位		621	A	3959
須恵器	杯	SX 1812 7	「□〔生カ〕□」	体部外面	横位		622	A	3960
須恵器	杯	SX 1812 7	「大」	体部外面	正位		623	A	3961
須恵器	杯	SX 1812 7	「十」・「十」	体部内面	正位		624	A	3965
土師器	杯	SX 1812 7	「集□〔来カ〕」	底部外面	/		625	A	3896
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書	体部外面	正位	目	626	A	4404
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書カ	体部外面	/		627	A	4406
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書	体部外面	正位	目	628	A	4408
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書カ	体部外面	/		629	A	4410
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書	体部外面	正位		631	A	4407
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書	体部外面	正位	目か	632	A	4409
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書カ	体部外面	/		633	A	4405
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書	体部外面	正位	顎鬚	634	A	4413
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書	体部外面	正位	目と耳	635	A	4411
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書カ	体部外面	/	部位判然とせず	636	A	4425
土師器	甕	SX 1812 7	人面墨書	体部外面	正位	目と鼻	637	A	5479
土師器	杯	SX 1812 7	「上」	体部外面	正位		2371	A	3940
須恵器	杯	SX 1812 7	「□〔本カ〕」(墨書)・「一」(ヘラガキ)	底部外面	/	あるいは「大□」か	2372	A	3947
須恵器	杯	SX 1812 7	「十」	体部外面	/		2373	A	3949
須恵器	杯	SX 1812 7	「□〔春カ〕」	体部外面	正位		2374	A	3952
須恵器	杯	SX 1812 7	「□」	体部外面	正位		2375	A	3956
須恵器	杯	SX 1812 7	「高」	体部外面	横位		2376	A	3964
土師器	杯	SX 1812 灰白下層	「百」	底部外面	/		638	A	3969
土師器	杯	SX 1813 灰白下層	「□」	底部外面	/	旁はす	639	A	3978
土師器	杯	SX 1814 灰白下層	「下川田」	体部外面	倒位		640	A	3685
須恵器	杯	SX 1815 灰白下層	「十人」	体部外面	正位		641	A	4093
土師器	杯	SX 1816 灰白下層	「□」(墨書)/「二」(ヘラガキ)・「一」(ヘラガキ)	体部外面/底部外面	正位	ヘラガキは画数記号	642	A	3966
須恵器	杯	SX 1817 灰白下層	「申」	体部外面	正位		643	A	3681
須恵器	杯	SX 1818 灰白下層	「□」・「見」/「□」	体部外面/底部外面	倒位・横位		644	A	3679
須恵器	杯	SX 1812 灰白下層	「大」・「大」	体部外面	倒位		645	A	4068
土師器	杯	SX 1813 灰白下層	「宮」	体部外面	倒位		646	A	3976
須恵器	杯	SX 1814 灰白下層	「□〔荒カ〕」	体部外面	横位		647	A	4088
土師器	甕	SX 1815 灰白下層	人面墨書	体部外面	正位	2面	649	A	5488
土師器	甕	SX 1816 灰白下層	人面墨書	体部外面	正位	目鼻耳	650	A	5481
土師器	甕	SX 1817 灰白下層	人面墨書	体部外面	正位		651	A	4424
須恵器	杯	SX 1818 灰白下層	人面墨書	体部外面	正位	目と眉	652	A	4299
土師器	甕	SX 1819 灰白下層	人面墨書	体部外面	正位	目と耳か	653	A	4423
土師器	杯	SX 1820 灰白下層	「加」	体部外面	正位		2377	A	3977
土師器	杯	SX 1821 灰白下層	「□〔古カ〕」	底部外面	/		2378	A	3980
土師器	杯	SX 1822 灰白下層	「□」	体部外面	/		2379	A	3982
土師器	杯	SX 1823 灰白下層	「□」	体部外面	正位		2380	A	3983
須恵器	杯	SX 1824 灰白下層	「□」	体部外面	正位カ		2381	A	4090
須恵器	杯	SX 1825 灰白下層	「□」	底部外面	/	草冠の文字か、あるいは二文字	2382	A	4363
土師器	杯	SX 1812	「□〔卅カ〕」	体部外面	正位カ		2383	A	3968
須恵器	杯	SX 1812	「田」	体部外面	正位		2384	A	4073
須恵器	杯	SX 1812	「厨」	底部外面	/		2385	A	4083
須恵器	杯	SX 1812	「□」	底部外面	/		2386	A	4087
須恵器	杯	SX 1812 検出面	「□」	体部外面	正位	「万」の合わせ文字か	2387	A	4341
須恵器	杯	SX 1667B	「㊣」	体部外面	正位		654	A	1150
須恵器	杯	SX 1667B	「□」/「□」	体部外面/底部外面	正位カ		655	A	1149
須恵器	杯	SX 1667B	「□〔衣カ〕」	底部外面	/		656	A	1151
須恵器	杯	SX 1667B	「長」	底部外面	/		657	A	1152
須恵器	杯	SX 1667B	「㊣」	体部外面	正位		658	A	1153
須恵器	杯	SX 1667B	「㊣」	体部外面	正位		659	A	1154
須恵器	杯	SX 1667B	「㊣」	体部外面	正位		660	A	1155
須恵器	杯	SX 1667B	「㊣」	体部外面	正位		661	A	1156
須恵器	杯	SX 1667B	「人」/「人」/「人」	体部外面/体部内面/底部外面	正位カ/正位カ		662	A	1157
須恵器	杯	SX 1667B	「□」/「●」	体部外面/底部外面	正位カ		663	A	1158
須恵器	杯	SX 1667B	「十」	体部外面	正位		664	A	1159
土師器	杯	SX 1667B	「厨」	底部外面	/		665	A	1162
須恵器	杯	SX 1667B	「(文様カ)」	体部外面	正位	渦巻き文様6個	666	A	1160
須恵器	杯	SX 1667B	「片」	底部外面	/		667	A	1167
須恵器	杯	SX 1667B	「上」	底部外面	/		668	A	1164
須恵器	杯	SX 1667B	「井上」	底部外面	/		669	A	1165
須恵器	杯	SX 1667B	「片」	底部外面	/		670	A	1168

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SX 1667B	「片」	底部外面	/		671	A	1169
須恵器	杯	SX 1667B	「二」・「二」	体部外面	正位		672	A	1170
須恵器	杯	SX 1667B	「生」	体部外面	倒位		673	A	1171
須恵器	杯	SX 1667B	「生」/「生」	体部外面/底部外面	横位		674	A	1172
須恵器	高台付杯	SX 1667B	「□〔真カ〕」	底部外面	/	もしくは「十□」	675	A	1174
須恵器	杯	SX 1667B	「舎人」	底部外面	/		676	A	1175
須恵器	杯	SX 1667B	「毛人」	体部外面	倒位		677	A	1176
須恵器	杯	SX 1667B	「真」	底部外面	/		678	A	1177
須恵器	杯	SX 1667B	「大」(漆書)	体部外面	倒位		679	A	1179
須恵器	杯	SX 1667B	「〓(記号)」	体部外面	正位		680	A	1178
土師器	杯	SX 1667B	「□」	底部外面	/		681	A	1183
須恵器	杯	SX 1667B	「大」(漆書)	体部外面	正位		683	A	1185
須恵器	杯	SX 1667B	「丈」(漆書)	体部外面	正位		684	A	1186
須恵器	杯	SX 1667B	「㊣」	体部外面	正位		685	A	1187
須恵器	杯	SX 1667B	「丈」	体部外面	正位		686	A	1190
須恵器	杯	SX 1667B	「大」(漆書)	底部外面	/	体部外面にも漆付着	687	A	1189
須恵器	杯	SX 1667B	「＊」	体部外面	正位カ		688	A	1191
須恵器	杯	SX 1667B	「大」	体部外面	倒位		689	A	1192
須恵器	杯	SX 1667B	「大」	体部外面	正位		690	A	1193
須恵器	杯	SX 1667B	「□(記号カ)」	底部外面	/		691	A	1197
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	正位		692	A	1200
須恵器	杯	SX 1667B	「大」	底部外面	/		693	A	1203
須恵器	杯	SX 1667B	「木」	体部外面	倒位	転用硯？油煙	694	A	1196
須恵器	杯	SX 1667B	「□〔大カ〕」/「大」	体部外面/底部外面	正位カ		695	A	1206
須恵器	杯	SX 1667B	「丈丈」	底部外面	/		696	A	1207
須恵器	杯	SX 1667B	「大」/「大」	体部外面/底部外面	正位		697	A	1210
須恵器	杯	SX 1667B	「⊗」(記号カ)」・「□」	体部外面	正位カ		698	A	1211
須恵器	杯	SX 1667B	「因」	体部外面	正位		699	A	1212
須恵器	杯	SX 1667B	「丈」(墨書)/「丈」(墨書)/「×」(ヘラガキ)	体部外面/体部内面/底部外面	正位/正位		700	A	1208
須恵器	杯	SX 1667B	「蔵」	体部外面	倒位		701	A	1213
須恵器	杯	SX 1667B	「㊥」・「㊥」	体部外面	倒位		702	A	1214
須恵器	杯	SX 1667B	「子」・「□」/「相」・「皿子」	体部外面/底部外面	正位		703	A	1217
須恵器	杯	SX 1667B	「尺」	底部外面	/		704	A	1220
須恵器	杯	SX 1667B 1	「舎人」	体部外面	横位		705	A	1748
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	正位		706	A	1253
須恵器	杯	SX 1667B 1	「□」(漆書)	体部外面	正位カ		707	A	1651
須恵器	杯	SX 1667B 1	「舎人」	底部外面	/		708	A	5494
須恵器	杯	SX 1667B	「㊣」	体部外面	正位		709	A	1254
須恵器	杯	SX 1667B	「宅」	底部外面	/		710	A	1233
須恵器	杯	SX 1667B	「生」/「物」	体部外面/底部外面	正位		711	A	1240
須恵器	杯	SX 1667B	「□〔更カ〕」	底部外面	/		712	A	1237
須恵器	杯	SX 1667B	「長」	底部外面	/		713	A	1152
土師器	蓋	SX 1667B 1	「□」	つまみ部	/		714	A	1728
須恵器	杯	SX 1667B	「上」・「(記号カ)」・「(記号カ)」	体部外面	正位	同一記号	715	A	1224
須恵器	蓋	SX 1667B 1	「会」	つまみ部	/		716	A	2098
土師器	杯	SX 1667B 1	「曰理」	体部外面	正位		717	A	5492
土師器	杯	SX 1667B・	「□〔干カ〕」	底部外面	/	あるいは廾	718	A	1259
須恵器	杯	SX 1667B 1	人面墨書	体部外面	正位	2面	719	A	5487
須恵器	杯	SX 1667B 1	人面墨書	体部外面	倒位		720	A	5486
須恵器	杯	SX 1667B 1	「□」	体部外面	/		721	A	2091
土師器	杯	SX 1667B	「田郷丈部」	体部外面	横位		722	A	1234
須恵器	杯	SX 1667B	「争」	体部外面	横位		723	A	1236
須恵器	杯	SX 1667B 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		732	A	2054
須恵器	杯	SX 1667B 1	「卌」(線刻)	体部外面	正位カ	九字の省略形か	733	A	2060
土師器	甕	SX 1667B 1	人面墨書	体部外面	正位カ	2面	747	A	5491
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外面	正位		748	A	1262
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外面	正位	目と鼻	749	A	1264
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外面	正位	目	750	A	1272
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書カ	体部外面	/		751	A	1266
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外面	正位	目	752	A	1271
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外面	正位	鼻と口	753	A	1270
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外面	正位	口カ　複数面あるが詳細不明	754	A	1263
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外面	正位	耳	755	A	1273
須恵器	杯	SX 1667B	「中成」	底部外面	/		855	A	1173
須恵器	杯	SX 1667B 1	人面墨書	体部外面	正位		2211	A	5485
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	底部外面	/		2388	A	1166
須恵器	杯	SX 1667B	「□」・「□〔㊣カ〕」	体部外面	正位・正位		2389	A	1148
土師器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	正位カ		2390	A	1163
須恵器	杯	SX 1667B	「大」(漆書)	体部外面	正位		2391	A	1180

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録
須恵器	杯	SX 1667B	「大」（漆書）	体部外面	正位		2392	A 1181
須恵器	杯	SX 1667B	「ノ」（漆書）	体部外面	正位	体部外面他に漆付着	2393	A 1184
須恵器	杯	SX 1667B	「□（記号カ）」	底部外面	/		2394	A 1194
須恵器	杯	SX 1667B	「大」・「大」	体部外面	正位		2395	A 1201
須恵器	杯	SX 1667B	「大」	体部外面	正位		2396	A 1202
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	/		2397	A 1204
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	正位カ		2398	A 1215
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	/		2399	A 1218
須恵器	杯	SX 1667B	「□〔生カ〕」	底部外面	/		2400	A 1221
須恵器	杯	SX 1667B	「片」	体部外面	正位		2401	A 1222
須恵器	杯	SX 1667B	「□」/「□」	体部外面/底部外面	/		2402	A 1223
土師器	杯	SX 1667B	「木」	体部外面	正位		2403	A 1225
須恵器	杯	SX 1667B	「片」	底部外面	/		2404	A 1226
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	底部外面	/		2405	A 1227
土師器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	/		2406	A 1228
須恵器	高台付杯	SX 1667B	「□」	底部外面	/		2407	A 1229
土師器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	横位カ		2408	A 1230
須恵器	杯	SX 1667B	「宮」	底部外面	/		2409	A 1231
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	/		2410	A 1232
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	/		2411	A 1235
須恵器	杯	SX 1667B	「□〔×カ〕」	底部外面	/		2412	A 1238
須恵器	杯	SX 1667B	「因」	体部外面	正位		2413	A 1239
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	底部外面	/		2414	A 1243
須恵器	杯	SX 1667B	「□」（墨書）・「□〔×カ〕」（ヘラガキ）	底部外面	/		2415	A 1244
須恵器	杯	SX 1667B	「□〔色カ〕」	体部外面	正位カ		2416	A 1245
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	底部外面	/		2417	A 1246
須恵器	杯	SX 1667B	「□」（墨書）/「一」（ヘラガキ）	体部外面/底部外面	/		2418	A 1249
須恵器	杯	SX 1667B	「□」（墨書）/「□〔一カ〕」（ヘラガキ）	体部外面/底部外面	/		2419	A 1247
須恵器	杯	SX 1667B	「□」/「□」	体部外面/底部外面	/		2420	A 1250
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	底部外面	/		2421	A 1251
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	底部外面	/		2422	A 1252
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	/		2423	A 1255
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	/		2424	A 1256
須恵器	杯	SX 1667B	「田」	体部外面	正位		2425	A 1257
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	底部外面	/		2426	A 1258
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	/		2427	A 1260
須恵器	杯	SX 1667B	「□」	体部外面	/		2428	A 1261
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外面	正位		2429	A 1265
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外面	正位	目	2430	A 1267
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外面	正位	目	2431	A 1268
土師器	甕	SX 1667B	人面墨書	体部外面	正位		2432	A 1269
須恵器	杯	SX 1667B	「生」	体部外面	正位		2433	A 1281
須恵器	杯	SX 1667B 1	「舎人」	体部外面	倒位		2434	A 1757
須恵器	杯	SX 1667B 1	「舎人」	底部外面	/		2435	A 1758
土師器	杯	SX 1667B 1	「二」	体部外面	正位		2436	A 1776
土師器	杯	SX 1667B 1	「□〔廾カ〕」	体部外面	正位		2437	A 1777
須恵器	杯	SX 1667B 1	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		2438	A 2051
土師器	杯	SX 1667B 1	「二」・「二」	体部外面	正位		2439	A 1759
須恵器	杯	SX 1667B 1	「二」（ヘラガキ）	底部外面	/		2440	A 2053
須恵器	杯	SX 1667B 1	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		2441	A 2054
須恵器	杯	SX 1667B 1	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		2442	A 2059
土師器	杯	SX 1667B 1	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		2444	A 2061
須恵器	杯	SX 1667B 1	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		2445	A 2063
須恵器	杯	SX 1667B 1	「二」（ヘラガキ）	底部外面	/		2446	A 2064
須恵器	杯	SX 1667B	「上」	体部内面	正位		2447	A 4541
須恵器	杯	SX 1667B 1	人面墨書	体部外面	倒位		2448	A 5484
土師器	杯	SX 1667B 1	「□」	体部外面	/		2449	A 5512
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□」	底部外面	/		743	A 1764
土師器	杯	SX 1667C 1	「□〔原カ〕」	体部外面	正位		760	A 1747
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□〔春カ〕」	体部外面	/		761	A 1762
須恵器	杯	SX 1667C 1	「大」	体部外面	倒位		762	A 1774
須恵器	杯	SX 1667C	「大□〔中カ申カ〕」	底部外面	/		763	A 1161
須恵器	杯	SX 1667C 1	「秦」	体部外面	横位	他に体部外面に墨書あり	764	A 1765
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□」	底部外面	/		765	A 1764
須恵器	杯	SX 1667C 1	「中成」	底部外面	/		766	A 1767
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□」	底部外面	/		767	A 1763
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□」	体部外面	正位		768	A 1773
土師器	杯	SX 1667C 1	「m（記号カ）」（墨書）・「m（記号カ）」（線刻）	体部外面	正位	墨書の上に線刻でなぞる。	769	A 2055
土師器	杯	SX 1667C 1	「野」（線刻）	底部外面	/		770	A 2052

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
土師器	甕	SX 1667C 1	人面墨書	体部外面	/		771	A	1766
土師器	甕	SX 1667C 1	人面墨書	体部外面	正位	目	772	A	1754
土師器	甕	SX 1667C 1	人面墨書	体部外面	正位	目	773	A	1755
土師器	甕	SX 1667C 1	人面墨書	体部外面	正位	目と鼻	775	A	1753
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□」	体部外面	/		2450	A	1760
土師器	杯	SX 1667C 1	「□」	底部外面	/		2451	A	1761
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□」	体部外面	/		2452	A	1769
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□」	底部外面	/	月の可能性あり	2453	A	1770
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□」	体部外面	/		2454	A	1771
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□」	体部外面	/		2455	A	1772
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□」	体部外面	/		2456	A	1775
土師器	杯	SX 1667C 1	「大□」	体部外面	正位	もしくは二文字	2457	A	1778
土師器	杯	SX 1667C 1	「□」	体部外面	横位カ		2458	A	1780
土師器	杯	SX 1667C 1	「□〔万カ〕」	底部外面	/		2459	A	1781
土師器	杯	SX 1667C 1	「厨」	体部外面	正位		2460	A	1782
土師器	杯	SX 1667C 1	「□」	体部外面	正位カ		2461	A	1783
土師器	杯	SX 1667C 1	「□」	底部外面	/		2462	A	1785
土師器	杯	SX 1667C 1	「□（記号カ）」	体部外面	正位カ	「𝔛」か	2463	A	1786
土師器	杯	SX 1667C 1	「□」	底部外面	/		2464	A	1788
土師器	杯	SX 1667C 1	「□」	体部外面	横位カ		2465	A	1790
須恵器	杯	SX 1667C 1	「二」（ヘラガキ）	底部外面	/		2466	A	2056
須恵器	杯	SX 1667C 1	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		2467	A	2057
土師器	杯	SX 1667C 1	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		2468	A	2058
須恵器	杯	SX 1667C 1	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		2469	A	2062
須恵器	杯	SX 1667C 1	「□」	体部外面	/		2470	A	2126
土師器	甕	SX 1853B 2	人面墨書	体部外面	正位		779	A	5482
須恵器	杯	SX 1853B 2	「□□」	底部外面	/		2537	A	5389
土師器	杯	SX 1715 黒褐色堆積層	「☆」	体部外面	正位		780	A	8079
土師器	杯	8区第Ⅰ層	「川□」	底部外面	/		813	A	286
土師器	甕	9区第Ⅰ層	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		843	A	1331
須恵器	杯	9区第Ⅰ層	「万」/「□」	体部外面/底部外面	倒位		2471	A	2190
土師器	杯	9区第Ⅰ層	「□〔官カ宮カ〕」	体部外面	正位		2472	A	2249
須恵器	杯	9区第Ⅲ層	「生」	体部外面	横位		816	A	1384
土師器	杯	9区第Ⅲ層	「□」	体部外面	/		819	A	2465
須恵器	杯	9区第Ⅲ層	「□」	底部外面	/		820	A	2470
土師器	杯	9区第Ⅲ層	「安」	体部外面	正位		2473	A	1325
須恵器	杯	9区第Ⅲ層	「車」	底部外面	/		2474	A	1335
土師器	杯	9区第Ⅳ層	「十」	底部外面	/		835	A	2433
須恵器	杯	9区第Ⅳ層	「右」	底部外面	/		836	A	2443
須恵器	高台付杯	9区第Ⅳ層	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		839	A	2454
土師器	杯	9区第Ⅳ層	「井」	底部外面	/		2475	A	2440
土師器	杯	9区第Ⅳ層	「真」	体部外面	横位		2476	A	2444
土師器	杯	9区第Ⅳ層	「仲」	体部外面	正位		2477	A	2445
土師器	杯	9区第Ⅳ層	「□」	体部外面	正位		2478	A	2449
土師器	杯	9区第Ⅳ層	「□」	底部外面	/	体部外面に漆付着	2479	A	2455
土師器	杯	9区第Ⅳ層	「長」	体部外面	正位		2480	A	2767
須恵器	杯	SD 2342a	「春」	体部外面	正位		856	A	5617
須恵器	杯	SD 2342a 1	「□」	体部外面	横位カ		857	A	5605
須恵器	杯	SD 2342a	「嶌」	体部外面	正位		2481	A	5598
須恵器	杯	SD 2342a 1	「□」/「木」	底部外面/底部内面	/		2482	A	5604
須恵器	杯	SD 2342c 1	「大」	底部外面	/		866	A	6137
須恵器	杯	SD 2342c 1	「□」	底部外面	/		2483	A	6140
須恵器	杯	SD 2342d 1	「川」	底部外面	/		867	A	6142
須恵器	杯	SD 2362 1	「□」	底部外面		料などか	868	A	6169
須恵器	杯	SD 2342d 3	「十」	体部外面	正位		869	A	5572
須恵器	杯	SD 2342d 検出面	「石」	底部外面	/		870	A	5573
土師器	杯	SD 2342d	「大」	体部外面	正位		871	A	5616
土師器	杯	SD 2342d 検出面	「□〔主カ〕」	体部外面	/		872	A	5612
須恵器	杯	SD 2342d 2	「富」	体部外面	横位		873	A	6132
須恵器	杯	SD 2342d	「二」	体部外面	正位		2484	A	6133
須恵器	杯	SD 2362 1	「□」	体部外面	正位カ		2485	A	6170
土師器	杯	SD 2362 1	「大」	体部外面	倒位		2486	A	6175
土師器	杯	SD 2342f 1	「西」	体部外面	正位		874	A	5574
土師器	杯	SD 2344e 1	「□井」	底部外面	/		884	A	6125
須恵器	高台付杯	SD 2344e 1	「□」	底部外面	/	旁は「攵」	885	A	6139
須恵器	杯	SD 2344e 1	「井」	体部外面	正位		887	A	6138
須恵器	杯	SD 2344c	「宅」	体部外面	正位		890	A	5767
須恵器	杯	SD 2344c	「千」	底部外面	/		891	A	5766
須恵器	杯	SD 2344b	「十」	体部外面	/		892	A	5764

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SD 2342d 3	「十」	体部外面	正位		869	A	5572
須恵器	杯	SD 2342d k面	「石」	底部外面	/		870	A	5573
土師器	杯	SD 2342d	「大」	体部外面	正位		871	A	5616
土師器	杯	SD 2342d k面	「□〔主カ〕」	体部外面	/		872	A	5612
須恵器	杯	SD 2342d 2	「富」	体部外面	横位		873	A	6132
土師器	杯	SD 2342f 1	「西」	体部外面	正位		874	A	5574
土師器	杯	SD 2344e 1	「□井」	底部外面	/		884	A	6125
須恵器	高台付杯	SD 2344e 1	「□」	底部外面	/	旁は「夂」	885	A	6139
須恵器	杯	SD 2344e 1	「井」	体部外面	正位		887	A	6138
須恵器	杯	SD 2344c	「宅」	体部外面	正位		890	A	5767
須恵器	杯	SD 2344c	「千」	底部外面	/		891	A	5766
須恵器	杯	SD 2344b b	「十」	体部外面	/		892	A	5764
須恵器	杯	SD 2342g 2	「□〔金カ〕」	底部外面	/		894	A	5808
土師器	杯	SD 2342g k面	「大」	体部外面	正位		895	A	5929
土師器	杯	SD 2362 1	「仲」	底部外面	/		896	A	6171
土師器	杯	SD 2362 1	「松」	底部外面	/		897	A	5560
須恵器	杯	SD 2362 1	「鎮」	底部外面	/		898	A	5558
須恵器	杯	SD 2362 1	「□」	底部外面	/		899	A	6173
須恵器	杯	SD 2359 2	「春」	体部外面	正位		900	A	5568
須恵器	杯	SD 2450 1	「十」	底部外面	/		901	A	5599
須恵器	杯	SK 2501 1	「主□」	体部外面	横位		902	A	6135
須恵器	杯	SD 2449 1	「夫」	体部外面	横位		903	A	5575
土師器	杯	SK 2499 1	「得万」	底部外面	/		904	A	5635
土師器	杯	SK 2499 3	「美」	体部外面	倒位		905	A	5943
須恵器	杯	SK 2499 1	「大」	体部外面	/		907	A	5839
土師器	杯	SK 2350 1	「☆」	体部外面	正位		908	A	5633
須恵器	杯	SK 2501 1	「□」	体部外面	/		909	A	5632
須恵器	杯	SK 2502 1	「車」	体部外面	正位		910	A	5844
須恵器	杯	SK 2496	「□〔卅カ〕」	底部外面	/		912	A	5823
須恵器	杯	SX 2352 1	「□」	底部外面	/		916	A	5805
須恵器	杯	SX 2352 1	「㊥」	体部外面	正位		917	A	5816
土師器	杯	SX 2352 1	「平」	底部外面	/		918	A	5897
須恵器	杯	SX 2352 1	「□」（墨書）・「一」（ヘラガキ）	底部外面	/	墨書は一文字ないし二文字	919	A	5908
須恵器	瓶	SX 2451 2	「依」	底部外面	/		921	A	5901
須恵器	杯	SX 2451 2	「□」	底部外面	/		922	A	5930
須恵器	杯	SX 2495 3	「神」	底部外面	/		923	A	5907
土師器	杯	66区P1	「☆」	体部外面	正位		926	A	8078
土師器	杯	66区検出面	「及」	体部外面	正位		927	A	7023
須恵器	稜椀	66区検出面	「田島」	底部外面	/		928	A	6141
土師器	杯	66区第Ⅱ層 Ⅱd	「太」	体部外面	正位		930	A	7025
須恵器	杯	66区第Ⅳ層 Ⅲa	「□」	底部外面	/		932	A	7022
須恵器	杯	66区第Ⅳ層 Ⅲa	「疋」	底部外面	/		933	A	7029
土師器	杯	66区第Ⅳ層 Ⅲa	「□」	底部外面	/		934	A	7033
須恵器	杯	66区第Ⅳ層 Ⅲa	「□」	体部外面	倒位カ		935	A	7030
土師器	杯	66区第Ⅳ層 Ⅲa	「□」	底部外面	/		936	A	7034
土師器	甕	66区第Ⅳ層 Ⅲc	人面墨書/「□女□」	体部外面/口縁部	横位	三文字目「収」か	937	A	6669
須恵器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外面	正位		2493	A	504
須恵器	杯	SD 1679 1	「奈」	底部外面	/		2494	A	507
須恵器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外面	正位		2495	A	509
土師器	杯	SD 1679 1	「□」（墨書）・「＊」（ヘラガキ）	底部外面	/		2496	A	512
土師器	杯	SD 1679 1	「本」	体部外面/底部外面	正位カ	体部外面にも墨付	2497	A	513
土師器	甕	SD 1679 1	「□」	体部外面	正位カ		2498	A	514
土師器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外面	正位		2499	A	515
土師器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外面	倒位		2500	A	516
須恵器	杯	SD 1679 1	「□〔中カ〕」	体部外面	倒位カ		2501	A	518
土師器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外面	正位		2502	A	519
須恵器	杯	SD 1679 1	「□」	底部外面	/		2503	A	520
土師器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外面	正位		2504	A	521
土師器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外面	正位		2195	A	522
土師器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外面	正位		2505	A	524
土師器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外面	正位		2506	A	525
土師器	杯	SD 1679 1	「田」	体部外面	正位		2507	A	529
須恵器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外面	正位		2508	A	530
須恵器	杯	SD 1679 1	「田」	底部外面	/		2509	A	531
須恵器	杯	SD 1679 1	「□」	底部外面	/		2510	A	535
須恵器	杯	SD 1679 1	「□（記号カ）」	体部外面	正位カ	あるいは「万」	2511	A	537
須恵器	杯	SD 1679 1	「中」	底部外面	/		2512	A	538
須恵器	杯	SD 1679 2	「□〔中カ〕」/「□」	体部外面/底部外面	正位		2513	A	543
須恵器	杯	SD 1679 1	「□」	底部外面	/	ウ冠か	2514	A	546

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SD 1679 1	「十」	体部外面	横位		2515	A	547
須恵器	杯	SD 1679 1	「□」(墨書)・「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		2516	A	548
須恵器	杯	SD 1679 2	「□知」	体部外面	横位	三文字なら「小衣知」	2517	A	549
須恵器	杯	SD 1679 1	「奈」	体部外面	正位		2518	A	550
須恵器	杯	SD 1680 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		2202	A	1472
須恵器	杯	SD 1680 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		2202	A	1472
須恵器	杯	SD 1680 1	「内」/「□〔内カ〕」	体部外面/体部内面	正位/正位		2519	A	630
須恵器	杯	SD 1680 1	「□」	体部外面	倒位カ		2520	A	636
須恵器	杯	SD 1680 1	「ノ」・「□」	体部外面	倒位		2521	A	628
須恵器	杯	SD 1680 1	「申成」・「□」	体部外面	正位	二箇所同字か。	2522	A	640
須恵器	杯	SX 2333 河川	「□」	体部外面	/		2523	A	4473
土師器	杯	SX 2333 河川	「政所」	底部外面	/		2524	A	4474
土師器	杯	SX 2333 河川	「集」	体部外面	正位		2525	A	4475
土師器	杯	SX 2333 河川	「□」	体部外面	正位カ		2526	A	4500
須恵器	杯	SX 2333 河川	「□」	体部外面	/		2527	A	4503
土師器	杯	4区P107	「□」	体部外面	倒位		2528	A	5231
土師器	杯	SI 1797 1	「右」	体部外面	正位		2529	A	5235
須恵器	杯	SX 2529 2	「十」(漆書)	体部外面	正位		2530	A	5243
土師器	杯	4区第Ⅳ層	「寫」	体部外面	正位		2531	A	5351
土師器	杯	SD 1781 1	「財」	底部外面	/		2532	A	5358
須恵器	杯	SX 1853C	「依」	底部外面	/		2533	A	5379
土師器	杯	SX 1853C	「□〔須カ〕」	体部外面	正位		2534	A	5384
土師器	杯	SX 1853C	「(記号カ)」	体部外面	正位カ		2535	A	5386
須恵器	杯	SX 1853C	「□〔厨カ〕」	体部外面	正位		2536	A	5387
須恵器	杯	SX 1853B 2	「□□」	底部外面	/		2537	A	5389
須恵器	杯	SD 1681	「□〔奈カ〕」	底部外面	/		2538	A	8076
須恵器	杯	11区	「真」	体部外面	正位		2539	A	8110
須恵器	杯	11区	「真」	体部外面	正位		2540	A	8111
須恵器	杯	66区第Ⅰ層 西壁	「秦」	底部外面	/		2541	A	5623
須恵器	杯	66区第Ⅰ層 西壁	「□〔秦カ〕」	底部外面	/		2542	A	5627
須恵器	杯	SD 2386b 3	「廣」	体部外面	正位		941	D	2469
須恵器	杯	SD 2386b 1	「中□」(墨書)/「×」(ヘラガキ)	体部外面/底部外面	横位		942	D	2471
須恵器	杯	SD 2386b 1	「今」	体部外面	横位		943	D	2020
土師器	杯	SD 2386b 検出面	「□」/「田」	体部外面/底部外面	/		944	D	2038
須恵器	杯	SD 2386b 1	「田」	体部外面	倒位		945	D	2511
須恵器	杯	SD 2386b 1	「□」	体部外面	正位		946	D	2512
須恵器	杯	SD 2386b 検出面	「万福」	底部外面	/		947	D	2501
土師器	杯	SD 2386b 1	「新」	体部外面	正位		2333	D	2468
須恵器	杯	SD 2386b 腐植土	「□」	底部外面	/		2543	D	2472
須恵器	杯	SD 2386b 腐植土	「□」	底部外面	/	「牛」篇	2544	D	2473
須恵器	杯	SD 2386b 検出面	「□」	底部外面	/		2545	D	2488
須恵器	杯	SD 2386b 2	「□土」	底部外面	/		2546	D	2502
須恵器	杯	SD 2386b 1	「寫」	底部外面	/		2547	D	2505
須恵器	杯	SD 2386b 1	「□」	底部外面	/		2548	D	2507
須恵器	杯	SD 2386b 腐植土	「大」	体部外面	横位		2549	D	3047
須恵器	杯	SD 2386c 1	「赤」(線刻)	底部外面	/		2550	D	586
須恵器	杯	SD 2386c 1	「中」	底部外面	/		2551	D	2513
須恵器	杯	SD 2386d 1	「糸子」/「□〔糸カ〕」	体部外面/底部外面	正位		949	D	2462
須恵器	杯	SD 2386d a	「中」	体部外面	正位		950	D	2028
須恵器	杯	SD 2386d 検出面	「永」	底部外面	/		952	D	2467
須恵器	杯	SD 2386d 1	「石」	底部外面	/		953	D	2009
土師器	杯	SD 2386d 2	「厨」	底部外面	/		954	D	2479
須恵器	杯	SD 2386d 1	「□〔舟カ〕」	底部外面	/	他にも墨書あり	955	D	2007
須恵器	杯	SD 2386d 2	「□〔哉カ〕」	底部外面	/		2552	D	2486
須恵器	杯	SD 2386d 1	「□〔廣カ〕」	底部外面	/		2553	D	2490
土師器	杯	SD 2386d 3	「□」	底部外面	/		2554	D	2491
須恵器	杯	SD 2386e 1	「十」	底部外面	/		2555	D	2008
須恵器	杯	SD 2386e 1	「□〔本カ〕」	底部外面	/		2556	D	2010
須恵器	杯	SD 2386e 1	「□」	底部内面	/		2557	D	2011
須恵器	杯	SD 2386e 1	「□□」	底部外面	/		2558	D	2012
須恵器	杯	SD 2386e 1	「中」	体部外面	正位		2559	D	2014
須恵器	杯	SD 2386e 1	「□」	体部外面	正位カ		2560	D	2015
須恵器	杯	SD 2386e 1	「□」	体部外面	正位	「足」偏	2561	D	2016
須恵器	杯	SD 2386e 1	「十」	底部外面	/	体部外面にも墨付	2562	D	2475
須恵器	杯	SD 2386e 検出面	「得」	底部外面	/		2563	D	2476
土師器	杯	SD 2386g	「井」	体部外面	正位		956	D	1968
須恵器	杯	SD 2386g 検出面	「夫」	底部外面	/		2564	D	1198
須恵器	杯	SD 2386g 検出面	「□」	体部外面	正位		2565	D	1199
土師器	杯	SD 2386g Ⅴ4	「□」	体部外面	正位		2567	D	1202

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SD 2386g 褐色土	「□」	底部外面	/		2568	D	1203
土師器	杯	SD 2386g V 4	「□」	体部外面	/		2569	D	1204
須恵器	杯	SD 2386g 検出面	「□」	体部外面	正位		2570	D	1207
須恵器	杯	SD 2386g V 4	「□」	底部外面	/		2571	D	1213
須恵器	杯	SD 2386g	「□〔鳴カ〕」	体部外面	横位カ		2572	D	1970
土師器	杯	SD 2386g 3	「万」	体部外面	正位		2573	D	1979
須恵器	杯	SD 2386g 2	「□〔万カ〕」	底部外面	/		2574	D	1985
須恵器	杯	SD 2386g 北壁2層	「丸」	体部外面	正位		957	D	1000
須恵器	杯	SD 2386g 排水溝	「寫」	体部外面	/		958	D	996
土師器	杯	SD 2386g 3	「□」	体部外面	横位カ		960	D	947
土師器	杯	SD 2386g 3	「□」	体部外面	正位		961	D	946
土師器	杯	SD 2386g 排水溝	「□」	体部外面	正位		962	D	1002
土師器	杯	SD 2386g 検出面	「持」（墨書）・「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		963	D	929
須恵器	杯	SD 2386g 黒色土	「□〔王カ〕」	底部外面	/		964	D	936
須恵器	杯	SD 2386g 褐色土	「□」	体部外面	正位		966	D	1211
土師器	杯	SD 2386g 1	「本」	体部外面	正位		967	D	1981
須恵器	杯	SD 2386g 1	「大□」	底部外面	/	二文字目「シ」	968	D	1986
須恵器	杯	SD 2386g 1	「寫」	体部外面	正位		969	D	1998
土師器	杯	SD 2386g 3	「井」	体部外面	正位		970	D	1969
土師器	杯	SD 2386g 検出面	「□」	体部外面	正位		2575	D	932
土師器	杯	SD 2386g 検出面	「□」	体部外面	/		2576	D	933
土師器	杯	SD 2386g 検出面	「□」	体部外面	/		2577	D	935
須恵器	杯	SD 2386g 3	「□」	体部外面	/	「イ」篇	2578	D	937
土師器	杯	SD 2386g	「□」	底部外面	/		2579	D	938
土師器	杯	SD 2386g 3	「□」	体部外面	正位カ		2580	D	940
須恵器	杯	SD 2386g 2	「□」	底部外面	/		2581	D	942
須恵器	杯	SD 2386g 1	「□」	底部外面	/		2582	D	949
土師器	杯	SD 2386g 3	「□」	体部外面	/		2583	D	953
土師器	杯	SD 2386g 3	「□」	底部外面	/		2584	D	955
土師器	杯	SD 2386g 3	「□」	体部外面	/		2585	D	956
土師器	杯	SD 2386g 3	「□」	体部外面	/		2586	D	958
土師器	杯	SD 2386g 3	「□」	体部外面	/		2587	D	961
須恵器	杯	SD 2386g 3	「□」	体部外面	/		2588	D	963
須恵器	杯	SD 2386g 3	「□」	体部外面	/		2589	D	964
須恵器	杯	SD 2386g 1	「□〔寫カ〕」	体部外面	正位		2590	D	966
須恵器	杯	SD 2386g 4	「□」	体部外面	正位		2591	D	968
土師器	杯	SD 2386g 黒色土	「□」	体部外面	/		2592	D	976
須恵器	杯	SD 2386g 黒色土	「万」（漆書）/「万」（墨書）	底部外面/底部内面	/		2593	D	977
須恵器	甕	SD 2386g 黒色土	「□」	体部外面	/		2594	D	979
須恵器	杯	SD 2386g 北壁2層	「井」	底部外面	/		2595	D	980
須恵器	杯	SD 2386g 黒色土	「□」	底部外面	/		2596	D	981
須恵器	杯	SD 2386g k面	「□〔十カ〕」	体部外面	正位カ		2597	D	982
須恵器	杯	SD 2386g k面	「□」	体部外面	正位カ		2598	D	983
須恵器	杯	SD 2386g k面	「□」	体部外面	/		2599	D	986
須恵器	杯	SD 2386g 黒色土	「□」	体部外面	/		2600	D	989
須恵器	杯	SD 2386g 黒色土	「□」	底部外面	/		2601	D	990
須恵器	杯	SD 2386g 黒色土	「□」	体部外面	正位		2602	D	992
土師器	杯	SD 2386g 黒色土	「□」	体部外面	正位カ		2603	D	995
須恵器	杯	SD 2386g 褐色土	「□」	体部外面	正位		2604	D	999
土師器	杯	SD 2386g 排水溝	「□」	体部外面	/		2605	D	1003
須恵器	杯	SD 2386g 排水溝	「□」	体部外面	/		2606	D	1004
土師器	杯	SI 2087 1	「□〔久カ〕」	体部外面	横位		971	D	2754
土師器	杯	SI 2087 1	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		2607	D	521
土師器	杯	SE 2372 抜穴	「□永」	体部外面	正位		972	D	2753
須恵器	杯	SE 2372 掘り方	「持」	体部外面	正位		973	D	2748
須恵器	杯	SE 2372 抜穴	「永」	体部外面	正位		2608	D	2755
土師器	皿	SE 874 掘り方2	「□」	体部外面	横位カ	文字複数あり。	974	D	2740
土師器	杯	SE 874 掘り方1	「□」	底部外面	/		975	D	2741
須恵器	杯	SE 874 掘り方（古）	「卅」	体部外面	正位		976	D	2750
須恵器	杯	SK 2374 1	「□」	体部外面	正位		977	D	2788
土師器	杯	SK 2374 1	「□」	体部外面	正位カ		978	D	2789
土師器	杯	SK 2374 1	「□」	体部外面	/		979	D	2811
土師器	杯	SK 2374 1	「（文様カ）」（ヘラガキ）	体部外面	/		2609	D	1147
土師器	杯	SK 2374 1	「□」（ヘラガキ）	体部外面	/		2610	D	1148
土師器	杯	SK 2382 2	「◎」	底部外面	/		982	D	2818
土師器	杯	SK 2382 1	「□〔倍カ〕」	底部外面	/		983	D	2815
土師器	高台付皿	SK 2382 1	「持」	底部外面	/		984	D	2817
土師器	杯	SK 2382 1	「吉」	体部外面	正位		985	D	2813
土師器	杯	SK 2382 1	「持」	体部外面	正位		986	D	2810

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SK 2382 2	「車」	体部外面	横位		987	D	2803
須恵器	杯	SK 2382 1	「主」	体部外面	横位		2611	D	2802
須恵器	杯	SK 2504 1	「□」	体部外面	正位	○囲い文字	988	D	2816
土師器	杯	SK 2504 1	「万」/「万」	体部外面/底部外面	正位		989	D	2804
土師器	杯	SK 2504 1	「□〔七カ〕」	体部外面	正位		990	D	2814
須恵器	高台付杯	SK 2505 1	「玉」	底部外面	/		991	D	2812
須恵器	高台付杯	SD 2381 検出面	「□」	底部外面	/		992	D	1195
須恵器	杯	SD 2381 西壁2層	「金」	底部外面	/		993	D	1197
須恵器	杯	SD 2381 3a	「林」	底部外面	/		2612	D	1196
土師器	杯	SD 2381 検出面	「□」	体部外面	正位		2613	D	1210
土師器	杯	SD 2381 2	「丰」	体部外面	正位	九字の略か	2614	D	1212
須恵器	杯	SX 2388 西ヘキトレ	「應」	底部外面	/		994	D	874
土師器	杯	SX 2388 4	「寫」	体部外面	横位		995	D	852
須恵器	杯	SX 2388 4	「□〔寫カ〕」	底部外面	/		996	D	865
須恵器	杯	SX 2388 2	「寫」	体部外面	正位		998	D	855
土師器	杯	SX 2388	「□」	底部外面	/		2615	D	853
須恵器	杯	SX 2388 3a	「□」	体部外面	/		2616	D	854
土師器	杯	SX 2388	「□」	体部外面	/		2617	D	856
須恵器	杯	SX 2388 3b	「□」	体部外面	/		2618	D	857
須恵器	杯	SX 2388 西壁トレンチ	「□」	体部外面	正位カ		2619	D	858
須恵器	杯	SX 2388 3a	「□」	体部外面	/		2620	D	860
須恵器	杯	SX 2388 3a	「□」	体部外面	/		2621	D	861
須恵器	杯	SX 2388 3b	「□」	体部外面	/		2622	D	862
須恵器	杯	SX 2388 西壁トレンチ	「□」	底部外面	/		2623	D	866
土師器	杯	SX 2388 3a	「□」	底部外面	/		2624	D	867
須恵器	杯	SX 2388 3b	「寫」	体部外面	正位		2625	D	875
土師器	杯	SX 2388 西ヘキトレ	「□」・「□」	体部外面	正位		2627	D	877
須恵器	杯	SX 2388 西ヘキトレ	「寫」・「□〔寫カ〕」	体部外面	正位		2628	D	878
須恵器	杯	SX 2388 4	「□」	体部外面	正位		2629	D	881
須恵器	杯	SX 2388 西ヘキトレ	「□」	体部外面	/		2630	D	882
須恵器	杯	SX 2388 4	「□」	体部外面	正位		2631	D	883
須恵器	杯	SX 2388 4	「□」	体部外面	正位		2632	D	884
須恵器	杯	SX 2478 3	「余」	底部外面	/		999	D	2557
須恵器	杯	SX 2478 3	「船」	体部外面	横位		1000	D	2887
須恵器	杯	SX 2478 3	人面墨書/「造」	体部外面/底部外面	倒位	人面三面	1001	D	2886
須恵器	杯	SX 2478 3	「只」	体部外面	正位		2633	D	2888
須恵器	杯	SX 2478 3	「□〔王カ〕」	底部外面	/		2634	D	2889
須恵器	高台付杯	SX 2478 1	「□〔一カ〕」	底部外面	/		2635	D	2890
須恵器	杯	SX 2478 3	「□」	体部外面	/		2636	D	2891
須恵器	杯	SX 2478 3	「□」	底部外面	/	○囲い文字	2637	D	2892
土師器	甕	SX 2478 3	人面墨書	体部外面	/		2638	D	5106
土師器	甕	SX 2478 1	人面墨書カ	体部外面	/		2639	D	5127
土師器	杯	SX 2365 4	「□館」	体部外面	横位		1002	D	10006
須恵器	杯	SX 2365 4	「□〔刺カ〕」	体部外面	倒位		1003	D	2589
須恵器	杯	SX 2365 4	「家」	体部外面	横位		1004	D	2593
須恵器	杯	SX 2365 4	「秦」	体部外面	倒位		1005	D	2598
須恵器	杯	SX 2365 4	「魚」	体部外面	正位		1006	D	2658
須恵器	杯	SX 2365 4	「大」	体部外面	正位		1007	D	2671
須恵器	杯	SX 2365 4	「伊万」	体部内面			1008	D	2839
須恵器	杯	SX 2365 4	「大」	体部外面	正位		1009	D	2856
須恵器	杯	SX 2365 4	「高」	体部外面	横位		1010	D	2925
須恵器	杯	SX 2365 4	「土」	体部外面	横位		1011	D	2933
土師器	杯	SX 2365 4	「山」	底部外面	/		1012	D	2885
須恵器	杯	SX 2365 4	「大□〔澤カ〕」	底部外面	/		1013	D	2858
須恵器	杯	SX 2365 4	「長」/「長」	体部外面/体部内面	横位/横位		1014	D	2931
須恵器	杯	SX 2365 4	「長」/「長」	体部外面/体部内面	横位/横位	底部にも墨痕あるか	1015	D	2936
須恵器	杯	SX 2365 4	「厨」	底部外面	/		1016	D	2654
須恵器	杯	SX 2365 4	「村」	底部外面	/		1017	D	2584
須恵器	杯	SX 2365 4	「日下」	底部外面	/		1018	D	2843
須恵器	杯	SX 2365 4	「(記号)」/「塞」	体部外面/底部外面	正位	則天文字　地	1019	D	2841
須恵器	杯	SX 2365 4	「(記号)」/「塞」	体部外面/底部外面	正位	則天文字　地	1020	D	10003
須恵器	杯	SX 2365 4	「(記号)」/「塞」	体部外面/底部外面	/	則天文字　地	1021	D	2588
須恵器	杯	SX 2365 4	「塞」	底部外面	/	則天文字　地　体部外面にも墨書あり記号か	1022	D	10002
須恵器	杯	SX 2365 4	「伶」	底部外面	/		1023	D	2838
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」(墨書)・「×」(ヘラガキ)・「エ」(ヘラガキ)	底部外面	/		1024	D	2657
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		1025	D	2653
須恵器	杯	SX 2365 4	「山」(墨書)・「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		1026	D	2665
須恵器	杯	SX 2365 4	「井」	底部外面	/		1027	D	10009
須恵器	杯	SX 2365 4	「木」	底部外面	/		1028	D	2935

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SX 2365 4	「㊀」	底部外面	/		1029	D	2664
須恵器	杯	SX 2365 4	「夫夫 □夫 夫夫 大大大 □大」(墨書)・「十」(ヘラガキ)/「□〔王カ〕」(墨書)	体部外面/底部外面	正位		1030	D	2926
須恵器	高台付杯	SX 2365 4	「益」/「益」	体部外面/底部外面	横位		1031	D	2853
土師器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		1032	D	2581
須恵器	杯	SX 2365 4	「三□」	底部外面	/	三国か	1033	D	2844
須恵器	杯	SX 2365 4	「奥□」	体部外面	横位		1034	D	2918
須恵器	杯	SX 2365 4	「伊万」	体部外面	横位		1035	D	2840
土師器	杯	SX 2365 4	「石」	体部外面	正位		1036	D	2848
土師器	杯	SX 2365 4	「本」	底部外面	/		1037	D	2880
須恵器	杯	SX 2365 4	「日」	体部外面	正位		1038	D	2907
須恵器	杯	SX 2365 4	「□〔刺カ〕」	体部外面	倒位		1039	D	2590
須恵器	杯	SX 2365 4	「十」	底部外面	/		1040	D	2666
須恵器	杯	SX 2365 4	「×」	底部外面	/		1041	D	2845
須恵器	杯	SX 2365 4	「□〔中カ〕」	体部外面	正位		1042	D	2668
須恵器	杯	SX 2365 4	「内」	体部外面	正位		1043	D	2846
須恵器	杯	SX 2365 4	人面墨書	体部外面	正位	目	1044	D	2847
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	/		1045	D	2910
須恵器	杯	SX 2365 4	人面墨書	体部外面	正位	2面	1047	D	2905
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/	二文字の可能性あり	2640	D	924
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」(線刻)	体部外面	正位カ		2641	D	1675
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」(ヘラガキ)	底部外面	/		2642	D	1679
須恵器	杯	SX 2365 4	「生」	底部外面	/		2643	D	2579
須恵器	杯	SX 2365 4	「大」	体部外面	横位		2644	D	2580
土師器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	/		2645	D	2582
土師器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	正位カ		2646	D	2583
土師器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	/		2647	D	2585
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		2648	D	2591
須恵器	杯	SX 2365 4	「□〔大カ〕」	体部外面	正位		2649	D	2592
須恵器	杯	SX 2365 4	「大□」	体部外面	横位		2650	D	2594
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	/		2651	D	2596
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	/		2652	D	2597
須恵器	杯	SX 2365 4	「中□〔女カ〕身」	底部外面	/		2653	D	2669
土師器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		2654	D	2849
土師器	杯	SX 2365 4	「□〔酒カ〕」	体部外面	横位カ		2655	D	2850
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		2656	D	2851
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	横位カ		2657	D	2857
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	/		2658	D	2862
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	正位		2659	D	2863
須恵器	杯	SX 2365 4	「万」	底部外面	/		2660	D	2865
須恵器	杯	SX 2365 4	「□〔主カ〕」	底部外面	/		2661	D	2869
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	正位カ		2662	D	2871
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		2663	D	2874
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		2664	D	2875
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	正位		2665	D	2876
土師器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	/		2666	D	2877
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		2667	D	2878
須恵器	杯	SX 2365 4	「東」	体部外面	横位		2668	D	2879
須恵器	杯	SX 2365 4	「川」	体部外面	/		2669	D	2881
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		2670	D	2883
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		2671	D	2906
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」(墨書)・「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		2672	D	2908
須恵器	杯	SX 2365 4	「□田」	底部外面	/		2673	D	2909
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	正位カ		2674	D	2912
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	/		2675	D	2913
須恵器	杯	SX 2365 4	「□日上」	底部外面	/		2676	D	2914
須恵器	杯	SX 2365 4	「□〔大カ〕」	体部外面	倒位		2677	D	2915
土師器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		2678	D	2919
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		2679	D	2921
須恵器	杯	SX 2365 4	「□〔宅カ〕」	底部外面	/		2680	D	2922
土師器	杯	SX 2365 4	「□□」	体部外面	正位		2681	D	2924
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	底部外面	/		2682	D	2927
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	/		2683	D	2928
須恵器	杯	SX 2365 4	「□」	体部外面	正位カ		2684	D	2929
須恵器	高台付杯	SX 2365 4	「十」(漆書)	底部外面	/		2685	D	3238
土師器	甕	SX 2365 4	「□□」	体部内面	/		2686	D	5136
須恵器	杯	SX 2365 5	「□〔千カ〕」	体部外面	正位		1052	D	2517
須恵器	杯	SX 2365 5	「千」	体部外面	正位		1053	D	2520
須恵器	杯	SX 2365 5	「□田」	体部内面	正位	あるいは「富」	1054	D	2663

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SX 2365 5	「□〔田カ〕」	体部外面	正位カ		1055	D	2655
須恵器	杯	SX 2365 5	「十」・「十」・「十」(墨書)/「X」(ヘラガキ)	体部外面/底部外面	正位		1056	D	2932
須恵器	杯	SX 2365 5	「□本」	底部外面	/	一文字目旁は「攵」カ	1057	D	2659
須恵器	杯	SX 2365 5	「(文様)」	体部外面			1058	D	2538
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	正位		1059	D	2559
土師器	杯	SX 2365 5	「夫」	体部外面	正位		1060	D	2570
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	正位		1061	D	2553
須恵器	杯	SX 2365 5	「主」	体部外面	正位		1062	D	2574
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	底部外面	/		1063	D	2529
土師器	杯	SX 2365 5	「□〔大カ〕」	底部外面	/		1064	D	2562
須恵器	杯	SX 2365 5	「麻呂」	底部外面	/		1065	D	2526
須恵器	杯	SX 2365 5	「丰」	体部外面	正位		1066	D	2674
土師器	杯	SX 2365 5	人面墨書	体部外面	正位	髭	1067	D	2577
土師器	杯	SX 2365 5	「丰」(線刻)	体部外面	/		2687	D	1724
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」(線刻)	底部外面	/		2688	D	1725
須恵器	杯	SX 2365 5	「廣」	底部内面	/		2689	D	2515
須恵器	杯	SX 2365 5	「□〔車カ〕」・「□」	体部外面	正位	二箇所同字か	2690	D	2523
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」(墨書)・「一」(ヘラガキ)	体部外面/底部外面	/		2691	D	2516
須恵器	杯	SX 2365 5	「保」	底部外面	/		2692	D	2521
須恵器	杯	SX 2365 5	「廾」	体部外面	正位		2693	D	2522
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	底部外面	/		2694	D	2524
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	底部外面			2695	D	2527
須恵器	杯	SX 2365 5	「大」	底部外面	/		2696	D	2528
須恵器	杯	SX 2365 5	「夬」	体部外面	/		2697	D	2532
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	/		2698	D	2533
須恵器	杯	SX 2365 5	「真」	底部外面	/		2699	D	2534
須恵器	杯	SX 2365 5	「｜｜」・「□〔｜｜カ〕	体部外面	正位		2700	D	2535
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	/		2701	D	2536
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	底部外面	/	「禾」偏か	2702	D	2541
須恵器	杯	SX 2365 5	「□〔主カ〕」	体部外面	正位		2703	D	2543
須恵器	杯	SX 2365 5	「□□」	体部外面	横位カ		2704	D	2544
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	正位カ		2705	D	2545
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	横位カ		2706	D	2547
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	/		2707	D	2550
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	/		2708	D	2551
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	横位カ		2709	D	2552
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	底部外面	/		2710	D	2558
土師器	杯	SX 2365 5	「東」	体部外面	正位		2711	D	2560
土師器	杯	SX 2365 5	「太」	体部外面	倒位		2712	D	2561
須恵器	杯	SX 2365 5	「(記号)」	体部外面	正位	則天文字「地」に伴う記号。ただし則天文字は確認できない	2713	D	2564
土師器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	/		2714	D	2573
土師器	杯	SX 2365 5	「舩」・「舩」	体部外面	横位		2715	D	2563
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	倒位	京、原などか	2716	D	2578
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	/		2717	D	2673
須恵器	杯	SX 2365 5	「□」	体部外面	/		2718	D	2675
土師器	甕	SX 2365 5	人面墨書	体部外面	正位	眉	2719	D	5116
土師器	甕	SX 2365 5	人面墨書カ	体部外面	/		2720	D	5117
土師器	甕	SX 2365 5	人面墨書	体部外面	正位	鼻	2721	D	5118
土師器	杯	SX 2365 6	「□田」	底部外面	/		1071	D	2670
土師器	杯	SX 2365 6	「□」	底部外面	/		1072	D	2897
須恵器	杯	SX 2365 6	「□」	体部外面	倒位カ		1073	D	2895
須恵器	杯	SX 2365 6	「中」	体部外面	正位		1074	D	2667
土師器	杯	SX 2365 6	「□」	体部外面	/		2722	D	2678
須恵器	杯	SX 2365 6	「□」	底部外面	/		2723	D	2893
土師器	杯	SX 2365 6	「□」	体部外面	/		2724	D	2894
須恵器	杯	SX 2365 6	「□〔一カ〕」	底部外面	/		2725	D	2899
須恵器	杯	SX 2365 6	「□」	底部外面	/		2726	D	2900
土師器	杯	SX 2365 6	「□」	体部外面	/		2727	D	2902
須恵器	杯	SX 2365 6	「□」	体部外面	正位カ		2728	D	2903
須恵器	杯	SX 2365 6	「□」	底部外面	/		2729	D	2904
土師器	甕	SX 2365 6	人面墨書				2730	D	5107
土師器	甕	SX 2365 6	人面墨書				2731	D	5108
土師器	杯	SX 2365 粗砂層	「千」/「□」	体部外面/底部外面	正位		1075	D	2681
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「只」	体部外面	正位		1076	D	2696
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「只」	体部外面	正位		1077	D	2702
土師器	杯	SX 2365 粗砂層	「十」/「十　□□」	体部外面/底部外面	倒位		1078	D	2700
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「大」/「大」	体部外面/底部外面	正位		1079	D	2698
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「□〔上カ〕」/「上」	体部外面/底部外面	正位カ		1080	D	2697

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「来」	体部外面	横位		1081	D	2683
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「□」	体部外面	倒位		1082	D	2688
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「□」	体部外面	正位		2732	D	2680
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「□」	体部外面	正位カ		2733	D	2685
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「□」	体部外面	正位		2734	D	2687
土師器	杯	SX 2365 粗砂層	「大」（線刻）	底部外面	/		2735	D	1697
土師器	杯	SX 2365 粗砂層	「□」	体部外面	/		2736	D	2689
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「□」	底部外面	/		2737	D	2692
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「□」	体部外面	正位		2738	D	2693
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「□」	底部外面	/		2739	D	2695
須恵器	杯	SX 2365 粗砂層	「□」	体部外面	/		2740	D	2701
須恵器	杯	SX 2364 4	「田」	体部外面	正位		1083	D	926
須恵器	杯	SX 2364 4	「田」	体部外面	正位		1084	D	912
須恵器	杯	SX 2364 4or5	「□〔カ〕」	体部外面	正位		1085	D	1304
須恵器	杯	SX 2364 4	「益」	底部外面	/		1086	D	927
須恵器	杯	SX 2364 4	「井」	底部外面	/		1087	D	10001
須恵器	杯	SX 2364 4	「□」	底部外面	/		1088	D	903
須恵器	高台付杯	SX 2364 4	「乙主」	底部外面	/		1089	D	925
須恵器	杯	SX 2364 4	「本」	底部外面	/		1090	D	891
須恵器	杯	SX 2364 4	「井」/「井」	体部外面/底部内面	横位		1091	D	2923
須恵器	杯	SX 2364	「日」	底部外面	/		1092	D	1090
須恵器	杯	SX 2364 4	「本」	体部外面	正位		1093	D	918
須恵器	杯	SX 2364 4	「下」（墨書）・「＊」（ヘラガキ）	底部外面	/		1094	D	915
須恵器	杯	SX 2364 4	「春」	体部外面	/		1095	D	910
須恵器	杯	SX 2364 4	「□」	底部外面	/		1096	D	9995
土師器	杯	SX 2364	「大」	体部外面	倒位		1097	D	1086
須恵器	蓋	SX 2364 4	「大」	蓋外面	/	他にも多数墨書あり	1098	D	922
須恵器	杯	SX 2364 4	「片」	底部外面	/		1099	D	897
須恵器	杯	SX 2364 4	人面墨書カ	体部外面/体部内面	/		1100	D	904
須恵器	杯	SX 2364 4	人面墨書	体部内面	正位		1101	D	921
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	正位	3面	1103	D	7108
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	正位	4面	1104	D	7110
須恵器	杯	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	正位	4体	1105	D	917
須恵器	瓶	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	正位	鼻・口	1106	D	5158
須恵器	杯	SX 2364 4	「酒」	底部外面	/		1107	D	920
須恵器	杯	SX 2364 4	「片」（墨書）・「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		1108	D	919
土師器	杯	SX 2364 4	「□」	体部外面	正位		3201	D	888
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	正位	顔左半分	2233	D	5077
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	正位		2236	D	5080
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	正位		2239	D	5098
土師器	杯	SX 2364 4	「□」	底部外面	/		2741	D	890
土師器	杯	SX 2364 4	「□」	体部外面	/		2742	D	893
須恵器	杯	SX 2364 4	「□」	底部外面	/		2743	D	898
須恵器	杯	SX 2364 4	「□」	体部外面	/		2744	D	899
須恵器	杯	SX 2364 4	「□」	体部外面	/		2745	D	900
須恵器	杯	SX 2364 4	「□」	体部外面	/		2746	D	902
須恵器	杯	SX 2364 4	「大」	底部外面	/		2747	D	905
須恵器	杯	SX 2364 4	「□」	体部外面	倒位カ		2748	D	907
須恵器	杯	SX 2364 4	「□〔万カ〕」	底部外面	/		2749	D	908
須恵器	杯	SX 2364 4	「□」	体部外面	/		2750	D	911
須恵器	杯	SX 2364 4	「□」	底部外面	/		2751	D	914
須恵器	杯	SX 2364 4	「×」	底部外面	/		2752	D	916
土師器	杯	SX 2364 4	「主」	底部外面	/		2753	D	923
須恵器	杯	SX 2364 5	「臣」	底部外面	/		2754	D	1309
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	正位	目	2755	D	5081
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	正位	目と耳	2756	D	5082
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	/		2757	D	5083
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	正位	目	2758	D	5084
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	/		2759	D	5085
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書	体部外面	/		2760	D	5087
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書カ	体部外面	/		2761	D	5090
土師器	甕	SX 2364 4	人面墨書カ	体部外面	/		2762	D	5092
須恵器	杯	SX 2479 崩落土	「田」	底部外面	/		1109	D	1305
須恵器	杯	SX 2479 3	「佐」/「万」	体部外面/底部外面	倒位		1110	D	1306
須恵器	杯	SX 2479 3	「上」	底部外面	/		1111	D	1311
土師器	杯	SX 2479 3	「持」	体部外面	正位	「持」か	1112	D	1313
須恵器	杯	SX 2479	「卅」	体部外面	正位カ	九字の略か	1113	D	1084
土師器	甕	SX 2479 崩落土	人面墨書	体部外面	正位	髭	2234	D	5078
土師器	甕	SX 2479 崩落土	人面墨書	体部外面	正位	二面か	2235	D	5079

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SX 2479 崩落土	「□」	底部外面	/		2763	D	1307
須恵器	杯	SX 2479 崩落土	「□〔主カ〕」	体部外面	/		2764	D	1310
須恵器	杯	SX 2479 崩落土	「□」	底部外面	/		2765	D	1314
須恵器	杯	SX 2479 3	「□」	体部外面	/		2766	D	1315
須恵器	杯	SX 2479 3	「□」	底部外面	/		2767	D	1316
土師器	杯	SX 2479 3	「太」	底部外面	/		2768	D	1317
土師器	甕	SX 2479 3	人面墨書カ	体部外面	/		2769	D	5103
須恵器	杯	SX 2366 1	「貝」	体部外面	正位		1115	D	1008
須恵器	杯	SX 2366 3	「福」	体部外面	正位		1116	D	1025
須恵器	杯	SX 2366 粗砂層	「十」・「十」/「丈」	体部外面/底部外面	正位		1117	D	1023
須恵器	杯	SX 2366 3	「井」	底部外面	/		1118	D	10008
須恵器	杯	SX 2366 1	「廣」	底部外面	/		1119	D	1007
須恵器	杯	SX 2366 3	「木」	体部外面	倒位	字形は「大」+「冂」	1120	D	1022
土師器	杯	SX 2366 3	「丈」	体部外面	倒位		1121	D	1031
土師器	杯	SX 2366 3	「□〔船カ〕」	体部外面	正位		1122	D	1014
土師器	杯	SD 2366 2	「□主」	底部外面	/		1123	D	1026
須恵器	杯	SD 2366 2	「川」	体部外面	倒位		1124	D	1027
須恵器	杯	SX 2366 粗砂層	「□」/「□」	体部外面/底部内面	倒位カ		2770	D	1010
土師器	杯	SX 2366 粗砂層	「□」	底部外面	/		2771	D	1012
土師器	杯	SX 2366 粗砂層	「□」	体部外面	/		2772	D	1013
土師器	杯	SX 2366 3	「□」	体部外面	/		2773	D	1015
土師器	杯	SX 2366 3	「□」	底部外面	/		2774	D	1016
須恵器	杯	SX 2366 3	「加」	底部外面	/		2775	D	1017
須恵器	杯	SX 2366 3	「三」	底部外面	/		2776	D	1018
須恵器	杯	SX 2366 3	「川」	体部外面	正位		2777	D	1024
須恵器	杯	SX 2366 3	「□」	体部外面	倒位カ		2778	D	1028
土師器	杯	SX 2366 3	「□」	底部外面	/		2779	D	1029
土師器	杯	SD 2366 埋土	「□」	体部外面	/		2780	D	1030
須恵器	杯	SX 2368	「千」	体部外面	正位		1126	D	1076
須恵器	杯	SX 2368	「千」	体部外面	/		1127	D	1088
須恵器	杯	SX 2368	「千」	体部外面	正位		1128	D	1091
須恵器	杯	SX 2368	「卅」	体部外面	正位		1129	D	10004
土師器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	/	主か	1130	D	1092
須恵器	杯	SX 2368	「十」/「丈」	体部外面/底部外面	正位		1131	D	1069
須恵器	杯	SX 2368	「中」	底部外面	/		1132	D	1079
土師器	杯	SX 2368	「東」/「今」	体部外面/底部外面	正位		1133	D	1068
須恵器	高台付杯	SX 2368	「□」	底部外面	/		1134	D	1078
須恵器	杯	SX 2368	「川」	体部外面	正位カ		1135	D	1126
土師器	杯	SX 2368	「Ⓣ」	体部外面	正位		1136	D	1116
須恵器	杯	SX 2368	「只」	体部外面	正位		1137	D	1123
須恵器	杯	SX 2368	「□」	底部外面	/		1138	D	1065
須恵器	杯	SX 2368	「益」	底部外面	/		1139	D	1085
土師器	杯	SX 2368	「上」	底部外面	/		1140	D	1093
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	正位カ		2781	D	1064
須恵器	杯	SX 2368	「□□」	底部外面	/		2782	D	1066
須恵器	杯	SX 2368	「川」	体部外面	正位		2783	D	1067
須恵器	杯	SX 2368	「冂」・「冂」	体部内面	正位		2784	D	1070
土師器	杯	SX 2368	「□」	底部外面	/		2785	D	1071
須恵器	杯	SX 2368	「□〔古カ〕」	底部外面	/		2786	D	1072
土師器	杯	SX 2368	「丈」	体部外面	倒位		2787	D	1075
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	正位カ		2788	D	1077
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	倒位		2789	D	1080
須恵器	杯	SX 2368	「□」	底部外面	/		2790	D	1081
須恵器	杯	SX 2368	「東」	体部外面	正位		2791	D	1082
須恵器	杯	SX 2368	「□」	底部外面	/		2792	D	1083
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	正位	文字数不詳	2793	D	1089
土師器	杯	SX 2368	「久」	体部外面	倒位		2794	D	1096
須恵器	杯	SX 2368	「□」	底部外面	/		2795	D	1097
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	横位		2796	D	1098
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	/		2797	D	1099
須恵器	杯	SX 2368	「□」	底部外面	/		2798	D	1100
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	/		2799	D	1101
須恵器	杯	SX 2368	「□」	底部外面	/		2800	D	1102
須恵器	杯	SX 2368	「□」	底部外面	/		2801	D	1103
土師器	杯	SX 2368	「□」	底部外面	/		2802	D	1104
須恵器	杯	SX 2368	「□」	底部外面	/	二文字か	2803	D	1105
須恵器	杯	SX 2368	「千」	体部外面	横位		2804	D	1106
須恵器	杯	SX 2368	「□」(墨書)/「廾」(ヘラガキ)	体部外面/底部外面	/		2805	D	1107
土師器	杯	SX 2368	「□」	底部外面	/		2806	D	1108

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	/		2807	D	1110
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	倒位		2808	D	1112
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	/		2809	D	1113
須恵器	杯	SX 2368	「□〔万カ〕」	底部内面	/		2810	D	1114
須恵器	杯	SX 2368	「秦」	体部外面	横位		2811	D	1115
須恵器	杯	SX 2368	「□田」	底部外面	/		2812	D	1117
土師器	甕	SX 2368	「□」	体部外面	/		2813	D	1118
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	正位		2814	D	1119
土師器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	/		2815	D	1120
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	/		2816	D	1121
須恵器	杯	SX 2368 1	「□」	体部外面	/		2817	D	1122
須恵器	杯	SX 2368	「□」	体部外面	/		2818	D	1125
土師器	甕	SX 2368	人面墨書カ	体部外面	/		2819	D	5111
土師器	杯	SX 2363	「万」	体部外面	正位		1145	D	1046
須恵器	杯	SX 2363 1	「○」	底部外面	/		1146	D	1047
須恵器	杯	SX 2363 1	「山本」	底部外面	/		1147	D	10007
須恵器	杯	SX 2363 埋土	「中」	体部外面	倒位		2820	D	1049
須恵器	瓶	SX 2363 1	「○」	底部外面	/		2821	D	1051
土師器	杯	SX 2363 1	「丸」	底部外面	/		2822	D	1055
土師器	杯	SX 2363 1	「車」(墨書) / 「□」(ヘラガキ)	体部外面/底部外面	正位		2823	D	1701
土師器	杯	SX 2363 1	「□」	底部外面	/		2824	D	1056
須恵器	杯	SX 2363 1	「良」	体部外面	横位		2825	D	1058
須恵器	杯	SX 2363 1	「□」	底部外面	/		2826	D	1060
須恵器	杯	SX 2363 埋土	「□」	体部外面	/		2827	D	1061
須恵器	杯	SX 2363 埋土	「□」	底部外面	/		2828	D	1062
須恵器	杯	SX 2363 1	「片」・「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		2829	D	1698
須恵器	杯	SX 2378 3	「王」	体部外面	正位		1154	D	1193
須恵器	杯	SX 2378 東壁1層	「□」	底部外面	/	「牛」偏	1155	D	1194
須恵器	杯	27区第I層 河川	「戌」	底部外面	/		1156	D	2485
土師器	杯	27区第I層	「□」	体部外面	正位		2830	D	1354
土師器	杯	27区第I層	「□」	体部外面	正位		2831	D	1355
須恵器	杯	27区第I層	「千」	体部外面	正位		2832	D	1367
土師器	杯	SK 2488 3	「□」	体部外面	正位		1157	D	2785
土師器	杯	100区P149	「夫」	体部外面	倒位		1159	D	868
土師器	杯	100区第IV層 黒色土	「秀」	体部外面	正位		1166	D	2707
土師器	杯	100区第IV層 黒色土	「中」	体部外面	正位		1167	D	2711
土師器	杯	100区第IV層 黒色土	「村」	底部外面	/		1168	D	2715
土師器	杯	100区第IV層 黒色土	「福入□」	体部外面	/		1169	D	2717
土師器	耳皿	100区第IV層 黒色土	「船」	体部外面	正位		1170	D	2728
須恵器	杯	100区第IV層 V4	「阿」	底部外面	/		2833	D	1345
土師器	杯	100区第IV層 V4	「□」	体部外面	正位	「木」篇か	2834	D	1347
須恵器	杯	100区第IV層 中トレ河上層	「郷」	体部外面	正位		2835	D	1353
土師器	杯	100区第IV層 V4	「守」	体部外面	正位		2836	D	1360
須恵器	杯	100区第IV層 黒色土	「□」	底部外面	/		2837	D	2709
須恵器	杯	100区第IV層 黒色土	「□」	体部外面	/		2838	D	2722
土師器	杯	100区第IV層 黒色土	「井」	体部外面	正位		2839	D	2729
土師器	杯	100区第IV層 黒色土	「□」	底部外面	/	内面漆付着	2840	D	2732
土師器	杯	100区第IV層 黒色土	「吉」	体部外面	正位		2841	D	3614
土師器	杯	SD 831 D1	「上」・「丘」	底部外面	/	異筆	1172	D	6703
須恵器	杯	SD 831 D1	「中家」	底部外面	/		1173	D	6706
須恵器	杯	SD 831 E1	「□」	底部外面	/		2842	D	6707
土師器	杯	SD 831 B1	「□」	体部外面	正位		2843	D	6709
土師器	杯	SD 831 B1	「丰」	体部外面	正位		2844	D	6710
土師器	杯	SD 831 B1	「□」	底部外面	/		2845	D	6713
土師器	杯	SD 831 検出面	「□」	底部外面	/		2846	D	6714
須恵器	杯	SD 831 D3	「□」	体部外面	/		2847	D	6715
土師器	杯	SD 831 B1	「丰」	体部外面	正位		2848	D	6716
須恵器	杯	SD 831 E1	「□(記号カ)」	底部外面	/		2849	D	6738
須恵器	杯	SD 832 E1	「山」	底部外面	/		1180	D	6686
須恵器	杯	SD 832 D3	「廾」	体部外面	正位		2850	D	6687
土師器	杯	SD 832 D1	「□」	体部外面	倒位		2851	D	6688
須恵器	杯	SD 832 E1	「□〔王カ〕」	体部外面	横位		2852	D	6689
須恵器	杯	SD 832 E1	「□〔王カ〕」	底部外面	/		2853	D	6690
土師器	杯	SD 832 E1	「□〔王カ〕」	底部外面	/		2854	D	6691
須恵器	杯	SX 830 2	「□(記号カ)	体部外面	正位カ		1182	D	6647
須恵器	杯	SX 830 1	「□」	底部外面	/		2855	D	6635
須恵器	杯	SX 830 2	「□」	体部外面	/		2856	D	6636
土師器	杯	SX 830 1	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		2857	D	6637
土師器	杯	SX 830 サブトレ	「夫」(線刻)	底部外面	/		2858	D	6640

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SX 830 1	「□」	底部外面	/		2859	D	6641
土師器	杯	SX 830 1	「□」	体部外面	/		2860	D	6642
須恵器	杯	SX 830 2	「□」	体部外面	/		2861	D	6643
須恵器	杯	SX 830 2	「□」	体部外面	正位カ		2862	D	6644
須恵器	杯	SX 830 2	「□」	底部外面	/	あるいは二文字	2863	D	6646
土師器	甕	SX 830 1	「廾」(線刻)	体部外面	正位		2864	D	6649
須恵器	杯	SX 830 1	「□」	体部外面	/		2865	D	6652
須恵器	杯	SX 830 1	「□」	体部外面	/		2866	D	6653
土師器	甕	SX 830 1	「□」	体部外面	/		2867	D	6655
土師器	杯	SX 830 1	「□」	体部外面	正位		2868	D	6657
土師器	杯	SD 922d 4	「方」	底部外面	/		1185	D	7965
土師器	杯	SD 922d 4	「里」	体部外面	正位		2869	D	7964
土師器	杯	SD 922d 4	「本」	底部外面	/		2870	D	7967
須恵器	杯	SD 922d 4	「□」(墨書)・「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		2871	D	7973
須恵器	杯	SD 922d 4	「□〔十カ〕」	底部外面	/		2872	D	8682
須恵器	杯	SD 2201a 4	「十倉人」	底部外面	/		1186	D	8758
須恵器	杯	SD 2201a 4	「山方」	底部外面	/		1187	D	8759
須恵器	杯	SD 2201a 3	「田」	底部外面	/		1188	D	8755
土師器	杯	SD 2201a 4	「衣」	体部外面	倒位		1189	D	8760
土師器	杯	SD 2201a 3	「□」	体部外面	正位		1190	D	8862
土師器	杯	SD 2201a 1	「前」	体部外面	横位		2873	D	8748
須恵器	稜椀	SD 2201a 1	「□」/「□」	体部外面/底部外面	/		2874	D	8749
須恵器	杯	SD 2201a 4	「□〔子カ〕」	体部外面	正位		2875	D	8751
須恵器	杯	SD 2201a 1	「□」	底部外面	/	二文字とすれば「□子」	2876	D	8752
須恵器	杯	SD 2201a 4	「十」	底部外面	/		2877	D	8756
須恵器	杯	SD 2201a 3	「田」	底部外面	/		2879	D	8757
須恵器	杯	SD 2201a 4	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		2880	D	9396
須恵器	杯	SD 2201a 3	「卅」(線刻)	底部内面	/		2881	D	9397
土師器	杯	SD 2201b 1	「村人」	底部外面	/		1191	D	8683
須恵器	杯	SD 2201b 1	「□〔村カ〕」	底部外面	/		1192	D	8679
須恵器	杯	SD 2201b 0	「舎」	体部外面	倒位		1193	D	8668
土師器	杯	SD 2201b 1	「本」	体部外面	倒位		1194	D	8688
土師器	杯	SD 2201b 0	「田」	底部外面	/		1195	D	8670
土師器	杯	SD 2201b 1	「(記号カ)」	体部外面	正位		2882	D	8663
土師器	杯	SD 2201b 1	「□」	体部外面	/		2883	D	8664
須恵器	杯	SD 2201b 1	「□」	体部外面	/		2884	D	8665
土師器	杯	SD 2201b 0	「□〔山カ〕」	体部外面	倒位		2885	D	8666
須恵器	杯	SD 2201b 0	「□」	体部外面	正位	旁は「寸」	2886	D	8667
土師器	杯	SD 2201b 1	「□」	体部外面	正位		2887	D	8669
土師器	杯	SD 2201b 1	「□」	体部外面	倒位		2888	D	8672
土師器	杯	SD 2201b 1	「□」	体部外面	正位カ		2889	D	8673
土師器	杯	SD 2201b 1	「□」	体部外面	/		2890	D	8674
土師器	杯	SD 2201b 1	「□」	体部外面	/		2891	D	8675
土師器	杯	SD 2201b 1	「□〔王カ主カ〕」	体部外面	正位		2892	D	8676
土師器	杯	SD 2201b 1	「□」	体部外面	/		2893	D	8680
土師器	杯	SD 2201b 1	「□」	体部外面	正位		2894	D	8681
土師器	杯	SD 2201b 0	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		2895	D	9391
土師器	小瓶	SD 2201b 1	「一」(ヘラガキ)・「□」(線刻)	底部外面	/		2896	D	9403
土師器	杯	SD 2201c 1	「□」	体部外面	正位	福などか	1196	D	8687
須恵器	杯	SD 2201c 1	「□」	体部外面	/		2897	D	8684
土師器	杯	SD 2201c 1	「□」	体部外面	/		2898	D	8685
土師器	杯	SD 2201c 1	「□」	体部外面	/		2899	D	8686
土師器	杯	SE 2123 3	「□」	底部外面	/		2900	D	7707
須恵器	杯	SE 2123 2	「山」	底部外面	/		2901	D	7709
土師器	杯	SE 2123 3	「□」	底部外面	/		2902	D	7710
須恵器	杯	SE 2123 1	「□〔十カ〕」	体部外面	/		2903	D	7718
須恵器	杯	SE 2123 2	「□」	体部外面	正位		2904	D	7721
須恵器	杯	SE 2123 3	「□〔十カ〕」	体部外面	正位		2905	D	7723
須恵器	杯	SE 2123 1	「□」	底部外面	/		2906	D	7735
須恵器	杯	SE 2123 1	「□」	体部外面	/		2907	D	7736
須恵器	杯	SE 2131 掘り方	「□」	体部外面	/		2908	D	7714
須恵器	杯	SE 2131 抜き	「□」/「□」	体部外面/底部外面	横位		2909	D	7716
土師器	杯	SE 2131 抜き穴	「厨」	底部外面	/		2910	D	7720
須恵器	杯	SE 2131 抜き穴	「里」	体部外面	正位		2911	D	7724
須恵器	杯	SE 2131 抜き	「十」/「□」	体部外面/底部外面	倒位		2912	D	7725
須恵器	杯	SE 2131 抜き穴	「□」	底部外面	/		2913	D	7729
須恵器	杯	SD 2099 1	「哭」	体部外面	正位		1208	D	6760
須恵器	杯	SD 2099 3	「哭」	体部外面	正位		1209	D	6771
土師器	杯	SD 2099 2	「□」	体部外面	/		1210	D	6766

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
土師器	杯	SD 2099 3	「□〔十カ〕」	体部外面	正位		1211	D	6763
土師器	杯	SD 2099 2	「□」	体部外面	/		2914	D	6759
土師器	杯	SD 2099 2	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		2915	D	6761
土師器	杯	SD 2099 3	「□」	体部外面	/		2916	D	6764
土師器	杯	SD 2099 2	「□」	体部外面	正位		2917	D	6768
須恵器	杯	SD 2099 2	「□」	底部外面	/		2918	D	6769
須恵器	杯	SD 2099 2	「□〔本カ〕」	体部外面	正位		2919	D	6770
須恵器	杯	SD 2099 3	「□」	体部外面	/		2920	D	6774
土師器	杯	SD 2099 3	「□」	体部外面	倒位		2921	D	6776
土師器	杯	SD 2098 1	「林」	底部外面	/		1212	D	6797
須恵器	杯	SD 2098 1	「千」	体部外面	横位		1213	D	6799
須恵器	杯	SD 2098 1	「信」	体部外面	横位		1214	D	6791
須恵器	杯	SD 2098 1	「□」	体部内面	/		2922	D	6609
須恵器	杯	SD 2098 1	「□〔十カ〕」	底部外面	/		2923	D	6787
土師器	杯	SD 2098 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		2924	D	6790
土師器	杯	SD 2098 1	「□」	底部外面	/		2925	D	6793
土師器	杯	SD 2098 1	「□」	体部外面	/		2926	D	6794
須恵器	杯	SD 2098 1	「□」	体部外面	/		2927	D	6795
土師器	杯	SD 2098 1	「□」	体部外面	倒位カ		2928	D	6796
須恵器	杯	SD 2098 1	「□」	体部外面	/	体部外面から底面にかけての墨書	2929	D	6798
須恵器	杯	SD 2096 1	「下毛野」	底部外面	/		1216	D	10000
須恵器	杯	SD 2096 1	「□〔高カ〕」	体部外面	倒位		1217	D	6748
須恵器	杯	SD 2096 1	「十」(線刻)	体部内面	正位		2930	D	6747
土師器	杯	SK 2197 1	「子」	体部外面	倒位		1218	D	8706
土師器	杯	SK 2197 1	「子」	体部外面	倒位		1219	D	8707
土師器	杯	SK 2197 k	「山」	底部外面	/		2931	D	8703
須恵器	杯	SX 2101A 3	「里」・「七十」	底部外面	/	異方向	1226	D	6475
須恵器	杯	SX 2101A 1	「□」	底部外面	/	二文字とすれば「十万」カ	1227	D	6473
須恵器	杯	SX 2101A 3	「大」	底部外面	/		1228	D	6474
土師器	杯	SX 2101A 2	「下」(線刻)	体部外面	横位		2932	D	6398
須恵器	杯	SX 2101B 1	「井」	体部外面	正位		1234	D	6448
須恵器	杯	SX 2101B 1	「井」	底部外面	/		1235	D	9997
須恵器	杯	SX 2101B 1	「井」	底部外面	/		1236	D	6437
須恵器	杯	SX 2101B 1	「井」	底部外面	/		1237	D	6435
須恵器	杯	SX 2101B 1	「十」	底部外面	/		1238	D	6439
須恵器	杯	SX 2101B 1	「木」	底部外面	/		1239	D	6442
須恵器	杯	SX 2101B 1	「庭見」	底部外面	/		1240	D	6446
須恵器	高台付杯	SX 2101B 1	「□」・「□」	体部外面	横位カ・倒位カ	他に二箇所墨書あり	1241	D	6440
須恵器	高台付杯	SX 2101B 1	「□」	底部外面	/		1242	D	6443
須恵器	杯	SX 2101B 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		2933	D	6373
須恵器	杯	SX 2101B 1	「井」(線刻)	底部内面	/		2934	D	6374
須恵器	杯	SX 2101B 1	「庭見」	底部外面	/		2935	D	6431
須恵器	杯	SX 2101B 1	「□〔木カ〕」	底部外面	/		2936	D	6445
須恵器	杯	SX 2101B 1	「□」	体部外面	/		2937	D	6447
須恵器	杯	SX 2101B 2	「吉」	底部外面	/		1245	D	6433
須恵器	杯	SX 2101C 1	「□〔井カ〕」	底部外面	/		1250	D	6402
須恵器	高台付杯	SX 2100 1	「□〔夫カ天カ〕」	底部外面	/		1251	D	6544
土師器	杯	SX 2100 1	「□〔上カ〕」	底部外面	/		1252	D	6423
須恵器	杯	SX 2100 1	「大」	底部外面	/		1253	D	6415
須恵器	杯	SX 2100 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		2940	D	6385
須恵器	杯	SX 2100 1	「□」	体部外面	/		2941	D	6417
須恵器	杯	SX 2100 1	「□」	体部外面	正位		2942	D	6418
須恵器	杯	SX 2100 2	「田」	体部外面	正位		1260	D	6410
須恵器	杯	SX 2100 2	「□」	体部外面	正位		1261	D	6490
須恵器	杯	SX 2100 2	「糸子」	底部外面	/		1262	D	6424
須恵器	杯	SX 2100 2	「吉」	底部外面	/		1263	D	6509
須恵器	杯	SX 2100 2	「下野」	底部外面	/	体部外面に墨痕あり	1264	D	6501
須恵器	杯	SX 2100 2	「糸子」/「□」	体部外面/底部外面	正位		1265	D	6502
須恵器	杯	SX 2100 2	「丈」	体部外面	正位		1266	D	6504
須恵器	杯	SX 2100 2	「石成」	体部外面	横位		1267	D	6499
土師器	杯	SX 2100 2	「主」(線刻)	底部外面	/		1268	D	6387
土師器	杯	SX 2100 2	「新」	体部外面	正位		1269	D	6506
土師器	杯	SX 2100 2	「石成」(墨書)/「×」(ヘラガキ)	体部外面/底部外面	横位		1270	D	6507
土師器	杯	SX 2100 2	「石」	体部外面	横位		1271	D	6508
土師器	杯	SX 2100 2	「□」	底部外面	/		2943	D	6420
須恵器	杯	SX 2100 2	「□」	体部外面	/		2944	D	6425
須恵器	杯	SX 2100 2	「□」/「□」	体部外面/体部内面	/		2945	D	6426
須恵器	杯	SX 2100 2	「□」	体部外面	/		2946	D	6428
土師器	杯	SX 2100 2	「□」	体部外面	/		2947	D	6429

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SX 2100 2	「□」	底部外面	/		2948	D	6495
須恵器	杯	SX 2100 2	「□」	底部外面	/		2949	D	6496
土師器	杯	SX 2100 2	「大」	底部外面	/		2950	D	6498
須恵器	杯	SX 2100 2	「□」	底部外面	/		2951	D	6503
須恵器	杯	SX 2100 2	「□□」	底部外面	/		2952	D	6505
須恵器	杯	SX 2100 3	「□」	底部外面	/		1278	D	9999
須恵器	杯	SX 2100 3	「□（記号カ）」	底部外面	/		1279	D	10010
須恵器	高台付杯	SX 2100 3	「□」	底部外面	/		1280	D	6409
須恵器	杯	SX 2100 3	「瓦」	底部外面	/		1281	D	6412
須恵器	杯	SX 2100 3	「井」	底部外面	/		1282	D	9998
須恵器	杯	SX 2100 3	「公」	体部外面	倒位		1283	D	6406
須恵器	杯	SX 2100 3	「成」	体部外面	横位		1284	D	6414
須恵器	杯	SX 2100 3	「下」	底部外面	/		1285	D	6403
須恵器	杯	SX 2100 3	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		2953	D	6377
土師器	杯	SX 2100 3	「□」	体部外面	横位		2954	D	6407
須恵器	杯	SX 2100 3	「□」	底部外面	/		2955	D	6497
須恵器	杯	SX 2100 3	「井」	体部外面	横位		2956	D	9996
須恵器	杯	SX 2112 1	「加」	底部外面	/		1287	D	6668
須恵器	杯	SX 2112 1	「□」	底部外面	/		2957	D	6670
須恵器	杯	SX 2287 1	「加」	体部外面	倒位		1288	D	6659
土師器	杯	SX 2287 1	「□」	体部外面	/		2958	D	6662
須恵器	杯	SX 2507 1	「秦」	底部外面	/		1289	D	6612
土師器	高台付杯	SX 2508 1	「□」	底部外面	/	「月」篇か	1290	D	6618
須恵器	杯	SX 2180 2	「□」	体部外面	正位	二文字の可能性あり	1293	D	8717
土師器	杯	SX 2180 2	「□」	体部外面	/		2959	D	8714
須恵器	杯	SX 2180 2	「□」	体部外面	/		2960	D	8721
須恵器	杯	SX 2180 3	「舎」	体部外面	正位		2961	D	8724
須恵器	杯	SX 2180 3	「待」	底部外面	/		2962	D	8725
土師器	杯	SX 2180 1	「□」	体部外面	/		2963	D	8726
土師器	杯	SX 2180 3	「□」	体部外面	正位カ		2964	D	8732
須恵器	杯	SX 2180 1	「□」	底部外面	/	「オ」偏	2965	D	8733
土師器	高台付杯	SX 2180 1	「村人」	底部外面	/		2966	D	8734
土師器	杯	SX 2180 1	「船」	体部外面	倒位		2967	D	8735
土師器	杯	SX 2180 3	「□〔十カ〕」	体部外面	/		2968	D	8737
須恵器	杯	SX 2180 2	「□」	体部外面	/		2969	D	8739
土師器	杯	SX 2180 1	「□」	底部外面	/		2970	D	8740
土師器	杯	SX 2180 1	「□」	体部外面	/		2971	D	8742
土師器	杯	SX 2180 1	「□」	底部外面	/		2972	D	8743
土師器	杯	SX 2180 3	「□」	底部外面	/	旁は「寸」	2973	D	8745
土師器	杯	SX 2180 1	「□」	底部外面	/		2974	D	8746
土師器	杯	SX 2180 1	「□」（ヘラガキ）	底部外面	/	縦３本横６本の線	2975	D	9383
須恵器	杯	SX 2188 1	「十」	底部外面	/		1294	D	8691
土師器	杯	SX 2188	「生」	底部外面	/		1295	D	8689
須恵器	杯	SX 2188 1	「□（記号カ）」	体部外面	/		2976	D	8718
須恵器	杯	SX 2188 1	「□□」	底部外面	/		2977	D	8851
須恵器	杯	SX 2188 1	「十」	底部外面	/		2978	D	8865
須恵器	杯	SX 2188 1	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		2979	D	9394
須恵器	杯	83区P89 埋土	「加」	体部外面	倒位		1296	D	6835
須恵器	杯	83区P89 埋土	「□」	体部外面	/		2990	D	6834
須恵器	杯	83区第Ⅰ層	「稲」	底部外面	/		1297	D	6811
須恵器	杯	83区第Ⅰ層	「□岡」	底部外面	/		1298	D	6906
須恵器	杯	83区第Ⅰ層	「井」	底部内面	/		1300	D	6814
土師器	杯	83区第Ⅰ層	「＊」（線刻）	底部内面	/		2991	D	6376
土師器	甕	83区第Ⅰ層	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		2992	D	6810
須恵器	杯	83区第Ⅰ層	「□」（線刻）	底部外面	/	現存しているのは「井」	2993	D	6812
須恵器	杯	83区第Ⅰ層	「□〔十カ〕」	底部外面	/		2994	D	6815
須恵器	杯	83区第Ⅰ層	「□」	体部外面	正位	二文字とすれば、二文字目は「マ」	2995	D	6816
須恵器	杯	83区第Ⅰ層	「□」	体部外面	正位	「示」篇か	2996	D	6909
土師器	杯	105区第Ⅰ層	「高」	体部外面	正位		1302	D	7963
土師器	杯	105区第Ⅰ層	「大大」	体部外面	正位		2997	D	7961
土師器	杯	105区第Ⅰ層	「子」	体部外面	横位		2998	D	7962
土師器	杯	105区第Ⅰ層	「□」	体部外面	正位カ		2999	D	7966
土師器	杯	105区第Ⅰ層	「□」	体部外面	正位		3000	D	7971
須恵器	杯	105区第Ⅰ層	「□」	体部外面	正位		3001	D	7980
土師器	杯	105区第Ⅰ層	「毅」	体部外面	正位		3002	D	7982
須恵器	杯	105区第Ⅰ層	「□」	底部外面	/		3003	D	7985
土師器	杯	105区第Ⅰ層	「□」	体部外面	正位カ		3004	D	7998
土師器	杯	105区第Ⅰ層	「林」（線刻）	体部外面	正位		3005	D	8027
須恵器	杯	83区第Ⅲ層	「酒」・「□」	底部外面	/	異筆か	1303	D	6891

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	83 区第Ⅲ層	「□（記号カ）」	体部外面	/		1304	D	6894
土師器	杯	83 区第Ⅲ層　黒褐堆積層	「(記号)」(線刻)	底部外面	/		1307	D	6821
須恵器	杯	83 区第Ⅲ層	「十」	体部外面	正位		3006	D	6874
須恵器	杯	83 区第Ⅲ層	「□」	体部外面	/		3007	D	6887
須恵器	杯	83 区第Ⅲ層	「□」	体部外面	倒位カ		3008	D	6888
須恵器	杯	83 区第Ⅲ層	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		3009	D	6889
須恵器	杯	83 区第Ⅲ層	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		3010	D	6890
土師器	杯	83 区第Ⅲ層	「□〔廾カ〕」（ヘラガキ）	底部外面	/		3011	D	6893
須恵器	杯	83 区第Ⅲ層	「×」（線刻）	底部外面	/		3012	D	6898
須恵器	杯	83 区第Ⅲ層	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/	体部外面に墨付	3013	D	6900
須恵器	杯	83 区第Ⅲ層	「□」	体部外面	/		3014	D	6902
須恵器	杯	105 区第Ⅲ層	「舎」	底部外面	/		1308	D	8698
須恵器	杯	105 区第Ⅲ層	「□」	底部外面	/	二文字とすれば一文字目は「子」か	1309	D	8701
土師器	杯	105 区第Ⅲ層　黒褐土	「□」	体部外面	/		1310	D	8710
土師器	杯	105 区第Ⅲ層	「□」	体部外面	横位	旁は「也」	1311	D	8692
土師器	杯	105 区第Ⅲ層	「□」	体部外面	正位	「四」偏	1312	D	7969
土師器	杯	105 区第Ⅲ層	「村人」(墨書)・「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		1313	D	7976
須恵器	杯	105 区第Ⅲ層	「□」	底部外面	/		3015	D	8693
土師器	杯	105 区第Ⅲ層	「□〔山カ〕」	体部外面	正位		3016	D	8694
須恵器	杯	105 区第Ⅲ層	「宅」	体部外面	正位		3017	D	8695
土師器	杯	105 区第Ⅲ層	「□」	底部外面	/		3018	D	8697
須恵器	杯	105 区第Ⅲ層	「宅」	体部外面	正位		3019	D	8702
土師器	杯	105 区第Ⅲ層	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		3020	D	9400
土師器	杯	105 区第Ⅲ層	「□」・「□」	体部外面	正位	二箇所同字	3021	D	8700
須恵器	高台付杯	83 区第Ⅳ層	「□」	体部外面	倒位カ		3022	D	7317
須恵器	杯	83 区第Ⅳ層	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		3023	D	7320
土師器	甕	83 区第Ⅳ層	「×」（線刻）	底部外面	/		3024	D	7321
須恵器	杯	83 区第Ⅳ層	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		3025	D	7322
須恵器	杯	83 区第Ⅳ層	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		3026	D	7323
土師器	杯	105 区検出面	「子」	体部外面	倒位		3027	D	8704
土師器	杯	105 区検出面	「□」	底部外面	/		3028	D	8705
須恵器	杯	105 区検出面	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		3029	D	9392
須恵器	杯	105 区検出面	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		3030	D	9398
須恵器	瓶	105 区検出面	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		3031	D	9399
土師器	杯	105 区検出面	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		3032	D	9401
土師器	甕	SD　2231b　1	「⊠」（線刻）	底部内面	/		1315	D	1656
土師器	杯	SD　2231b　2	「藤」	体部外面	正位		1316	D	1509
土師器	杯	SD　2232e　2	「新」	体部外面	正位		1318	D	1513
須恵器	杯	SD　2232c　1	「加」	体部外面	/		3033	D	1516
須恵器	杯	SD　2232a　1	「□」	底部外面	/		3034	D	2426
須恵器	杯	SX　1940A　2	「□」	体部外面	/		3035	D	6181
土師器	杯	SX　1940A　2	「□」	体部外面	/		3036	D	6182
須恵器	杯	SX　1940A　1	「□」	底部外面	/		3037	D	6187
須恵器	杯	SX　1940A　1	「□〔大カ〕」	体部外面	正位		3038	D	6189
須恵系土器	杯	SX　1940D　検出面	「一」（ヘラガキ）	底部外面	/		3039	D	6164
土師器	杯	SD　1918b　1	「□」	底部外面	/		3040	D	4304
土師器	杯	SD　1918c　2	「□」	体部外面	/		3041	D	4309
土師器	杯	SD　1918c　1	「□」	体部外面	/		3042	D	4310
土師器	杯	SD　1918c　1	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		3043	D	4313
須恵器	杯	SD　1918e　2	「□」	底部外面	/		3044	D	4306
須恵器	杯	SD　1918e　2	「青」	体部外面	正位		3045	D	4307
須恵器	杯	SD　1918e　1	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		3046	D	4312
須恵器	高台付杯	SD　1919b　2	「上□」	底部外面	/		1329	D	4317
土師器	杯	SD　1919b　1	「□」	体部外面	正位		3047	D	4323
須恵器	杯	SD　1919b　1	「□〔山カ〕」	底部外面	/		3048	D	5332
土師器	高台付杯	SD　1919c　1	「□」	体部外面	正位	「禾」偏か	1330	D	4325
須恵器	杯	SD　1919d　1	「□」	体部外面	倒位カ		1332	D	4322
須恵器	杯	SD　1919d　1	「□」	底部外面	/	「イ」偏か	1333	D	4324
土師器	杯	SE　2010 井戸側内 2 層	「集」	体部外面	正位		3049	D	5505
土師器	杯	SE　2010　掘り方	「□〔廾カ〕」	体部外面	正位カ		3050	D	5506
土師器	杯	SE　2010 井戸側内 2 層	「□」	体部外面	/		3051	D	5507
土師器	杯	SE　2010　掘り方	「□」	体部外面	/		3052	D	5508
土師器	杯	SE　2010　掘り方	「□〔石カ〕」	体部外面	正位		3053	D	5512
土師器	杯	SE　2010　掘り方	「□」	体部外面	/		3054	D	5514
須恵器	杯	SE　1926　掘り方	「□」	体部外面	/		3055	D	5026
土師器	杯	SE　1926　掘り方	「□」	体部外面	正位カ		3056	D	5027
須恵器	杯	SE　1926　掘り方	「□」	体部外面	/		3057	D	5028
土師器	杯	SE　1926 井戸側内埋土	「船」	体部外面	正位		3058	D	5032
須恵器	杯	SE　1926　1	「□」	体部外面	/		3059	D	5035

墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
須恵器	杯	SE 1926 井戸側内	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		3060	D	5022
土師器	杯	SE 1872 1	「井」	体部外面	正位		1339	D	5057
須恵器	杯	SE 1872 1	「人」	体部外面	正位		3061	D	5040
土師器	杯	SE 1976 2	「右」	体部外面	正位		1349	D	2355
須恵器	杯	SE 1976 1	「山」	底部外面	/		2566	D	2345
土師器	杯	SE 1976 1	「右」	体部外面	倒位		2626	D	2352
土師器	杯	SE 1924 3	「□」	体部外面	正位		3062	D	5025
土師器	杯	SE 1924 井戸側内埋土	「□」	体部外面	/		3063	D	5033
土師器	杯	SE 1924 3	「□」	体部外面	正位		3064	D	5036
土師器	杯	SE 1924 2	「□」	体部外面	/		3065	D	5037
土師器	杯	SE 1924 3	「□」	体部外面	倒位カ		3066	D	5038
須恵系土器	杯	SD 1892 1	「大」	体部外面	/		3067	D	4357
土師器	杯	SD 1896A 2	「東」	体部外面	倒位		1401	D	5296
須恵器	杯	SD 1896A 1	「□」	体部外面	正位カ		3068	D	5293
須恵器	杯	SD 1896A 1	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		3069	D	5295
土師器	杯	SD 1896A 1	「□」	体部外面	/		3070	D	5297
土師器	杯	SD 1896A 1	「□」	体部外面	横位	「イ」偏か	3071	D	5298
須恵器	杯	SD 1896A 1	「□」	体部外面	正位		3072	D	5299
土師器	杯	SD 1896A 1	「□」	体部外面	/		3073	D	5301
土師器	杯	SD 1896A 2	「□〔十カ〕」	体部外面	/		3074	D	5310
土師器	杯	SD 1896A 1	「□」	体部外面	/		3075	D	5314
土師器	杯	SD 1896A 2	「□」	体部外面	倒位		3076	D	5315
須恵器	杯	SD 1896A 1	「×」	体部外面	倒位カ		3077	D	5316
土師器	杯	SD 1896B 1	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3078	D	5294
土師器	杯	SD 1896B 3	「□」	体部外面	/		3079	D	5306
須恵器	杯	SD 1896B 1	「□」	底部外面	/		3080	D	5307
土師器	高台付杯	SD 1896B 2	「□」	底部外面	/		3081	D	5311
土師器	杯	SD 1896B 2	「田□」	体部外面	正位		3082	D	5312
土師器	杯	SD 1896B 2	「□」	底部外面	/		3083	D	5313
須恵器	杯	SD 1914 1	「東」	体部外面	正位		1403	D	5333
土師器	高台付皿	SD 2055 1	「持」	体部外面	横位		1404	D	5324
須恵器	杯	SD 2055 1	「□」	体部外面	/		3084	D	5329
土師器	杯	SD 2055 1	「□〔車カ〕」	体部外面	正位		3085	D	5331
土師器	杯	SD 1897 1	「丈」	体部外面	正位		1408	D	5327
須恵器	杯	SD 1897 1	「□〔十カ〕」	底部外面	/		3086	D	5335
土師器	杯	2233 1	「非」(ヘラガキ)	底部外面	/	九字の省略か	1410	D	1651
須恵器	杯	SD 2240 4	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		3087	D	1398
土師器	杯	2262 2	「魄」	体部外面	正位		1412	D	1403
土師器	杯	SK 2217 1	「岑」(線刻)	体部外面	正位		1413	D	1401
須恵器	杯	SK 2302 2	「□〔賀カ〕」	底部外面	/		1417	D	1505
土師器	杯	SK 2303 3	「□〔賀カ〕」	体部外面	正位		1420	D	1501
須恵器	杯	SK 2303 4	「□〔賀カ〕」	体部外面	正位		1421	D	1502
須恵器	杯	SK 2303 4	「賀」	底部外面	/		1422	D	1504
土師器	杯	SK 2303 2	「□」	体部外面	/		3088	D	1508
須恵器	杯	SK 2303 2	「□〔百カ〕」	体部外面	正位		3089	D	1514
土師器	杯	SK 2244 2	「大」	体部外面	正位		1434	D	1511
須恵器	杯	SK 1974 1	「原」・「原」	体部外面	正位		1442	D	2379
須恵器	杯	SK 1974 1	「史」・「史」	体部外面	横位		1443	D	2369
土師器	杯	SK 1974 1	「山上」	体部外面	正位	あわせ文字	1444	D	2373
土師器	杯	SK 1974 1	「□」	体部外面	/		3090	D	2376
須恵器	杯	SK 1974 1	「□」	底部外面	/		3091	D	9990
須恵器	杯	SK 1974 1	「□」・「□」/「□」	体部外面	正位	体部の二文字は同字。	3092	D	2372
須恵器	杯	SK 1884 1	「廣」	体部外面	正位		1445	D	4242
須恵器	杯	SX 1900 1	「信」	底部外面	/		1449	D	5270
須恵器	杯	SX 1900 1	「至 (則天文字)」	底部外面	/	則天文字 人	1450	D	10005
須恵器	高台付杯	SX 1900 2	「大□〔田カ〕」	底部外面	/		1451	D	5258
須恵器	杯	SX 1900 1	「長」・「□〔㊀カ〕」	底部外面	/		1452	D	5268
須恵器	杯	SX 1900 1	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		3093	D	5254
須恵器	杯	SX 1900 1	「×」(線刻)	底部外面	/		3094	D	5255
須恵器	杯	SX 1900 2	「古」	底部外面	/		3095	D	5259
須恵器	杯	SX 1900 2	「□」	底部外面	/		3096	D	5261
須恵器	杯	SX 1900 1	「□」(墨書)・「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3097	D	5262
土師器	杯	SX 1900 1	「□」	底部外面	/		3098	D	5264
須恵器	杯	SX 1900 2	「□」	底部外面	/		3099	D	5265
須恵器	杯	SX 1900 1	「千」	底部外面	/		3100	D	5267
土師器	杯	SX 1900 1	「□〔卅カ〕」	底部外面			3101	D	5269
土師器	杯	SX 1900 1	「□〔卅カ〕」	体部外面	正位		3102	D	5271
須恵器	杯	SX 1900 1	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		3103	D	5336
須恵器	杯	SX 1900 1	「神」	底部外面	/		3104	D	5337

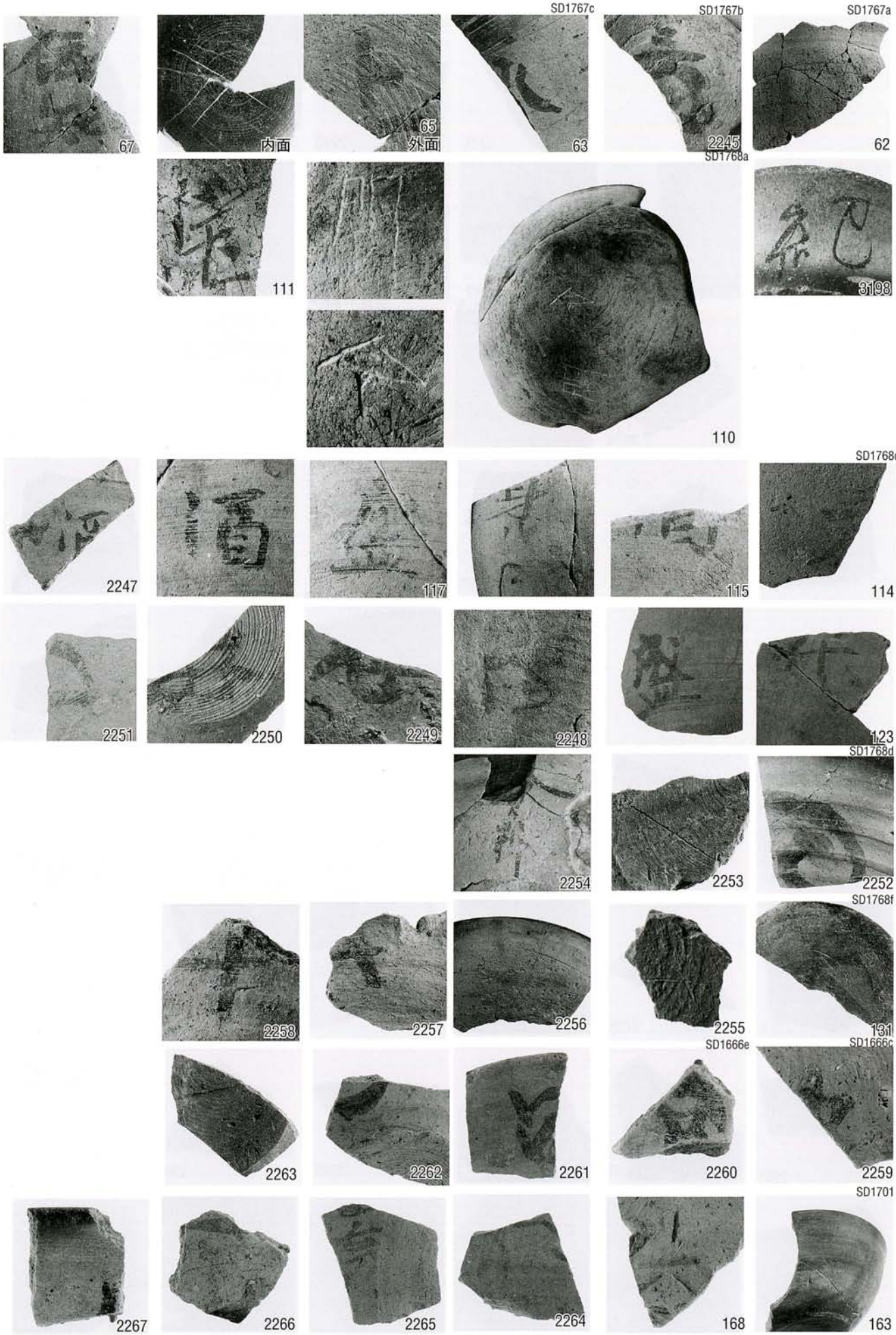
墨書・刻書土器一覧

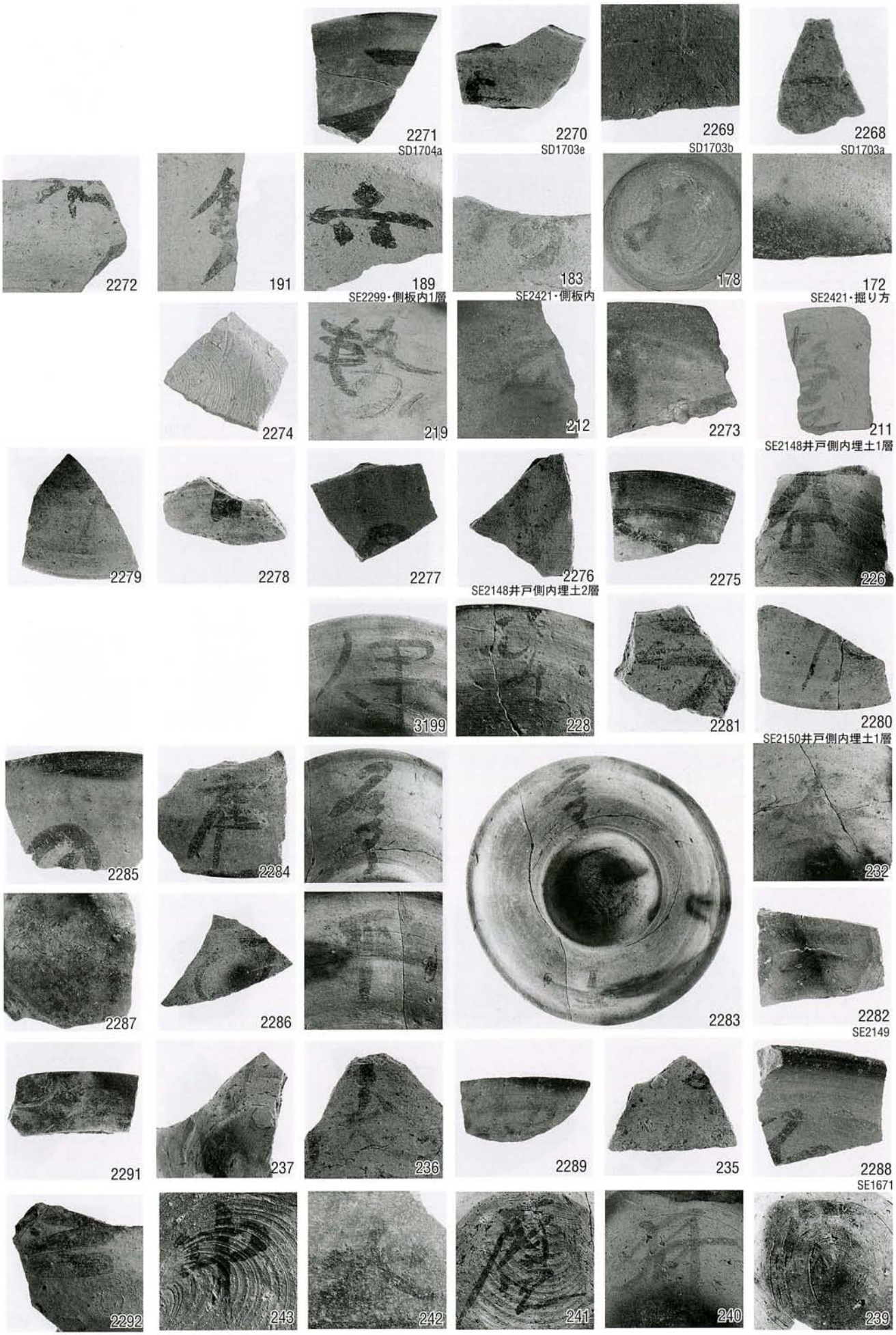
種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
土師器	杯	SX 1900 1	「□」	底部外面	/		3105	D	5338
土師器	杯	SX 1900 1	「□」	底部外面	/		3106	D	5339
土師器	杯	SX 1900 1	「□」	体部外面	/		3107	D	5340
土師器	杯	SX 1900 1	「□」	底部外面	/	「イ」偏か	3108	D	5341
須恵器	杯	SX 1900 1	「□」	底部外面	/		3109	D	5342
土師器	杯	SX 1900 1	「□」	体部外面	/		3110	D	5344
須恵器	杯	SX 1900 1	「□」	底部外面	/	「示」偏。「神」か。	3111	D	5346
須恵器	杯	SX 1900 1	「□」	体部外面	/		3112	D	5347
須恵器	杯	SX 1900 1	「□」	底部外面	/		3113	D	5348
須恵器	杯	SX 1900 1	「□」	体部外面	/		3114	D	5349
土師器	杯	SX 1900 1	「□□」	体部外面	正位		3115	D	5351
須恵器	杯	SX 1900 1	「□□」	底部外面	/		3116	D	5352
土師器	杯	SX 1900 1	「□」	体部外面	/		3117	D	5353
土師器	杯	SX 1900 1	「□」	底部外面	/		3118	D	5354
須恵器	杯	SX 1900 1	「□」	底部外面	/	「神」の可能性あり	3119	D	5355
土師器	杯	SX 1900 1	「□〔本カ〕」	体部外面	正位		3120	D	5356
須恵器	杯	SX 1900 1	「□」	体部外面	/		3121	D	5357
須恵器	杯	SX 1900 1	「□」	底部外面	/		3122	D	5358
土師器	杯	SX 1900 1	「夫」	体部内面	横位		3123	D	5359
土師器	杯	SX 1900 1	「□」	体部外面	/		3124	D	5360
須恵器	杯	SX 1900 2	「□」	底部外面	/		3125	D	5369
土師器	杯	30区第Ⅰ層	「□〔船カ〕」	体部外面	横位		1460	D	5398
須恵器	杯	30区第Ⅰ層	「□〔上カ〕」	底部外面	/		1461	D	5400
須恵器	杯	30区第Ⅰ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3126	D	5407
須恵器	杯	30区第Ⅰ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3127	D	5412
須恵器	高台付杯	30区第Ⅰ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3128	D	5414
須恵器	杯	30区第Ⅰ層	「十」	体部外面	正位		3129	D	2412
土師器	杯	30区第Ⅱ層	「西」	体部外面	正位		1464	D	5416
須恵器	杯	30区第Ⅱ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3130	D	5418
土師器	杯	30区第Ⅱ層	「□」	底部外面	/		3131	D	5419
須恵器	杯	30区第Ⅱ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3132	D	5421
土師器	杯	30区第Ⅲ層	「三」(ヘラガキ)	底部外面	/		3133	D	5433
須恵器	杯	30区第Ⅲ層	「□〔○カ〕」	底部外面	/		3134	D	5438
須恵器	杯	30区第Ⅲ層	「二」	底部外面	/		3135	D	5443
須恵器	杯	30区第Ⅲ層	「□」	体部外面	/		3136	D	5444
土師器	高台付杯	30区第Ⅲ層	「□」	底部外面	/		3137	D	5445
土師器	杯	30区第Ⅲ層	「□」	底部外面	/		3138	D	5446
須恵器	杯	103区第Ⅳ層	「富」	体部外面	正位		1465	D	1503
須恵器	杯	103区第Ⅳ層	「□」	底部外面	/		3139	D	1512
土師器	杯	30区第Ⅳ層	「□」	体部外面	正位カ		3140	D	4241
土師器	杯	30区第Ⅳ層	「廾」(ヘラガキ)	底部外面	/		3141	D	5464
須恵器	杯	30区第Ⅳ層	「□」	底部外面	/		3142	D	5465
須恵器	杯	30区第Ⅳ層	「二」(ヘラガキ)	底部外面	/		3143	D	5466
須恵器	杯	30区第Ⅳ層	「×」	底部外面	/		3144	D	5468
須恵器	杯	30区第Ⅳ層	「山」	底部外面	/		3145	D	5469
須恵器	杯	106区第Ⅳ層	「×」(ヘラガキ)	底部外面	/		3146	D	2393
須恵器	杯	106区第Ⅳ層	「一」(ヘラガキ)	底部外面	/		3147	D	2394
須恵器	杯	106区第Ⅳ層	「□」	底部外面	/		3148	D	2397
須恵器	杯	106区第Ⅳ層	「□〔十カ〕」	底部外面	/		3149	D	2398
須恵器	杯	106区第Ⅳ層	「×」(漆書)	底部外面	/		3150	D	2410
土師器	杯	SX 2486 3	「□井」	体部外面	正位		1468	D	9614
須恵器	杯	SX 2486 3	「井」	底部外面	/		3151	D	9605
須恵器	杯	SX 2486 3	「大□〔田カ〕」	底部外面	/		3152	D	9610
須恵器	杯	SX 2486 3	「船」	体部外面	横位		3153	D	9613
土師器	杯	SX 2486 3	「卅」(線刻)	底部内面	/		3154	D	9622
須恵器	杯	SX 2486 3	「卌」(線刻)	底部内面	/		3155	D	9635
土師器	甕	SX 1736 1	人物戯画	体部外面	/		1470	D	74
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書	体部外面	/		3156	D	75
土師器	杯	SX 1736 1	「□」	体部外面	正位		1486	D	70
土師器	甕	SX 1736 1	「□」	体部外面	/		3158	D	71
須恵器	杯	SX 1736 1	「□」	体部外面	/		3159	D	72
須恵器	杯	SX 1736 1	「□」	底部外面	/		3160	D	73
須恵器	杯	SX 1736 1	「□」	底部外面	/		1506	D	69
須恵器	杯	SX 1736 1	「三」	体部外面	横位		1507	D	66
土師器	杯	SX 1736 1	「□」	体部外面	/		1508	D	52
須恵器	杯	SX 1736 1	「大」	体部外面	横位		1509	D	60
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書	体部外面	/		1510	D	56
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書	体部外面	/		1511	D	57
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書	体部外面	/		1512	D	51

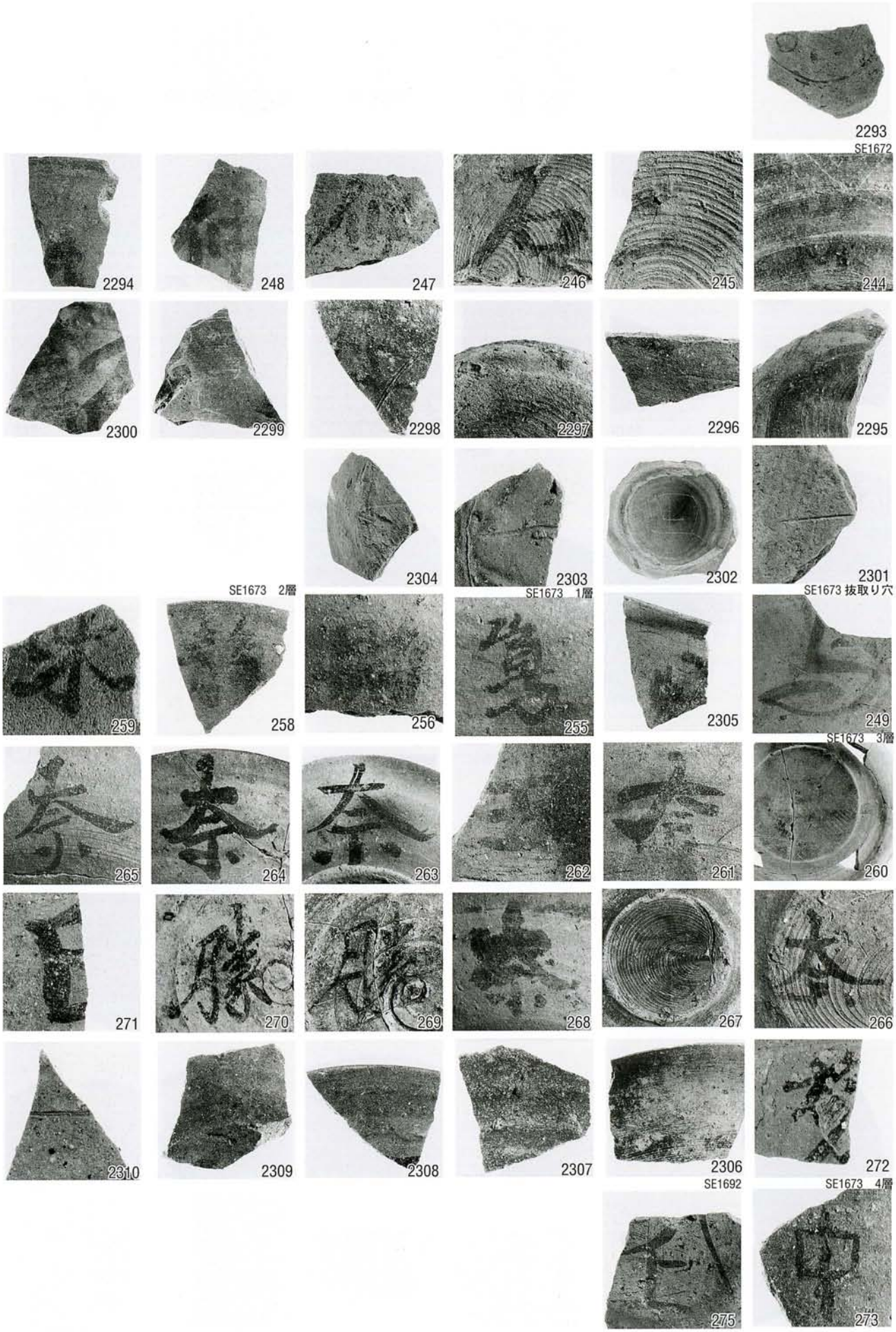
墨書・刻書土器一覧

種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	記載方向	備考	図番	登録	
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書カ	体部外面	/		1513	D	53
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書カ	体部外面	/		1514	D	54
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書	体部外面	/		3161	D	55
土師器	甕	SX 1736 1	人面墨書	体部外面	/		3162	D	58
土師器	高台付杯	SX 1736 1	「□」	体部外面	/		3163	D	59
須恵器	杯	SX 1736 1	「□」	体部外面	/		3164	D	61
須恵器	杯	SX 1736 1	「□」	底部外面	/		3165	D	62
須恵器	杯	SX 1736 1	「□」	体部外面	/		3166	D	63
須恵器	杯	SX 1735B 底面	「大」	底部外面	/		3167	D	2444
土師器	杯	SK 2487 埋土	「□」	体部外面	正位		1533	D	2784
土師器	杯	SK 2487 埋土	「□〔生カ〕」	体部外面	倒位		1534	D	2769
土師器	杯	SK 2487 1	「□」	体部外面	正位		1535	D	2774
須恵器	杯	SK 2487 1	「寶」（墨書）・「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		1536	D	2782
須恵系土器	皿	SK 2487 1	「□」	体部外面	正位カ		1537	D	2783
土師器	杯	SK 2487 1	「酒」	体部外面	正位		1538	D	2760
土師器	杯	SK 2487 埋土	「□」	体部外面	/		1539	D	2772
須恵器	杯	SX 1917 2	「□」	底部外面	/	偏は「舟」か	3168	D	5210
須恵器	杯	SX 1917 2	「田□」	底部外面	/		3169	D	5211
須恵器	杯	SX 1917 2	「□」	底部外面	/		3170	D	5212
須恵器	杯	SX 1917 2	「□」	体部外面	正位		3171	D	5219
土師器	杯	SK 1899 1	「□」	底部外面	/		3172	D	5233
須恵器	杯	SK 1899 1	「(記号カ)」	体部外面	/		3173	D	5235
須恵器	杯	SD 2021 2	「山」	底部外面	/		3174	D	5971
須恵器	杯	SD 2021 2	「神悦」	底部外面	/		3175	D	5972
須恵器	杯	SD 2021 2	「神悦」	底部外面	/		3176	D	5987
須恵器	杯	SK 2025 1	「×」（ヘラガキ）	底部外面	/		3177	D	6198
須恵器	杯	SK 2025 1	「客」	底部外面	/		3178	D	6200
須恵器	杯	SK 2025 1	「宅」	体部外面	正位		3179	D	6202
須恵器	杯	SE 2129 抜き穴	「利」	体部外面	正位		3180	D	7715
須恵器	杯	SE 2129 掘り方	「□〔十カ〕」	体部外面	/		3181	D	7719
須恵器	杯	SE 2129 抜き穴	「□田」	体部外面	正位		3182	D	7731
須恵器	杯	SD 1941c 2	「原」	体部外面	倒位		3183	D	6171
土師器	杯	SD 1941c 2	「□」	体部外面	正位カ		3184	D	6175
須恵器	杯	SD 1941c 2	「×」	底部外面	/		3185	D	6192
土師器	杯	SD 1941c 2	「井」	体部外面	正位		3186	D	6193
須恵器	杯	SD 2492 2	「客人□」	底部外面	/		3187	D	2121
土師器	杯	SD 2492 2	「□」	体部外面	/		3188	D	2148
土師器	杯	93 区第Ⅲ層	「大」	体部外面	倒位		3189	D	2127
須恵器	杯	93 区第Ⅲ層	「王」	底部外面	/		3190	D	2129
須恵器	杯	93 区第Ⅲ層	「□」	体部外面	倒位		3191	D	2131
土師器	杯	93 区第Ⅲ層	「□」	体部外面	倒位		3192	D	2132
須恵器	杯	93 区第Ⅲ層	「□」	底部外面	/		3193	D	2141
須恵器	高台付坏	94 区第Ⅳ層	「多賀」	底部外面	/			D	2135
土師器	杯	SD 1898 1	「井」（線刻）	底部内面	/		3194	D	4290
土師器	杯	SX 2531	「万」（墨書）/「□」（線刻）	底部外面	/		3195	D	2495
土師器	杯	SD 2532 1	「丸」	体部外面	倒位		3196	D	2503
須恵器	杯	SK 2530 1	「十」・「□」	底部外面	/		3197	D	2291
須恵器	杯	SE 1976 1	「山」	底部外面	/		2566	D	2345
土師器	杯	SE 1976 1	「右」	体部外面	倒位		2626	D	2352
土師器	杯	103 区 p100 埋土	「王」	体部外面	正位		2878	D	1515
土師器	杯	111 区第Ⅰ層	「木」（線刻）	体部外面	正位		2938	D	5516
須恵器	杯	111 区第Ⅰ層	「木」（線刻）	底部外面	/		2939	D	5519
須恵器	杯	SX 2051	「□郡」（ヘラガキ）	底部外面	/			D	5067
土師器	杯	105 区	「真」／「万」（線刻）	底部外面/底部内面				D	8023
須恵器	杯	SX 2120	「神□」	体部外面	横位			D	9920

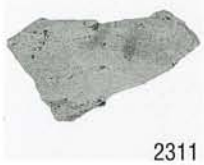
墨書・刻書土器一覧


SD1767c
SD1767b
SD1767a
67
内面
65
外面
63
2245
62
SD1768a
111
110
3198
SD1768c
2247
117
115
114
2251
2250
2249
2248
123
SD1768d
2254
2253
2252
SD1768f
2258
2257
2256
2255
131
SD1666e
SD1666c
2263
2262
2261
2260
2259
SD1701
2267
2266
2265
2264
168
163


2271
SD1704a
2270
SD1703e
2269
SD1703b
2268
SD1703a
2272
191
189
SE2299・側板内1層
183
SE2421・側板内
178
172
SE2421・掘り方
2274
219
212
2273
211
SE2148井戸側内埋土1層
2279
2278
2277
2276
SE2148井戸側内埋土2層
2275
226
3199
228
2281
2280
SE2150井戸側内埋土1層
2285
2284
232
2287
2286
2283
2282
SE2149
2291
237
236
2289
235
2288
SE1671
2292
243
242
241
240
239


2293
SE1672
2294
248
247
246
245
244
2300
2299
2298
2297
2296
2295
2304
2303
SE1673 1層
2302
2301
SE1673 抜取り穴
SE1673 2層
259
258
256
255
2305
249
SE1673 3層
265
264
263
262
261
260
271
270
269
268
267
266
2310
2309
2308
2307
2306
SE1692
272
SE1673 4層
275
273

SE2314 側内埋土


2311

280

279

278

SE2314 抜取り穴

277

SD1652

311

SD2294

310

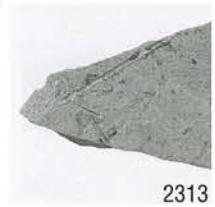
309

308

286

284

2314


2313

315

314

313

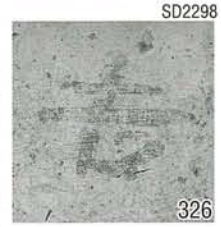
312

SD2317

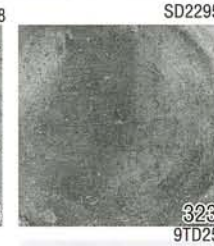
329

SD2298

327


326

SD2295


323

9TD25c

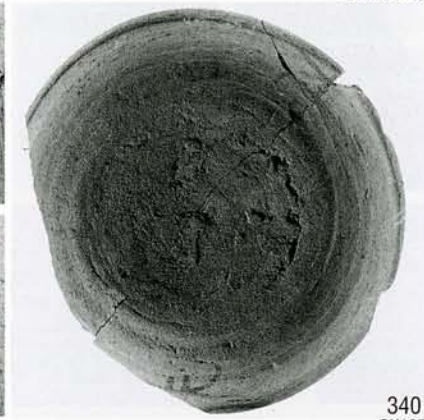
335

SD2163・1層

2315

341

SD2163・2層


340

SK1651

344

343

353

352

351

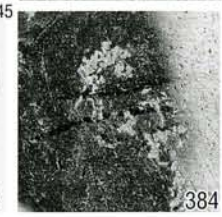
350

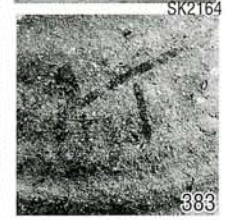
SK2445

SK2164

390

393


384


383

SX1812・2層

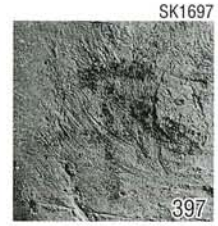
430

2319

SX1812・1層

2318

SK1697


397

2317

SK2446

395

490

492

SX1812・3層

491

2321

2320

500

497

496

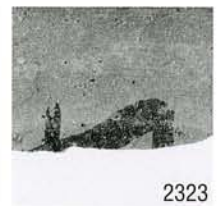
495

2327

2326

2325

2324


2323

2322

2332

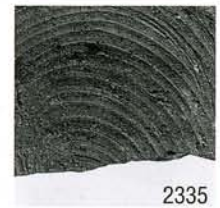
2331

2316

2330

2329

2328

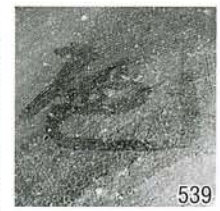

2335

2334

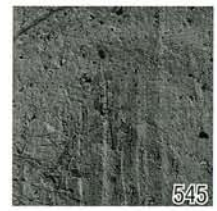
SX1812・4b層

540

539

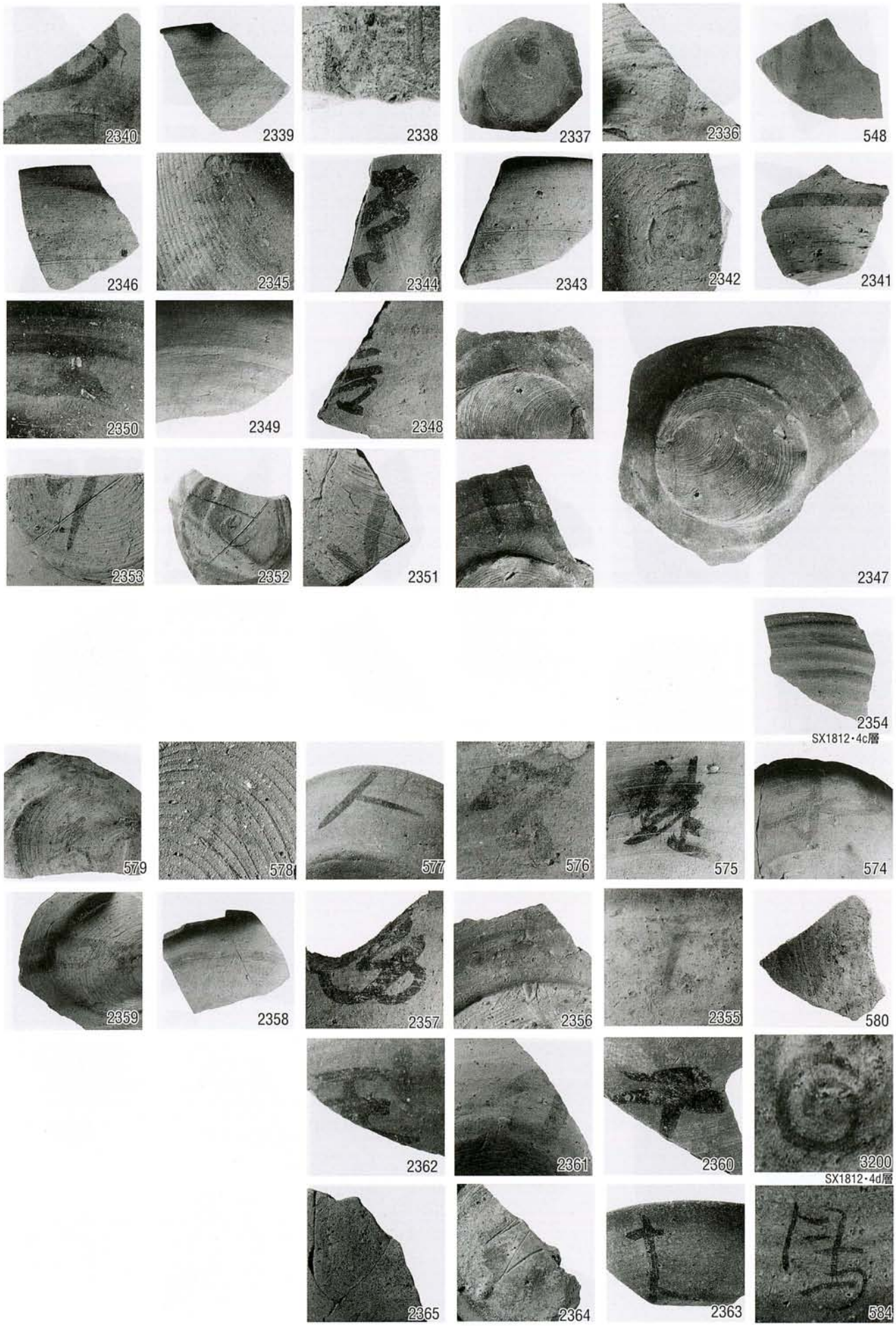

538

544

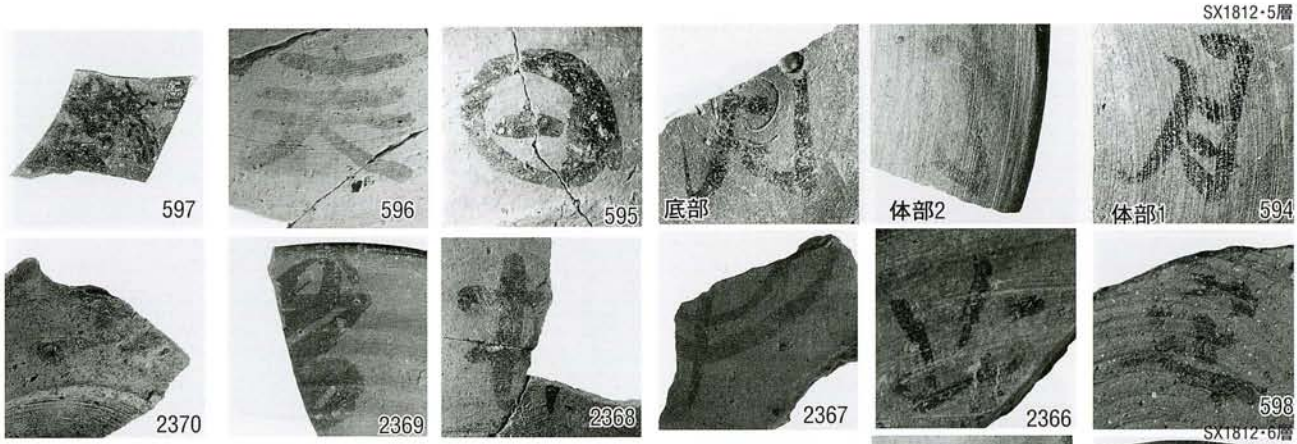

545

542

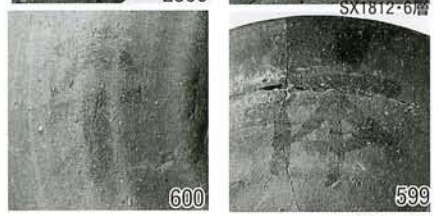
541


2340
2339
2338
2337
2336
548
2346
2345
2344
2343
2342
2341
2350
2349
2348
2347
2353
2352
2351
2354
SX1812・4c層
579
578
577
576
575
574
2359
2358
2357
2356
2355
580
2362
2361
2360
3200
SX1812・4d層
2365
2364
2363
584

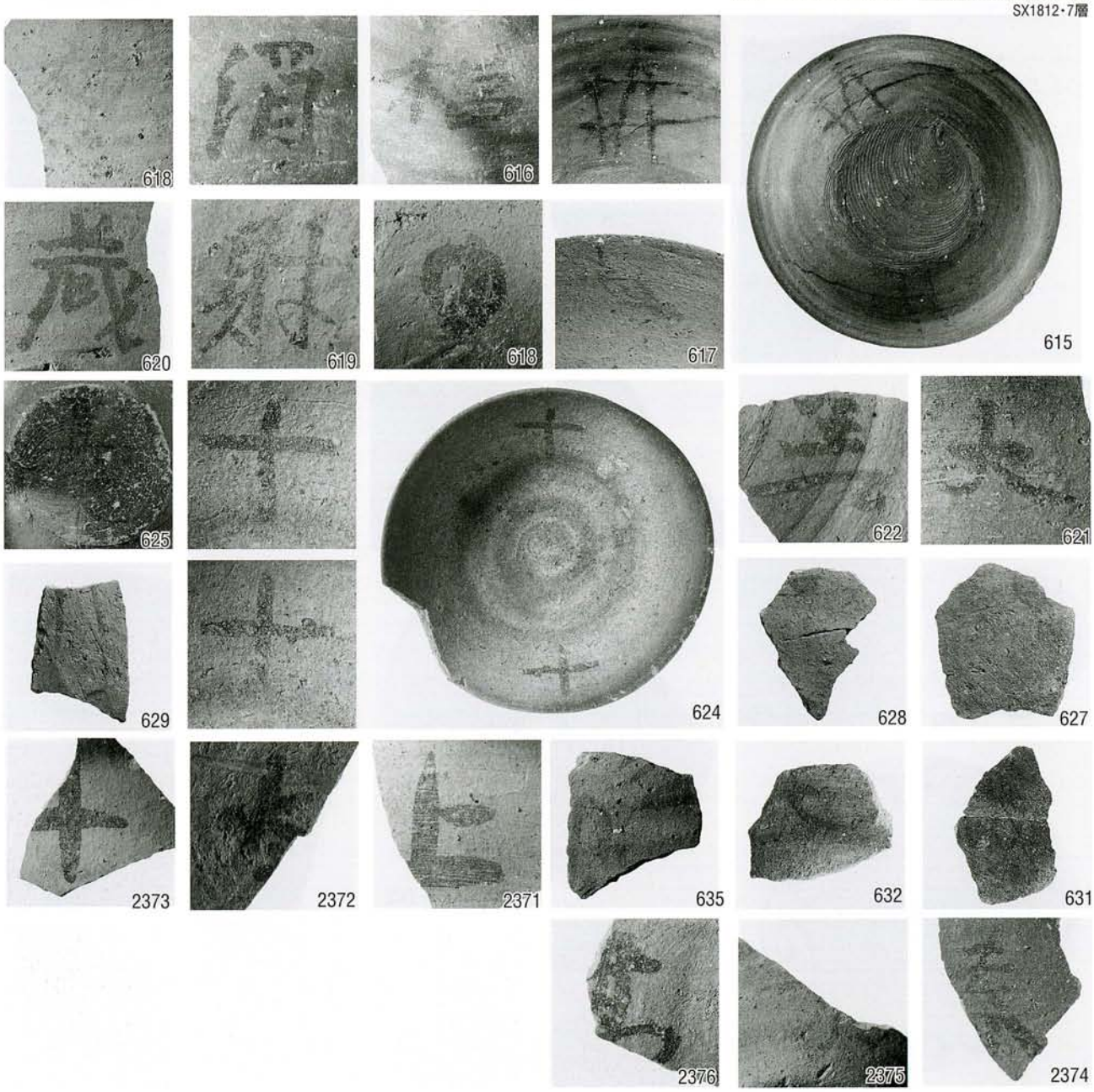
SX1812・5層



SX1812・6層



SX1812・7層



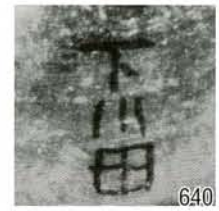
SX1812・灰白下層

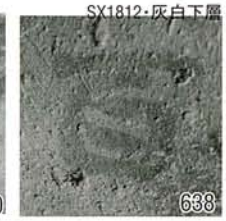
646

643

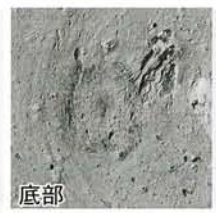
642

641

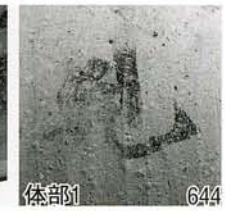

640


638

645


底部

体部2


体部1 644

2377

652

651

647

2382

2381

2380

2379

2378

SX1812・その他の遺構

2387

2386

2385

2384

2383

SX1667B

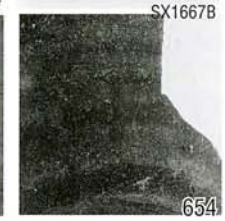
659

658

657

656

655


654

663

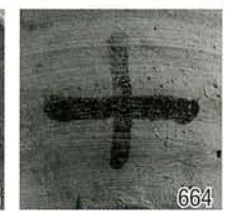
662

661

660

666

665

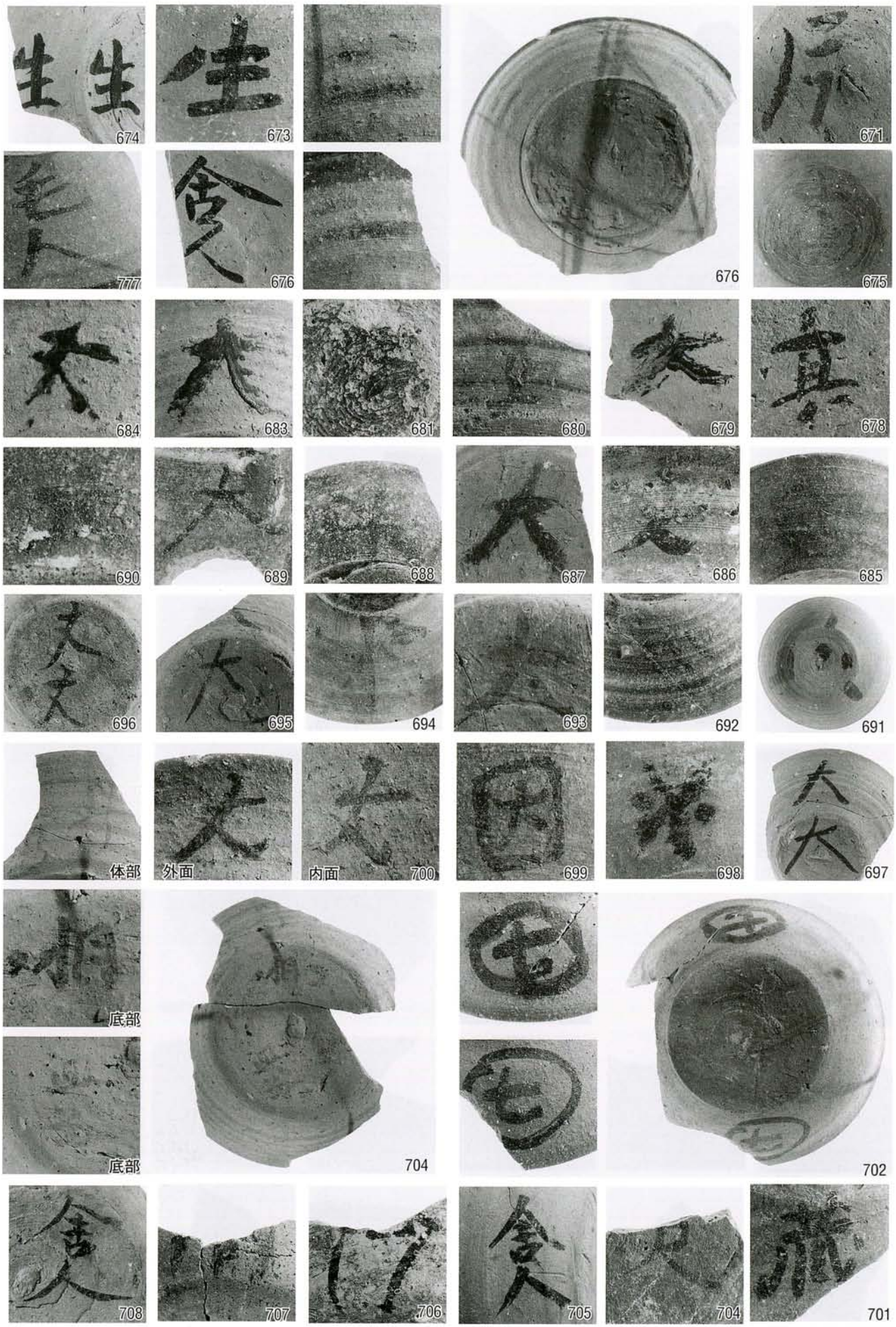

664

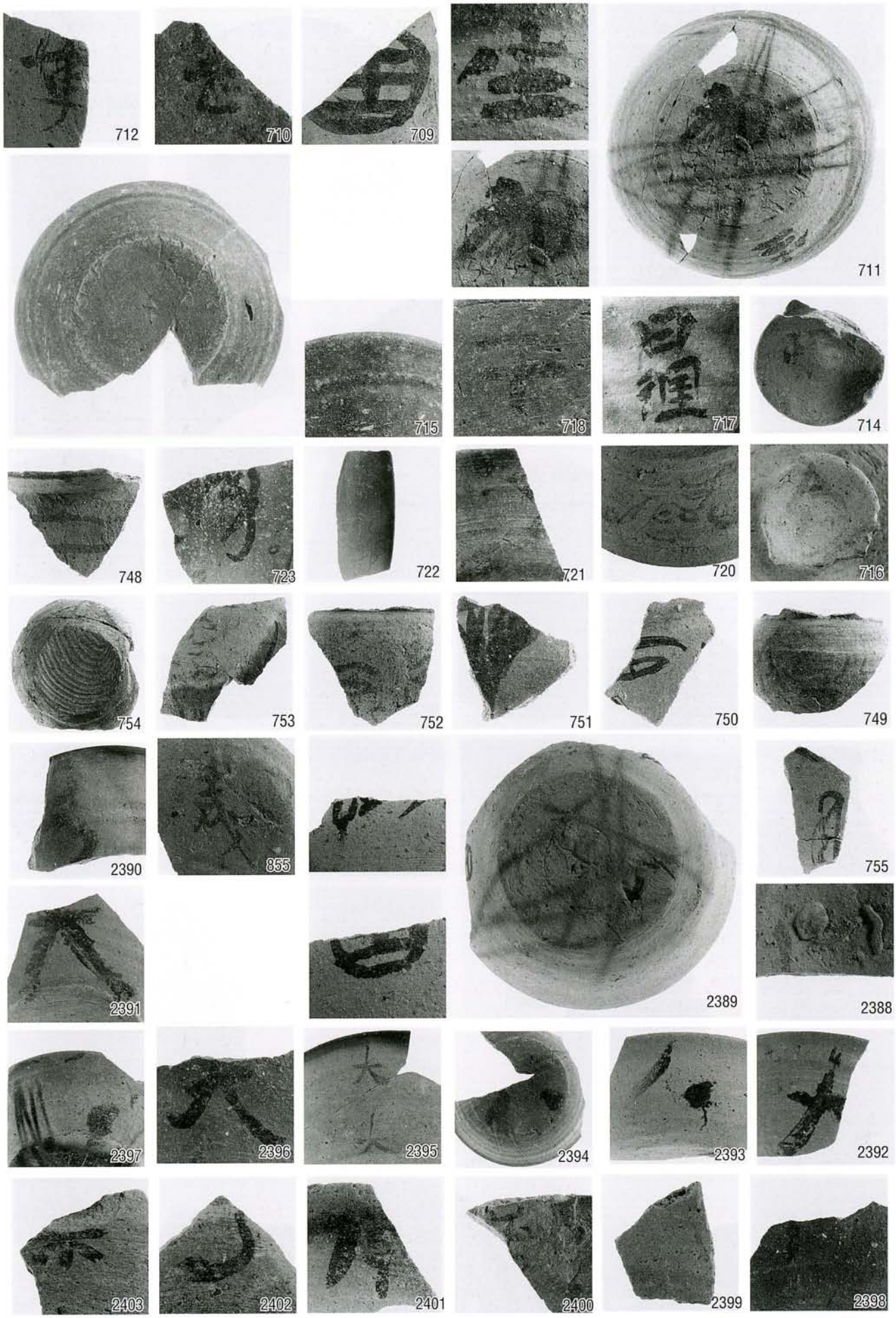
670

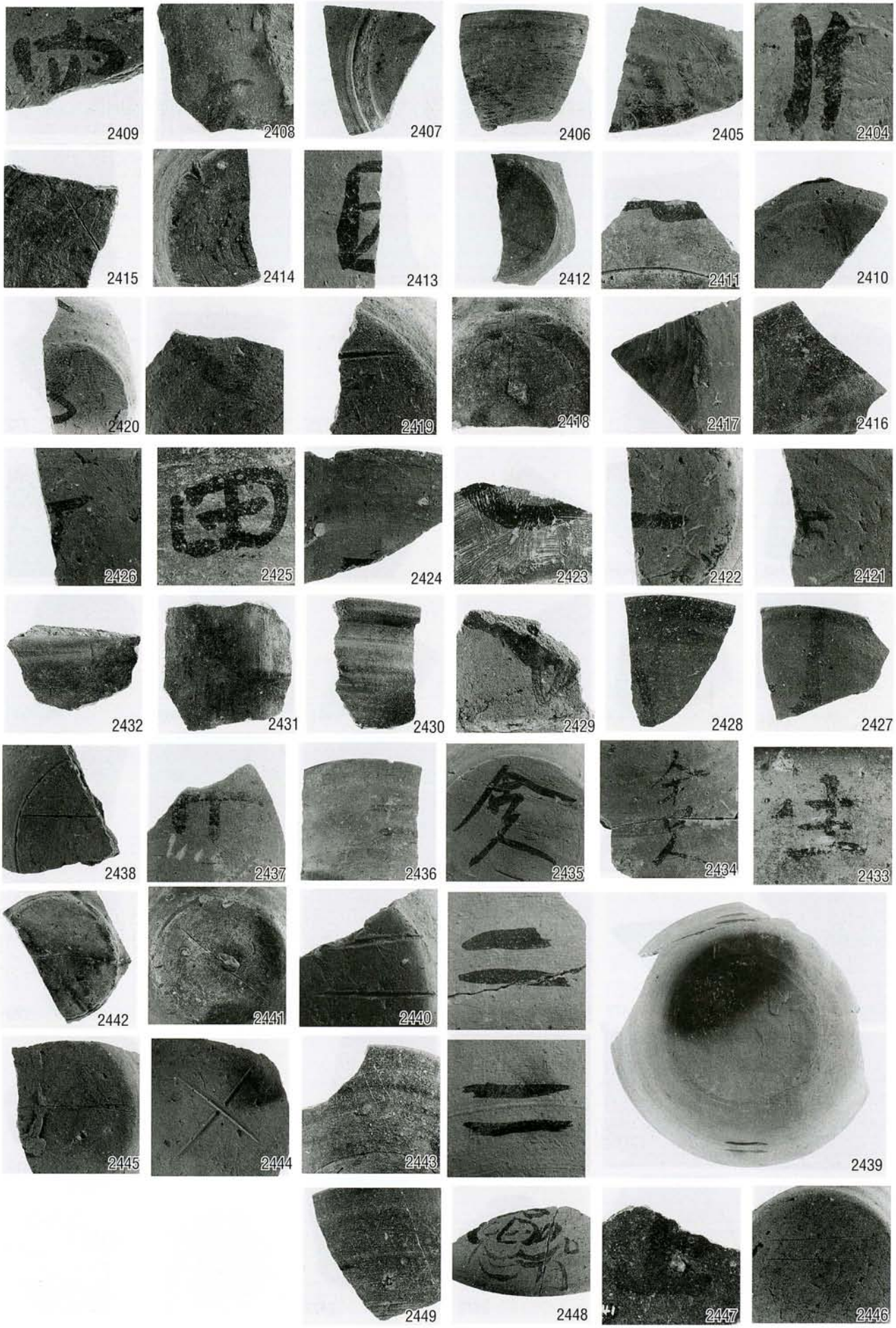
669

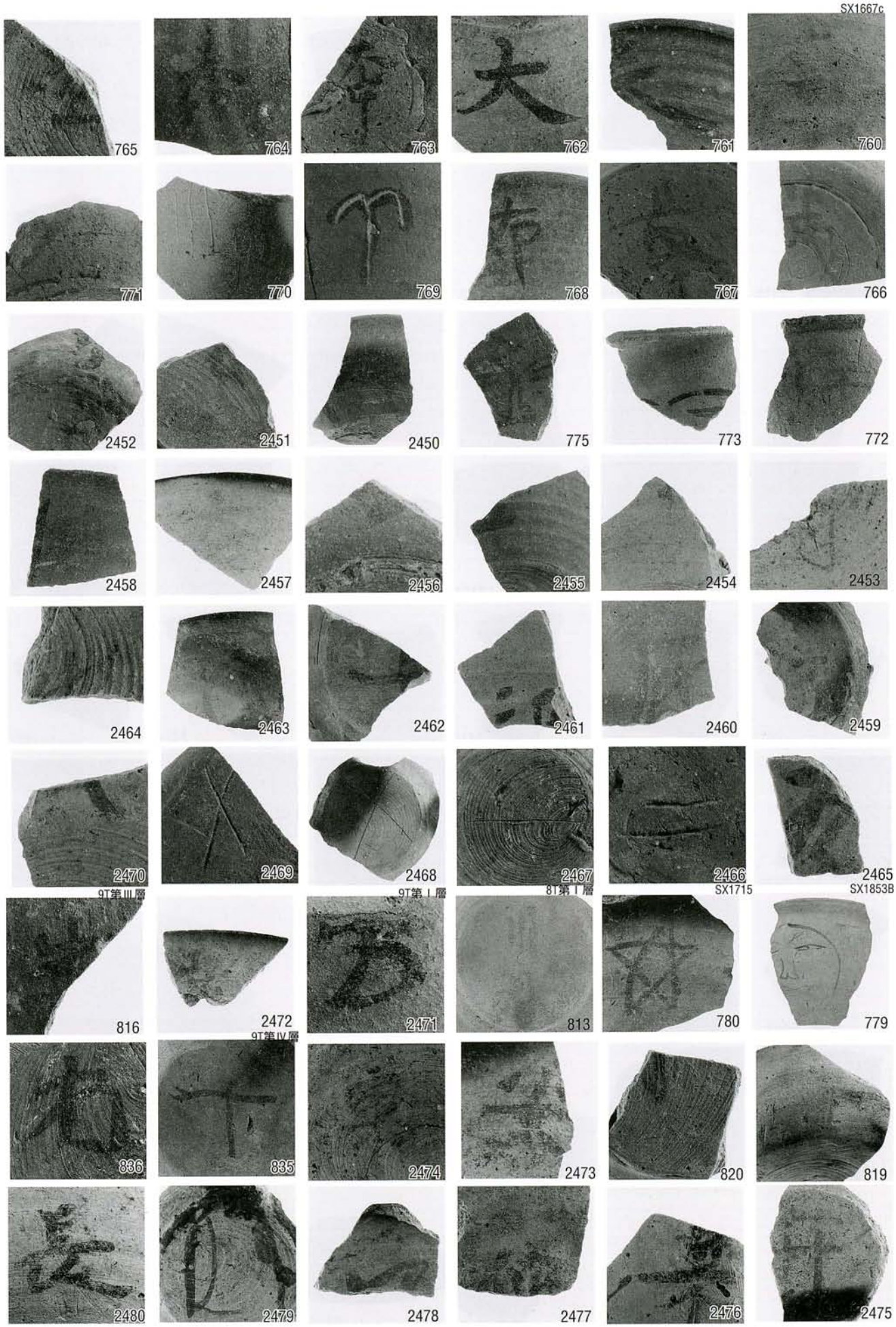
668

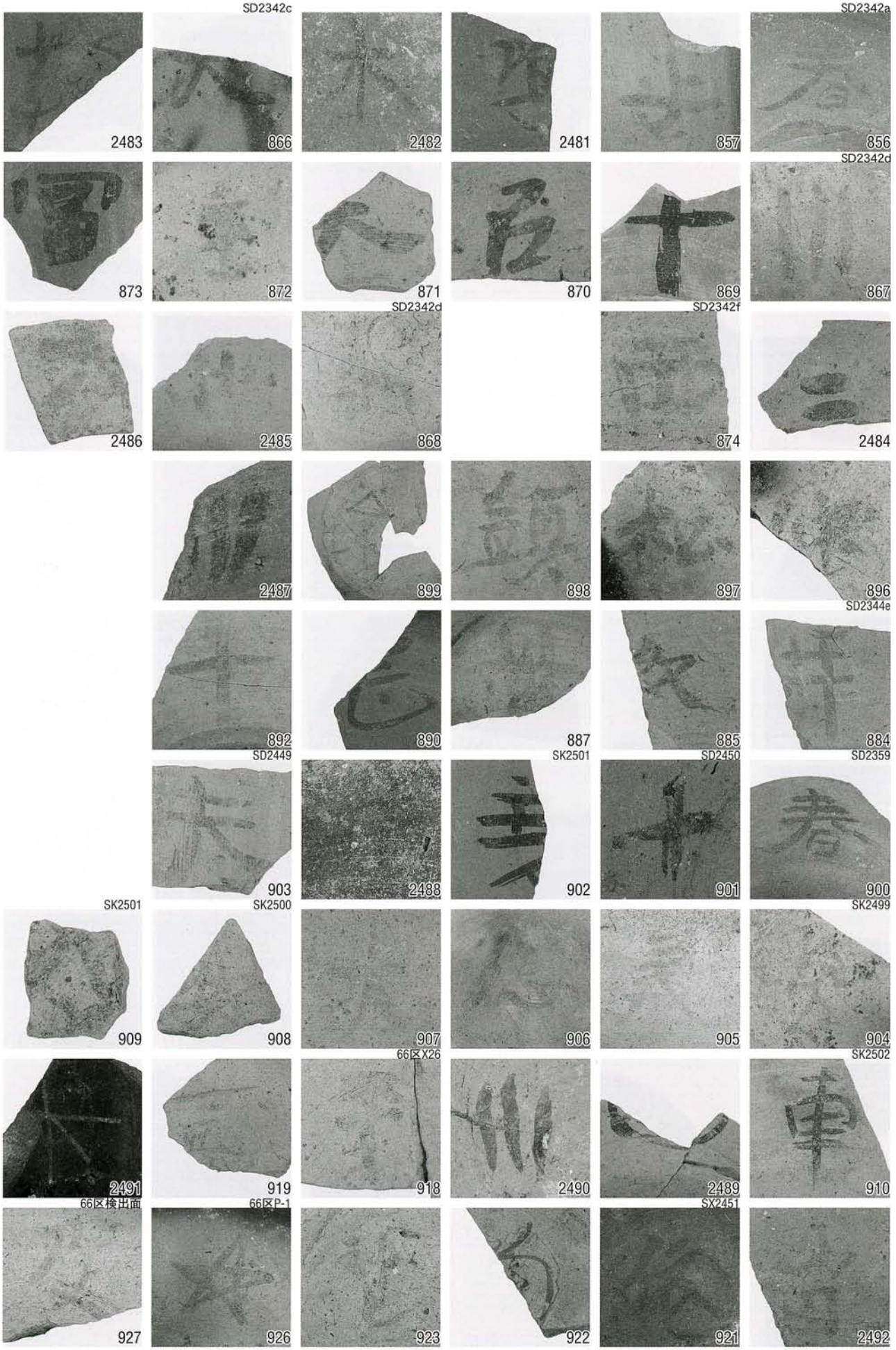
667

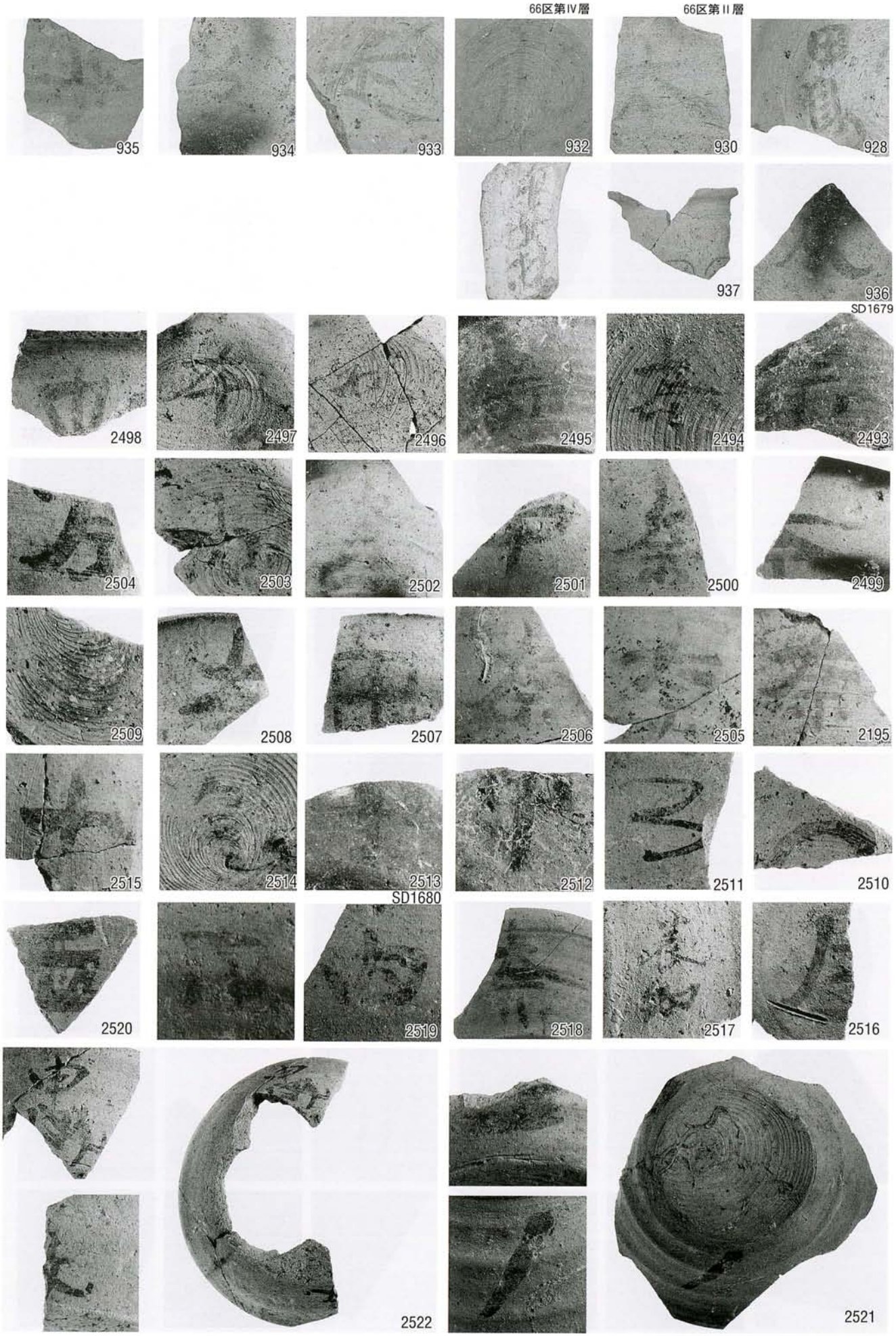

674
673
671
777
676
676
675
684
683
681
680
679
678
690
689
688
687
686
685
696
695
694
693
692
691
体部
外面
内面
700
699
698
697
底部
底部
704
702
708
707
706
705
704
701


712
710
709
711
715
718
717
714
748
723
722
721
720
716
754
753
752
751
750
749
2390
855
755
2391
2389
2388
2397
2396
2395
2394
2393
2392
2403
2402
2401
2400
2399
2398


2409
2408
2407
2406
2405
2404
2415
2414
2413
2412
2411
2410
2420
2419
2418
2417
2416
2426
2425
2424
2423
2422
2421
2432
2431
2430
2429
2428
2427
2438
2437
2436
2435
2434
2433
2442
2441
2440
2439
2445
2444
2443
2449
2448
2447
2446


SX1667c
765
764
763
762
761
760
771
770
769
768
767
766
2452
2451
2450
775
773
772
2458
2457
2456
2455
2454
2453
2464
2463
2462
2461
2460
2459
2470
2469
2468
2467
2466
2465
9T第III層
9T第I層
8T第I層
SX1715
SX1853B
816
2472
9T第IV層
2471
813
780
779
836
835
2474
2473
820
819
2480
2479
2478
2477
2476
2475


SD2342c
SD2342a
2483
866
2482
2481
857
856
SD2342d
873
872
871
870
869
867
SD2342d
SD2342f
2486
2485
868
874
2484
2487
899
898
897
896
SD2344e
892
890
887
885
884
SD2449
SK2501
SD2450
SD2359
903
2488
902
901
900
SK2501
SK2500
SK2499
909
908
907
906
905
904
66区X26
SK2502
2491
919
918
2490
2489
910
66区検出面
66区P-1
SX2451
927
926
923
922
921
2492


66区第Ⅳ層
66区第Ⅱ層
935
934
933
932
930
928
937
936
SD1679
2498
2497
2496
2495
2494
2493
2504
2503
2502
2501
2500
2499
2509
2508
2507
2506
2505
2195
2515
2514
2513
2512
2511
2510
SD1680
2520
2519
2518
2517
2516
2522
2521

1区

2527

2526

2525

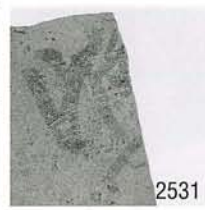
2524

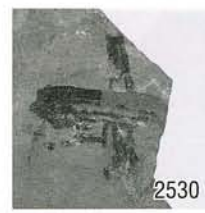
2523

4区

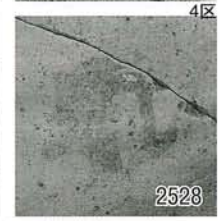
2533

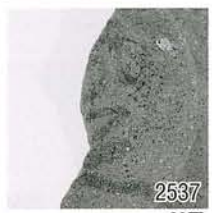
2532

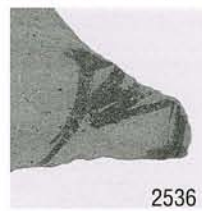

2531

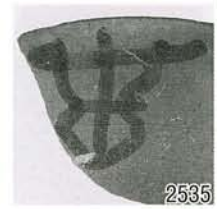

2530

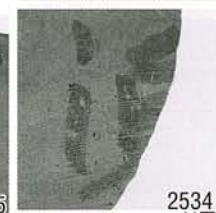
2529


2528


2537

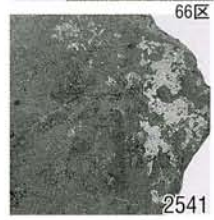

2536

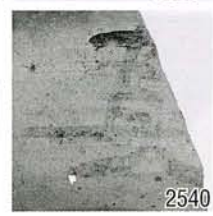

2535


2534

66区

2542

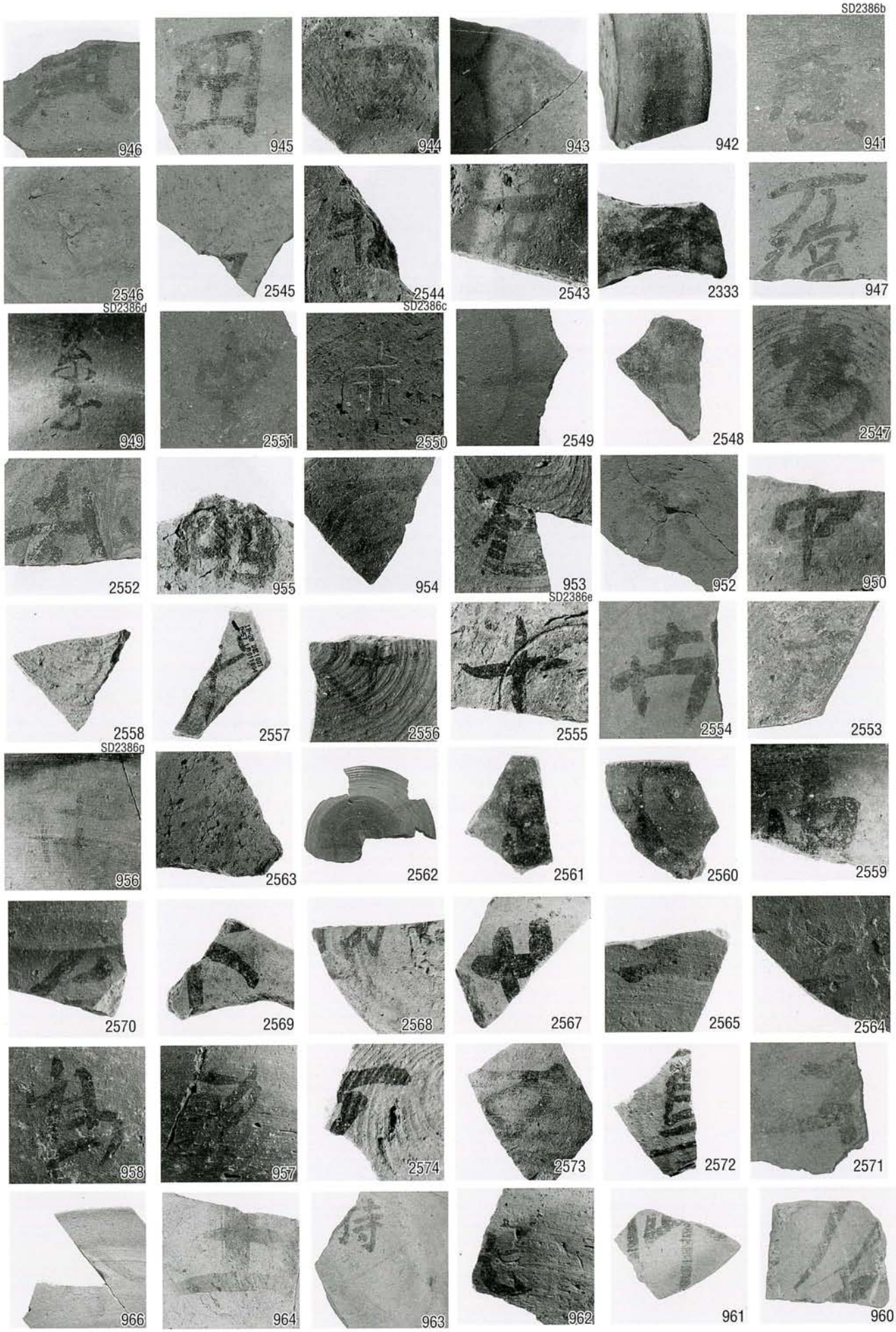

2541

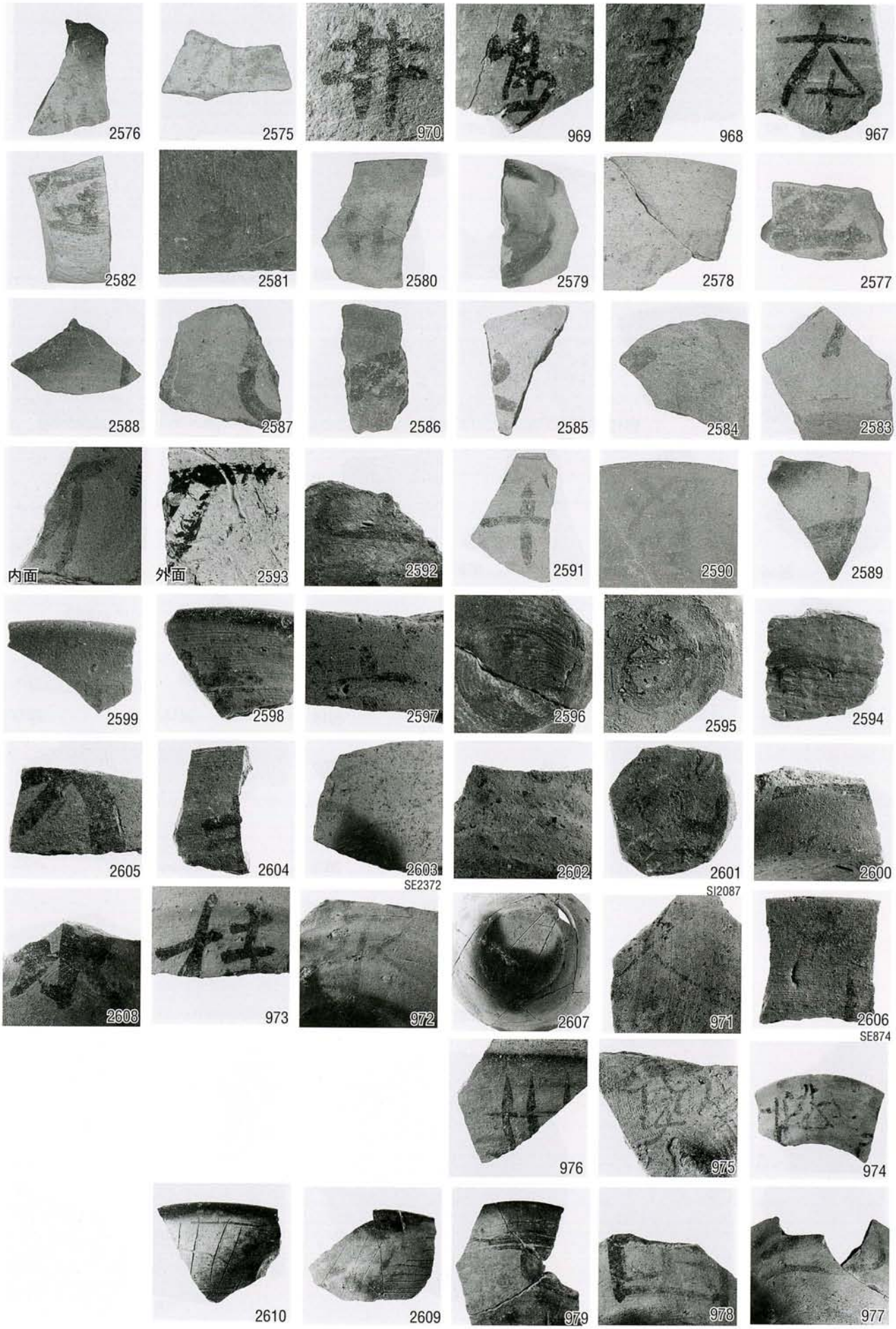

2540

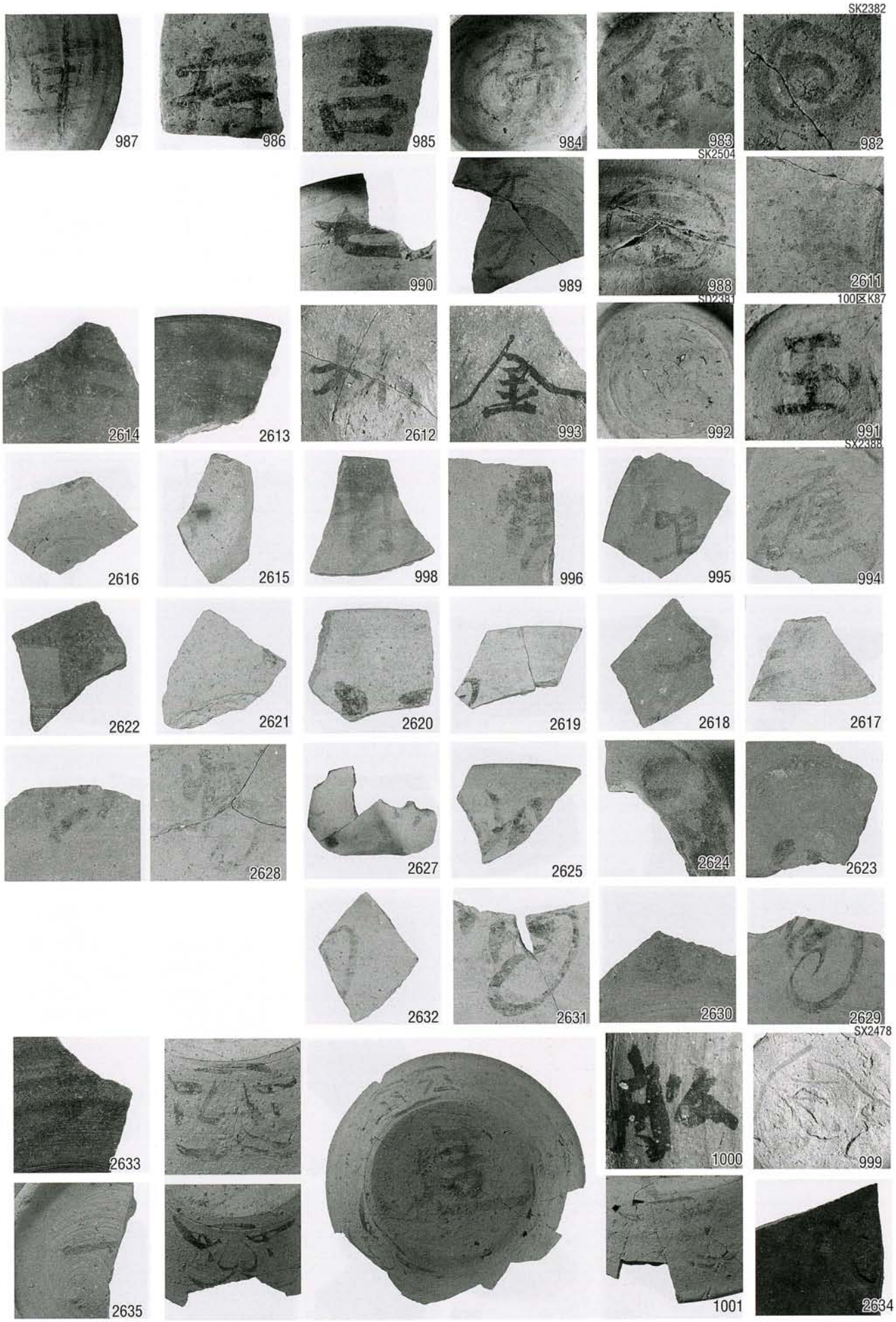
2539

11区

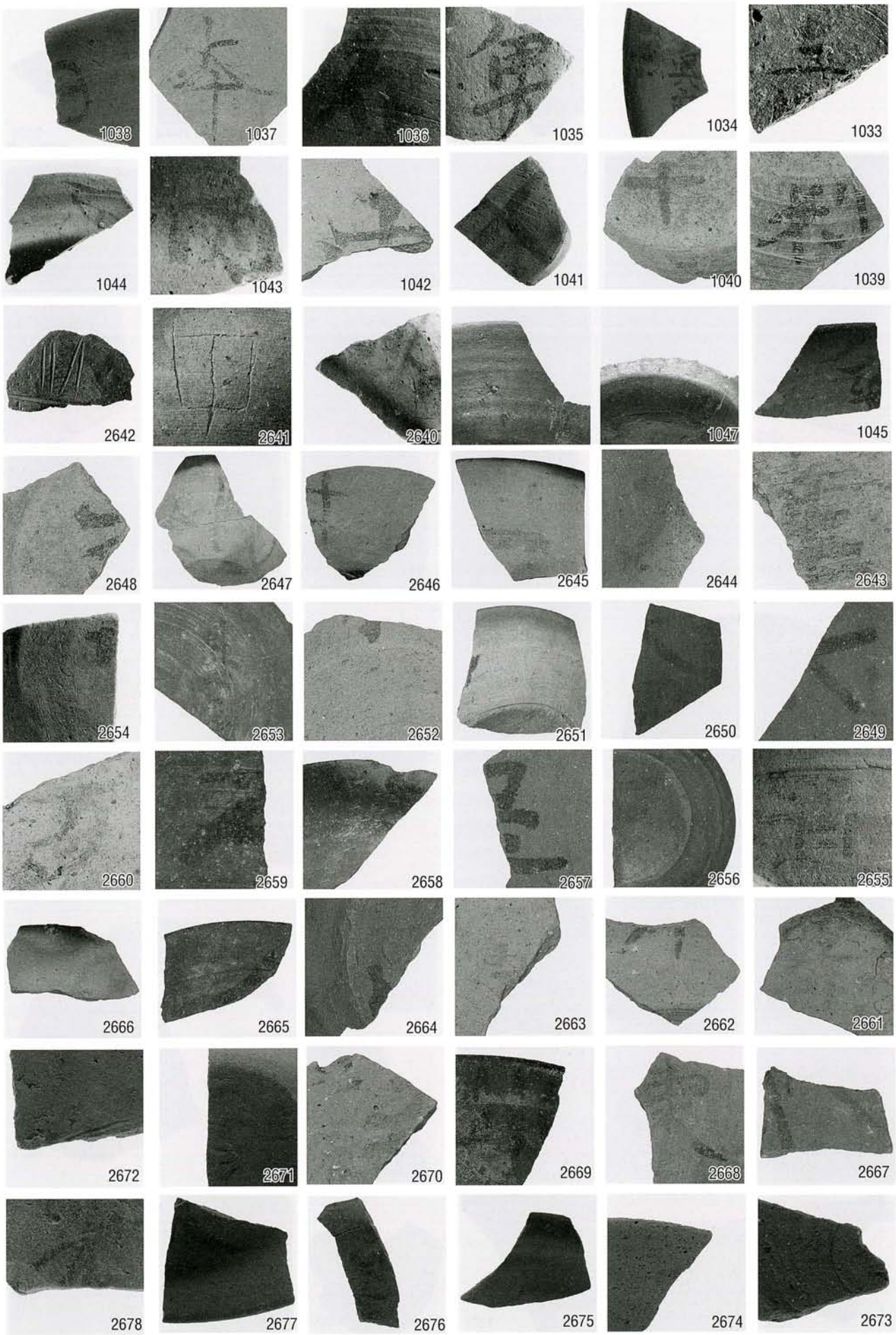
2538

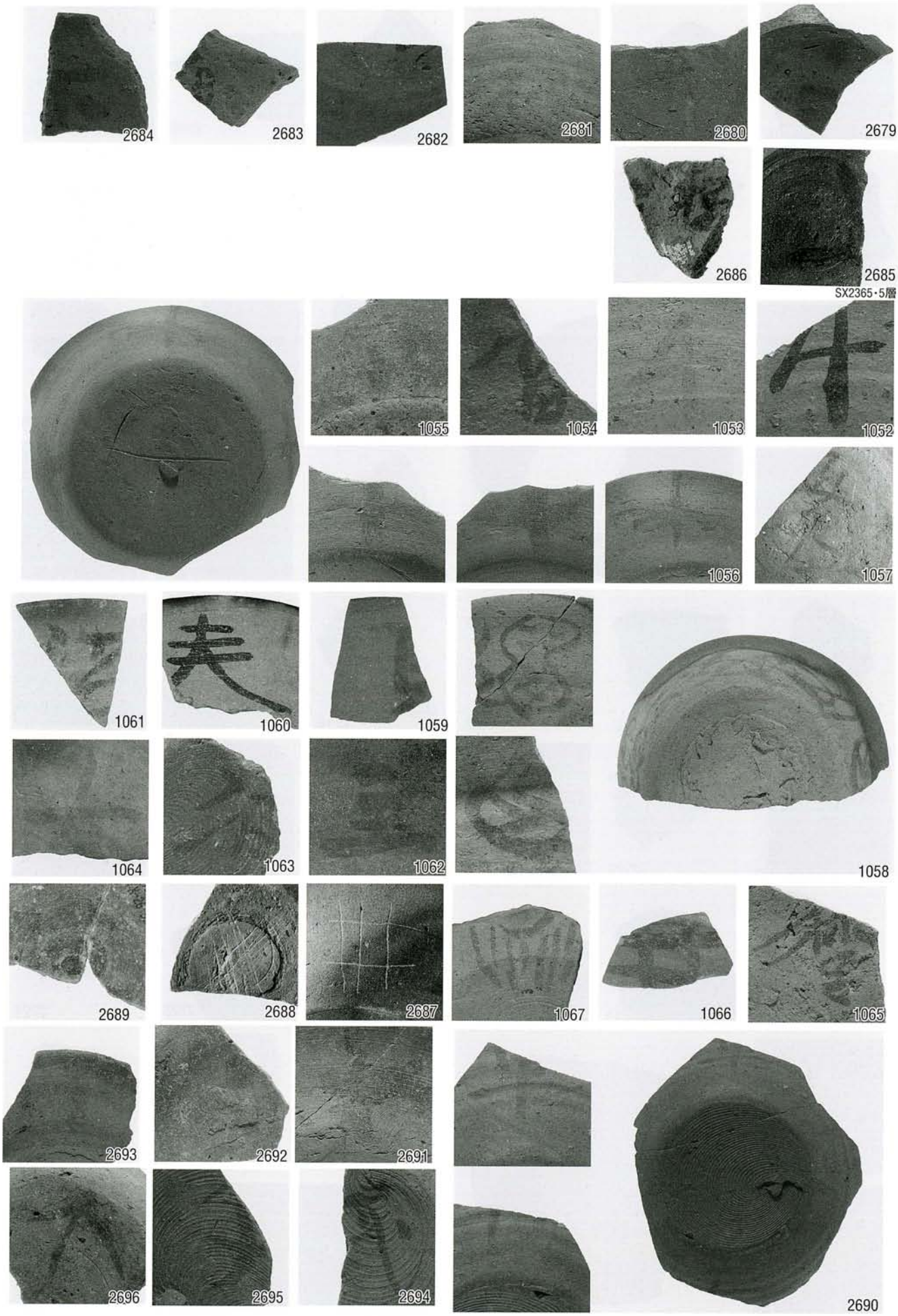

SD2386b
946
945
944
943
942
941
2546
2545
2544
2543
2333
947
SD2386d
SD2386c
949
2551
2550
2549
2548
2547
2552
955
954
953
952
950
SD2386e
2558
2557
2556
2555
2554
2553
SD2386g
956
2563
2562
2561
2560
2559
2570
2569
2568
2567
2565
2564
958
957
2574
2573
2572
2571
966
964
963
962
961
960

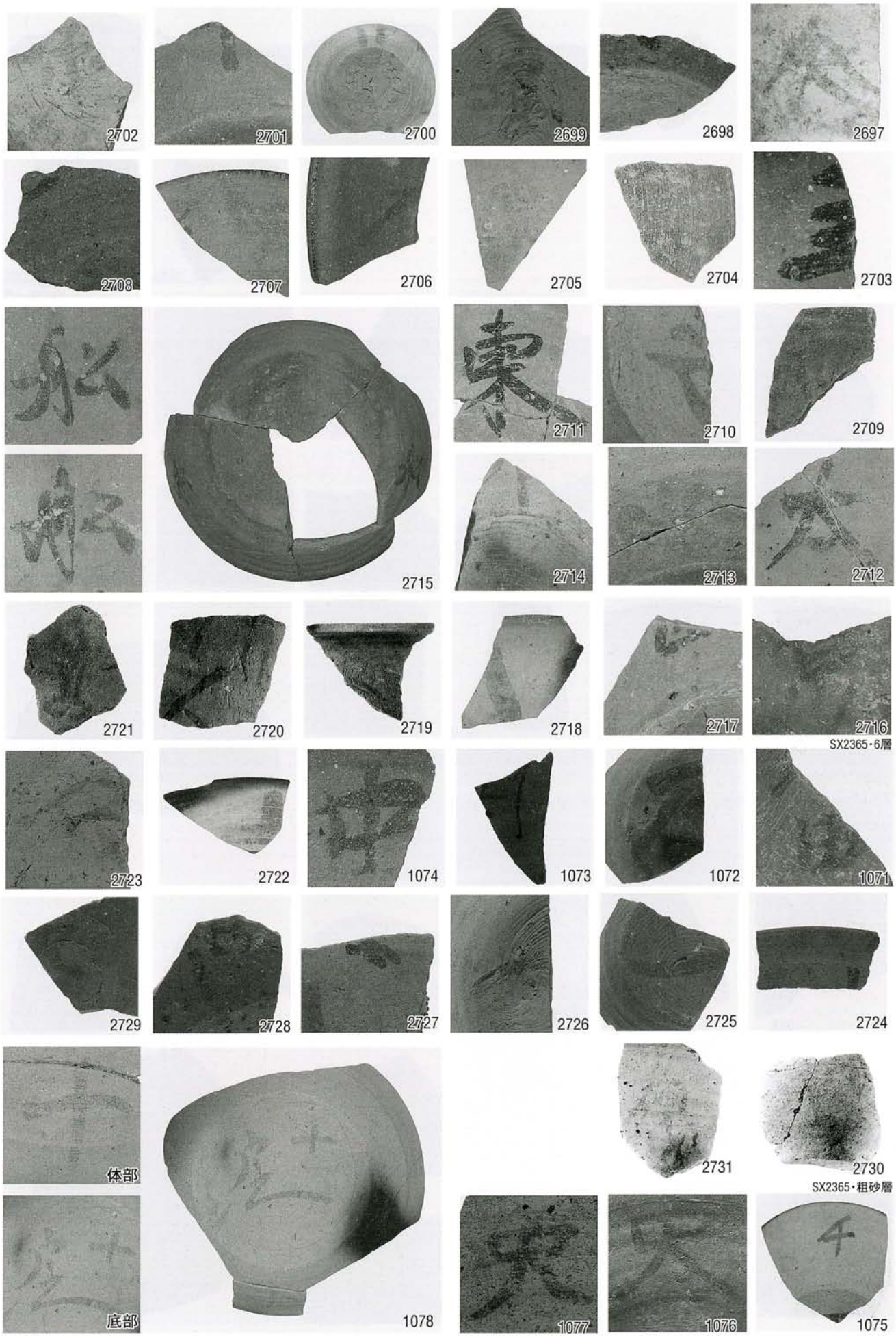

2576
2575
970
969
968
967
2582
2581
2580
2579
2578
2577
2588
2587
2586
2585
2584
2583
内面
外面
2593
2592
2591
2590
2589
2599
2598
2597
2596
2595
2594
2605
2604
2603
SE2372
2602
2601
SI2087
2600
2608
973
972
2607
971
2606
SE874
976
975
974
2610
2609
979
978
977

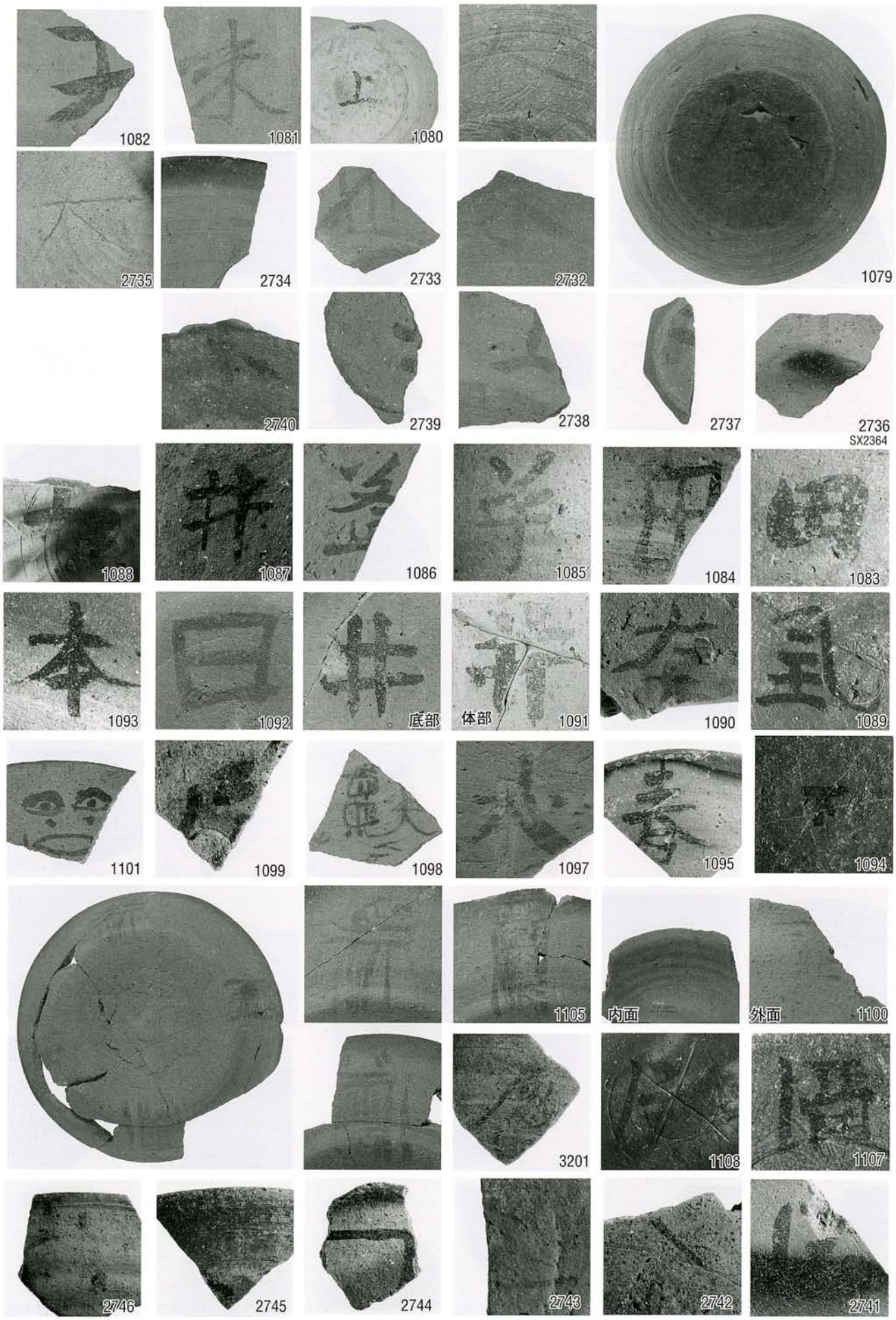

SK2382
987
986
985
984
983
982
SK2504
990
989
988
2611
SD2351
100区K87
2614
2613
2612
993
992
991
SX2388
2616
2615
998
996
995
994
2622
2621
2620
2619
2618
2617
2628
2627
2625
2624
2623
2632
2631
2630
2629
SX2478
2633
1000
999
2635
1001
2634

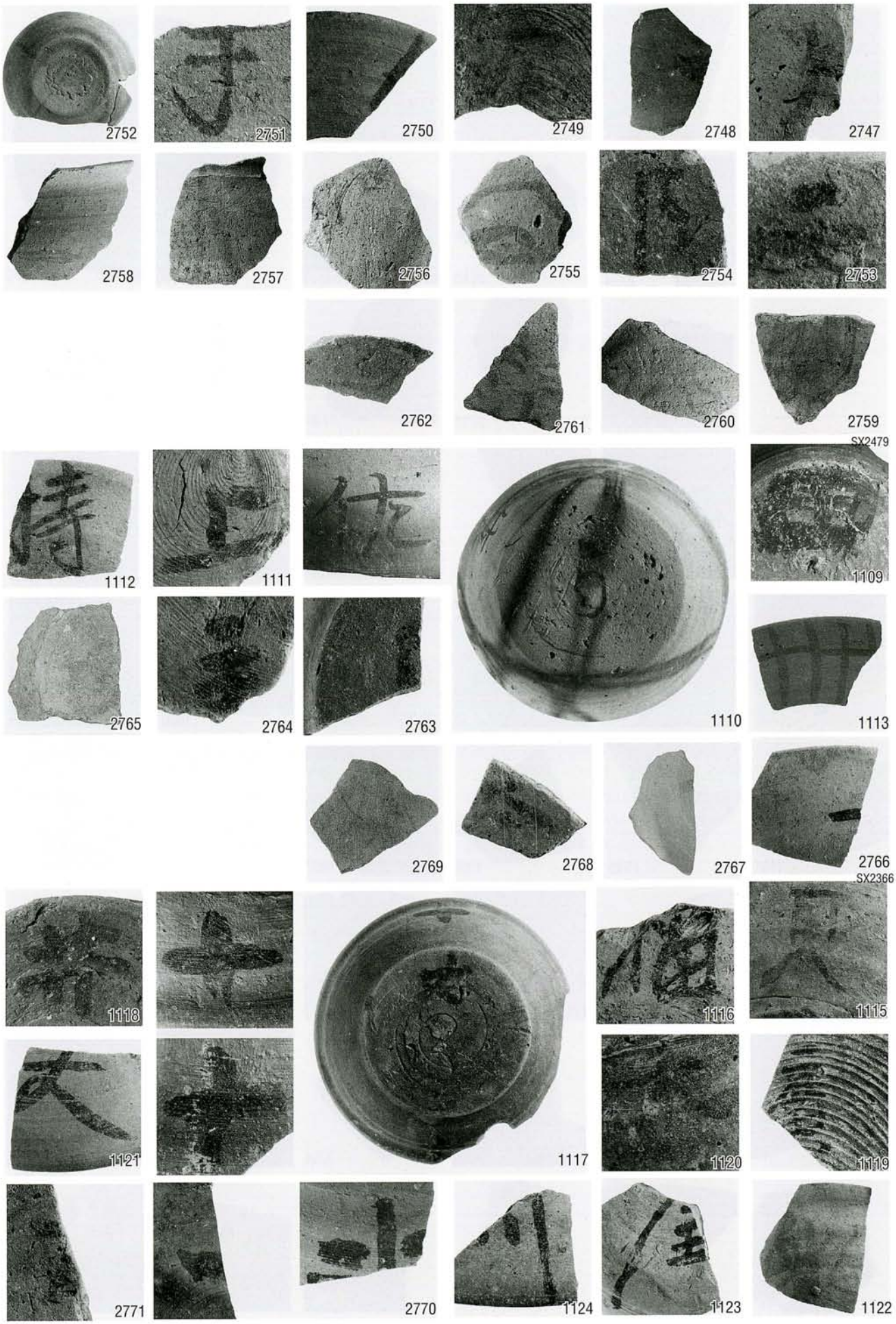
2639
2638
2637
2636
SX2365・4層
1007
1006
1005
1004
1003
1002
1013
1012
1011
1010
1009
1008
1017
1016
内面
外面
1015
内面
外面
1014
1018
1020
1019
1024
1023
1022
1021
1027
1026
1025
1032
底部
体部
1031
1030
1029
1028

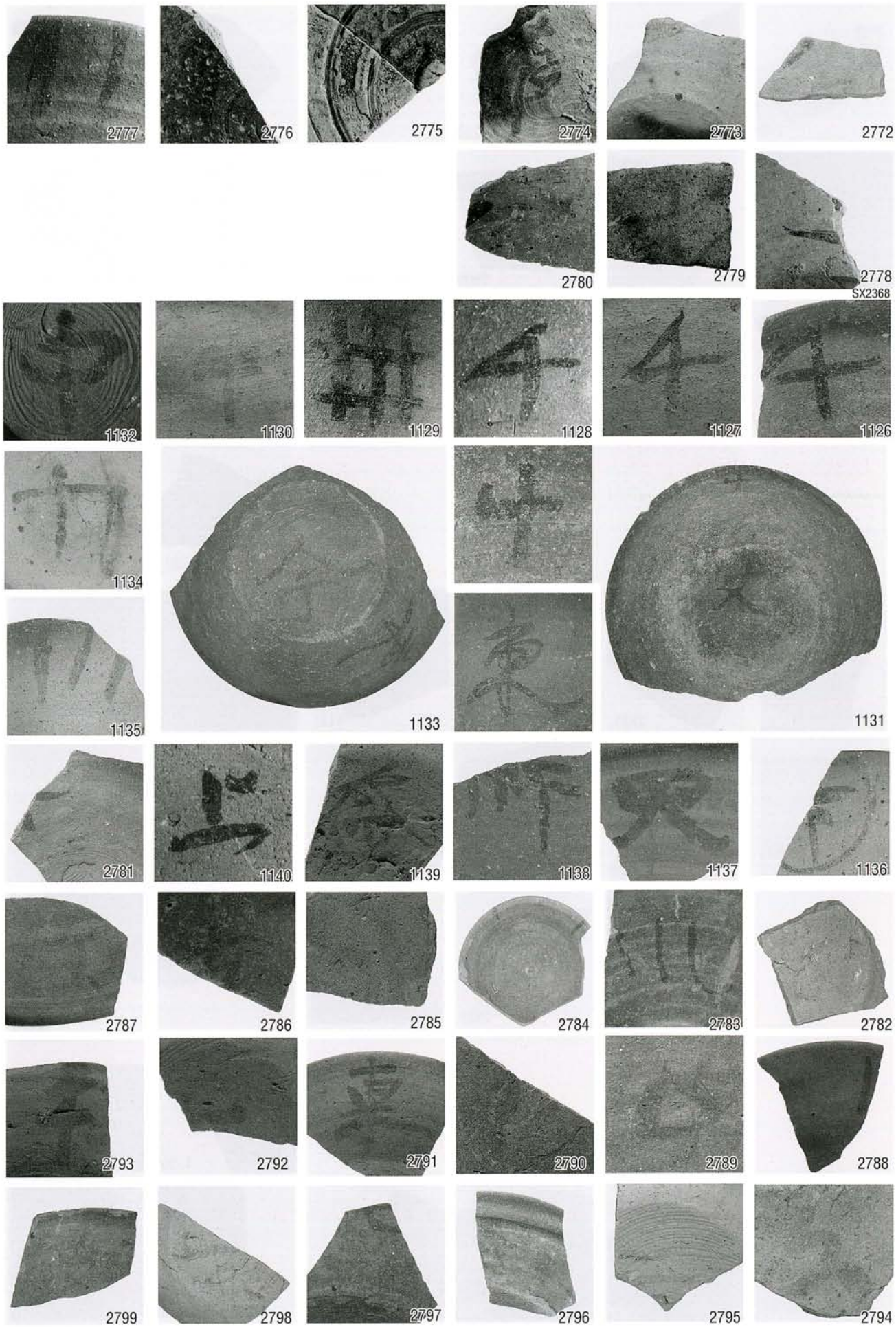

1038
1037
1036
1035
1034
1033
1044
1043
1042
1041
1040
1039
2642
2641
2640
1047
1045
2648
2647
2646
2645
2644
2643
2654
2653
2652
2651
2650
2649
2660
2659
2658
2657
2656
2655
2666
2665
2664
2663
2662
2661
2672
2671
2670
2669
2668
2667
2678
2677
2676
2675
2674
2673

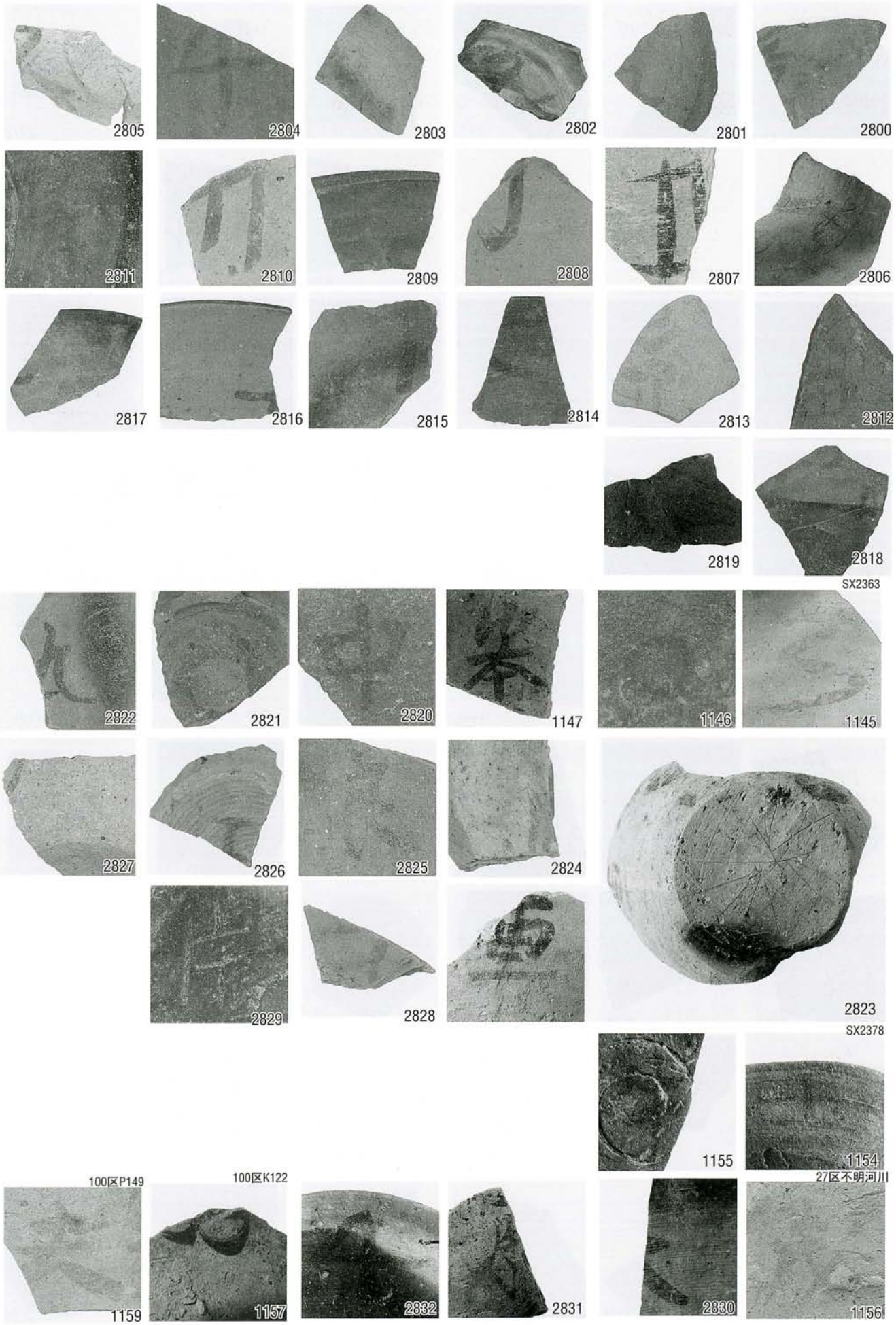

2684
2683
2682
2681
2680
2679
2686
2685
SX2365・5層
1055
1054
1053
1052
1056
1057
1061
1060
1059
1058
1064
1063
1062
2689
2688
2687
1067
1066
1065
2693
2692
2691
2696
2695
2694
2690

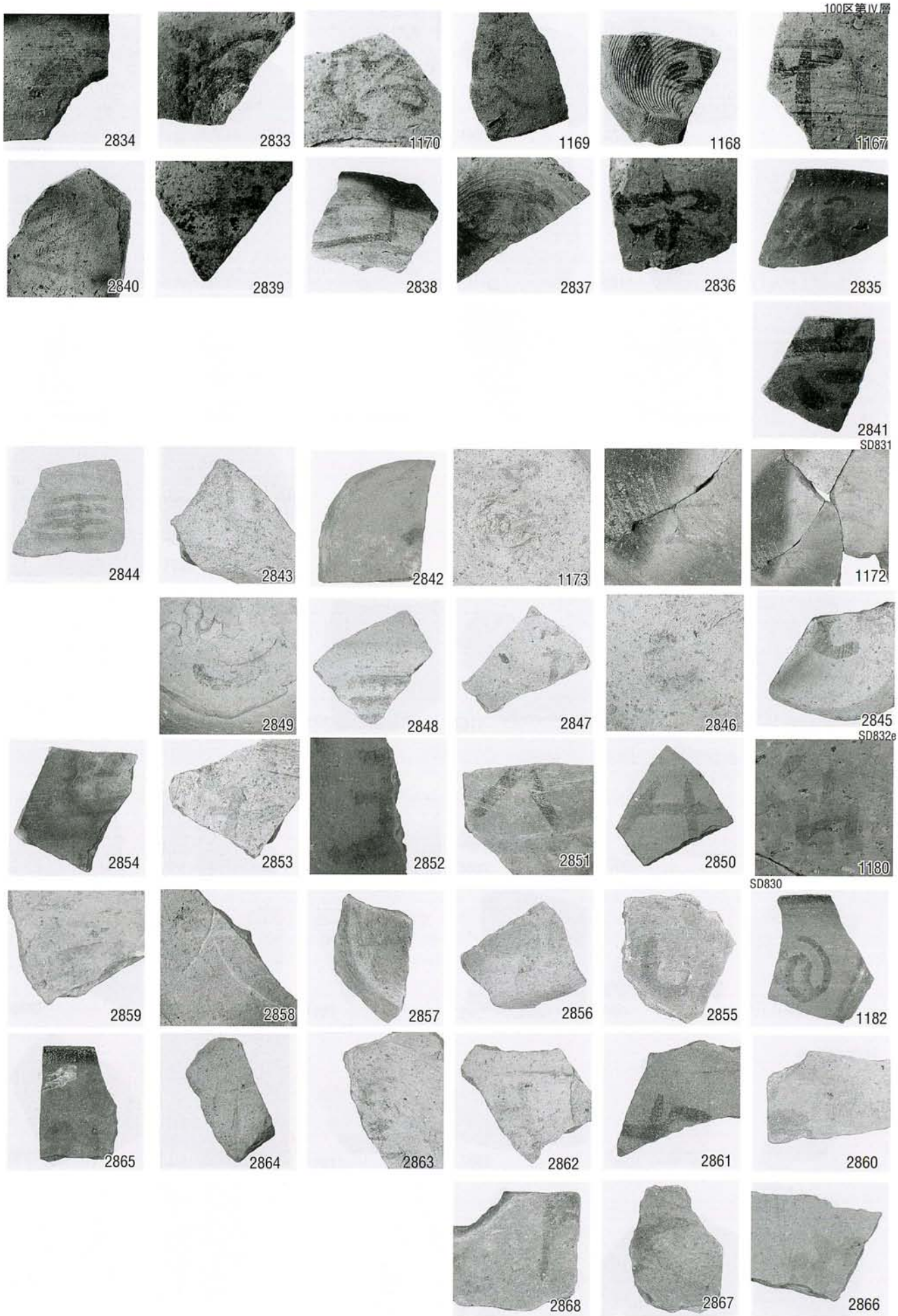

2702
2701
2700
2699
2698
2697
2708
2707
2706
2705
2704
2703
2711
2710
2709
2715
2714
2713
2712
2721
2720
2719
2718
2717
2716
SX2365・6層
2723
2722
1074
1073
1072
1071
2729
2728
2727
2726
2725
2724
体部
底部
1078
2731
2730
SX2365・粗砂層
1077
1076
1075


1082
1081
1080
1079
2735
2734
2733
2732
2740
2739
2738
2737
2736
SX2364
1088
1087
1086
1085
1084
1083
1093
1092
底部
体部
1091
1090
1089
1101
1099
1098
1097
1095
1094
1105
内面
外面
1100
3201
1108
1107
2746
2745
2744
2743
2742
2741


2752
2751
2750
2749
2748
2747
2758
2757
2756
2755
2754
2753
2762
2761
2760
2759
SX2479
1112
1111
1110
1109
2765
2764
2763
1113
2769
2768
2767
2766
SX2366
1118
1116
1115
1121
1117
1120
1119
2771
2770
1124
1123
1122


2777
2776
2775
2774
2773
2772
2780
2779
2778
SX2368
1132
1130
1129
1128
1127
1126
1134
1133
1131
1135
2781
1140
1139
1138
1137
1136
2787
2786
2785
2784
2783
2782
2793
2792
2791
2790
2789
2788
2799
2798
2797
2796
2795
2794


2805
2804
2803
2802
2801
2800
2811
2810
2809
2808
2807
2806
2817
2816
2815
2814
2813
2812
2819
2818
SX2363
2822
2821
2820
1147
1146
1145
2827
2826
2825
2824
2823
2829
2828
SX2378
1155
1154
100区P149
100区K122
27区不明河川
1159
1157
2832
2831
2830
1156


100区第IV層
2834
2833
1170
1169
1168
1167
2840
2839
2838
2837
2836
2835
2841
SD831
2844
2843
2842
1173
1172
2849
2848
2847
2846
2845
SD832e
2854
2853
2852
2851
2850
1180
SD830
2859
2858
2857
2856
2855
1182
2865
2864
2863
2862
2861
2860
2868
2867
2866

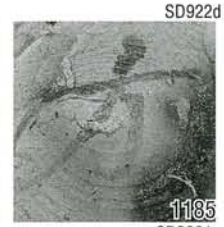
SD922d

2872

2871

2870

2869


1185

SD2201a

2873

1190

1189

1188

1187

1186

2879

2877

2876

2875

体部

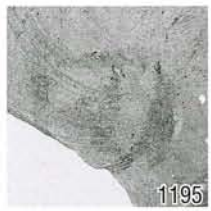
底部 2874

2881

2880

SD2201b

2882


1195

1194

1193

1192

1191

2888

2887

2886

2885

2884

2883

2894

2893

2892

2891

2890

2889

SD2201c

2899

2898

2897

1196

2896

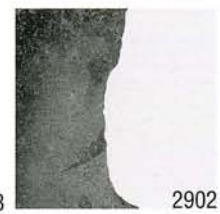
2895

SE2123

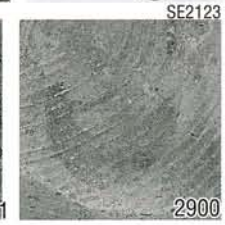
2905

2904

2903


2902

2901


2900

SE2131

2910

底部

体部 2909

2908

2907

2906

2913

2912

2911

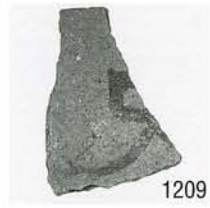
SD2099

2915

2914

1211

1210


1209

1208

2921

2920

2919

2918

2917

2916

SD2098

2924

2923

2922

1214

1213

1212

2929

2928

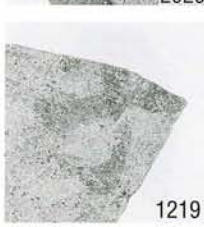
2927

2926

2925

SK2197

2931


1219

1218

2930

1217

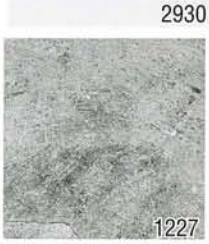
SD2096

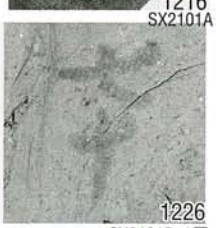
1216

SX2101A

2932

1228


1227


1226

SX2101B・1層

1239

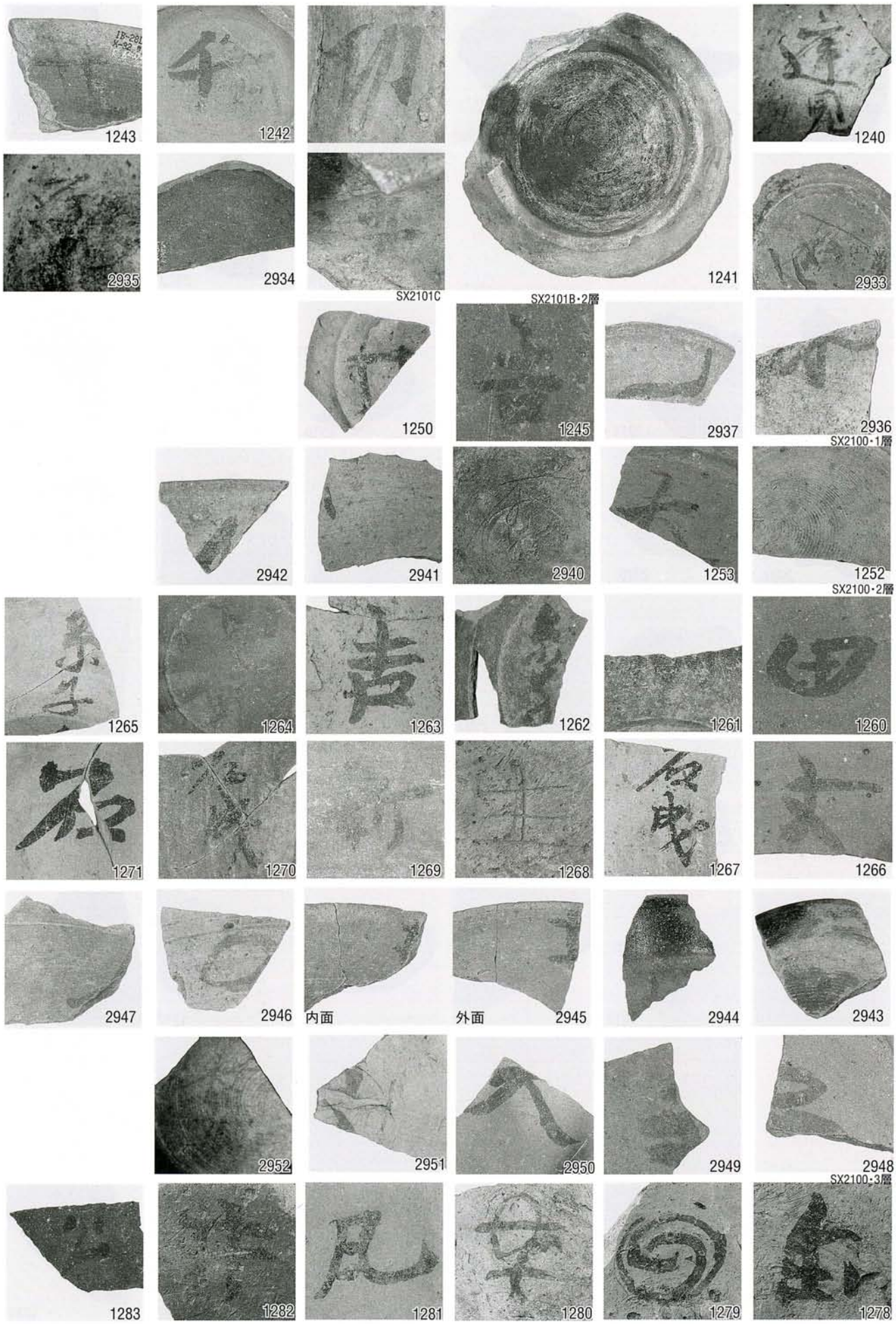
1238

1237

1236

1235

1234


1243
1242
1240
2935
2934
SX2101C
1241
SX2101B・2層
2933
1250
1245
2937
2936
SX2100・1層
2942
2941
2940
1253
1252
SX2100・2層
1265
1264
1263
1262
1261
1260
1271
1270
1269
1268
1267
1266
2947
2946
内面
外面
2945
2944
2943
2952
2951
2950
2949
2948
SX2100・3層
1283
1282
1281
1280
1279
1278

0000
SX2508

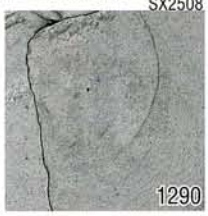
2955
SX2507

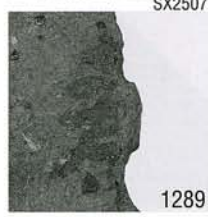
2954

2953
SX2287

1285

1284
SX2112

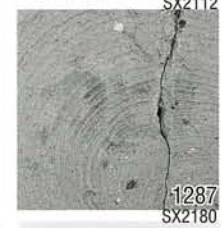

1290


1289

2958

1288

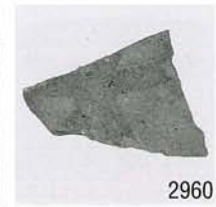
2957


1287
SX2180

2963

2962

2961


2960

2959

1293

2969

2968

2967

2966

2965

2964

2975

2974

2973

2972

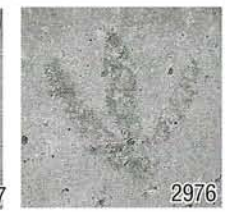
2971

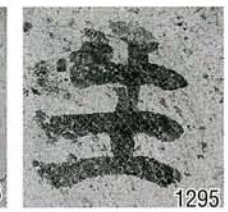
2970
SX2188

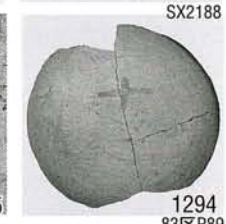
2979

2978

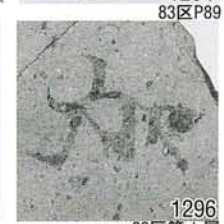
2977


2976


1295


1294
83区P89

2990

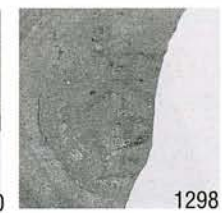

1296
83区第Ⅰ層

2993

2992

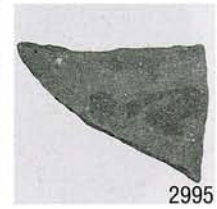
2991

1300


1298

1297

2996


2995

2994

105区第Ⅰ層

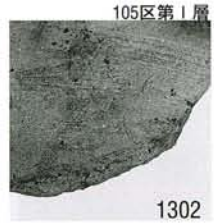
3001

3000

2999

2998

2997


1302

3005

3004

3003

3002

83区第Ⅲ層

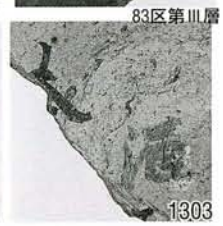
3008

3007

3006

1307

1304

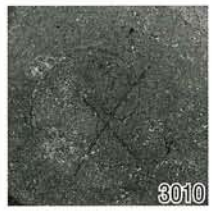

1303

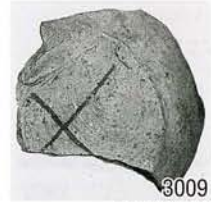
3014

3013

3012

3011


3010


3009

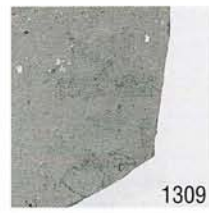
105区第Ⅲ層

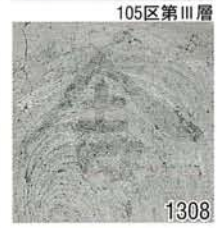
1313

1312

1311

1310


1309


1308

3021

3017

3016

3015

3020

3019

3018

83区第Ⅳ層

3026

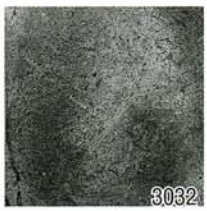
3025

3024

3023

3022

105区検出面

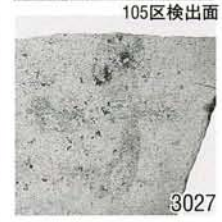

3032

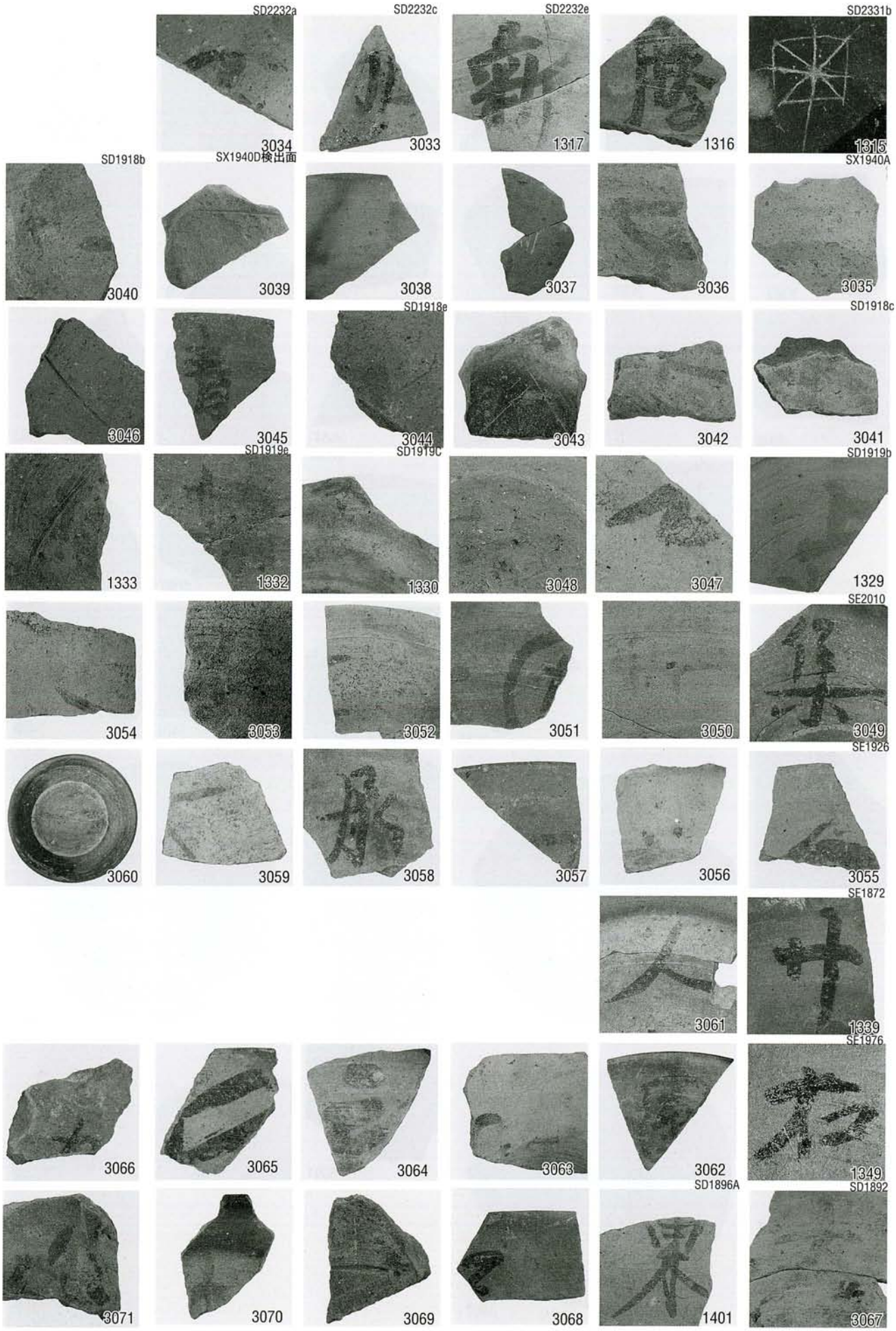
3031

3030

3029

3028


3027


SD2232a
3034
SD2232c
3033
SD2232e
1317
1316
SD2331b
1315
SD1918b
3040
SX1940D検出面
3039
3038
3037
3036
SX1940A
3035
3046
3045
SD1918e
3044
3043
3042
SD1918c
3041
1333
SD1919e
1332
SD1919c
1330
3048
3047
SD1919b
1329
3054
3053
3052
3051
3050
SE2010
3049
3060
3059
3058
3057
3056
SE1926
3055
3061
SE1872
1339
3066
3065
3064
3063
3062
SE1976
1349
3071
3070
3069
3068
SD1896A
1401
SD1892
3067

3077

3076

3075

3074

3073

3072
SD1896B

3083

3082
SD1897

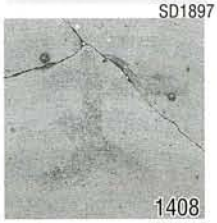
3081

3080

3079
SD2055

3078
SD1914

3086


1408
SK2302

3085
SK2217

3084
SK2262

1404

1403
SD2233

1417

1413

1412

3087

1410
SK2303

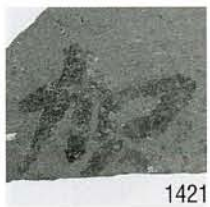
SK2244

1434

3089

3088

1422


1421

1420
SK1974

1443

1442

3092

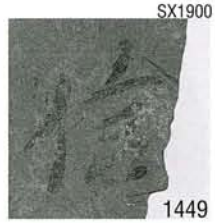
3091

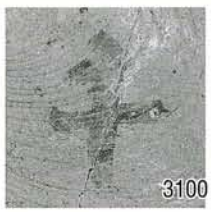
3090

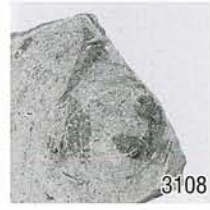
1444
SK1884

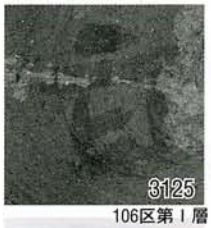
1445

SX1900









106区第Ⅰ層

30区第Ⅰ層

30区第Ⅱ層

30区第Ⅲ層

3138

3137

3136

3135

3134

3133

103区第Ⅳ層

3139

1465

30区第Ⅳ層

3145

3144

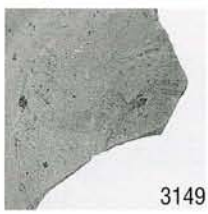
3143

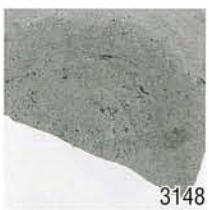
3142

3141

3140

3150


3149


3148

3147

3146

SD2486

3155

3154

3153

3152

3151

1468

SX1735A

3160

3159

3158

3157

3156

SX1736

1470

1735B

1511

1510

1509

1508

1507

1506

3163

3162

3161

1514

1513

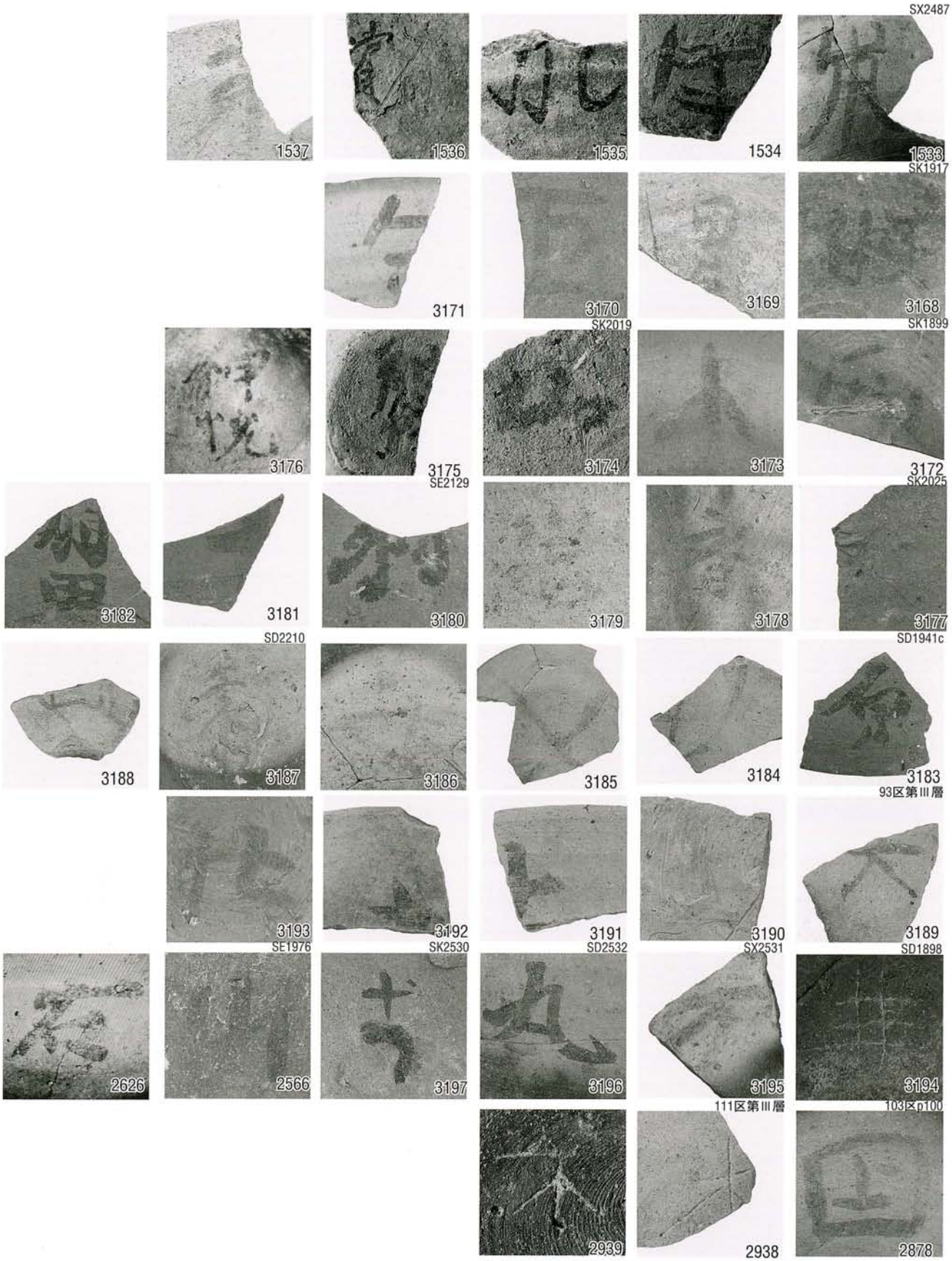
1512

3167

3166

3165

3164


SX2487
1537
1536
1535
1534
1533
SK1917
3171
3170
3169
3168
SK2019
SK1899
3176
3175
3174
3173
3172
SE2129
SK2025
3182
3181
3180
3179
3178
3177
SD2210
SD1941c
3188
3187
3186
3185
3184
3183
93区第Ⅲ層
3193
3192
3191
3190
3189
SE1976
SK2530
SD2532
SX2531
SD1898
2626
2566
3197
3196
3195
3194
111区第Ⅲ層
103区p100
2939
2938
2878

多賀城市文化財調査報告書第75集（第三分冊）

市川橋遺跡

— 城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅲ —

平成16年３月26日　発行

編集　多賀城市埋蔵文化財調査センター
多賀城市中央二丁目27番１号
電話（０２２）３６８－０１３４

発行　多賀城市教育委員会
多賀城市中央二丁目１番１号
電話（０２２）３６８－１１４１

印刷　株式会社ホクトコーポレーション
仙台市青葉区上愛子字堀切１番13号
電話（０２２）３９１－５６６１

R100 PRINTED WITH SOY INK
古紙配合率100%再生紙を使用しています
印刷には大豆インキを使用しています